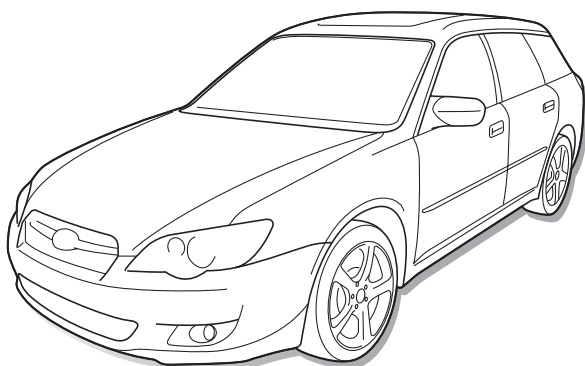
このたびは『レガシィ』を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がうたわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- 「車載モニター」・「ナビゲーションシステム」の取り扱いについては、それぞれ別冊の取扱説明書を併せてお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

LEGACY BPH-002001～099999,BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999,BP9-059001～099999,BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999,BL9-004001～099999

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、車体が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

禁止行為はイラストに禁止マークが入っています。

	禁止事項を示しています。

その他の表示

アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

	グレードなどにより異なる装備については よつばマークがついています。

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

本文の見かた

このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

タイトルから探す

本書の構成

ツメタイトル

各章の目次

場所から探す

イラスト目次 イラスト目次ー1ページ

名称から探す

さくいん............さくいんー1ページ

本書の目次

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

イラスト目次

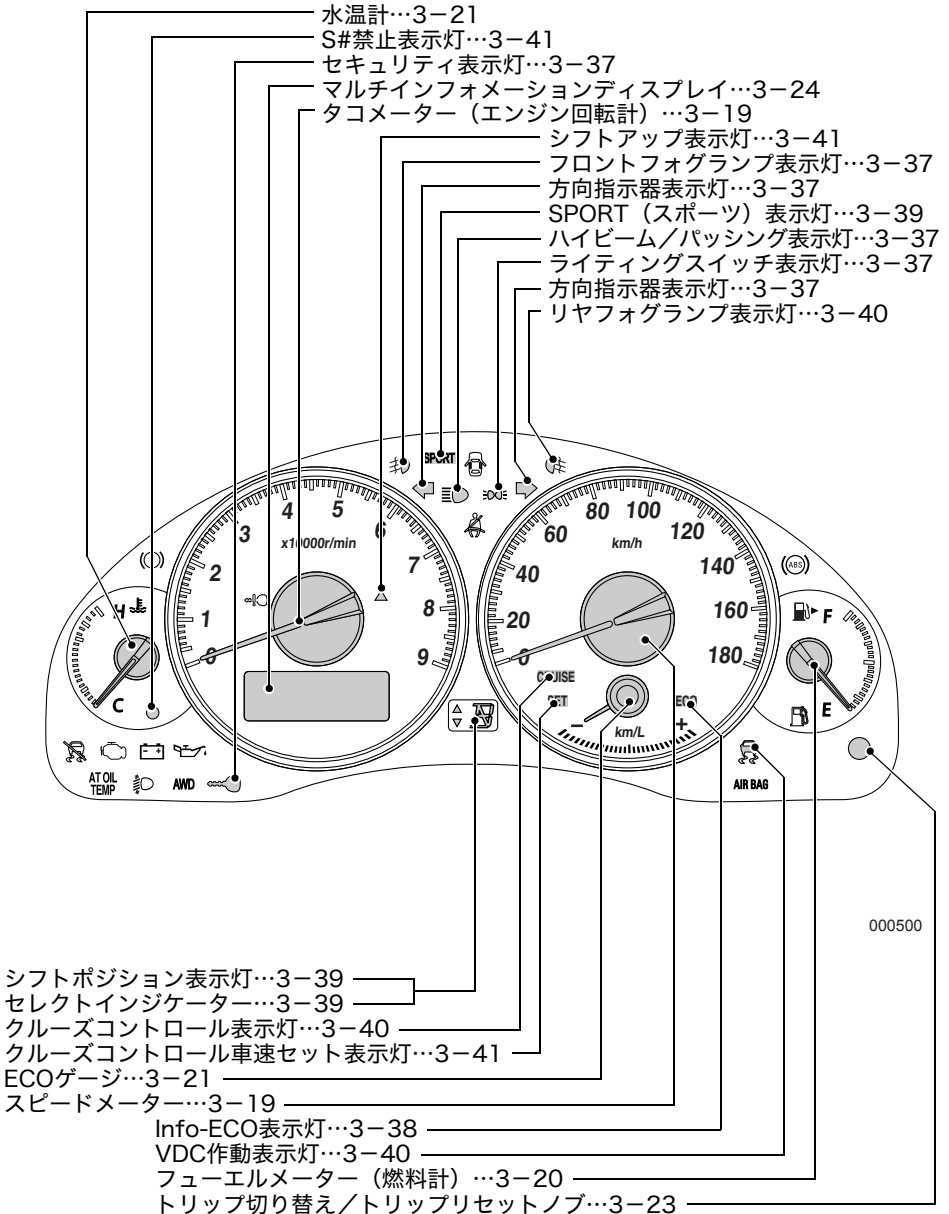
インストルメントパネル周辺

ハンドル周辺

VDC OFFスイッチ…3−84
ワイパー／ウォッシャースイッチ…3−10
000333
コイントレイ…4−83
フューエルリッドオープナー…2−56
ボンネットオープナー…2−58
光軸調整ダイヤル…3−7
電動リモコンドアミラー…2−126
イルミネーションコントロールダイヤル…3−17
電動格納式ドアミラー…2−126
フロントワイパーデアイサースイッチ…3−14
ライティングスイッチ…3−4
方向指示レバー…3−8
フロントフォグランプスイッチ…3−9
リヤフォグランプスイッチ…3−9

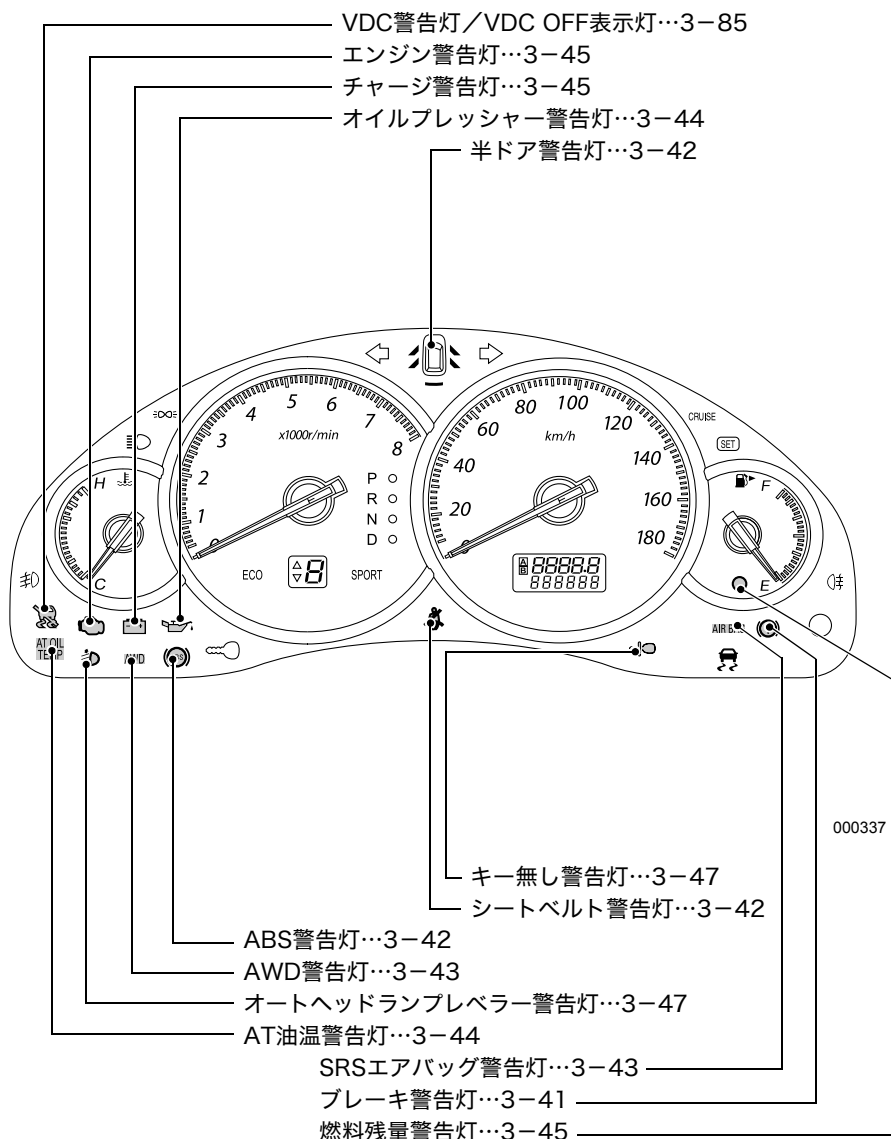
メーター・表示灯

<タイプA>

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜タイプB＞

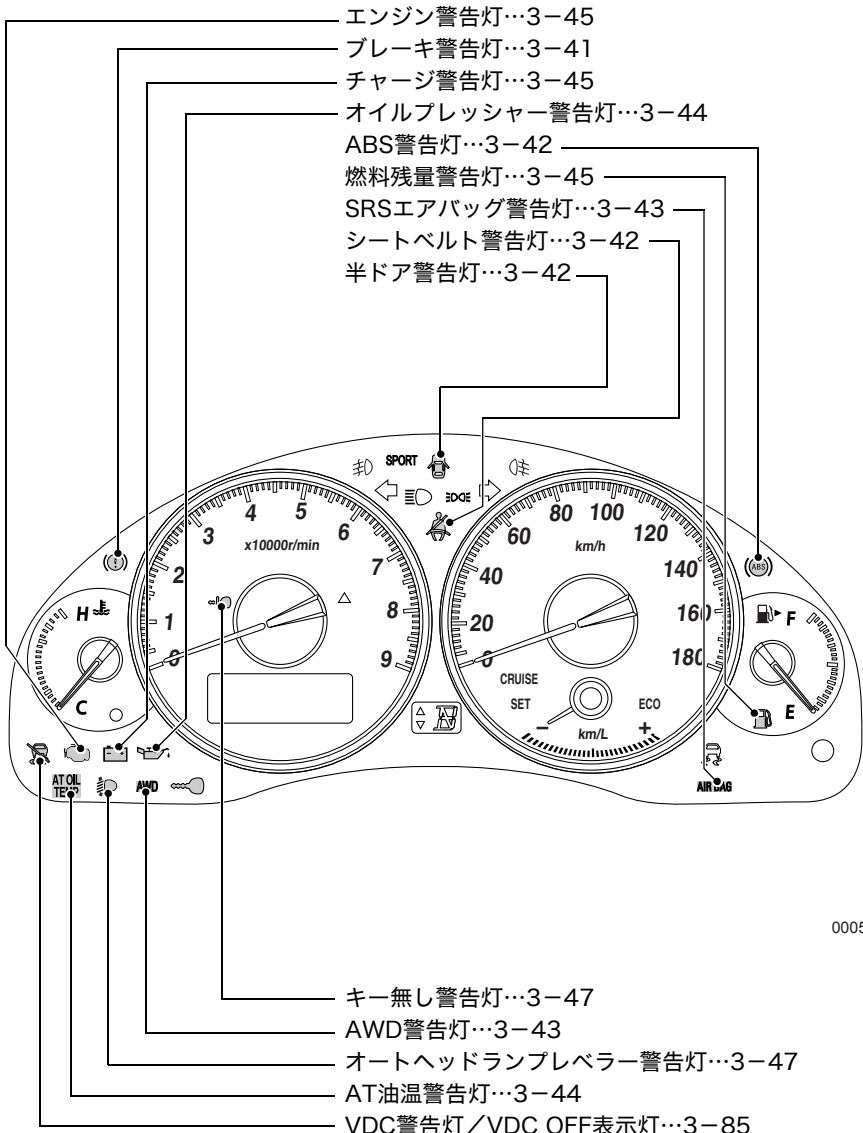
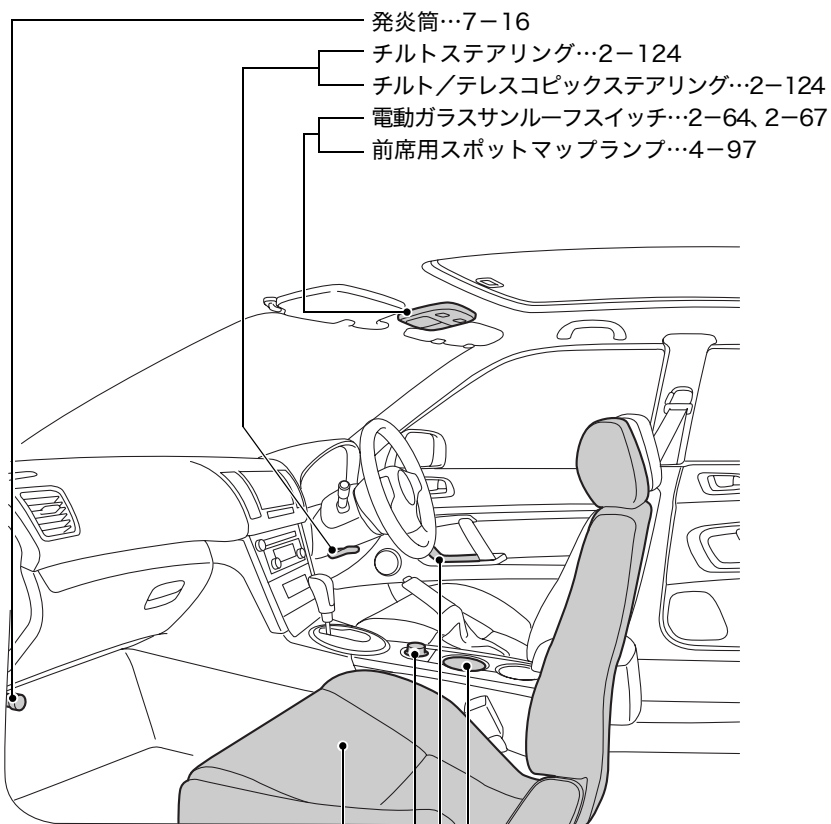
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

警告灯

<タイプA>

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<タイプB>

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

室内・前側

発炎筒…7－16
チルトステアリング…2－124
チルト／テレスコピックステアリング…2－124
電動ガラスサンルーフスイッチ…2－64、2－67
前席用スポットマップランプ…4－97
000399
フロントシート…2－73
SI-DRIVE…3－53、3－68
パワーウインドゥスイッチ…2－51
前席用カップホルダー…4－77

室内・後側

リヤシートベルト（中央席用）…2－95
後席用スポットマップランプ…4－98
ルームランプ…4－96
000341
リクライニング調整ボタン…2－82
後席用カップホルダー…4－77
コンソールボックス…4－81
電源ソケット…4－90

荷室

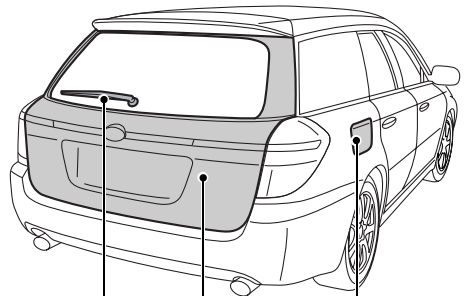
<ワゴン& OUTBACK>

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

<セダン>

買い物フック…4−95
サブトランク…4−84
ジャッキハンドル…7−4
000343
ジャッキ…7−2
応急用スペアタイヤ…7−5

外観

けん引フック…7－21
ボンネット…2－58
ワイパー…3－10
000405
タイヤ…6－7
ドアの施錠・解錠…2－39
チャイルドプルーフ…2－51

リヤワイパー…3−11
トランク…2−62
フューエルリッド（燃料補給口）…2−56
<セダン>
<ワゴン＆OUTBACK>
000404
リヤワイパー…3−11
リヤゲート…2−59
フューエルリッド（燃料補給口）…2−56

1 必読！安全で快適な運転のポイント

お車をお使いいただく上で

■ユーザーカスタマイズ機能

- お客様のお好みにより、機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。メーカーオプションのナビゲーション装着車はこれらの機能を変更することができます。（一部機能を除く）
- 盗難警報装置については、本書の使用説明、注意事項をよく読み、お客様のお好みや、駐車場所の状況により設定してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
盗難警報装置	警報の作動	作動あり／作動なし	作動なし	☆2－47ページ
	警報の監視開始時間の設定	0秒／30秒	30秒	☆2－44ページ
	衝撃センサーの作動 （ディーラーオプション）	作動あり／作動なし	作動なし	☆2－49ページ
	衝撃センサーの感度 （ディーラーオプション）	11段階の中から 設定可能	標準	☆2－49ページ
キーレス エントリー	アンサーバックブザーの 作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2－10ページ ☆2－40ページ
	ハザードアンサー バックの作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2－9ページ ☆2－40ページ
	自動施錠の作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2－10ページ ☆2－41ページ
	自動施錠の作動時間	20秒～60秒の間で 設定可能	30秒	☆2－10ページ ☆2－41ページ
パワー ウインドゥ	リモコンキー、リクエスト スイッチ、アクセスキーに よるウインドゥの開閉	作動あり／作動なし	作動なし	☆2－54ページ
キー閉じ込み 防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2－37ページ
リヤ デフォッガー	リヤデフォッガーの作動	15分作動／連続作動	15分作動	☆3－15ページ
ワイパー デアイサー	ワイパーデアイサーの 作動	15分作動／連続作動	15分作動	☆3－14ページ
ルームランプ	ルームランプオフディレ イの作動時間	OFF、短、標準、長	標準	☆2－10ページ ☆2－40ページ ☆4－96ページ
	警報作動時のルームラン プ点灯の作動	作動あり／作動なし	作動なし	
バッテリー上 がり防止機能	バッテリー上がり防止 機能の作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2－38ページ

※警報の作動についてはキー操作で設定することもできます。

※リモコンキーによるウインドゥの開閉とバッテリー上がり防止機能につきましては、スバル販売店でのみ変更となります。

■キーナンバープレート、セキュリティ IDプレートの保管

- キーナンバーは合いかぎを作るときに、セキュリティ IDナンバーは作った合いかぎをイモビライザーへ登録するときに、必要となる物です。これらのナンバーが打刻してあるプレートは盗難防止のため、車の中には置かずに大切に保管してください。
- イモビライザー機能付車は、キーを紛失したときに、盗難事故を防ぐため全てのキーのイモビライザー再登録が必要となります。このとき、セキュリティ IDプレートと全てのキーをスバル販売店にお持ちになってください。

☆2－32ページ参照

■盗難警報装置について

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）以外でドア、トランクが開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー付車のみ）に警報（ホーン音と非常点滅灯の点滅）で周囲に異常を知らせる装置です。
また、下記のように警報が作動する場合、または作動しない場合がありますので取り扱いには充分注意してお使いください。

- キーによる施錠、車内からのキーを使わない施錠では盗難警報装置は監視状態（警報が作動可能な状態）になりません。
- 盗難警報装置が監視状態（警報が作動可能な状態）のとき、キーで解錠した場合、車内からキーを使わずに解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2－36ページ参照

また、警報を作動させてしまったときには解除方法として以下のいずれかの操作をすると解除できます。

- リモコンのいずれかのボタンを押す。
- エンジンスイッチにキーを差し込み、エンジンスイッチをONにする。

☆2－47ページ参照

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆別冊のメンテナンスノート参照

■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は応急用スペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月１回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6−7ページ参照

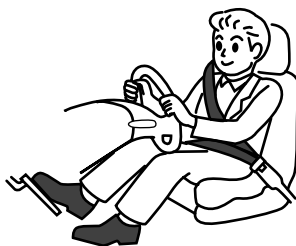
■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆別冊のメンテナンスノート参照

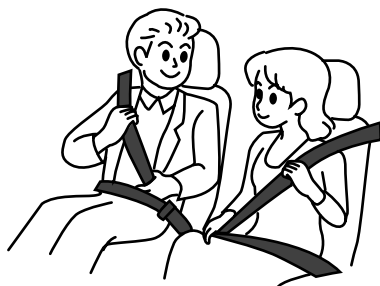
■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

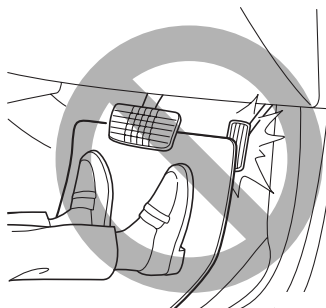
☆2−71、2−125、2−126ページ参照

100028

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRS エアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2−88ページ参照

100029

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。
  フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100972

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながることがあります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし、けがをするおそれがあり危険です。

100231

■ルーフに荷物を積むとき

- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えたり、サンルーフの開閉に支障をきたすことがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。

100200

■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRS エアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100232

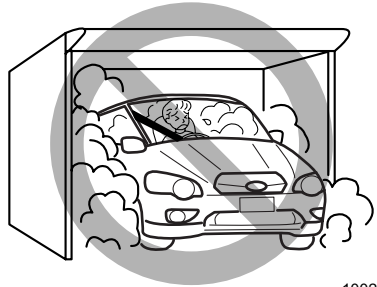
☆2−110ページ参照

■危険物の持ち込みはやめて

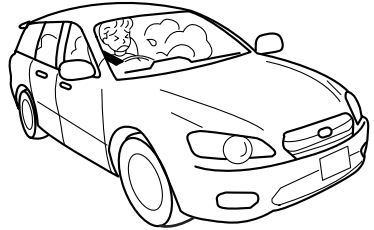
燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

100233

■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不充分になり、車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100201

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100968

■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります

100202

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

■燃料には無鉛ガソリンを

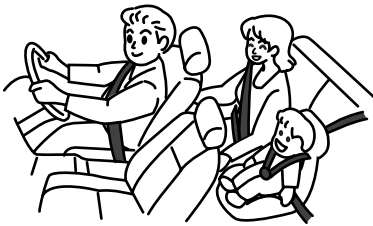
- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料などの不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。
- 2.0iおよび2.5iは無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- 2.0iおよび2.5i以外は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。
  無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起こりやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
  指定ガソリンは、フューエルリッド（給油口フタ）の裏に記載されています。

☆1－29ページ参照

お子さまを乗せるときの気くばり

■お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2－108ページ参照

100036

100234

■チャイルドシートを使用して

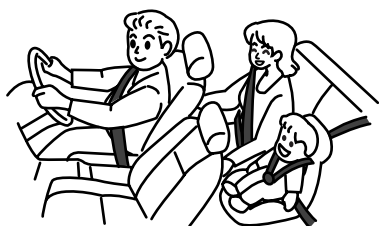
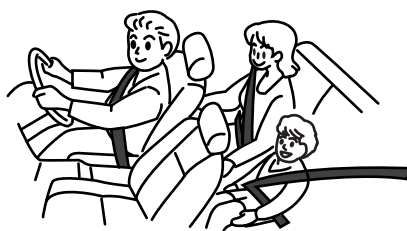
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまの場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～9か月頃まで	4か月～4歳頃まで	4歳～12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

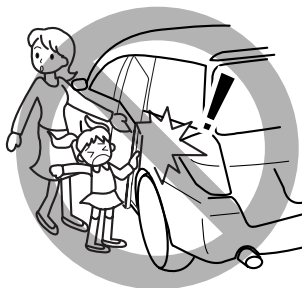
■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまへはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。

100036

100037

■ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。

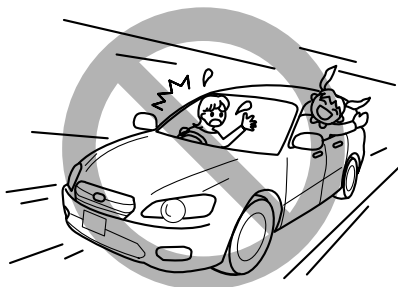
☆2−51ページ参照

- ドア開閉時、爪などを挟まないようにご注意ください。

100203

■窓やサンルーフから顔や手を出させないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

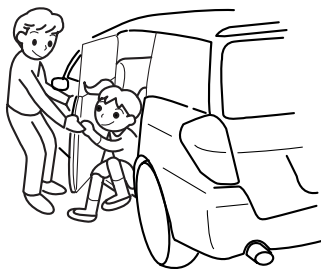
100204

■パワーウインドゥに気をつけて

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはパワーウインドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
  お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－51ページ参照

100235

■車から離れるときはご一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。
  炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキなど、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

100205

オートマチック車の特徴と運転上の注意

☆3－55ページの「オートマチック車の運転」も併せてお読みください。

■クリープ現象があります

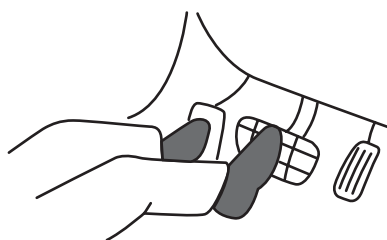
- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、（アイドルアップ）クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

100206

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- マニュアルモード選択時は、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、Dに戻してください。

■ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。

100077

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、セレクトレバーをすみやかにRからPまたはNにする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときはP、前進するときはD（後退はR）の位置にあることを目で確認してください。

100078

■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーをNにしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100207

■走行中（前進時）は、Ｒにしないで

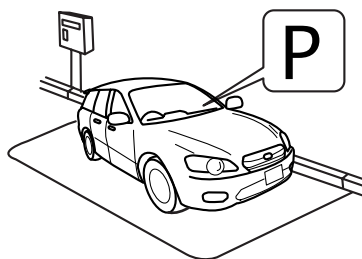
トランスミッションの損傷の原因になります。

■車が完全に止まらないうちにＰに入れないで

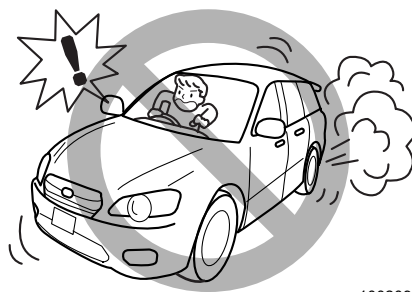
トランスミッションの損傷の原因になります。

■駐車するときはＰにして、駐車ブレーキを確実に

車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーをＰにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1－24ページ参照

100208

■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。

100209

■車から離れるときはエンジンを止めて

- クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーを[P]にして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。

■[R]に入れるとブザーが鳴ります

[R]に入れるとブザーが鳴り、[R]であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

■シフトロックシステムがついています

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
  ([P]以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- [N]でエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]に操作してください。
  もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。

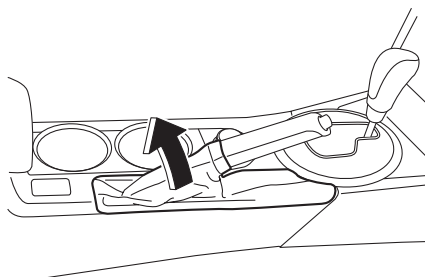
■[P]からのレバー操作ができないとき

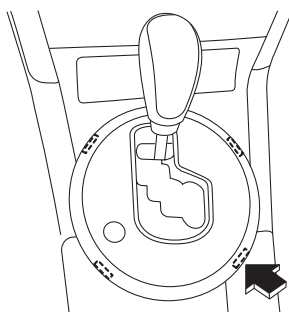
エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもレバー操作ができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

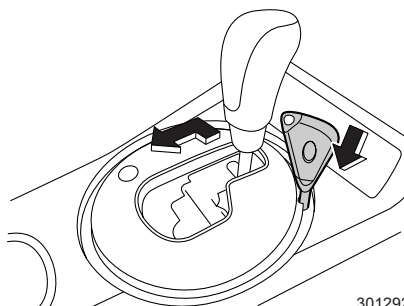
①駐車ブレーキレバーを引きます。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②駐車ブレーキのカバーを手で外します。

300790

③図の矢印部分からリングを手で取り外します。

300761

④シフトロック解除ボタンの穴にキーを挿入します。ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押し、セレクトレバーを動かします。

301292

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

走行するときには

■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆6－16、7－5ページ参照

■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－41ページ参照

- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を負うおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7－30ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

100213

■ペダルに足を乗せたまま運転しないで

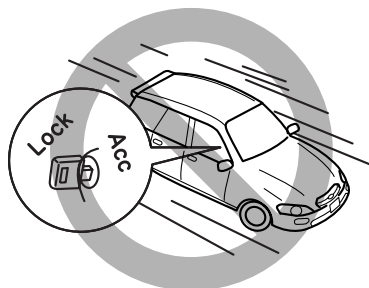
ブレーキペダルやクラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

100236

■走行中はエンジンスイッチを切らないで

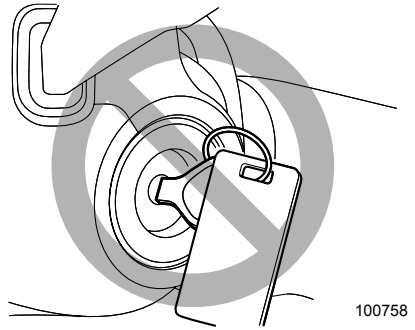
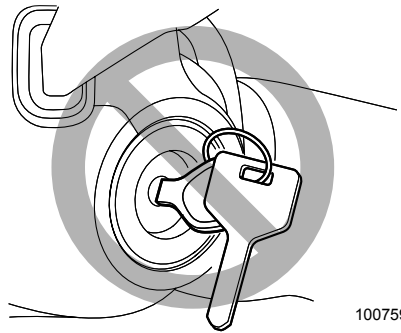
- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3−95ページ参照

- 走行中エンジンスイッチをLOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

100214

■キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。
下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いてない車よりも制動距離が長くなることがあります。
ABSが付いてない車と同様、充分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）

☆3−78ページ参照

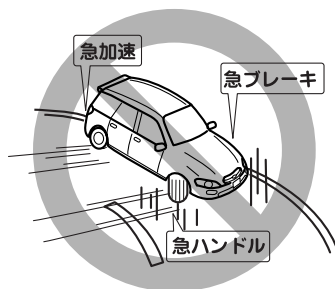
■洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

100215

■ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1－23ページ参照

100216

■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

■下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

〈エンジンブレーキとは〉

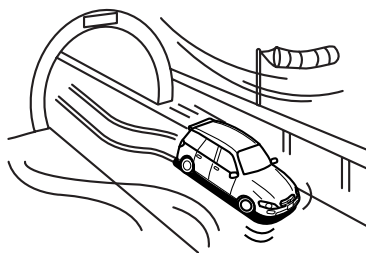
走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

〈シフトダウンとは〉

- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。
- オートマチック車ではセレクトレバーをDの位置からマニュアルゲートに動かしパドルシフトの㊀側レバーを手前に引くかセレクトレバーを㊀側（ダウン側）にすることで低速ギヤに切り替わります。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

☆3－39ページ参照

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

100217

■高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8－6ページ参照

- 万一のために停止表示板（または停止表示灯）を車に備えておいてください。
  停止表示板（または停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

■燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。

100218

■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター (エンジン回転計)のレッドゾーン未満

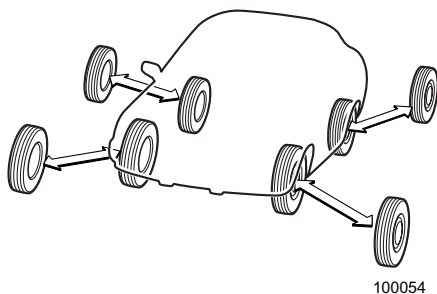
■ブレーキパッドの摩耗警報

パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

100054

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

☆1－17ページ参照

■控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
  － オートマチック車：
    セレクトレバーをマニュアルモードの2速にします。
    また、グレードによりマニュアルモード選択時にはパドルシフトで2速にすることもできます。

☆3－64、3－66ページ参照

  － マニュアル車：
    チェンジレバーを“2”にします。

☆3－51ページ参照

■タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に取り付けてください。

☆5－3ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後輪の接地力バランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。
  急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

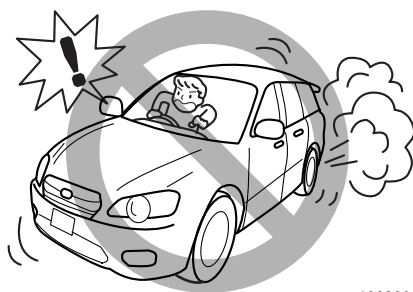
100219

駐・停車するときには

■燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■停車中は空吹かしをしないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

100209

■坂道に駐車するときは

無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☆5−9ページ参照

②マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。
　下り坂；“R”
　登り坂；“1”
　オートマチック車：セレクトレバーを P に入れます。

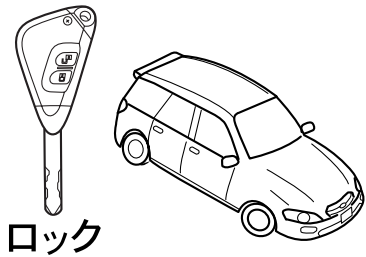
③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

なお、急な坂での駐車は避けてください。

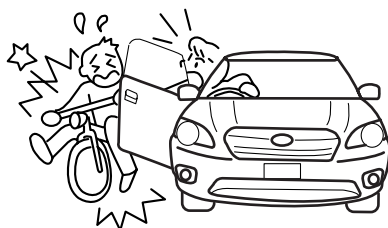
■車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動き出したり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

100221

■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100222

■仮眠するときは必ずエンジンを止めて

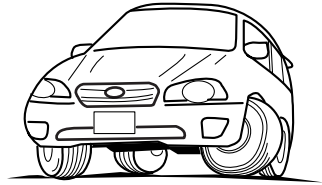
仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100059

■雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。（5秒以上続けないでください。）オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷することがあります。

100223

■エンジンルーム内には冷却ファンがついています

エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがありますのでボンネットを開ける場合は、ご注意ください。
回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

■SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

- 運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
- SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。
- SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

＜運転席SRSエアバッグ＞

100224

＜助手席SRSエアバッグ＞

100225

＜SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ＞

100226

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2−88ページ参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付の専用取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1−9、2−99ページ参照

燃料補給時の注意

■指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆指定燃料の種類：1−8ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

■燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 燃料給油時は火気厳禁です。
  タバコを吸うなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して火災を引き起こすおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
  キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口より燃料の吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
  給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。(座ることで再帯電することがあります)
- 給油のときは、給油ガンが自動停止した時点でおやめください。気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
  こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

こんなことにも注意を

■クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装着されています。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。

☆3−48ページ参照

■AWD車は万能車ではありません

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3−70ページ参照

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話などを手で保持して通話したり、メールの送受信などのために画面を注視することは禁止されています。

100237

■アクセサリーの取り付けに注意

ウインドゥにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席 SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

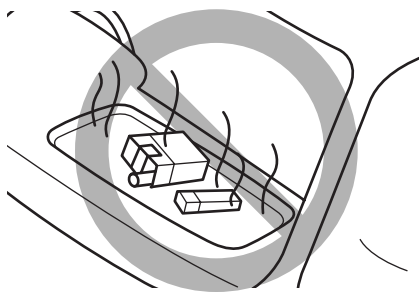
100238

■灰皿※を使用した後は

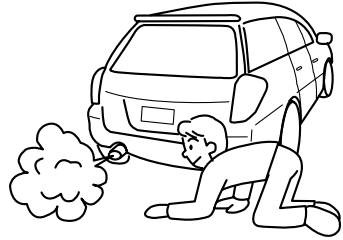
マッチ、タバコの火を確実に消し、必ずふたを閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。

※ 灰皿はディーラーオプションです。

■車内にガスライター、スプレー缶などを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶などを放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。

100239

■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100227

■リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■ラジエターが熱いときキャップを外さないで

ラジエターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

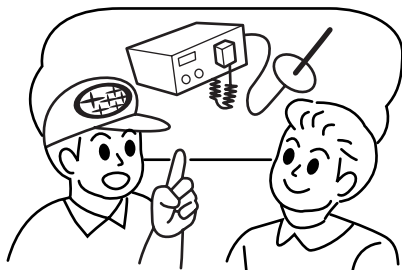
100228

■不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。（タイヤ、ホイール、マフラーなど）

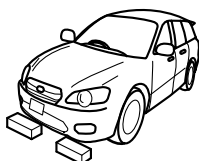
100229

■電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
スバル販売店にご相談ください。

100069

■車止めなどに注意して

次のような場合には、フロントバンパー下部を損傷するおそれがありますので、充分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過

101037　101038

■純正部品をお奨めします

- マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因になることもあります。例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは別冊の「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

100070

■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えております。お客様が安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

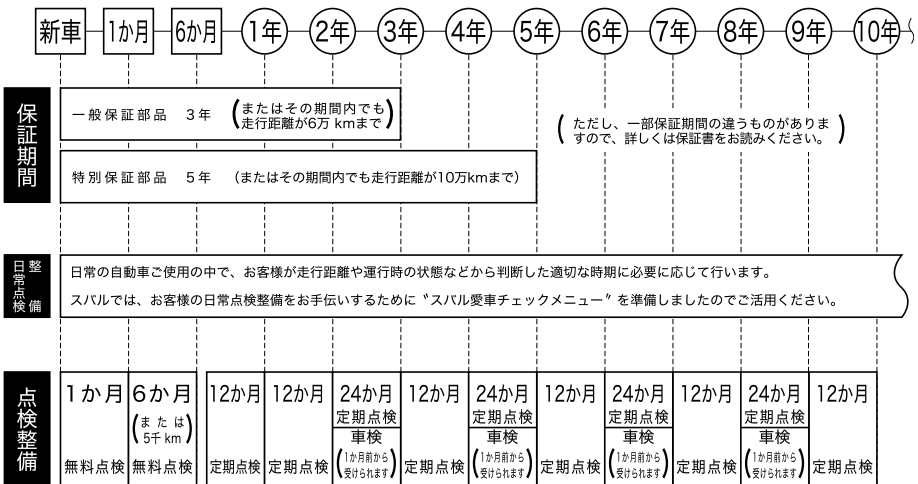
保証書・メンテナンスノートについて

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

■保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。
一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

■点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどが記載してあります。
  よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

環境にやさしい運転

■環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

適正空気圧で 50 km 走行すると 50 kPa〈0.5 kg/cm^2〉減のときに比べて、ガソリン約150 ccの節約になります。

＊ CO_2 約1,250 g削減〈650 km/月〉

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

10 kgの荷物を降ろして50 km走行すると、ガソリン約15 ccの節約になります。

＊ CO_2 約130 g削減〈650 km/月〉

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

5分間のアイドリングをやめると、ガソリン約65 ccの節約になります。

＊ CO_2 約420 g削減〈10回/月〉

空吹かしはやめましょう。

空吹かしを1回やめると、ガソリン約6 ccの節約になります。

＊ CO_2 約1,150 g削減〈300回/月〉

エアコンの使用は、少し控えましょう。

エアコンを6分間OFFにすると、ガソリン約70 ccの節約になります。

＊ CO_2 約130 g削減〈3時間/月〉

発進や加速はスムーズにしましょう。

急発進を1回やめるとガソリン約17 cc、急加速を1回やめるとガソリン約11 ccの節約になります。

＊ CO_2 約360 g削減〈各20回/月〉

経済速度で走行しましょう。

- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 高速道路では、100 km/hより80 km/hで走行すると燃費が10〜30%向上します。
- 下り坂や減速時には、エンジンブレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

アドバイス

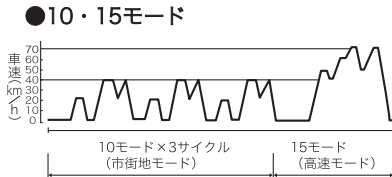
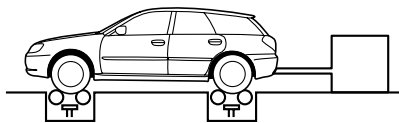
10・15モード燃費とは

車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。

このモードは、市街地モード（10モード）と高速モード（15モード）の２パターンを測定したものです。

測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト（市街地モード）を3回行い、続けて15の走行パターン（高速モード）を想定したテストを1回行います。

　平均速度：約23 km/h
　走行距離：約4.2 km

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両を乗せて行います。

100639

100646

「10・15モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合が多くあります。
例えば、天候や路面、車両重量、運転などに応じて燃費が異なります。

対象車種は 2.0L 乗用車（オートマチック車）の燃費 11.7 km/L（10・15モード）を基準に計算してあります。

参考資料：社団法人日本自動車工業会「あしたへ　ECO-MOTION」参照

2 運 転 す る 前 に

キーレスアクセス&プッシュスタート

各部の開閉

シート

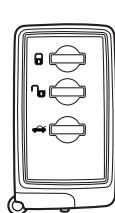
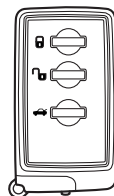
シートベルト

SRSエアバッグシステム

ハンドルとミラーの調整

キーレスアクセス&プッシュスタート

キーレスアクセス＆プッシュスタートについて

キーレスアクセス＆プッシュスタートはアクセスキーを携帯することにより、全てのドアとリヤゲートの施錠および解錠、トランクの解錠、エンジンの始動および停止が行えるシステムです。また、施錠・解錠については従来どおりの電波式リモコンドアロックもアクセスキーのボタン操作で行うことができます。

⚠ 警 告

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の機器を装着されているかたは、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけないようにしてください。

車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

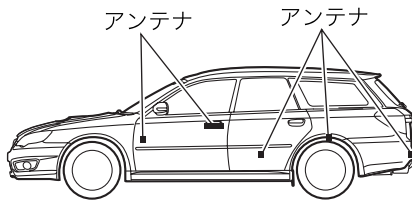
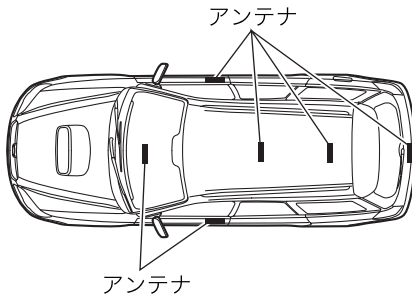
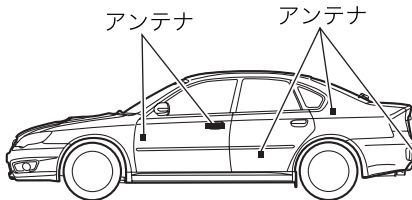
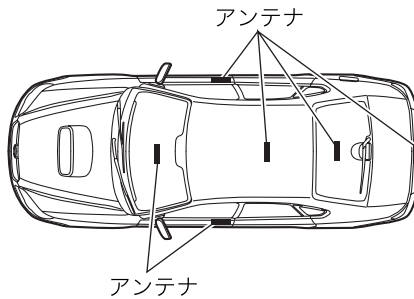
植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を装着されているかたは、**後述の“キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について”**を参考に医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。車両側発信アンテナの電波により医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- キーレスアクセス＆プッシュスタート機能の作動あり / 作動なしを設定することができます。設定方法は「キーレスアクセス＆プッシュスタート機能の停止方法」を参照してください。また、スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2−28ページ参照

キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について

- キーレスアクセス&プッシュスタートでは、以下規則により定められた微弱電波を使用しております。
  − 電波法施行規則第6条第1項第1号
- キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、従来の電波式リモコンドアロック機能の電波に加え、下記周波数の電波※を使用しています。その電波は次のイラストの車両側アンテナから周期的に出力しています。
  ※電波周波数：134 kHz

ワゴン
アンテナ
アンテナ
アンテナ
アンテナ
201132
セダン
アンテナ
アンテナ
アンテナ
アンテナ
201151

⚠ 注意

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のようなアクセスキーの状態、周囲の状況によっては、アクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備がある。
- 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき。
- 複数のアクセスキーを携帯している。
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機がある。
- アクセスキーの近くに金属物がある。
- 金属製のアクセサリーをアクセスキーに付けているとき。
- アクセスキーといっしょにノート型パソコンなどの電気製品を携帯しているとき。
- アクセスキーの電池が消耗しているとき。

アクセスキーを車室内（例えば、インストルメントパネルの上、物入れ、シートの上など）、トランク内または車両周辺2 m以内（例えば、車庫での保管など）に絶対に放置・保管しないでください。

アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によっては電源が切り替わらないことがあります。

- 長期間お車を使用しないとき、機能自体を使用しないとき、やむを得ずアクセスキーを車室内や車の周辺に保管したいときは、キーレスアクセス機能を停止させることができます。設定方法は「キーレスアクセス＆プッシュスタート機能の停止方法」を参照してください。また、スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2－28ページ参照

- アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - アクセスキーの電池は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるためスバル販売店での交換をお奨めします。
  - 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。
  - 強い衝撃を与えないでください。
  - 磁気を帯びた物に近づけないでください。
  - ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。

– 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
– 湿気やホコリが多い場所に放置しないでください。アクセスキー故障の原因となります。
– パソコン、家電製品の近くに放置しないでください。アクセスキーが誤作動し、電池切れの原因となります。

- アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

☆6－51ページ参照

- アクセスキーを落下させた場合、内蔵されているメカニカルキーが外れることがあります。メカニカルキーの紛失にご注意ください。

☆2－29ページ参照

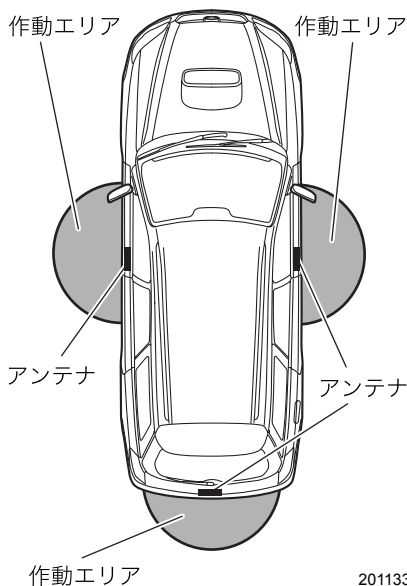
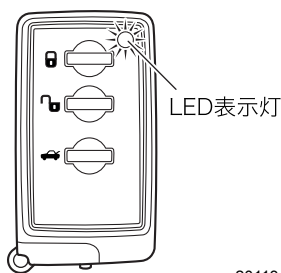
アドバイス

- アクセスキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、アクセスキーの再登録をお奨めします。アクセスキーの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- スペアのアクセスキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- アクセスキーは最大7つまで登録できます。
- アクセスキーに付属のキーナンバープレート、セキュリティIDプレートは大切に保管してください。車両修理やアクセスキーの追加登録などで必要になります。
- アクセスキーはドアポケットやダッシュボードなどの車内の収納場所に放置しないでください。（振動による破損や勝手にスイッチが入って閉じ込める危険性があります）

キーレスアクセス機能を使用してのドアの施錠・解錠

■ドアおよびリヤゲート（トランク）の施錠・解錠機能の作動エリア

- ドアおよびリヤゲートの施錠・解錠機能の作動範囲は、ドアハンドルとリヤゲートハンドルを中心に約 40 ～ 80 cm が目安となります。
- トランクの解錠機能の作動範囲はトランクオープンリクエストスイッチを中心に約 40 ～80 cmが目安となります。

201133

ドアが施錠している状態で前席ドアの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。キーレスアクセス機能を停止させた場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。
☆2－28ページ参照

201134

アドバイス

- 電源をOFFにしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのリクエストスイッチのみになります。
- 誤作動防止のため、施錠および解錠後、一定時間（約1秒未満）はリクエストスイッチによる解錠および施錠ができません。
- 操作が早すぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。施錠後は、ドアハンドルを操作して確認することをお奨めします。
- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。作動しないときは少し離れて操作をやり直してください。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと、図示した作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方でもキーレスアクセス機能を操作できます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのリクエストスイッチになります。
- アクセスキーの状態、周囲の電波状況によってキーレスアクセス機能が正常に作動しない可能性があります。このような場合、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

☆2−29ページ参照

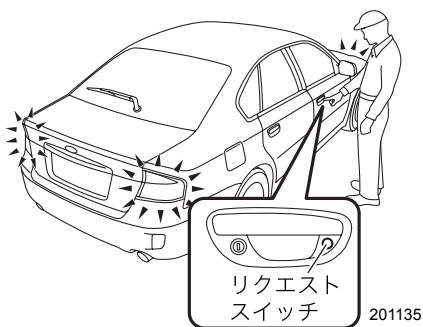
- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。但しアクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際はアクセスキーを持っていることを確認してください。
- リクエストスイッチはドアハンドルを引きながら押さないでください。ドアハンドルを引いたままにしているとドアが解錠できない場合があります。
- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV 塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を行ってください。

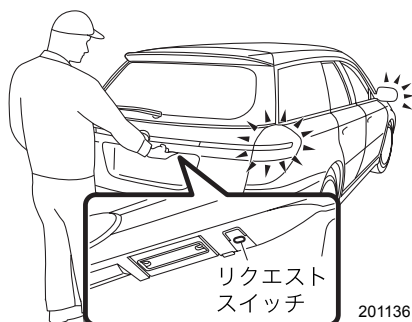
☆2−29ページ参照

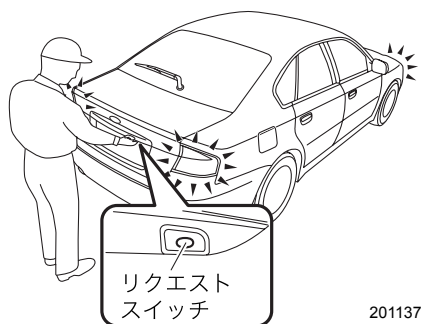
- ドアまたはリヤゲートが開いているときは施錠できません。全てのドアおよびリヤゲートを閉めてから、施錠操作を行ってください。

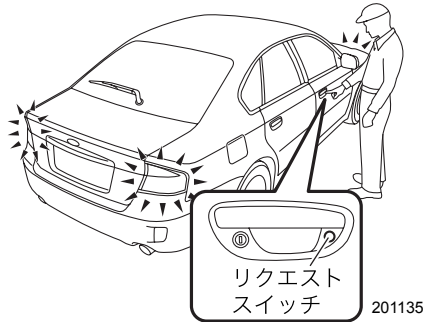
■キーレスアクセス機能の使いかた

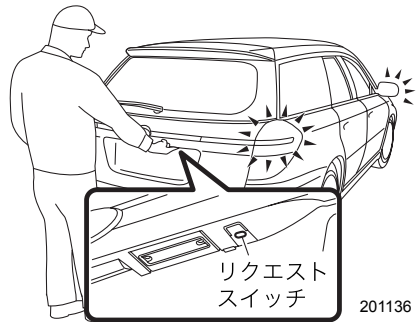
●解錠

アクセスキーを携帯し、ドアハンドル下のリクエストスイッチを押してください。全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

▼リヤゲートからの解錠（ワゴンのみ）

アクセスキーを携帯し、リヤゲートハンドル右端のリクエストスイッチを押してください。リヤゲートと全てのドアが解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

▼トランクの解錠（セダンのみ）

アクセスキーを携帯し、トランクオープンリクエストスイッチを押してください。トランクが解錠します。
このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

●施錠

アクセスキーを携帯し全てのドアを閉めてからドアハンドル下のリクエストスイッチを押してください。全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

▼リヤゲートからの施錠（ワゴンのみ）

アクセスキーを携帯し全てのドアを閉めてから、リヤゲートハンドル右端のリクエストスイッチを押してください。リヤゲートと全てのドアが施錠します。このときブザーが 1 回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

アドバイス

セダンの場合、トランクを開けたまま施錠するとブザーが５回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が５回点滅し、トランクが開いていることをお知らせします。

●非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅の解除

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯を消灯させることができます。

メーカーオプションのナビゲーション装着車ではモニター画面でキャンセルすることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●ブザーの解除

解錠時や施錠時に鳴るブザーを消音にすることができます。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では作動あり / 作動なしの設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●ルームランプの連動

ルームランプスイッチがDOOR位置にあるとき、アクセスキーを携帯し運転席または助手席の作動エリアに入るとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。また、キーレスアクセスまたは電波式リモコンドアロックにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中以下の操作をするとルームランプは消灯します。

- リクエストスイッチを押して施錠した場合
- アクセスキーの🔒ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- プッシュエンジンスイッチを押してAccにした場合

メーカーオプションのナビゲーション装着車では機能の作動あり / 作動なしと点灯時間の設定を変えることができます。
詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店で設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の場合キーレスアクセス & プッシュスタートを停止します。

- 全てのドアを施錠した状態で 2週間以上キーレスアクセス & プッシュスタートおよび電波式リモコンドアロックを使用しない場合
- 全てのドアを施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

▼復帰方法

以下のいずれかを行うとキーレスアクセス&プッシュスタートは復帰します。

- ドア（リヤゲート含む）のリクエストスイッチを押して解錠する。
- 電波式リモコンドアロックで解錠または施錠する。
- メカニカルキーで解錠し、施錠する。

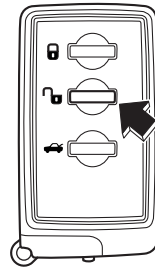
●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では機能の作動あり / 作動なしと自動的に施錠されるまでの時間の設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店で設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

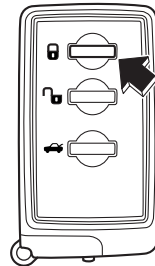
電波式リモコンドアロックによるドアの施錠•解錠（ボタン操作による施錠・解錠）

アクセスキーのボタンを押すと電波により、車から離れたところから全ドア（リヤゲート含む）の解錠・施錠およびトランクの解錠ができます。

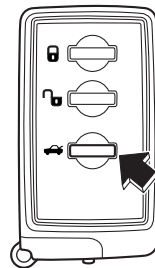
●解錠

車のまわりからアクセスキーのボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

201138

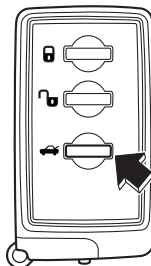
●施錠

車のまわりからアクセスキーのボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

201139

●トランクの解錠（セダン）

車のまわりからボタンを約1.5秒以上押すとトランクが開きます。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

201140

●リヤゲートの解錠（ワゴン）

車のまわりから[icon]ボタンを押すとリヤゲートが解錠します。このときブザーが２回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

201140

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。このとき、盗難警報装置も作動します。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では機能の作動あり / 作動なしと自動的に施錠されるまでの時間の設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店で設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

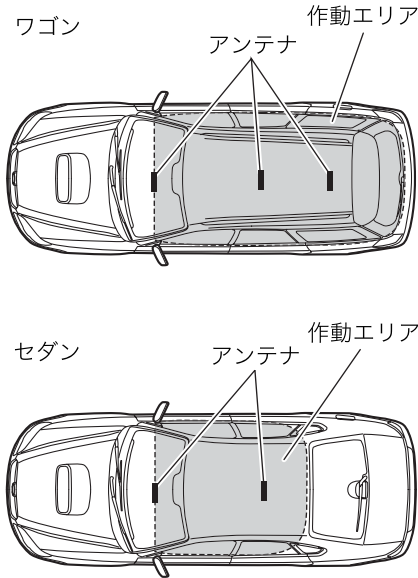
- 車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、施錠を確認してください。
- ドアまたはリヤゲートが開いているときは施錠できません。
- 非常点滅灯の点灯・消灯およびルームランプの点灯時間はスバル販売店で設定ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2−9ページ参照

- アクセスキーを車体に近づけ過ぎた状態でアクセスキーの[icon]ボタンを押すと、キーレスアクセス機能による解錠ができなくなることがあります。（この場合は電波式リモコンドアロックで解錠すると、機能が復帰します。）

エンジンの始動・停止

アクセスキーを携帯して車内に入ると車両の電源の切り替えおよびエンジン始動をすることができます。

■電源の切り替えおよびエンジン始動の作動エリア

201141

アドバイス

- 車内アンテナの作動エリア内にアクセスキーを検知できない場合、電源切り替えおよびエンジン始動はできません。
- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づきすぎた場合はエンジン始動できる場合があります。
- アクセスキーをトランクに置いた場合、電源切り替えやエンジン始動はできません。但し、アクセスキーの置場や周囲の条件によっては始動できる場合があります。

次ページへ ⇒

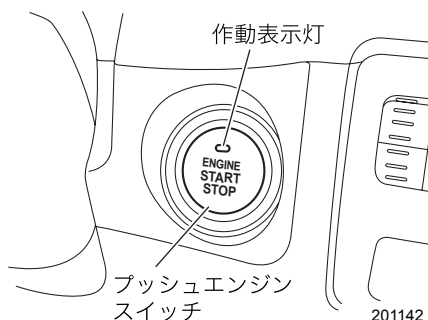
⇒前ページより

- アクセスキーを次の場所に置かないでください。電源の切り替えやエンジンを始動できない場合があります。
  - インストルメントパネル上
  - フロア上
  - グローブボックス内
  - ドアトリムのポケット
  - リヤシート
  - カーゴルームの隅（ワゴン）
  - リヤシェルフ（セダン）
- アクセスキーがバッテリー切れの場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法でエンジン始動をしてください。この場合はすみやかに電池交換してください。

☆2－29、6－51ページ参照

■電源の切り替えかた

プッシュエンジンスイッチを押すごとに、電源が切り替わります。

①アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
②オートマチック車はセレクトレバーが[P]であること、マニュアル車はニュートラルであることを確認します。
③オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押します。押すごとに電源がOFF → Acc → ON →OFFの順に切り替わります。エンジン停止時、プッシュエンジンスイッチがAccまたはONのときはプッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点灯します。

電源の状態	表示灯の色	各作動の動き
OFF	消灯	電源が切れる
Acc	橙色	次のものが使用できる ワイパー、ウォッシャー、 オーディオ、電源ソケット
ON	橙色(エンジン停止)	全ての電装品が使用できる
	消灯(エンジン回転中)	

●バッテリー上がり防止機能

Accにした状態で約1時間放置するとバッテリー上がり防止のため自動的に電源がOFFになります（オートマチック車はセレクトレバーが[P]のとき）。

⚠ 注 意

- 電源がONまたはAccのまま長時間放置すると、車両のバッテリー上がりの原因となります。
- オートマチック車はセレクトレバーが[P]以外では電源をOFFにすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチに飲料水などをこぼさないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチを油などの付いた手で触れないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチの作動に引っかかりがあるときは、プッシュエンジンスイッチを操作せず、すみやかにスバル販売店に連絡してください。
- 車幅灯を点灯してもプッシュエンジンスイッチ照明が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、プッシュエンジンスイッチの表面が熱くなる場合があります。やけどしないようご注意ください。
- バッテリー上がりおよびバッテリー脱着後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。その際はステアリングロックの初期化※を行ってください。
  ※ステアリングロックの初期化
  電源をOFFにして運転席ドアを開閉し、約10秒間お待ちください。ステアリングがロックされれば初期化は完了しています。

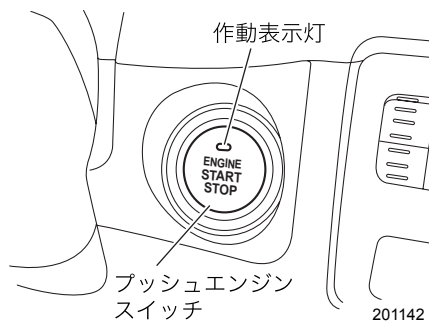
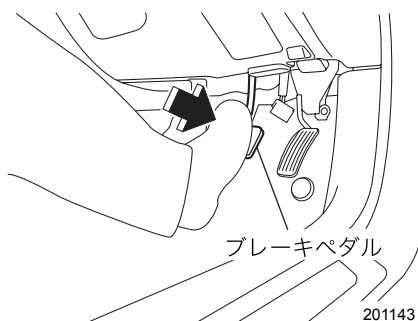
アドバイス

- プッシュエンジンスイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- プッシュエンジンスイッチを早押しした場合、電源が切り替わらない場合があります。

■エンジンの始動（オートマチック車）

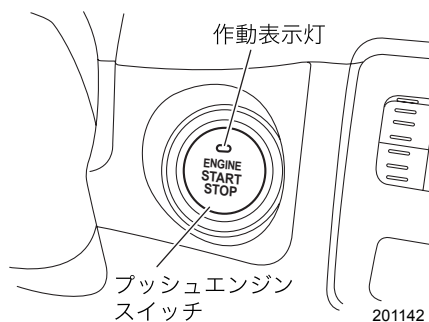
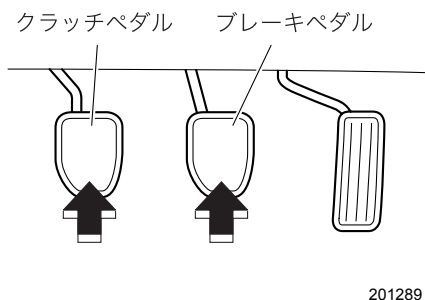
ブレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。

操作方法

①アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
②駐車ブレーキをかけていることを確認します。
③セレクトレバーがPであることを確認します(Nでも始動できますが、安全のためPで始動してください)。
④プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（Nで始動する場合、作動表示灯は緑色になりません。）
⑤ブレーキペダルを踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。

■エンジンの始動（マニュアル車）

クラッチペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。

操作方法

①アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
②駐車ブレーキをかけていることを確認します。
③チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
④ブレーキペダルを踏みます。
⑤プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色になるまで、クラッチペダルを踏み込みます。
⑥クラッチペダルを踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。

⚠ 警 告

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒に陥るおそれがあります。
- エンジン始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が緑色に点滅しているときは、絶対に走行しないでください。ステアリングロックが解除されていない状態で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が橙色に点滅しているときは、車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- エンジン始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が緑色に点滅しているときは、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上プッシュエンジンスイッチを押し続けないでください。スターターが回り続けるため、故障の原因になります。
- 1回でエンジンがかからないときは一旦、電源をOFFに戻してください。10秒間放置してからもう一度ブレーキペダルを踏みながら、プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。
- バッテリーが上がるとステアリングロックが解除できません。バッテリーを充電してください。
- バッテリー上がりおよびバッテリー脱着後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。その際はステアリングロックの初期化※を行ってください。
  ※ステアリングロックの初期化
  電源をOFFにして運転席ドアを開閉または閉開し、約10秒間お待ちください。ステアリングロックがロックされれば初期化は完了しています。

アドバイス

- ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車)を踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと最大10秒間スタースターが回ります。エンジンが始動するとスタースターは止まります。
- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。
- ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏みながらプッシュエンジンスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。
- エンジン始動時にセキュリティ表示灯が点灯してエンジンがかからない場合は、一度プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしてから、再度エンジン始動を行ってください。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにプッシュエンジンスイッチを押して、一度電源をOFFにした後、ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）をさらに強く踏みながらもう一度プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンが始動していないときは、ブレーキペダルが硬く感じることがあります。そのときは通常よりも強くブレーキペダルを踏んで作動表示灯が緑色になることを確認してからプッシュエンジンスイッチを押し、エンジンを始動してください。
- 周辺の電波状況により、通常手順のドアの施錠・解錠およびエンジン始動ができないことがあります。そのときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してドアの施錠・解錠およびエンジン始動を行ってください。

☆2−30、6−51ページ参照

緊急時のエンジン始動方法

通常手順のエンジン始動でエンジンが始動しないときは、次の方法を行ってください。エンジンが始動する場合があります。(緊急時以外は、この方法でエンジンを始動しないでください。)

- オートマチック車はセレクトレバーを[P]にしてから電源の状態を Acc にしてブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けてください。
- マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルにしてから電源の状態をAccにしてクラッチペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けてください。

■エンジンの停止のしかた

車両を完全に停止させ、プッシュエンジンスイッチを押してください。このときエンジンが停止し、電源がOFFになります。
ただし、オートマチック車はセレクトレバーを[P]に入れてからエンジンスイッチを押さないと電源がOFFになりません。

⚠ 警 告

- 走行中はプッシュエンジンスイッチにさわらないでください。
  プッシュエンジンスイッチを約3秒以上押し続けるとエンジンが停止します。エンジンが停止するとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。
  また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にエンジンが停止した場合、安全な場所で車両が停止するまでプッシュエンジンスイッチを操作したりドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停止させた後、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

⚠ 注 意

オートマチック車は以下のことに注意してください。
- [P]以外でエンジンを停止しないでください。
- [P]以外でエンジンを停止した場合、電源はAccになるためそのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

走行中、プッシュエンジンスイッチを約３秒以上押し続けると、エンジンを停止させることができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止させないでください。

警告音および警告表示による警報

キーレスアクセス & プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため警告音またはマルチインフォメーション表示により警告します。
この場合は適切な処置を行ってください。

■警告音による警報

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難防止のため警告音により警告します。
警告音および警告表示が表示された場合、適切な処置を行ってください。

●半ドア警告

いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態でリクエストスイッチによる施錠操作を行うと警告音が鳴ります。

ドアを閉めて施錠してください。

●閉じ込み防止警告

車内にアクセスキーが放置されている状態で、「キーを使わない車外からの施錠」により全てのドアを施錠しようとした場合、室外ブザーが 2 秒間鳴り、全てのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。

☆2−36ページ参照

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

▼トランク閉じ込み警告（セダンのみ）

全てのドアが施錠されている状態（または自動施錠のカウント中）で、トランクにアクセスキーを放置したままトランクを閉めた場合、室外ブザーが2秒間鳴ります。この状態でトランクオープンリクエストスイッチを押すとトランクが解錠します。

アドバイス

- トランクからアクセスキーを取り出して、再度トランクを閉めてください。
- トランク内にアクセスキーを放置しないでください。アクセスキーの状態、周囲の状況によってはトランク閉じ込み防止機能が働かず閉じ込める場合があります。アクセスキーを持っていることを確認し、トランクを閉めてください。

●キー置き忘れ警告

電源OFFのとき車内にアクセスキーが放置されている状態で、ドアを閉め、リクエストスイッチで施錠操作をした場合、室外ブザーが2秒間鳴ります。

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

●キー無し警告

車内にアクセスキーがない状態で走行した場合、室内ブザーが鳴ります。
このときメーターのキー無し警告灯も点滅します。

アドバイス

アクセスキーを携帯し走行してください。

●電源切り忘れ警告

次のときにアクセスキーを携帯した状態でリクエストスイッチを押すと、室外ブザーが最長で60秒間鳴り続けます。

- オートマチック車は電源がOFF以外でセレクトレバーがPのとき
- マニュアル車は電源がOFF以外のとき

アドバイス

- 電源をOFFにしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFにすれば警告ブザーは停止します。

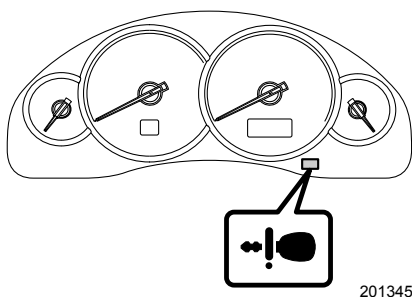
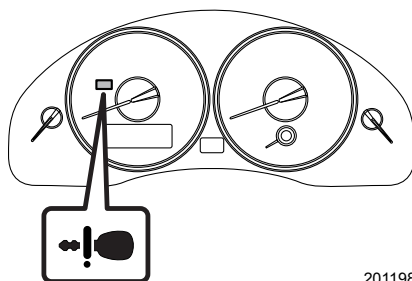
■警告表示による警報

車内にアクセスキーがない場合などは警告音とともにマルチインフォメーションディスプレイに警告表示します。このときメーターのキー無し警告灯も点滅します（タイプ A メーターは警告音とキー無し警告灯の点滅のみ）。

タイプAメーター

201345

タイプBメーター

201198

●キーレスアクセス&プッシュスタート電池残量警告表示

電源をONにしてから約20分以上経過し、その後電源を OFF にしたときにアクセスキーの電池残量が低下している場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。

201145

表示された場合は、アクセスキーの電池を交換してください。
☆6−51ページ参照

●ステアリングロック未解除警告表示

エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されていない場合、プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。
この場合は、ハンドルを軽く左右に回しながらブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。

ハンドルのロックが
解除されていません

ハンドルを左右に回し
エンジンスイッチON

S00206

⚠ 警 告

エンジン始動操作を行った場合に、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、絶対に走行しないでください。ステアリングロックが解除されていない状態で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

再度エンジン始動操作を行っても作動表示灯が緑色に点滅している場合や、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されている場合は、ステアリングロックの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

●エンジン始動警告

▼キー無し警告表示

アクセスキーが車内にない状態でプッシュエンジンスイッチを押したとき、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。

キーが
見つかりません

201147

アドバイス

- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを操作してください。
- アクセスキーが車内検知エリア内にあっても、アクセスキーの状態、周囲の状況によってはキー無し警告表示する場合があります。

●キー持ち出し警告

▼キー持ち出し警告表示

次のときにアクセスキーを携帯した状態で車外に出て、運転席ドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。

- オートマチック車は電源が OFF 以外でセレクトレバーがPのとき
- マニュアル車は電源がOFF以外のとき

キーが
見つかりません

201147

アドバイス

- 電源をOFFにして車の外に出てください。
- アクセスキーを窓から外へ出した場合は警告しません。

▼キー持ち出し警告表示（オートマチック車）

電源がOFF以外でセレクトレバーがP以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。

停車時は
Pレンジへ

キーが
見つかりません

S00210

セレクトレバーをPにし、電源をOFFにして車の外に出てください。

▼同乗者のキー持ち出し警告表示

電源が OFF 以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告表示されます。

キーが
見つかりません

201147

アドバイス

アクセスキーを窓から外へ出した場合は警告しません。

▼セレクトレバー位置警告表示（オートマチック車）

電源が OFF 以外でセレクトレバーが[P]以外の位置のときに運転席ドアを開けた場合、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

停車時は
P レンジへ

201148

警告があった場合は、セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにして車の外に出てください。

■プッシュエンジンスイッチ作動表示灯の点滅による警報

●キーレスアクセス&プッシュスタートシステム異常警告

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムに異常がある場合プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

作動表示灯が橙色に点滅したときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

■警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	メーター内キー無し警告灯表示	メーター内マルチインフォメーションディスプレイ表示	プッシュエンジンスイッチ内作動表示灯	状況	対処方法
ポーン、ポーン、・・・(断続吹鳴)	―	―	―	―	電源がAccのとき、運転席ドアを開けた。(オートマチック車はセレクトレバーがPのとき)	電源OFFにするか、運転席ドアを閉めてください。※車両から離れるときは必ず電源をOFFにしてください。
					運転席ドアが開いているとき、電源をOFFにした。	運転席ドアを閉めてください。
―	ピー(2秒間吹鳴)	―	―	―	車内にアクセスキーが放置されている状態で全てのドアを施錠しようとした。	アクセスキーを車外に持ち出した上でドアの施錠操作を行ってください。※室内にアクセスキーがある状態ではドアの施錠操作はできません。※警告ブザーとともに全ドアが解錠されます。
					全てのドアが施錠されている状態(もしくは自動施錠のカウント中)で、トランクにアクセスキーを放置したままトランクを閉めた。(セダンのみ)	トランクからアクセスキーを取り出した上でトランクを閉めてください。※この警告ブザーが吹鳴した後、トランクオープナーリクエストスイッチを押せばトランクを解錠することができます。
					電源がOFFのとき、アクセスキーが車内にある状態でリクエストスイッチを押した。	アクセスキーを車外に持ち出した上でドアの施錠操作を行ってください。※室内にアクセスキーがある状態ではドアの施錠操作はできません。
―	ピーーー(10秒間吹鳴)	―	―	―	電源がOFFのとき、いずれかのドア(リヤゲート含む)が開いている状態で、リクエストスイッチを押した。	ドアを確実に閉めて施錠操作を行ってください。※いずれかのドア(リヤゲート含む)が開いている状態では施錠できません。

室内ブザー警報	室外ブザー警報	メーター内キー無し警告灯表示	メーター内マルチインフォメーションディスプレイ表示	プッシュエンジンスイッチ内作動表示灯	状況	対処方法
−	ピーーー（最長60秒間吹鳴）	−	−	−	電源がOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態でリクエストスイッチを押した。（オートマチック車はセレクトレバーがPのとき）	アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFしてください。※電源をOFFにしないとドアの施錠操作はできません。
ポーン	−	（表示）	−	−	車内にアクセスキーがない状態で走行した。	アクセスキーを携帯して走行してください。
ポーン	−	（表示）	キーが見つかりません	−	車内にアクセスキーがない状態でプッシュエンジンスイッチを押した。	アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	ピッ ピッ ピッ（3回吹鳴）	（表示）	キーが見つかりません	−	電源がOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席ドアを閉めた。（オートマチック車はセレクトレバーがPのとき）	電源をOFFにした上で車外に出てください。
ポーン	ピッ ピッ ピッ（3回吹鳴）	（表示）	キーが見つかりません	−	電源がOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた。	アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFしてください。
ピーーー（連続吹鳴）	ピーーー（連続吹鳴）	（表示）	停車時はPレンジへ キーが見つかりません	−	電源がOFF以外でセレクトレバーがP以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた。	セレクトレバーをPにし、電源をOFFにした上で車外に出てください。
ピーーー（連続吹鳴）	−	−	停車時はPレンジへ	−	電源がOFF以外でセレクトレバーがP以外のとき、運転席ドアを開けた。	セレクトレバーをPにし、電源をOFFにした上で車外に出てください。
ポーン	−	−	キーの電池を交換して下さい	−	アクセスキーの電池残量が低下している。	アクセスキーの電池を交換してください。
−	−	−	ハンドルのロックが解除されていません ハンドルを左右に回しエンジンスイッチON	緑点滅（最長15秒間）	エンジン始動操作をしたが、ハンドルのロックが解除されていない。	ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
−	−	−	−	橙点滅	電源システムやステアリングロックの異常が検出された。	直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法

長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止させることができます。
キーレスアクセス & プッシュスタート機能を停止させた場合でも電波式リモコンドアロックは作動します。

アドバイス

- この設定は、スバル販売店でもできます。詳しくは、スバル販売店にご相談ください。
- 機能を停止させた場合、エンジンを始動させるときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法を行ってください。

☆2－29ページ参照

●機能を停止させるとき

①運転席に座りドアを閉めてください。
②集中ドアロックスイッチを後ろ側（解錠側）に押してください。
③ ②の操作後、5秒以内に運転席ドアを開けてください。
④ ③の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチを後ろ側（解錠側）に2回押してください。
⑤ ④の操作後、30秒以内に運転席ドアを 「閉める→開ける」の操作を2回行ってください。
⑥ ⑤の操作後、30秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチを後ろ側（解錠側）に2回押してください。
⑦ ⑥の操作後、30秒以内に運転席ドアを 「閉める→開ける」の操作を１回行ってください。
⑧ ⑦の操作後、5秒以内にドアを閉めます。ブザーが2回鳴り、機能を停止することができます。

アドバイス

④および⑥の操作では集中ドアロックスイッチはゆっくりと押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しない場合があります。

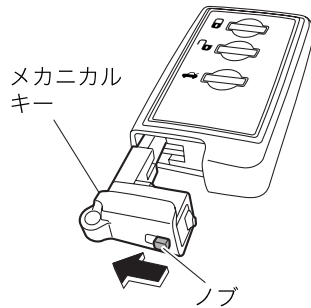
●機能を復帰させるとき

機能の停止手順をもう一度行うと機能を復帰させることができます。
このときブザーが１回鳴ります。

アクセスキーが正常に作動しないとき

強い電波ノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり解錠・施錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。
☆6－51ページ参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

アクセスキーのノブを引きながらメカニカルキーを取り出します。
メカニカルキーで運転席ドアを解錠します。

アドバイス

- 盗難警報装置が作動している場合は警報が鳴ります。
  アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照して電源ONまたはエンジン始動をしてください。

☆2－30、2－31ページ参照

- 施錠・解錠に使った後、外したメカニカルキーは必ず元の位置（アクセスキー）へ付けてご使用ください。

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動(オートマチック車)

強い電波ノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

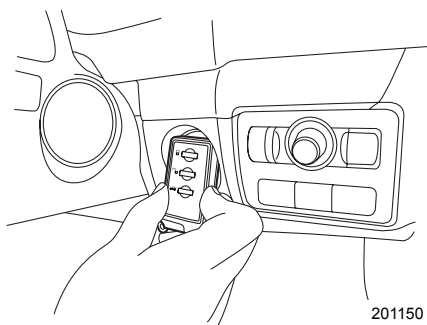
●電源をONにするとき

201150

①駐車ブレーキをかけていることを確認します。
②セレクトレバーがPであることを確認します。
③ブレーキペダルを踏みます。
④アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとチャイム音(ポーン)が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
⑤作動表示灯が緑色に点灯してから約5秒以内に、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押してください。

●エンジンを始動するとき

201150

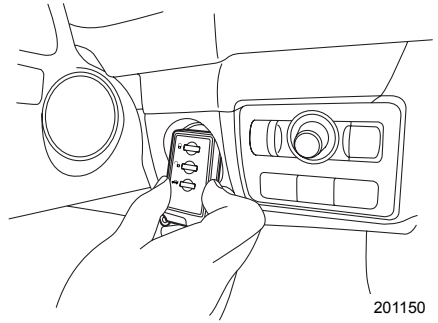
①駐車ブレーキをかけていることを確認します。
②セレクトレバーがPであることを確認します。
③ブレーキペダルを踏みます。
④アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとチャイム音(ポーン)が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
⑤作動表示灯が緑色に点灯してから約5秒以内に、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押してください。

⚠注 意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びたもの、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

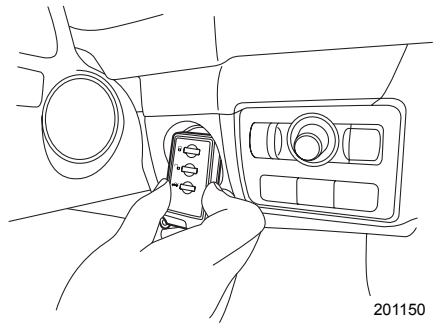
■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動（マニュアル車）

強い電波ノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

●電源をONにするとき

①駐車ブレーキをかけていることを確認します。
②チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
③クラッチペダルを踏みます。
④アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
　アクセスキーと車両の通信が完了するとチャイム音（ポーン）が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
⑤作動表示灯が緑色に点灯してから約5秒以内に、クラッチペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押してください。

●エンジンを始動するとき

①駐車ブレーキをかけていることを確認します。
②チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
③ブレーキペダルを踏みます。
④クラッチペダルを踏みます。
⑤アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
　アクセスキーと車両の通信が完了するとチャイム音（ポーン）が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

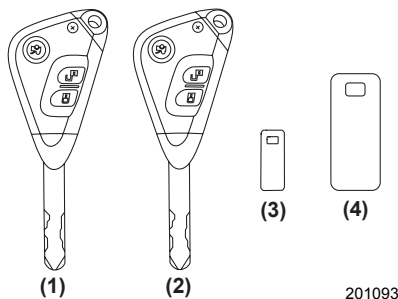
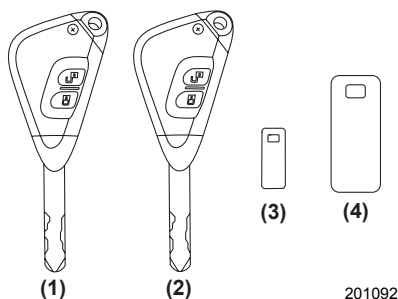
⑥作動表示灯が緑色に点灯してから約5秒以内に、ブレーキペダル、クラッチペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押してください。

⚠注 意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びたもの、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。
☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2−2ページをご覧ください。

ワゴン：

(1)リモコンキー（メイン）
(2)リモコンキー（サブ）
(3)キーナンバープレート
(4)セキュリティ IDプレート
（イモビライザー機能付車）

セダン：

(1）リモコンキー（メイン）
(2）リモコンキー（サブ）
(3）キーナンバープレート
(4）セキュリティ IDプレート
（イモビライザー機能付車）

リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲート（ワゴン）の施錠、解錠がボタンで操作できます。

- セダンはトランクの解錠がリモコンで操作できます。
- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。
- セキュリティ IDプレートにはキーをイモビライザーに登録するためのセキュリティ IDが打刻してあります。

☆2−33ページ参照

アドバイス

- キーナンバープレートとセキュリティ IDプレート（イモビライザー機能付車）は、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティ IDプレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーとセキュリティ ID（イモビライザー機能付車）をメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

イモビライザー機能付きキーには個々の違った識別コードが登録されています。
差し込まれたキーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードのないキーなどではエンジンを始動することができません。

⚠ 注 意

キーは水にぬらさないでください。

アドバイス

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアをロックしてください。
- イモビライザー機能付キーは、最大4つまで登録できます。
- 合いかぎを作る際は、セキュリティIDプレートに打刻されているセキュリティ IDが必要になりますので、セキュリティ IDプレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため全てのキーの識別コードの再登録、リモコンの再登録をお奨めします。
- 登録は、スバル販売店でのみ行えます。

●セキュリティ表示灯

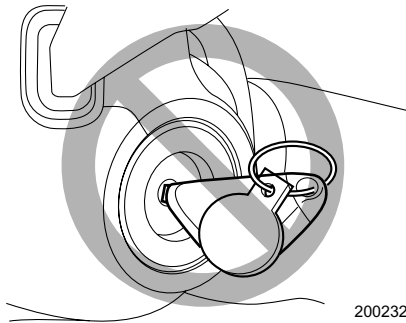
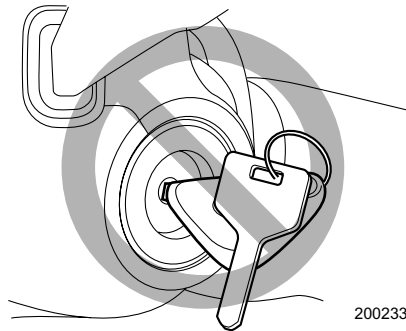
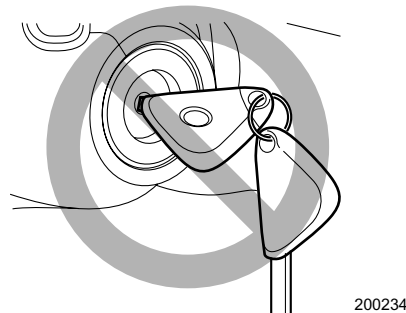
エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときは点滅しています。エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯し、エンジンの始動ができます。正規のキー以外を使うと、表示灯が点灯しエンジンを始動できません。もし、正規のキーを使っても表示灯が点灯し始動できない場合、一旦キーを抜いて再度やり直してください。

⚠ 注 意

- キーは強い磁石の近くには置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
- ダッシュボードの上など高温になる場所には置かないでください。
- キーは水にぬらさないでください。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

次ページへ ⇒

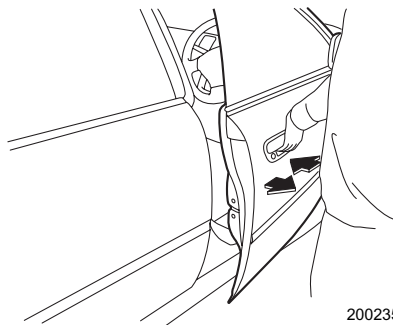
⇒前ページより

①キーグリップに金属製のものが接しているとき。

②キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき。

③キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき。

④キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき。

エンジンスイッチにキーを差したままにしておくと、セキュリティ表示灯が再度点滅しますが、エンジン始動はできます。

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを引き上げ、手前に引きます。
ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。

⚠ 注 意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。
- ドアを閉めるときは、手や指などを挟まないようにご注意ください。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆2−38、3−4ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択しご使用ください。

施錠している場合

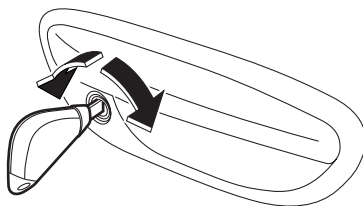
- お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

解錠している場合

万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■車外からキーによる施錠・解錠

キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

☆キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車は、2－29ページをご覧ください。

200243

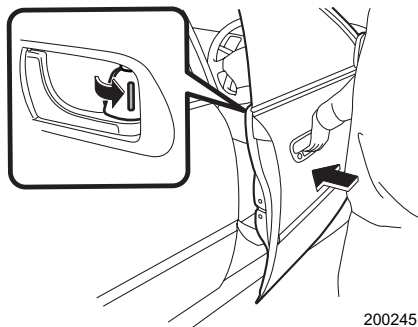
アドバイス

- 車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。その他のドアはドアロックノブまたは集中ドアロックスイッチで施錠・解錠してください。
- 盗難警報装置を作動させた状態でキーによる解錠を行うと警報が作動します。
- キーによる施錠では、盗難警報装置は作動しません。

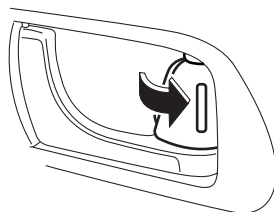
☆2－44ページ参照

■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

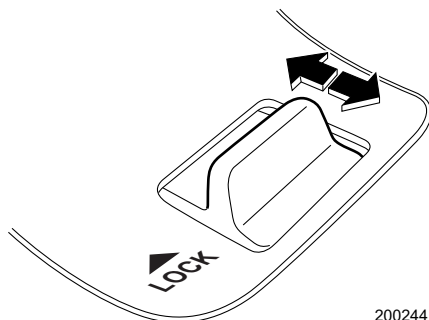
①ドアロックノブを後ろ側に引きます。
②ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

200245

●**リヤドア**

ドアロックノブを後ろ側に引いてドアを閉めます。

200246

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチを前側（「LOCK」側）に押すと全てのドアが施錠されます。後ろ側に押すと全てのドアが解錠されます。

ワゴンはリヤゲートも同時に施錠・解錠されます。

200244

⚠注 意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●**キー閉じ込み防止機能**

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。

▼**キー閉じ込み防止機能が作動するとき**

運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチを前側（「LOCK」側）に押した場合、キー閉じ込み防止機能が作動します。

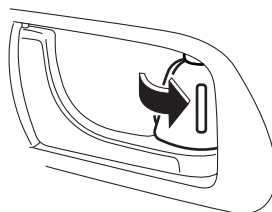
▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたとき機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

この機能は、スバル販売店にて作動あり/作動なしの設定ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。また、メーカーオプションのナビゲーション装着車では画面上で同様の設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

> **アドバイス**
>
> 車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを後ろ側に引くと施錠され、前側に押すと解錠します。(施錠されると赤マークが見えなくなります)

200246

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

■バッテリー上がり防止機能

半ドアなどでルームランプとエンジンキー（イグニッションキー）照明が点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。
この機能は、スバル販売店にて作動あり/作動なしの設定ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

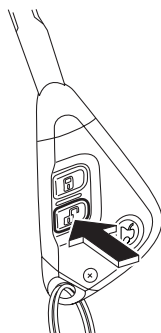
> **アドバイス**
>
> - 車から離れるときは、必ずドアが確実に閉まっているかを確認してください。
> - エンジンスイッチにキーが差し込んであるときは、作動しません。

電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

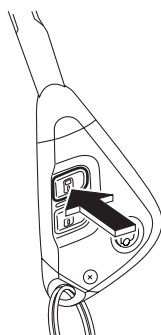
電波により、車から離れたところ（約1 m）から全ドア（リヤゲート／トランクを含む）の施錠・解錠ができます。

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2−11ページをご覧ください。

■解錠

車のまわりからリモコンキーのボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

200236

■施錠

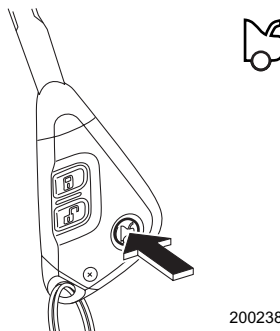
車のまわりからリモコンキーのボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

200237

アドバイス

車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

セダンの場合、トランクを開けたまま施錠するとブザーが5回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が5回点滅し、トランクが開いていることをお知らせします。

■トランクの解錠（セダン）

車のまわりから［トランクボタン］ボタンを約 1.5 秒以上押すとトランクが開きます。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅の解除

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯を消灯させることができます。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では作動あり / 作動なしの設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■ブザーの解除

解錠時や施錠時に鳴るブザーを消音にすることができます。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では作動あり / 作動なしの設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■ルームランプとドアの連動

ルームランプのスイッチがDOOR位置にあるとき、リモコンキーまたは暗証コードにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。
点灯中以下の操作をするとルームランプは消灯します。

- リモコンの［施錠］ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- エンジンスイッチをAccまたはONにした場合

メーカーオプションのナビゲーション装着車では点灯時間の設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店で設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■自動施錠

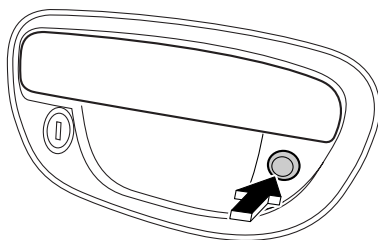
解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。
自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。
このとき、盗難警報装置も作動します。
メーカーオプションのナビゲーション装着車では自動施錠の作動あり / 作動なしと自動的に施錠されるまでの時間の設定を変えることができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
ナビゲーション装着車以外でもスバル販売店で自動施錠の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

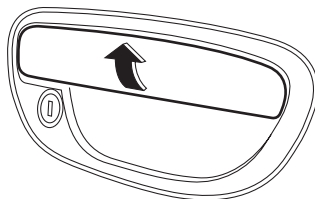
- 車の周囲約1 m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアの場合、作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
  - 強い衝撃を与えないでください。
  - 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
  - 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。

暗証コード式キーレスエントリーによる解錠

■キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

運転席ドアが施錠されているとき、運転席のドアのリクエストスイッチを押すことによりキーを使わず、全てのドアを解錠することができます。

201626

■キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

運転席ドアが施錠されているとき、運転席のドアハンドルをフック（ハンドルを引いて離す操作）することによりキーを使わず、全てのドアを解錠することができます。

200242

アドバイス

暗証コード式キーレスエントリーは
キーを室内に置き忘れたときなどに便利です。ぜひ５ケタの暗証番号（シークレットナンバー）を決めて記憶させておいてください。

■暗証番号の登録方法

●キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

【準備】

①運転席ドアを解錠状態にします。
②運転席ドアを開きます。
③運転席のドアロックノブを後ろ側（ロック側）に引きます。
④運転席ドアのリクエストスイッチを６秒間押し続けます。
⑤ブザーが鳴り始めます。
⑥ブザーが鳴っている最中にアクセスキーのボタンを押すとブザーが止まり準備完了です。（ブザーは30秒間鳴り続けます）

【登録】

登録例32468の場合
①運転席ドアのリクエストスイッチを３回押して、ブザー音（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
②リクエストスイッチを２回押して、ブザー音（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
③リクエストスイッチを４回押して、ブザー音（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
④リクエストスイッチを６回押して、ブザー音（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
⑤リクエストスイッチを８回押します。
⑥ブザー音が断続的に鳴り始めてから約30秒以内に再度手順①から⑤までの操作を行います。
⑦ブザー音（ピー）が約1秒間鳴ったら登録完了です。

●キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

【準備】

①運転席ドアを解錠状態にします。
②運転席ドアを開き、一度ドアから手を離します。
③再度ドアハンドルを6秒間引き続けます。
④ブザーが鳴り始めます。
⑤ブザーが鳴っている最中にリモコンキーのボタンを押すとブザーが止まり準備完了です。（ブザーは30秒間鳴り続けます）

【登録】

登録例32468の場合
①ドアハンドルを3回フック（ドアハンドルを引いて離す）する。
②ブザー音（ピッ）が1回鳴ったらドアハンドルを2回フックします。
③ブザー音（ピッ）が1回鳴ったらドアハンドルを4回フックします。
④ブザー音（ピッ）が1回鳴ったらドアハンドルを6回フックします。
⑤ブザー音（ピッ）が1回鳴ったらドアハンドルを8回フックします。
⑥ブザー音が断続的に鳴り始めてから約30秒以内に再度手順①から⑤までの操作を行います。
⑦ブザー音が約1秒間鳴ったら登録完了です。

アドバイス

暗証コード式キーレスエントリーの操作について
- 登録操作を間違えた場合は、一度運転席ドアを閉めて登録をキャンセルしてください。その後【準備】の①から登録操作を始めてください。
- 盗難防止のため00000、11111、22222〜99999、12345の登録はできません。
  また、車の登録番号や11122、12121などの簡単なものは避けてください。
- 0を登録するときは10回フックしてください。
- 22222 の登録操作をすると暗証番号が消去されます。以降新しい暗証番号を登録するまでフック操作での解錠はできなくなります。
- 新しい暗証番号を登録したら必ず解錠することを確認してください。

■解錠方法

登録の①〜⑤と同じ方法で、フック操作を行う、またはリクエストスイッチを押します。

操作するとき
- エンジンスイッチがAccまたはONの状態では暗証コード式キーレスエントリーによる解錠はできません。
- 解錠中に操作を間違えた場合は、ドアハンドルを戻し、５秒以上待って最初からやり直してください。
- 盗難対策として連続５回操作ミスをするとブザーが鳴り５分間受け付けません。

盗難警報装置

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）以外でドア、トランクが開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー付車のみ）以下の警報で周囲に異常を知らせます。

- 30秒間、車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2−6、2−11、2−42ページ参照

この機能の初期設定は作動なしとなっております。この機能を使用する場合、警報の設定を作動ありに設定してください。

☆2−47ページ参照

注 意

盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。
車から離れるときは、車内に金品、貴金属などを置かないでください。

アドバイス

- 30 秒間鳴り続けた後も、ドアが開いたままになっている場合、最長３分間、警報が鳴り続けます。また、ドアを閉めると最長30秒後には警報は止まります。
- 一旦、盗難警報装置を監視状態にすると、キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）以外では解除できません。

●盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にするには

電源をOFFにして、全てのドア、トランクを閉めます。以下の操作で施錠すると約30秒の待機時間（監視を行なわない状態）の後、監視状態に入ります。

- リクエストスイッチを押す
- アクセスキーのボタンを押す
- リモコンキーのボタンを押す

監視状態に入るとメーター内のセキュリティ表示灯 が２回連続の点滅を繰り返します。この方法以外（キーによる施錠、車内からキーを使わず施錠）では盗難警報装置は作動しません。

☆2－36ページ参照

〈セダンの機能〉

トランクを開けたままで、以下の操作で施錠した場合は、監視状態にはなりません。

- ドアハンドル下のリクエストスイッチを押す
- アクセスキーのボタンを押す
- リモコンキーのボタンを押す

トランクを閉めてから約30秒待機状態の後、監視状態に入ります。

また、盗難警報装置を作動させた状態で、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタンでトランクを開けた場合、監視状態から待機状態へ切り替わります。トランクを閉めると監視状態へ戻ります。

アドバイス

- 待機状態中は、セキュリティ表示灯がすばやく点滅します。
- 30秒の待機状態中に次のことを行った場合、監視状態には移りません。
  - キーレスエントリーでドアを解錠したとき
  - いずれかのドア（リヤゲートも含む）を開けたとき
  - アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにしたとき（プッシュスタート装着車）
  - エンジンスイッチをONにしたとき（プッシュスタート装着車以外）
- 30秒の待機状態の時間を待機時間なしに設定変更ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。また、メーカーオプションのナビゲーション装着車では画面上で同様の設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。
- 自動施錠の機能が作働した場合にも盗難警報装置が監視状態に移ります。

☆2－12ページ参照

- 監視状態のまま、バッテリーが上がったときは、キーレスエントリーでは解錠できません。このときはメカニカルキーを使用して解錠しますが、バッテリーを充電、もしくは新品に交換した際に監視状態で復帰しますのでドアを開けたままにしておいたり、そのままドアを開けると警報が作動します。
- キーレスアクセス機能や電波式リモコンドアロックによる施錠や自動施錠時、ドアを施錠動作の直前で開くと警報が鳴り始める場合があります。

●盗難警報装置の監視状態を解除するには

以下の操作で解錠すると監視状態が解除されます。解除されるとメーター内のセキュリティ表示灯 はゆっくり点滅します。

- リクエストスイッチやアクセスキーのボタンを押す
- リモコンキーのボタンを押す
- 暗証コード式キーレスエントリーで解錠する

イモビライザー装着車以外や、以下の操作を行った場合、セキュリティ表示灯 は消灯します。

- プッシュエンジンスイッチを押してAccにする（プッシュスタート装着車）
- エンジンスイッチをONにする（プッシュスタート装着車以外）

アドバイス

ドアのキーシリンダにキーまたはメカニカルキーを差し、回して解錠もしくは車内からキーを使わず解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2－36ページ参照

●警報を作動させてしまったときには
解除方法として以下のいずれかの操作をすると解除できます。

▼キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯し、リクエストスイッチを押す
- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにする

> **アドバイス**
> アクセスキーの電池残量が少なくなった場合は、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてAccにしてください。
> ☆2－29ページ参照

▼キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
- リモコンのいずれかのボタンを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込み、エンジンスイッチをONにする

●警報の設定
盗難警報装置は作動あり、作動なしの設定に切り替えることができます。
以下の方法で切り替えることができます。

▼キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
①盗難警報装置の監視状態を解除してください。
②運転席に座り、全てのドア（リヤゲートおよびトランクも含む）を閉めてください。
③プッシュエンジンスイッチを押してONにしてください。
④運転席ドアを開けると同時に集中ドアロックスイッチを後ろ側（解錠側）に押し、10秒間保持してください。
⑤ホーンが鳴り設定が切り替わります。
新しい設定がオドメーター／トリップメーターまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
作動なし：ホーンが2回鳴ります。
メーター表示
オドメーター／トリップメーター［AL　OF］
マルチインフォメーションディスプレイ
「Security alarm: OFF」
作動あり：ホーンが1回鳴ります。
メーター表示
オドメーター／トリップメーター［AL　ON］
マルチインフォメーションディスプレイ
「Security alarm: ON」

運転する前に

▼キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

①盗難警報装置の監視状態を解除してください。
②運転席に座り、全てのドア（リヤゲート含む）を閉めてください。
③10秒以内にエンジンスイッチをOFF→ONを3回繰り返し、ONで止めてください。
④ ③の後、10秒以内に運転席ドアを一旦開けて、ドアを閉めてください。
現在の設定がオドメーター／トリップメーターまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
⑤ ④の後、10秒以内に集中ドアロックスイッチを下記のように3回操作してください。
作動なし：集中ドアロックスイッチをアンロック側（後ろ側）に3回操作してください。
作動あり：集中ドアロックスイッチをロック側（前側）に3回操作してください。
⑥ブザーが鳴り設定が切り替わります。
新しい設定がオドメーター／トリップメーターまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
作動なし：メーター表示
オドメーター／トリップメーター［AL OF］
マルチインフォメーションディスプレイ「Security alarm: OFF」
作動あり：メーター表示
オドメーター／トリップメーター［AL ON］
マルチインフォメーションディスプレイ「Security alarm: ON」

▼ナビゲーション装着車

メーカーオプションのナビゲーション装着車では画面上で設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

この設定は、スバル販売店でもできます。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

●警報の作動履歴

メーター内のセキュリティ表示灯が点滅して、警報が作動したことを運転者に知らせます。
警報が作動した原因により点滅の回数が変わります。

- エンジンスイッチをONにしたとき1秒間点灯した後に、以下の点滅で運転者に知らせます。
  ドア（リヤゲート含む）が開けられた場合：5回
  トランクが開けられた場合：4回
  強い衝撃を受けたときまたは、衝撃を何回も受けたとき：2回
  （ディーラーオプションの衝撃センサー付車のみ）
  弱い衝撃を受けたとき：1回
  （ディーラーオプションの衝撃センサー付車のみ）

☆2−33ページ参照

アドバイス

- 警報の作動履歴は、盗難警報装置を再度監視状態にすると消去されます。
- マルチインフォメーションディスプレイ装着車はディスプレイにも作動履歴が表示されます。

☆3－36ページ参照

■ルームランプ点灯

警報が作動するとルームランプが点灯します。（ルームランプスイッチがDOOR位置にあるとき）
この機能の初期設定は作動なしとなっております。この機能を使用する場合、ルームランプの設定を作動ありに設定してください。

☆1－2ページ参照

●ルームランプ点灯のカスタマイズ

スバル販売店でルームランプ点灯を作動あり/作動なしに設定することができます。

☆1－2ページ参照

●衝撃センサー（ディーラーオプション）

ディーラーオプションの衝撃センサーが装着されている場合は、車両に衝撃が加えられたときに警報が作動します。
また、センサーの配線が切断した場合にも警報が作動します。
軽い衝撃を受けたときは、短時間のホーンと非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅による警告、強い衝撃、または衝撃を何回も受けたときは約30秒間のホーン音と非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅による警報が作動します。

アドバイス

- 衝撃センサーは必ずしも全ての破壊行為に対して検知できるものではありません。また、振動が加わらないような破壊行為の場合（脱出用工具によるガラス破壊など）は、本センサーでは検知できません。
- また、下記などの振動が車両に加わった場合、警報が鳴る可能性がありますので駐車する場所に応じて警報、衝撃センサーの設定を行ってください。
  例）工事現場からの振動
  立体駐車場の振動
  電車通過による振動
  フェリー乗船中の駐車時の振動
  など
- 衝撃センサーの取り付け取り外しは、特殊な設定が必要になります。スバル販売店にお申し付けください。
- 衝撃センサーをスバル販売店以外で取り外した場合、センサーの配線が切断されたと判断し、警報が作動します。取り外しはスバル販売店にお申し付けください。
- スバル純正リモコンエンジンスターターでエンジンをかけている間は衝撃センサーの機能は停止します。

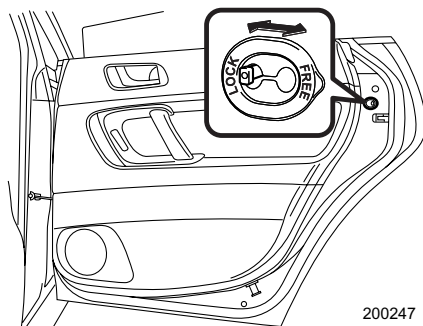
●衝撃センサーの設定

スバル販売店で作動あり/作動なし、および感度の設定ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
また、メーカーオプションのナビゲーション装着車では画面上で同様の設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

チャイルドプルーフ

左右のリヤドアにあります。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドプルーフのレバーを「LOCK」側に動かしてドアを閉めると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくなります。解除するときはレバーを「FREE」側に動かしてください。

■チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引き上げて開けます。
車内から開けるときは、ドアロックノブを解錠にし、ウインドゥを下げ車外のドアハンドルを引き上げて開けます。

パワーウインドゥ

パワーウインドゥは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

⚠ 警 告

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－53ページ参照

⚠ 注 意

ウインドゥの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。
パワーウインドゥの故障の原因になります。

アドバイス

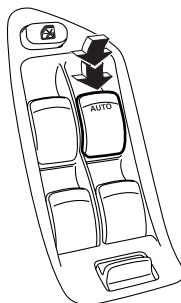
車体の構造上、後席のウインドゥを全開にすることはできません。

■スイッチの操作

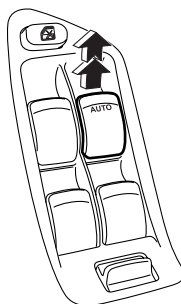
●運転席ウインドゥの開閉操作方法

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：

- スイッチを軽く押します。押している間ウインドゥが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドゥの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

200775

閉めるとき：

- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドゥが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドゥの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。

200776

●オフディレイ機能（キー OFF後の作動）

運転席のウインドゥはエンジンスイッチをONからAccまたはLOCKにした後でも、約30秒間は昇降することができます。ただし、その約30秒の間に運転席のドアを開けて閉めると、ウインドゥの昇降はできなくなります。

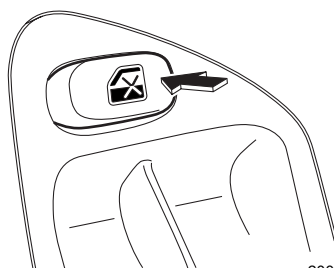
アドバイス

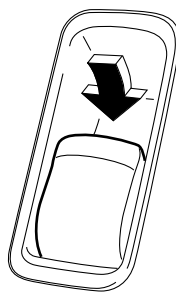
昇降ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウインドゥは開閉できなくなります。（ロック状態）
このとき助手席、後席のスイッチの照明が全て消灯します。
もう一度押すとロックが解除され照明が点灯します。

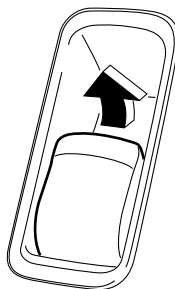
200250

●助手席、後席ウインドゥの操作方法

それぞれのウインドゥを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。

200251

次ページへ ⇒

⇒前ページより

閉めるとき：スイッチを引き上げます。

200252

■リモコンキーによるウインドゥの開閉

全てのドアが閉まっている状態で、リモコンキーの（アンロック）または（ロック）ボタンを押すと運転席ウインドゥの開閉ができます。

開けるとき：（アンロック）ボタンを押し続けます。
閉めるとき：（ロック）ボタンを押し続けます。

開閉している間にボタンを離すと開閉は停止します。
この機能の初期設定は作動なしとなっております。スバル販売店にて作動させることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- ドアロックの解錠・施錠が伴いますので車を離れるときは施錠していることを確認してください。
- 車の周囲約1 m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアやリヤゲートが開いているときは作動しません。

■リクエストスイッチまたはアクセスキーによるウインドゥの開閉

全てのドアが閉まっている状態で、リクエストスイッチまたはアクセスキーのかボタンを押すと運転席ウインドゥの開閉ができます。

開けるとき：キーレスアクセス機能により解錠するとき、運転席のリクエストスイッチを押し続けるか、またはアクセスキーのボタンを押し続けます。

閉めるとき：キーレスアクセス機能により施錠するとき、運転席のリクエストスイッチを押し続けるか、またはアクセスキーのボタンを押し続けます。

ウインドゥが開閉している間にボタンを離すとウインドゥの開閉は停止します。

この機能の初期設定は作動なしとなっております。スバル販売店にて作動させることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- ドアロックの解錠・施錠が伴いますので車を離れるときは施錠していることを確認してください。
- ドアやリヤゲートが開いているときは作動しません。

■ウインドゥ反転機能

運転席のウインドゥが自動全閉中、窓枠とウインドゥとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

注 意

- 走行時（約5 km/h以上）、ウインドゥ反転機能は作動しません。
- ウインドゥを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。
- ウインドゥ反転機能は自動全閉時のみ作動します。スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わるとウインドゥ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウインドゥ反転機能が作動してしまい運転席ウインドゥを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。または5 km/h以上で走行しながらスイッチを引くと閉めることができます。
- ウインドゥ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドゥの操作をすることができません。

フューエルリッド（燃料補給口）

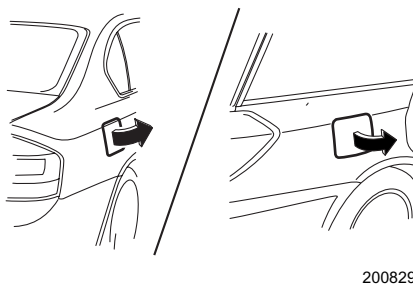
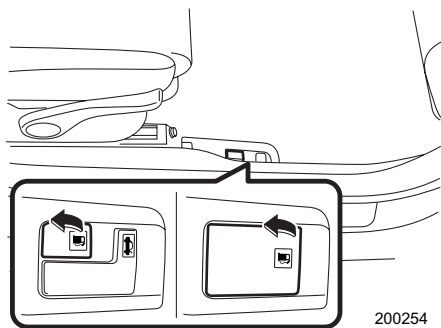
メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料補給口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

	使用燃料	タンク容量
2.0i、2.5i	無鉛レギュラーガソリン	約64ℓ
上記以外	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	

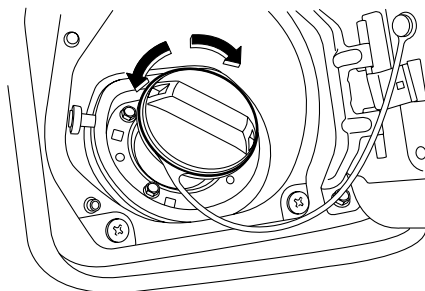
300826

■フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。

200254　200829

閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料補給口）を手で押し付けてください。

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。
燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。

200256

⚠ 警告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

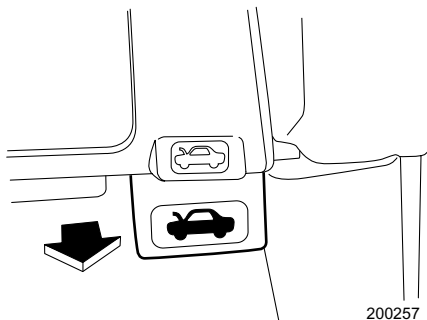
☆1－29ページ参照

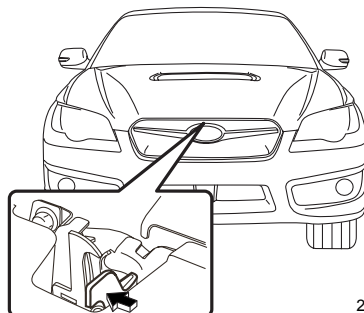
⚠ 注意

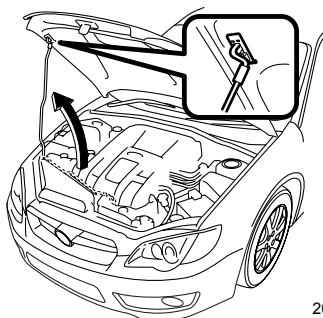
セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でやめてください。

ボンネット

■開けるとき

①ボンネットのオープナーレバーを引きます。運転席側のインストルメントパネル右下にあります。

200257

②フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを開けます。

200978

③ステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れ、固定します。

200979

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くなったら（約30 cm）手を離します。
確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注 意

ボンネットを開閉するとき

- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどしないように注意してください。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
  確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。

アドバイス

ボンネットを開けるときには

ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

ボンネットを閉めるとき

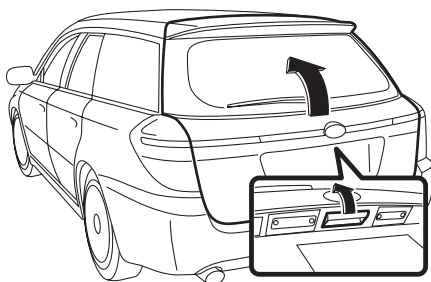
ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

リヤゲート（ワゴン）

リヤゲートは次の操作で施錠・解錠ができます。
- 電波式リモコンドアロック
- 集中ドアロックスイッチ
- キーレスアクセス機能

また、暗証コード式キーレスエントリーでも解錠ができます。

■開けるとき

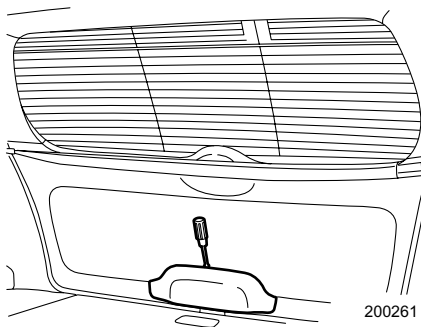
リヤゲートハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。

200980

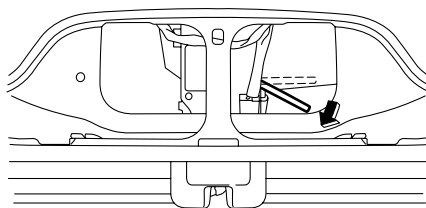
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。
半ドアでないことを確かめます。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのカバーを外します。

200261

② レバーを矢印の方向に動かします。

200262

③ 車外からリヤゲートを開けます。

⚠ 注 意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部にうすいビニール袋、テープなどが噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- リヤゲートハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

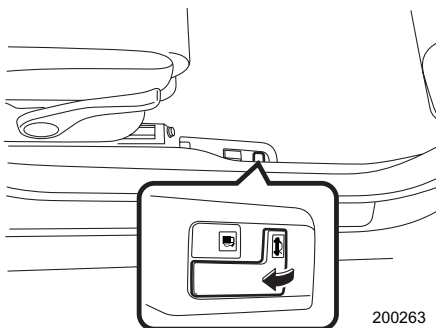
トランク（セダン）

アドバイス

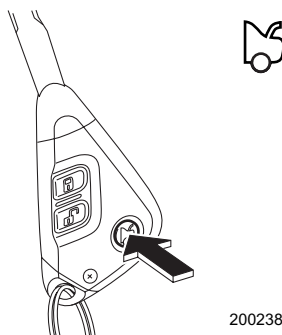
車から離れるときには
盗難防止のため、トランクの中に貴重品を置かないでください。

■車内から開けるには

トランクオープナーレバーを引きます。

200263

■車外から開けるには

リモコンの ボタンを約1.5秒以上押します。
☆キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車は、2−8、2−11ページをご覧ください。

200238

■閉めるとき

上から押さえつけるように閉めると自動的にロックされます。

⚠ 警 告

走行するときは

- トランク内に人を絶対に乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- トランクは中から開けることができません。お子さまが入らないよう注意してください。閉じ込められると重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注 意

走行するときは

走行中はトランクを完全に閉めてください。開けたまま走行すると車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

トランクを閉めるときには

荷物や手足（近くのお子さまを含む）を挟まないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合にはとくに注意してください。また、エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。

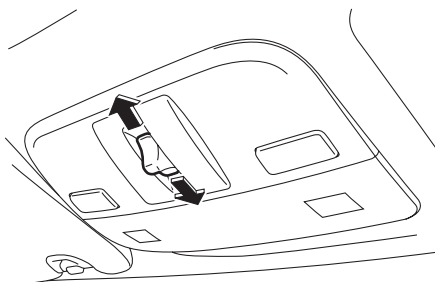
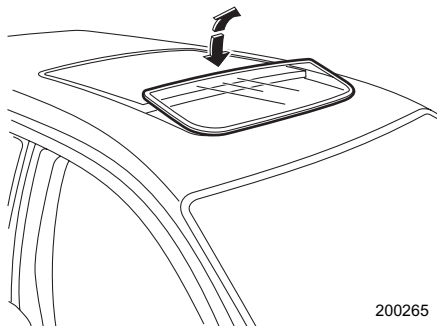
アドバイス

- トランクの中にキーを置き忘れないようご注意ください。
- トランクルームランプは、トランクを開けると点灯し、閉じると消灯します。
- 長時間開けたままにすると、トランクルームランプが点灯したままとなりバッテリー上がりの原因になります。
- トランクを開けるときは、リヤワイパーが倒れていることを確認してください。立てたままでは、トランクを傷つけます。また、トランクが開いているときにリヤワイパーを作動させないでください。トランクに傷をつける場合があります。

電動ガラスサンルーフ（ワゴン）

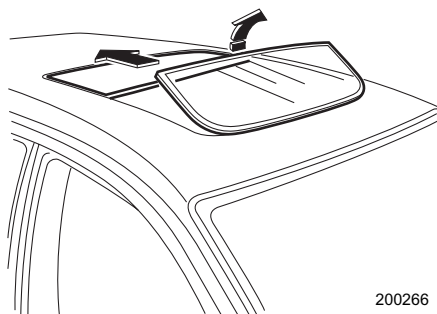
電動ガラスサンルーフは、エンジンスイッチONのときに作動します。
サンルーフは2枚のガラスルーフで構成されています。前側ガラスルーフにはチルトアップ機能、後ろ側ガラスルーフにはスライド開閉機能があります。

■チルトアップ

スイッチを後ろ側に押します。前側ガラスルーフの後端が約5 cm上昇し停止します。
閉じるときは安全を確認してからスイッチを前側に押します。ガラスルーフが下降（チルトダウン）し、全閉になると停止します。
任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを前側または後ろ側に押します。

200264

200265

■スライド開閉

●開けるとき

① チルトアップ後、スイッチを再度後ろ側に押すと、後ろ側ガラスルーフが全開位置から約 17 cm 手前の位置まで開き停止します。

200266

② 再度スイッチを後ろ側に押すと、全開位置まで開きます。

任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを後ろ側または前側に押します。

⚠ 注 意

サンルーフを開口したときには

- 停車中、開口部のふちに腰掛けたり、荷物を乗せるなど大きな力を加えないでください。ルーフがへこむことがあります。
- 全開または全閉になったらスイッチを押し続けないでください。サンルーフモータの損傷の原因になります。

アドバイス

- 走行中は、一旦停止位置（全開位置から約17 cm手前の位置）での使用をお奨めします。
- 全開で走行すると、車速によって「ボッボッボッ」と耳を圧迫するような音が発生します。このようなときは一旦停止位置で使用することによって圧迫音が軽減します。

●閉めるとき

① スイッチを前側に押すと、後ろ側ガラスルーフが全閉位置から約15 cmまで閉まり、停止します。
② 安全を確認してから再度スイッチを前側に押すと、全閉位置まで閉まります。
③ 前側ガラスルーフを閉じるには、安全を確認してから再度スイッチを前側に押します。ガラスルーフが下降（チルトダウン）し、全閉になると停止します。

任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを後ろ側または前側に押します。

⚠ 警 告

サンルーフを開閉するときには

- 走行中または一時停止したときに開口部から顔や手、物などを出さないでください。車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。とくにお子さまに気をつけてください。
- サンルーフを開閉するとき手や首を挟まないように気をつけてください。とくにお子さまには気をつけてください。
- 走行中または一時停止したときに開口部のふちに腰掛けたりしないでください。万一のとき投げ出されることがあり危険です。

アドバイス

サンルーフを開閉するときには

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車した後開けるときは、サンルーフの上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪の後は、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、乗せた荷物に当たらないように気をつけてください。

●サンルーフ反転機能

閉じるときに、窓枠とサンルーフとの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフの作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

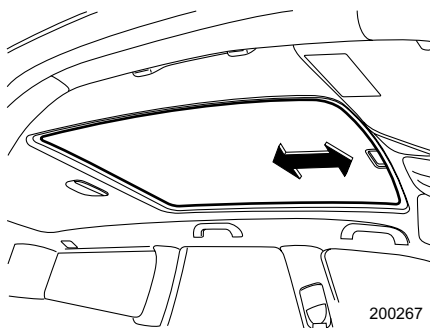
注 意

- チルトダウン時は、サンルーフ反転機能は作動しません。必ず安全を確かめて操作してください。
- サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

アドバイス

環境、走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

■サンシェード

後ろ側ガラスルーフの開閉に連動して開閉します。
閉じるときは、後ろ側ガラスルーフの全閉位置までしか連動しません。手で完全に閉めてください。
ガラスルーフが全閉のときには手で開閉できます。

注 意

ガラスルーフが開いているときにサンシェードを勢いよく閉めないでください。（ガラスルーフに連動してサンシェードを開けるための部品が破損するおそれがあります。）

アドバイス

サンシェードを開閉するときには

なるべく全閉か全開で使用してください。

途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。

■サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検整備を受けてください。

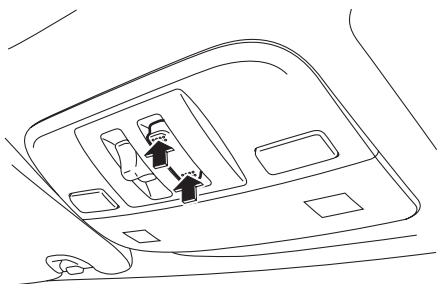
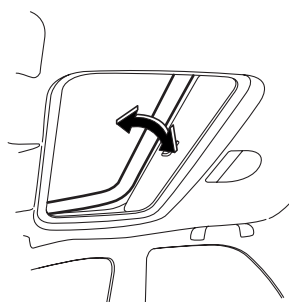
電動ガラスサンルーフ（セダン）

電動ガラスサンルーフは、エンジンスイッチONのときに作動します。

チルトアップ機能とスライド開閉機能があります。

■チルトアップ

ガラスルーフが全閉のとき、チルトスイッチの後ろ側を押します。スイッチを押している間ガラスルーフ後端が上昇（チルトアップ）します。約3 cm上昇した位置で停止します。閉めるときはスイッチの前側を押します。スイッチを押している間ガラスルーフが下降（チルトダウン）します。

任意の位置で止めたいときは、スイッチから指を離します。

200268

200269

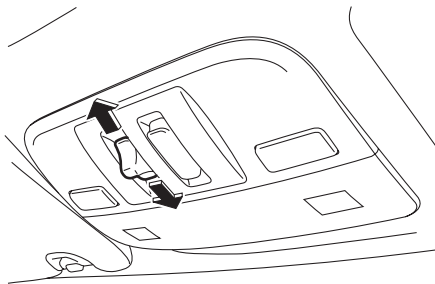
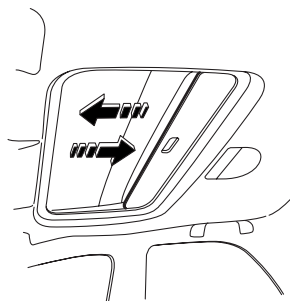
アドバイス

チルトアップ／ダウンは自動作動しません。スイッチを押し続けて操作してください。

■スライド開閉

●開けるとき

①ガラスルーフがチルトアップしているときは、チルトダウンして完全にガラスルーフを閉じます。
②スライドスイッチを後ろ側に押すと、ガラスルーフが全開の位置まで開きます。

任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを後ろ側または前側に押します。

200270

200271

注 意

サンルーフを開口したときには

- 停車中、開口部のふちに腰掛けたり、荷物を乗せるなど大きな力を加えないでください。ルーフがへこむことがあります。
- 全開または全閉になったらスイッチを押し続けないでください。サンルーフモーターの損傷の原因になります。

●閉めるとき

①スライドスイッチを前側に押すと、ガラスルーフが全閉位置から約 15 cm まで閉まり、停止します。
②安全を確認してから再度スイッチを前側に押すと全閉位置まで閉まります。

任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを後ろ側または前側に押します。

⚠ 警告

サンルーフを開閉するときには
- 走行中または一時停止したときに開口部から顔や手、物などを出さないでください。車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。とくにお子さまに気をつけてください。
- サンルーフを開閉するとき手や首を挟まないように気をつけてください。とくにお子さまには気をつけてください。
- 走行中または一時停止したときに開口部のふちに腰掛けたりしないでください。万一のとき投げ出されることがあり危険です。

アドバイス

サンルーフを開閉するときには
- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車した後開けるときは、サンルーフの上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪の後は、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、乗せた荷物に当たらないように気をつけてください。

●サンルーフ反転機能

閉じるときに、窓枠とサンルーフとの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフの作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

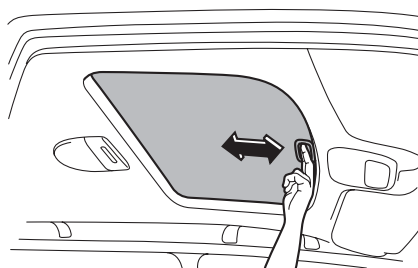
⚠ 注 意

サンルーフを開口したときには
- チルトダウン時はサンルーフ反転機能は作動しません。必ず安全を確かめて操作してください。
- サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

アドバイス

環境、走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

■サンシェード

ガラスルーフと連動して開きます。閉まるときは連動しませんので、手で閉めます。
ガラスルーフが全閉のときは、手で開閉できます。

アドバイス

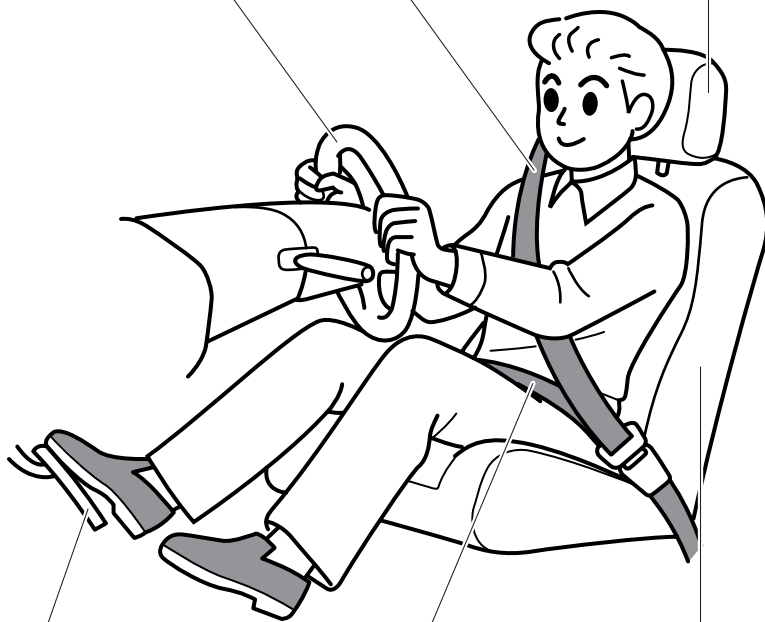
サンシェードを開閉するとき
なるべく全開か全閉で使用してください。
途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。

■サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検整備を受けてください。

シート

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

⚠ 警告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前に行ってください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注 意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

アドバイス

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

■マニュアルシート

シートのドア側と下部のレバー操作で調整ができます。

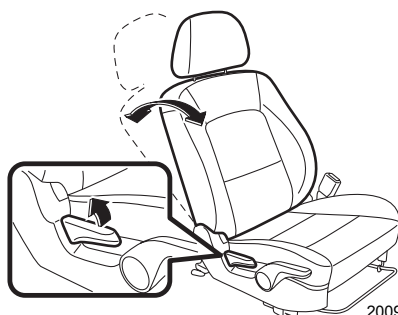
●スライド調整（前後の調整）

下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200981

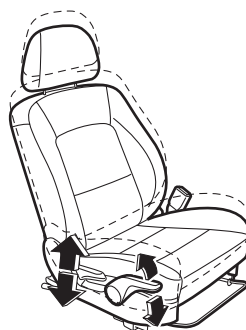
> ⚠ 注 意
>
> 後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200982

> ⚠ 注 意
>
> 調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

●上下調整（運転席のみ）

レバーを引くたびに上がります。また、押すたびに下がります。

200983

■パワーシート

シートのドア側のスイッチ操作で調整ができます。

操作するときには

スイッチ部に異物を挟まないようにご注意ください。走行中、予期しないときに動くことがあります。

アドバイス

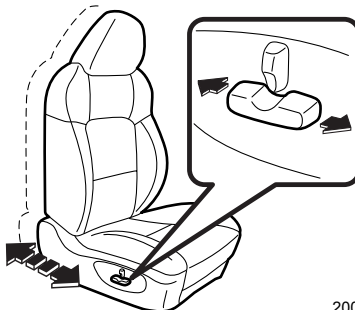
バッテリー上がりに注意

エンジンがかかっているときに調整してください。

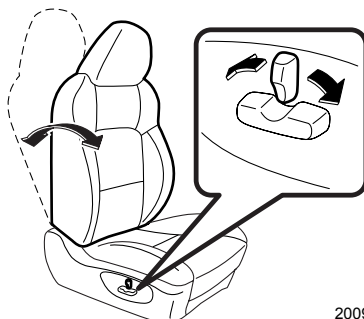
操作するときには

- 調整できる終点まで移動させたときはスイッチを押し続けないでください。故障の原因になります。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しないでください。故障の原因になります。

●スライド調整（前後の調整）

スイッチ全体を前後に動かして調整します。

200984

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

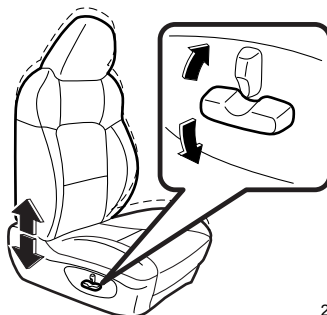
リクライニングスイッチを前後に動かして背当て角度を調整します。

200985

アドバイス

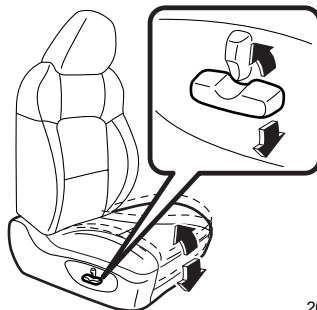
リクライニング調整中は

リクライニング調整と他の調整は同時に行わないでください。

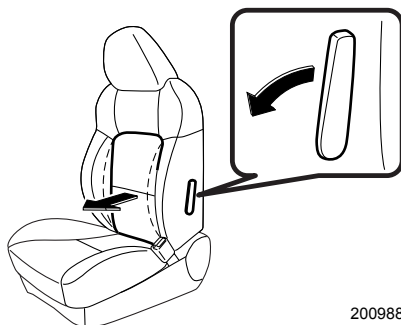
●上下調整

スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。

200987

●座面前側の高さ調整

スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。

200986

■ランバーサポート（腰部支え調整）✤

レバーを手前に回すと腰部を支える背当ての一部がもり上がります。無段階で調整することができます。

200988

■メモリーシート✤

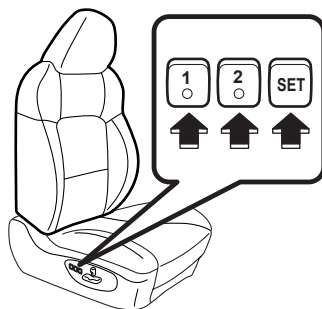
お好みのシート位置を 2 つまで記憶させることができます。「1」または「2」のボタンにシート位置を登録し、それぞれのボタンを押してシート位置を呼び出すことができます。
次のシート位置が登録できます。

- シートの前後位置
- 背当ての角度
- シートの高さ
- 座面前側の高さ

●登録のしかた

①以下を確認してからシートを調整してください。
- オートマチック車は、セレクトレバーがPであること
- マニュアル車は、駐車ブレーキレバーが引いてあること

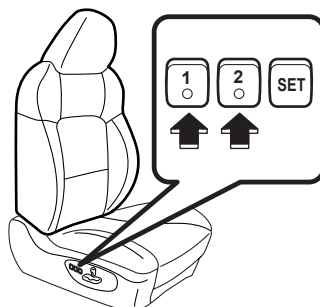
②「SET」ボタンを押しながら、「1」または「2」のボタンを押します。

③ブザーが1回鳴り、シート位置が登録されます。

201114

●呼び出しかた

① 以下を確認してから「1」または「2」のボタンを押してください。
- オートマチック車は、セレクトレバーが P であること
- マニュアル車は、駐車ブレーキレバーが引いてあること

② ブザーが1回鳴り、シートが登録位置に動きます。

③ シートが登録位置まで動くと、ブザーが2回鳴ります。

201115

⚠ 警告

- シート位置の登録および呼び出しは、運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。

☆2－72ページの注意事項もお守りください。

- 運転前にシート位置の呼び出しをしてください。シート位置の呼び出しをするときは以下を確認してください。
  - オートマチック車はセレクトレバーが P であること
  - マニュアル車は駐車ブレーキレバーを引いていること

  シート位置の呼び出しが完了するまでは運転を始めないでください。
- 登録したシート位置の呼び出しをするときは、その位置に該当する正しいボタンを押してください。シート位置が適切でない場合、運転に支障が生じ、シートベルトの効果も低下することがあります。そのため、重傷や死亡につながる事故が発生するおそれがあります。
- シート位置の呼び出し時に故障が発生したときは、以下のいずれかを押してシートの呼び出しを停止してください。
  - パワーシート調整スイッチ
  - 「SET」ボタン
  - 「1」または「2」のボタン

⚠ 注意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

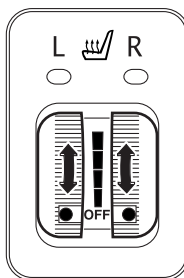
アドバイス

- 同じボタンに新しいシート位置を登録すると、以前に登録したシート位置は削除されます。
- バッテリーを交換した場合でも、登録したシート位置は消去されません。

■シートヒーター

エンジンスイッチがAccまたはONのときダイヤルを回すとシートが暖まります。4段階の温度調整ができます。作動中はスイッチ内のランプが点灯します。

4：早く暖めたいときに使います。
　暖まったらお好みの位置にダイヤルを回してください。

1～3：保温するときに使います。
　お好みにより温度調整ができます。
　通常はこの段階でご使用ください。

200281

注　意

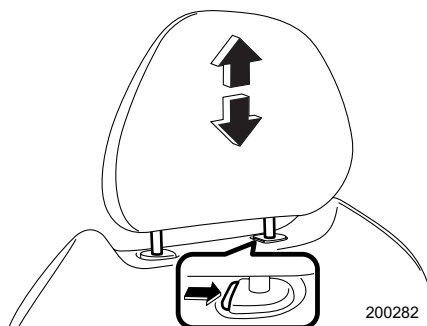
- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、病気の方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどを乗せて使用しないでください。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、充分乾かしてから使用してください。

アドバイス

- エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬いものや突起のあるものを乗せないでください。

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200282

⚠ 警 告

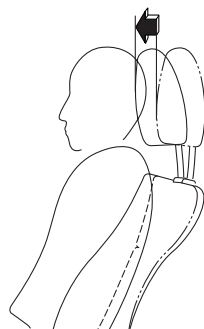
運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

ヘッドレストが屋根に当たって取り外しにくいときは、背当てを倒すと取り外せます。

■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストには、アクティブヘッドレストが装備されています。
この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。
これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。
万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。

100089

⚠注 意

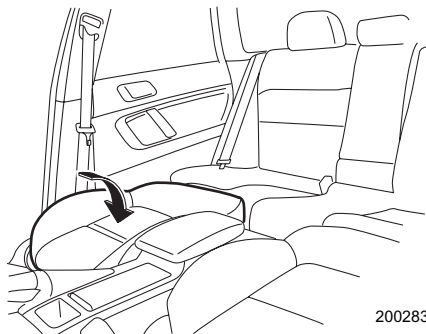
ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。
充分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

■ソフトフラットシート（ハイサポートシートのみ）

シートをフルリクライニングするとリヤシートとつながってソフトフラットになります。

●ソフトフラットにするとき

①車を駐車し、しっかりと駐車ブレーキをかけます。
②ヘッドレストを外します。
③シートを最前位置までスライドさせます。
④背当てをいっぱいまで倒してリヤシートとつなげます。

200283

●戻すとき

逆の手順で行います。

⚠警 告

走行中はソフトフラットにして使用しないでください。万一のときシートベルトの効果が得られず重大な傷害につながるおそれがあります。

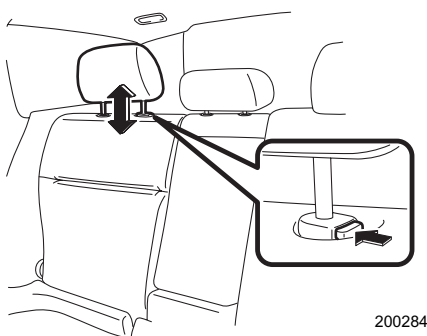
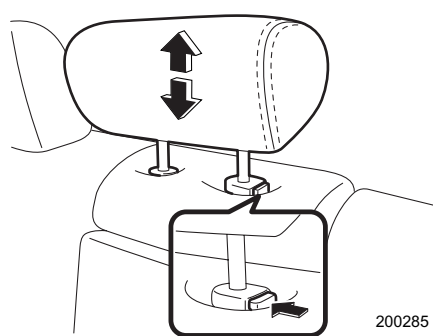
⚠注 意

- ソフトフラットから戻すときは背当てを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。背当てを押さえずにレバー操作すると背当てが急に戻り、けがをするおそれがあります。（マニュアルシート）
- ソフトフラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んで、ゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの間に足を挟むなどして、けがをするおそれがあります。
- 助手席および後席に人が乗っている状態では、ソフトフラットにしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

リヤシート（ワゴン）

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

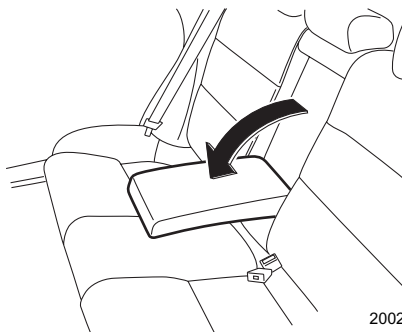
<左右席用>

<中央席用>

⚠ 警 告

ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■アームレスト

引き出して、ひじ掛けとして使います。

200286

⚠ 警告

アームレストを使用するときには

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

① 最初にシートベルトを装着する。

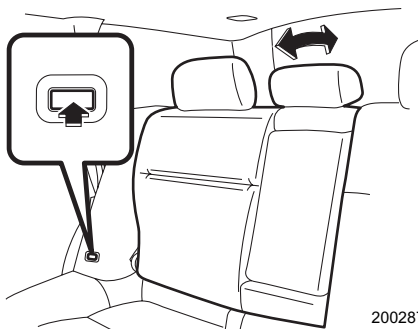
② 次にアームレストを下ろす。

先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものを乗せないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■リクライニング調整（背当ての角度調整）

ボタンを押すと背当て角度の調整ができます。

200287

⚠ 注 意

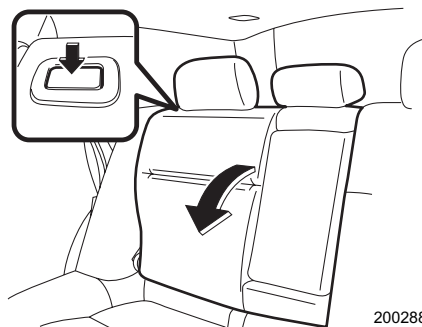
- リクライニング操作後は、背当てをゆすって、確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背当てを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ISO FIX方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。
- 後ろにリクライニングするときにはトノカバーを調整してください。

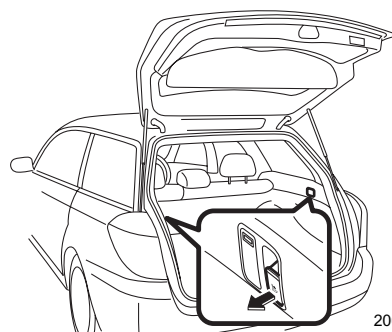
☆4－85ページ参照

■6：4分割リヤシートの背当てを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

背当て上方にあるボタンを押し、前に倒します。

200288

リモコン可倒機能付車は、荷室の左右にあるスイッチを引くと背当てが前に倒れます。

200289

●背当てを元に戻すとき

背当てを起こし、確実にロックします。

⚠ 警 告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものを乗せたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。

☆2−72ページの注意事項もお守りください。

- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- 背当てを元に戻したときは、シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 背当ては、バネにより前に倒れます。背当て上方向にあるボタンを押すときは、必ず背当てを支えた状態でボタンを操作してください。
- チャイルドシートを取り付けているときは、背当てを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リモコン可倒スイッチにより、背当てを倒すときは、リヤシートに人がいないこと、物が置いていないことを確認してください。背当てが急に倒れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背当てを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください。

☆2−97ページ参照

- 走行中、リモコン可倒スイッチに荷物などが当たり、背当てが倒れる場合があります。
  荷物が当たらないようご注意ください。

アドバイス

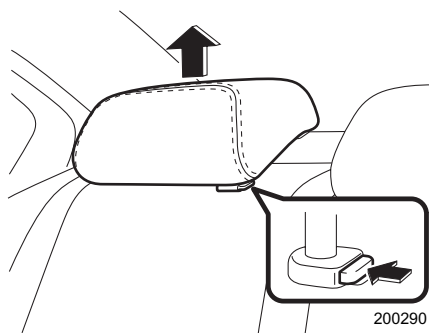
上り坂などで背当てが倒れないときは、手で倒してください。

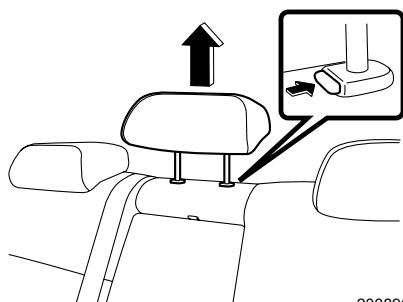
リヤシート（セダン）

■ヘッドレストの高さ調整

●左右席用

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200290

●中央席用

中央席のヘッドレストは高さ調整ができません。
取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200896

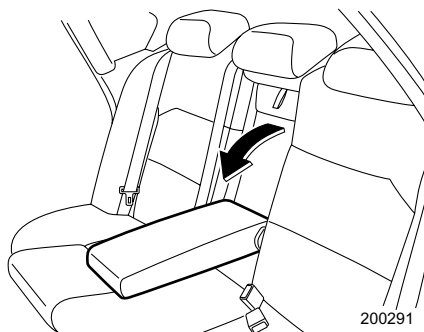
⚠ 警 告

ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■センターアームレスト

引き出して、ひじ掛けとして使います。

200291

⚠ 警 告

アームレストを使用するときには
シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。
① 最初にシートベルトを装着する。
② 次にアームレストを下ろす。
先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

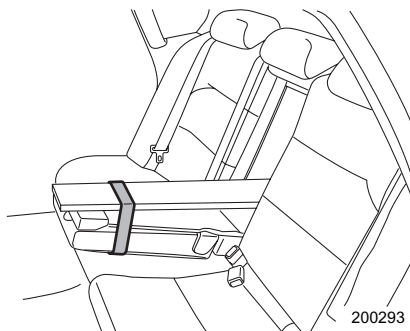
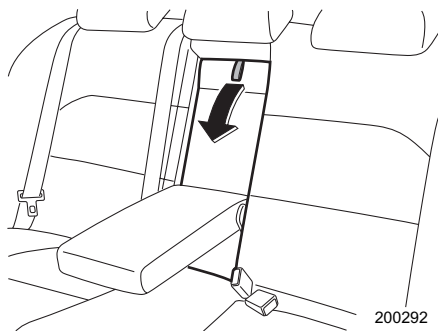
アドバイス

アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものを乗せないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■アームレストスルー

アームレストを引き出します。ストラップを引いてロックを外し、仕切りを倒すとアームレストスルーになります。

200292

200293

⚠ 警 告

アームレストスルーにしたときお子さまがトランク内に入らないよう気をつけてください。重大な事故につながるおそれがあります。
☆2－62ページ参照

⚠ 注 意

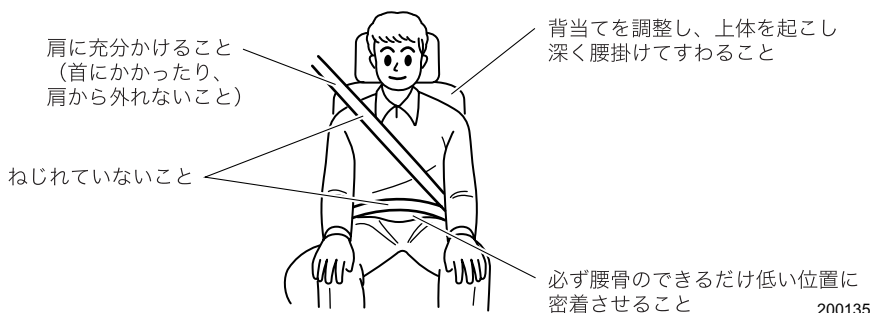
トランク内の荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が車内に飛びだし、けがをすることがあります。
とくに、スキー板などの長いものは注意してください。
アームレストスルーにするときは、仕切板に手や指を挟まないよう注意してください。

アドバイス

使用しないとき
使用しないときは仕切板を押し上げ、確実にロックしてください。

シートベルト

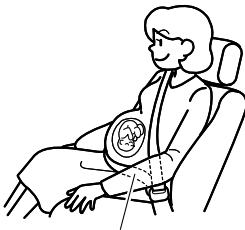
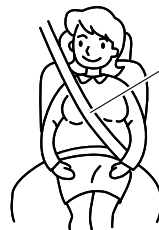
シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2−71ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

201344

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6 歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

＜選択の目安＞

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～ 9か月頃まで	4か月～ 4歳頃まで	4歳～ 12歳頃まで

⚠ 警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。

200364

  万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

☆2－98ページ参照

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

⚠ 注 意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。
(ELR機構)

■3点式シートベルト

●着用のしかた

①タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

200119

②ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

201005

③正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させせます。

200121

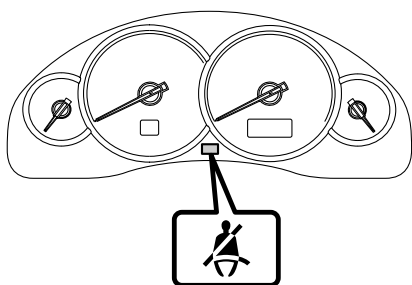
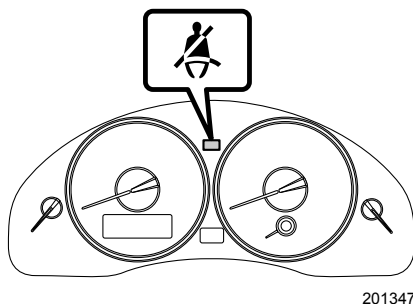
●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

> **アドバイス**
>
> - ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。
>
> ☆2−93ページ参照
>
> - ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
>   それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警報

エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。運転席シートベルト未着用のまま車速約22 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。
警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

タイプAメーター

タイプBメーター

> **アドバイス**
>
> このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

■テンションレデューサー（ベルト張力減少装置）

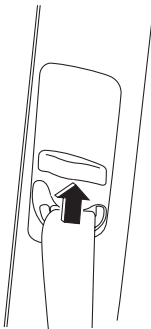
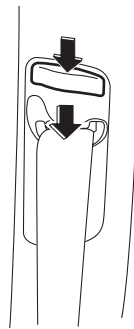
運転席と助手席には、エンジンスイッチがONの状態でバックルとタングプレートを結合するとベルトの巻き取り力が減少して身体への圧迫感が軽減する装置がついています。タングプレートをバックルから外すと巻き取り力は元に戻り、ベルトがスムーズに巻き取られます。

アドバイス

シートベルトを着用したままでエンジンスイッチを切ると、一旦締め込むことがありますが、この装置の正常な作動です。

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

①上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
②ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。

（上げるとき）

（下げるとき）

警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。
☆2−92ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートにしっかり固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

運転席側

助手席側

注 意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。
- シートを正しい位置に調整する。
☆2−71ページ参照
- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。
- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトが3名分装備されています。ワゴン車の中央席にも格納のできる3点式シートベルトが装備されています。

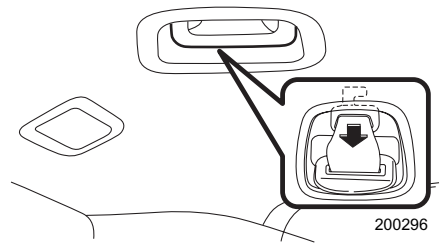
■外側席用シートベルト

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。
☆2－91ページ参照

■中央席用シートベルト（ワゴン）

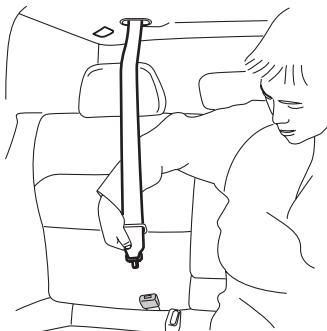
必ず中央席用のシートベルトを使ってください。中央席用バックルには「CENTER」印があります。

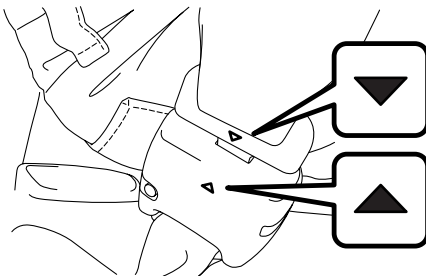
●着用するとき

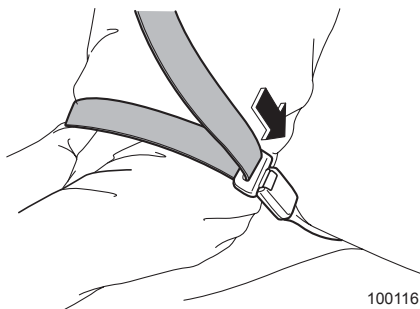
①カーゴルームのルーフにある、格納ホルダーよりタングプレートを後方へ引き抜いてください。

200296

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出します。

201357

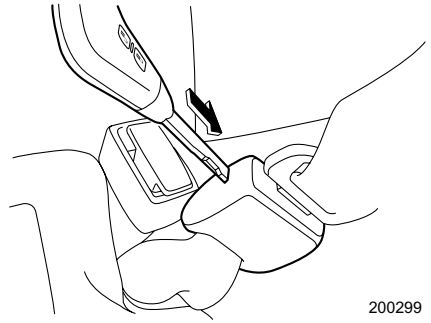
③コネクター（小さいバックル）とタングプレートを▲マークが付いている面を合わせて結合します。

200298

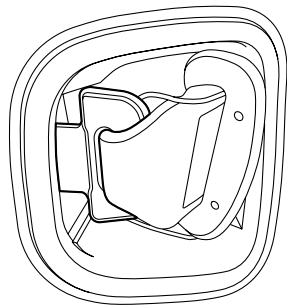
④フロント 3 点式シートベルトと同じ要領で着用します。

100116

注 意

コネクターを結合しないで使用するとシートベルト本来の機能が発揮されません。必ず結合してから着用してください。

●格納するとき

①バックルの「PRESS」ボタンを押します。
②コネクターの解除ボタンをキーなどを使って押し分離します。

200299

③シートベルトを巻き取り、小さいタングプレートをカーゴルームの格納ホルダーに差し込み固定します。

200160

⚠注 意

- 使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないよう気をつけてください。

■中央席用シートベルト（セダン）

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。このとき、必ず中央席用のバックルを使用してください。バックルには「CENTER」印があります。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。
チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。
〔ISO FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2－99ページの「ISO FIX固定バー および テザーアンカー」をご覧ください。〕

⚠ 警 告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
〔詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。〕

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

①チャイルドシート（別売／スバル純正ISO FIX方式を除く）を取り付けます。
②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのヘッドレストを取り外します。
③シートベルトを引き出しチャイルドシートにシートベルトを通して、タングをバックルに確実に差し込みます。
④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）
⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。
⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

①バックルの「PRESS」ボタンを押して、ベルトを外します。
②ベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。
- リクライニング式シートの場合は、背当てを起こした状態で使用してください。（ワゴンのみ）

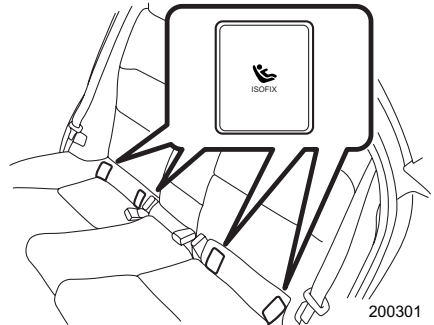
ISO FIX固定バー および テザーアンカー

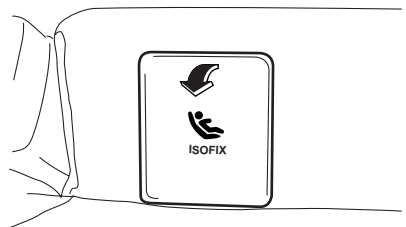
リヤシートの左右席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO FIXチャイルドシートを固定するための専用のISO FIX固定バーが装備されております。
また、ISO FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として、前向きで使用する場合のみに使用するテザーアンカーが装備されております。

- ISO FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO FIXチャイルドシートは、専用のISO FIX固定バーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。
- ISO FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として前向きで使用する場合には、テザーアンカーを使用してチャイルドシートの上側を確実に固定することができます。

■ISO FIX固定バー

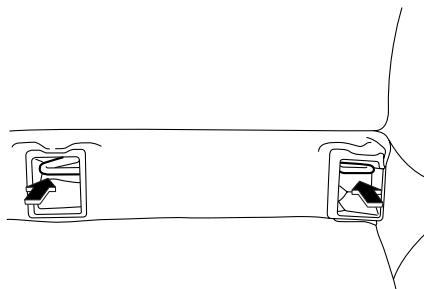
●ワゴン

背当ての下側のカバーを外すとあります。バーがある場所は、背当てのカバーにマークがついています。

200301

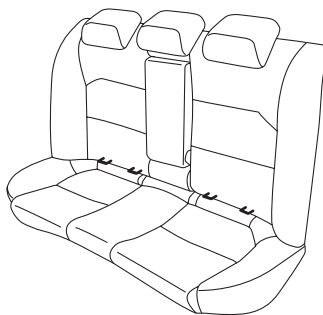
チャイルドシートを取り付けるときは、カバーを取り外します。

200302

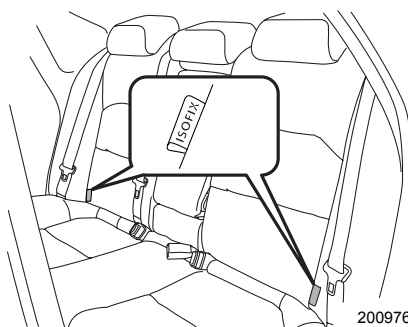
次ページへ ⇒

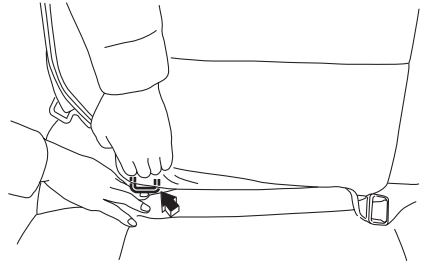
⇒前ページより

ISO FIX固定バーに差し込みます。

200303

●セダン

背当てとシートクッションのすき間にあります。

200304

ISO FIX 固定バーが装備されていることを示すタグが背当てについています。

200976

チャイルドシートを取り付けるときは、シートクッションと背当てのすき間を開き、ISO FIX固定バーに差し込みます。

200975

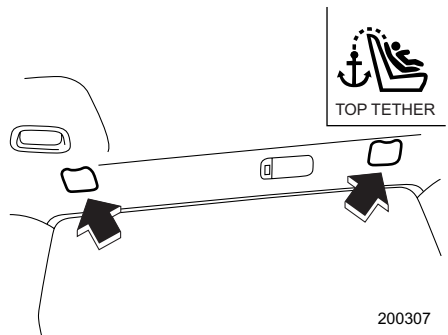
■テザーアンカー（前向き取り付け時のみに使用）

⚠ 警 告

- 前向きに取り付ける場合には、必ずISO FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。

〔詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。〕

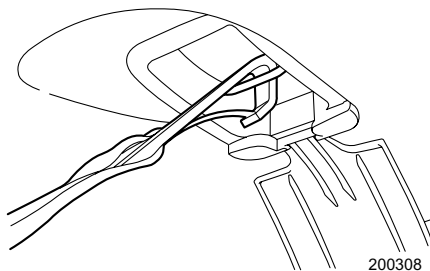
●ワゴン

室内ルーフ後ろ側の左右にあるカバーを開けるとあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。

200307

次ページへ ⇒

⇒前ページより

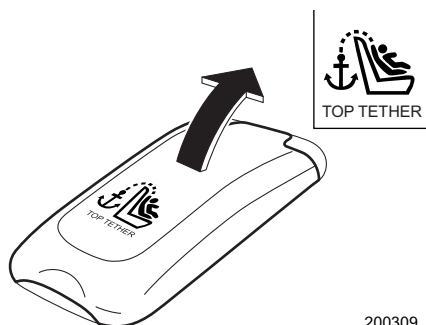
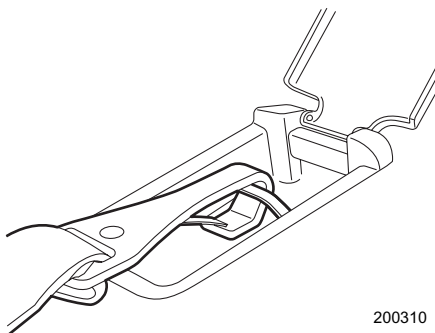
チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。

200308

●セダン

リヤシートヘッドレストの後ろ側にあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。

200309

チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。

200310

■ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向き（乳児用）として使用する場合の取り付けかた

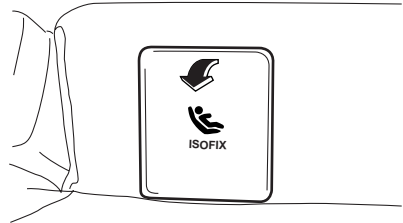
詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警 告

- ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

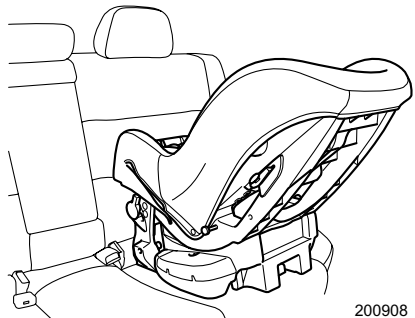
●ワゴン

①リヤシートの背当てを最前傾位置まで起こします。（リクライニング機能付車）

②背当ての下部のカバーを外し、ISO FIX固定バーの位置を確認します。

200302

③ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。

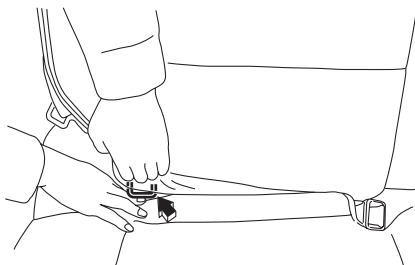
④ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。

⑤ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く前後左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。

200908

⚠ 注 意

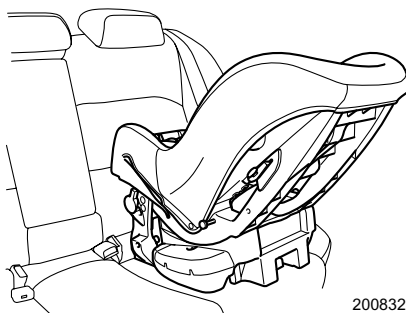
チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

●セダン

①背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO FIX 固定バーの位置を確認します。

200975

②ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。

③ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。

④ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。

200832

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

■ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を前向き（幼児用）として使用する場合の取り付けかた

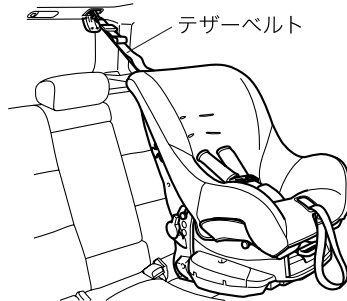
詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警 告

- 前向きに取り付ける場合は、必ず ISO FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  〔詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。〕
- ISO FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

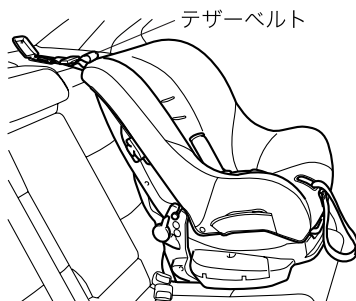
●ワゴン

①リヤシートの背当てを最前傾位置まで起こします。（リクライニング機能付車）
②ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートヘッドレストを取り外します。
③背当て下部のカバーを外し、ISO FIX固定バーの位置を確認します。
④ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
⑤ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
⑥ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
⑦室内後ろ側のテザーアンカーカバーを取り外します。
⑧ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
⑨ISO FIX チャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
⑩ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

●セダン

①ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのヘッドレストを取り外します。
②背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO FIX固定バーの位置を確認します。
③ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
④ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
⑤ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
⑥リヤシートヘッドレスト後ろ側のテザーアンカーカバーを取り外します。
⑦ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
⑧ISO FIX チャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
⑨ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSカーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

⚠ 警 告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−88ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−71ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

⚠ 警 告

膝の上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

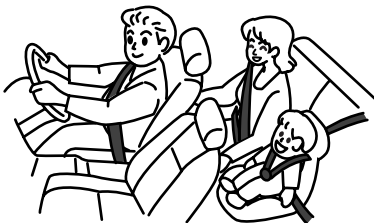
⚠ 警 告

- お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

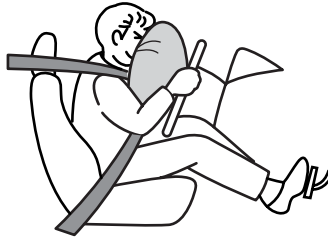
200366

- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。

100234

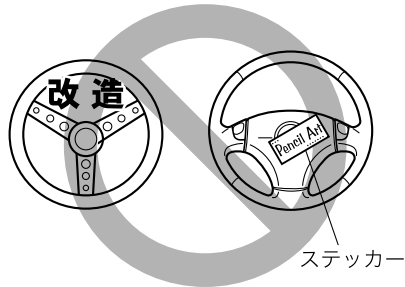
- 法律により６歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。６歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。６歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。

200127

■運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

200123

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルの SRS エアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200365

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

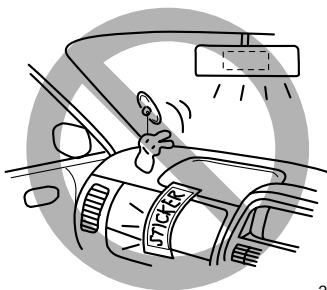
200124

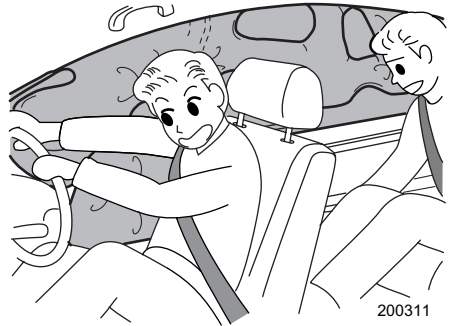
■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200367

- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグと左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らんだ後にしぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

200311

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ付車に関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

- フロントシート背当てのSRS サイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRS サイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200368

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てをかかえこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200369

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部を強打したり、衝撃を加えないでください。正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スバル純正の SRS サイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。使用する場合には添付されている使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRS サイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200370

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントウインドゥ、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えないでください。SRSカーテンエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS カーテンエアバッグ装着車では、後席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガーや重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せず直接コートフックにかけてください。SRSカーテンエアバッグが展開したときに飛ばされて危険です。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

警　告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
  (SRSカーテンエアバッグを除く)
  排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

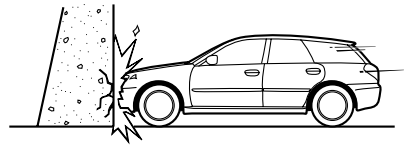
- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。(SRSカーテンエアバッグを除く)
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物(カスなど)が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱いかたなどは、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

■運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

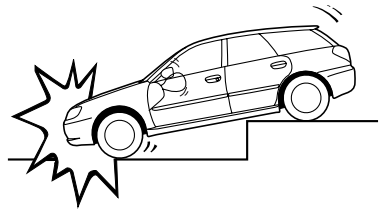
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●作動するとき

- 次のようなときに作動します。

20 ～ 30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

200312

- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。

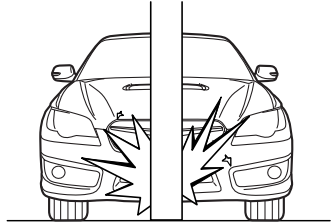
深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

200313

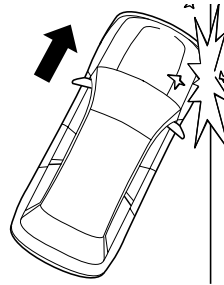
縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

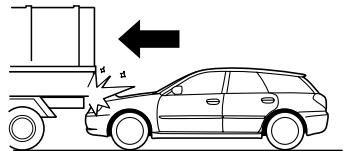
200314

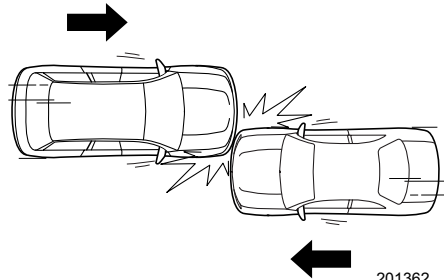
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき。

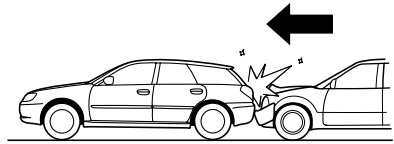
電柱などに衝突したとき

200995

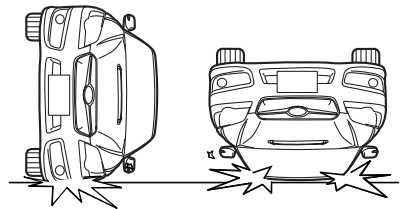
斜め前方への衝突のとき

200316

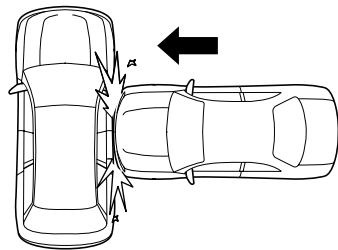
トラックの荷台にもぐり込んだとき

200317

片側衝突（オフセット衝突）のとき

201362

- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません。

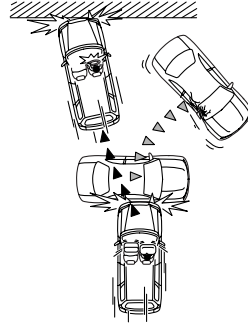
後ろから衝突されたとき

200318

横転や転覆したとき

200996

横方向から衝突されたとき

200320

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

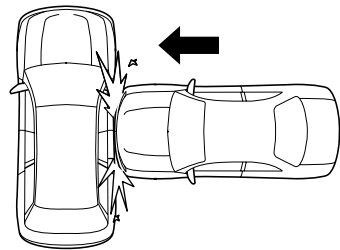
一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

200083

■SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

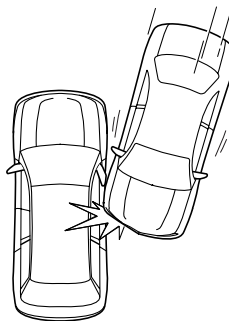
●作動するとき

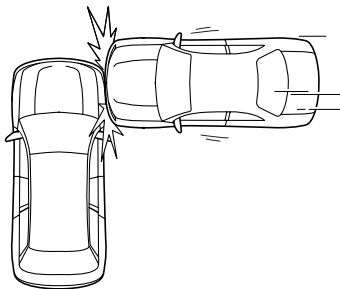
- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

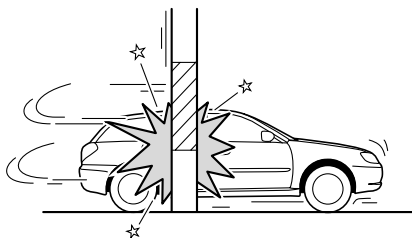
側面に真横から衝突されたとき

200320

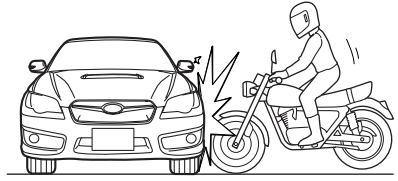
●作動しにくいとき

- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
  衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

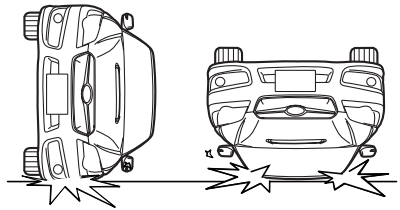
車両側面に斜めから衝突されたとき

201372

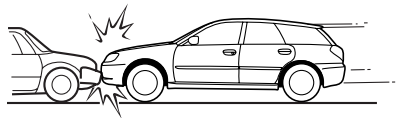
客室以外に側面から衝突されたとき

200323

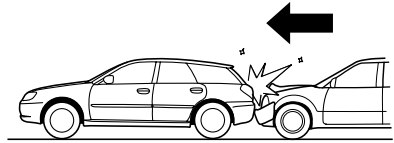
電柱などに衝突したとき

200831

側面にバイクが真横から衝突したとき

200997

- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

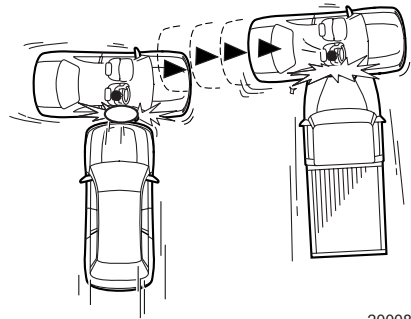
横転や転覆したとき

200996

停車中や走行中の車に正面から衝突したとき

200325

後ろから衝突されたとき

200318

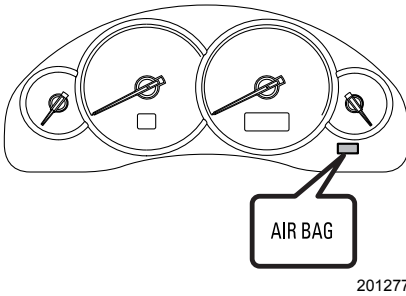
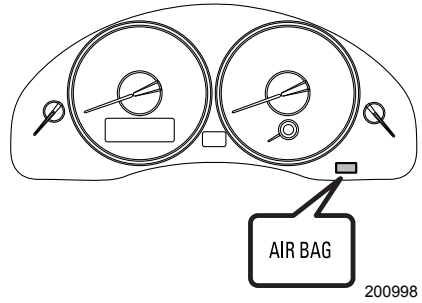
●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突

200089

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイド、カーテンの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

タイプAメーター

201277

タイプBメーター

200998

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注 意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

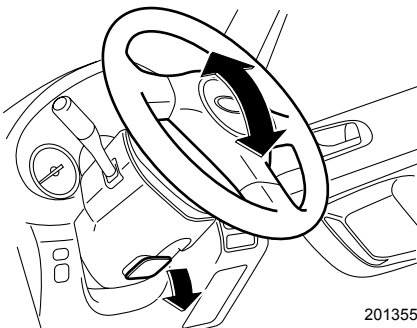
- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
  サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ付車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
  シートに内蔵されている SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSカーテンエアバッグ付車では、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなど SRS カーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しないでください。
- SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンエアバッグ装着車では、センターピラー、リヤピラー、リヤシート周辺などのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
  分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
  衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
  無線機の電波などは SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

①チルトレバーを押し下げます。
②ハンドル位置を合わせます。
③チルトレバーを引き上げます。
④ハンドルが固定されたことを確かめてください。

201355

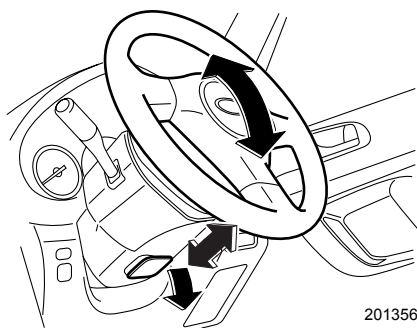
⚠ 警告

調整は必ず走行前に

- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不充分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながることがあります。

チルト/テレスコピックステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を前後または上下に調整できます。

①チルト／テレスコピックレバーを押し下げます。
②ハンドル位置を合わせます。
③チルト／テレスコピックレバーを引き上げます。
④ハンドルが固定されたことを確かめてください。

201356

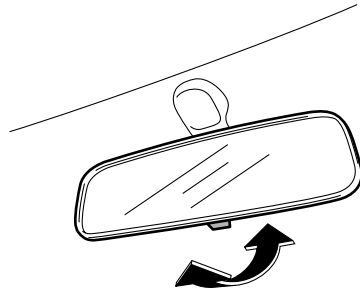
⚠ 警 告

調整は必ず走行前に

- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不充分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながることがあります。

ルームミラー

■防眩ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。
通常はレバーを前方の位置にして使います。
夜間走行時、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを引きます。ライトの反射を弱くすることができます。

200328

⚠ 注 意

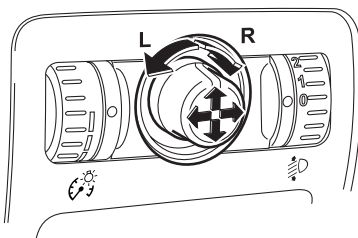
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

■電動リモコンドアミラー

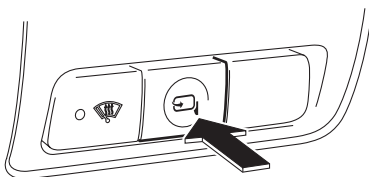
エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

①調整するミラーを選びます。
スイッチを調整するミラー側に回して切り替えます。
「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー

②「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして後方視界が充分確認できる位置に調整します。

200329

> ⚠ 注 意
>
> 調整は必ず走行前に行ってください。

■電動格納式ドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押しこむと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。

200330

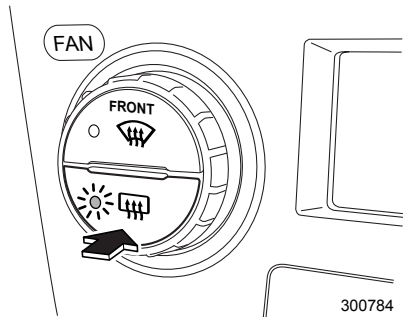
アドバイス

- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇔元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手動で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ヒーテッドドアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。リヤウインドゥデフォッガーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。
- リヤウインドゥデフォッガーを連続作動に設定している場合は、連動して作動します。

☆3−15ページ参照

アドバイス

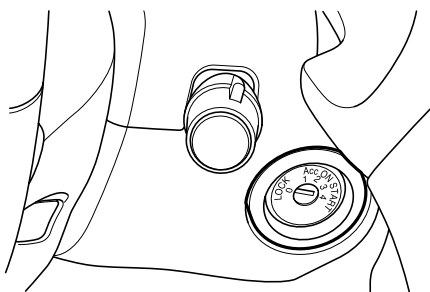
消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

3 運　転　す　る　と　き

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2−13ページをご覧ください。

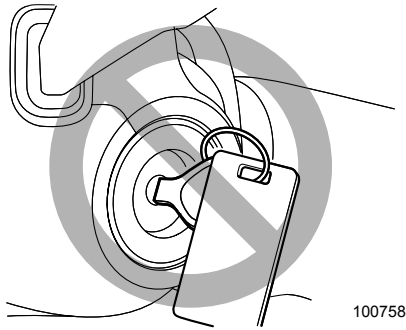
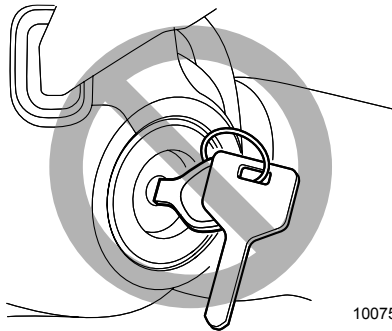
■各位置の働き

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーがPにあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリー) 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン) 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

⚠ 警 告

走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

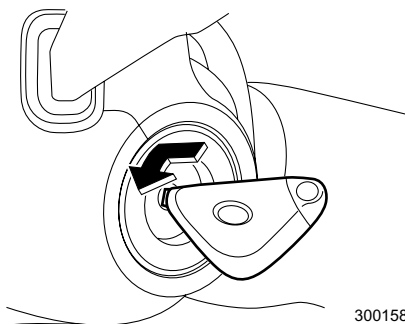
⚠ 注 意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーをPにしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」(キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに 1 と刻印) でキーを押し込んでから LOCK に回してください。

300158

■キー抜き忘れ警報

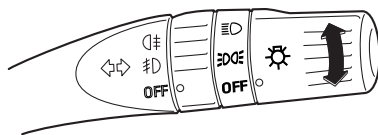
キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。
ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明(イグニッションキー照明)

エンジンスイッチの周辺が点灯します。
運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も20秒間点灯し、その後徐々に消灯していきます。

ライティングスイッチ

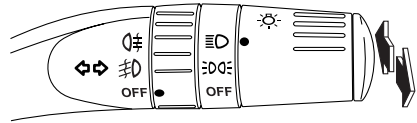
ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。
エンジンスイッチが ON のときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。

300159

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	
	消灯	点灯
	点灯	

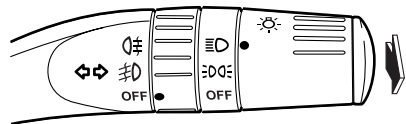
アドバイス

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。バッテリー上がりを起こします。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。元に戻すと下向きになります。

300160

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプ上向き、下向きが同時に点灯します。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。

300161

オートヘッドランプレベラー(自動光軸調整機構)

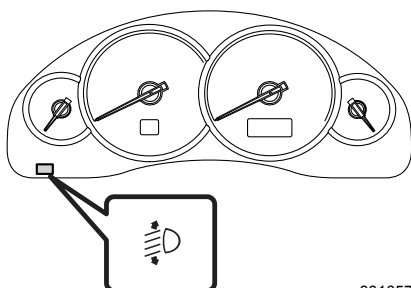
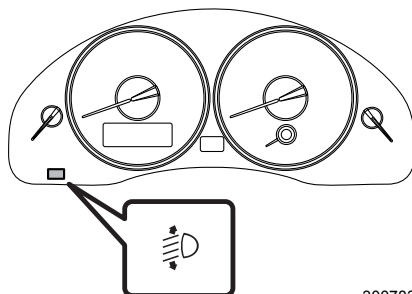
下向きヘッドランプにHID(高輝度放電式ランプ)が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

⚠ 警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー(自動光軸調整機構)の電子制御システムに異常があると点灯します。

タイプAメーター

タイプBメーター

⚠ 注意

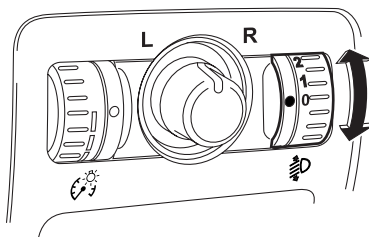
オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変化することがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。
エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。
- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

300162

セダン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有※
3	1名	0名	有※
4	—	—	—
5	—	—	—

ワゴン

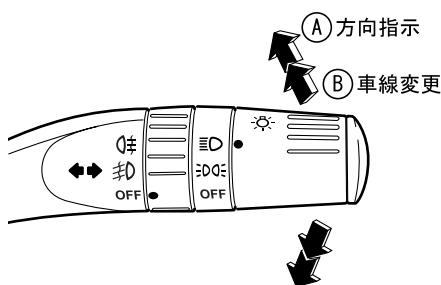
ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	—	—	—
3	2名	3名	有※
4	1名	0名	有※
5	—	—	—

※荷室満載にした場合

アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

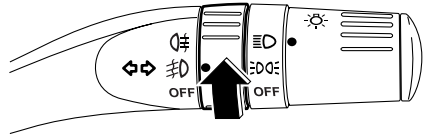
ハンドル右側のレバーを使います。
エンジンスイッチがONのとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。
☆3−37ページ参照

300163

アドバイス

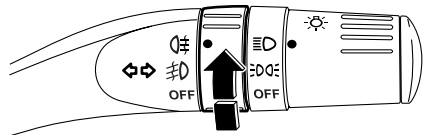
車線変更の合図をするには
レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。（Ⓑ位置）
手を離すと元の位置に戻ります。

フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでライティングスイッチがまたはのとき、スイッチを1段階回すとフロントフォグランプが点灯します。
フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

300164

■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでフロントフォグランプが点灯しているとき、さらにスイッチを回すとリヤフォグランプが点灯します。
リヤフォグランプ点灯中はメーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。
手を離すとスイッチは自動的にフロントフォグランプ点灯位置に戻ります。
リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを回してください。

300165

アドバイス

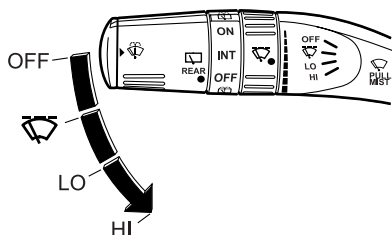
- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、以下の操作を行うとリヤフォグランプがOFFになります。
  - エンジンスイッチOFF
  - ライティングスイッチOFF
  - フォグランプスイッチOFF
- 再度リヤフォグランプを点灯させるには、フォグランプスイッチを回してください。
- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

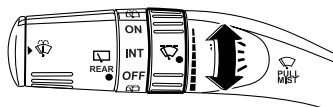
ハンドルの左側のレバーがワイパー＆ウォッシャースイッチです。
エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

OFF	停止
(間欠記号)	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

300720

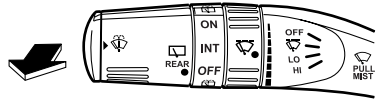
●間欠作動の時間調整

レバーを1段押し下げます。
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は9段階に調整できます。
リングを上に回すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。

300721

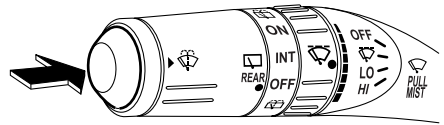
アドバイス

車速感応式間欠ワイパーが装備されています。停車中は、間欠作動の間隔が走行中に比べ長くなります。

●ワイパーを手動で使いたいときには（MIST）

レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。

300722

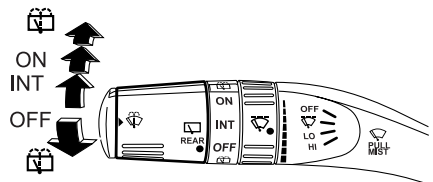
●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。

300723

アドバイス

スイッチを押すとワイパーが1〜2回動きます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。

300724

次ページへ ⇒

⇒前ページより

(上側)	ウォッシャー液が噴射します。手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
INT	間欠（車速に応じて変わります）
OFF	停止
(下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。 手を離すとOFFに戻ります。

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残しができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。

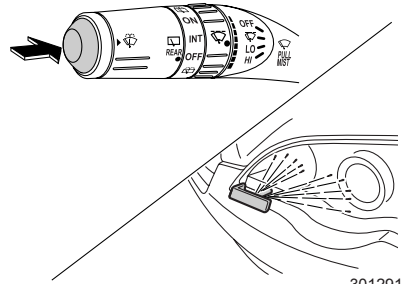
☆6－20ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。
  ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
  - フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
  - リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3－14、3－15、4－12ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF､エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチを OFF にしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

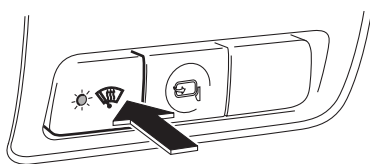
ヘッドランプウォッシャー

ヘッドランプが汚れたときに使用します。
エンジンスイッチが ON でライティングスイッチが≣Dのとき、フロントウォッシャーのスイッチを 1 秒以上押すと、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。

アドバイス

- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

フロントワイパーデアイサースイッチ

フロントワイパーデアイサーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。
フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めたいときは、もう一度押します。（表示灯が消灯します）
- 納車時は約 15 分で自動的に OFF になるよう設定されています。お客様のご要望に応じて連続作動に設定変更することもできます。

300174

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：
画面上の操作により連続作動に設定変更することができます。
詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車以外：
スバル販売店で設定を変更することができます。最寄りのスバル販売店にお問い合わせください。

アドバイス

- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、下記条件のときには、15分後に停止します。
  - 外気温度が5℃以上のとき
  - Info-ECOモードがONのとき
  - バッテリー電圧が低下したとき
- 連続作動に設定していても、車速15 km/h以下が15分間続いたときには、自動的にOFFになります。

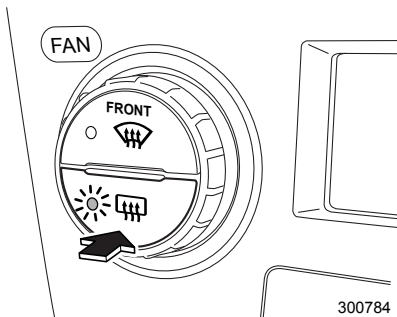
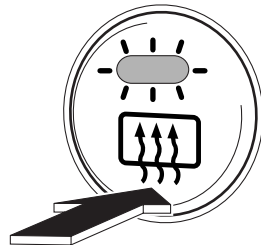
リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リヤウインドゥデフォッガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。
電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）
- 納車時は約15分で自動的にOFFになるよう設定されています。お客様のご要望に応じて連続作動に設定変更することもできます。（オートエアコン付車のみ）

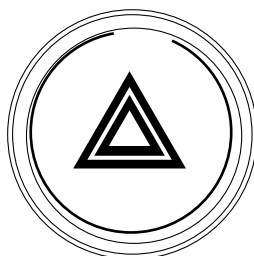
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：
モニターの操作により連続作動に設定変更することができます。
詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車以外：
スバル販売店で設定を変更することができます。最寄りのスバル販売店にお問い合わせください。

オートエアコン付車

マニュアルエアコン付車

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒーテッドドアミラー装備車は、リヤウインドゥデフォッガースイッチを押すと、ヒーテッドドアミラーも連動して作動します。
- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。バッテリー電圧が弱くなると連続作動をやめ、15分間作動で停止します。

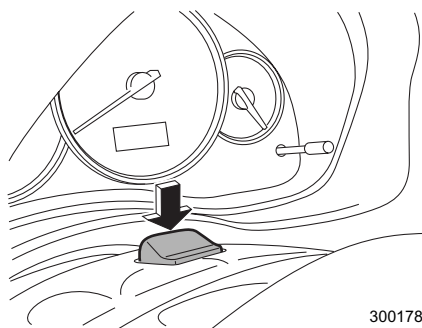
ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。

300844

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

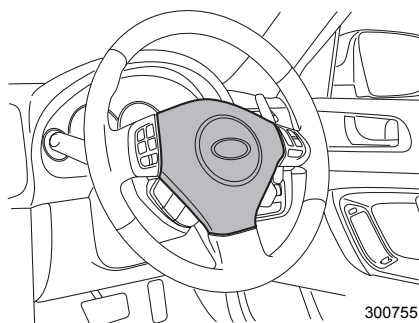
パーキングランプ（駐車灯）スイッチ

夜間、路上に一時駐車するとき使用します。エンジンスイッチに関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。

300178

アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

ホーンスイッチ

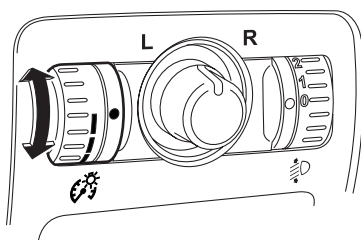
ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。

300755

アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

イルミネーションコントロールダイヤル

ライティングスイッチがあるいはの位置のとき、コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコン、オーディオ、時計、マルチインフォメーションディスプレイの明るさを6段階に調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。

300179

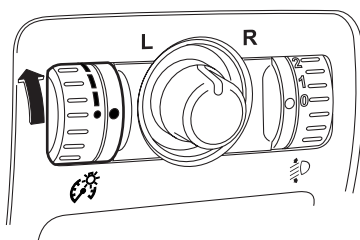
アドバイス

エレクトロルミネセントメーター装備車はライティングスイッチを OFF の状態で6段階、スイッチがあるいはの状態で6段階の明るさの調整をすることができます。

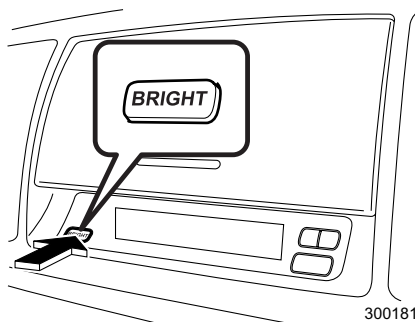
ブライト（減光キャンセル）機能

ライティングスイッチをまたはにすると表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るようなときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

イルミネーションコントロールダイヤル装備車

ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。

300588

イルミネーションコントロールダイヤルなし車

時計部分にある「BRIGHT」ボタンを押すと減光がキャンセルされ、明るくなります。

300181

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。（スイープ機能）
タイプBメーターは、マルチインフォメーションディスプレイの各種設定で「誕生日」および「記念日」を設定していると、ディスプレイにメッセージが表示されます。
☆3－29ページ参照

アドバイス

- すばやくキーを回してエンジンを始動すると、メーターのスイープ機能が作動しない場合がありますが、故障ではありません。
- メーターの初期作動は作動あり / 作動なしの設定ができます。メーターの初期作動の設定方法は、メーターのタイプによって異なります。
  タイプAメーター：
☆3－24ページ参照
  タイプBメーター：
☆3－28ページ参照

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

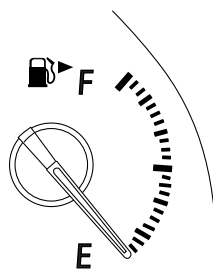
⚠ 注 意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
☆2－56ページ参照

300777

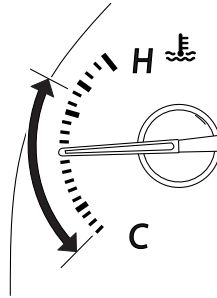
注 意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1－29ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチがONのときのみ、燃料の残量を示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約 15ℓ以下)、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと一定時間燃料の残量を表示します。

■水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。
冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。

300765

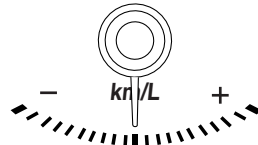
⚠ 注 意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。
☆7－30ページ参照

アドバイス

エンジンスイッチがON以外のときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。
「H」：高温（HOT）
「C」：低温（COLD）
を示しています。

■ECOゲージ

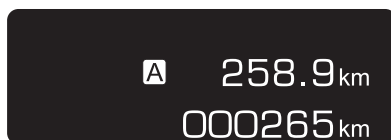
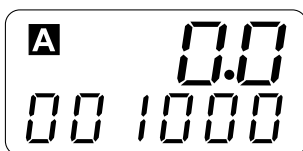
トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が高い場合は＋側、低い場合は－側を表示します。

300905

アドバイス

- ECOゲージはあくまでも目安です。
- 平均燃費は、トリップメーターリセット後、1 km 走行すると表示されます。表示されるまでの間、ECOゲージは作動しません。

■オドメーター（積算距離計）

メーター下段に走行した総距離をkmで表示します。

タイプAメーター

300088

タイプBメーター

300785

アドバイス

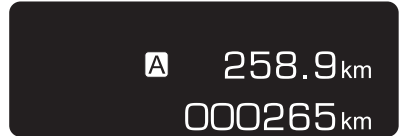
エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

メーター上段に表示され、ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。

タイプAメーター

300258

A 258.9km
000265km
B 220.0km
002000km

300786

> **アドバイス**
>
> エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

●トリップA、B切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーターA → トリップメーターB
（トリップメーターBからトリップメーターAに戻る）

●トリップメーターA・Bを0に戻すとき

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

●ボディ電装システムの表示について（タイプAメーター）

ボディ電装機能の異常を検出するとトリップメーターに異常状態を「Er　○○」と表示します。

> **アドバイス**
>
> 表示が出た場合は、直ちに最寄りのスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■メーターの初期設定（タイプAメーター）

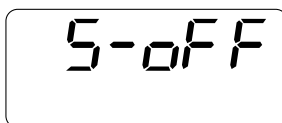
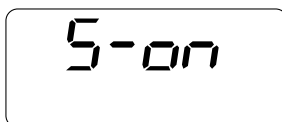
●指針の初期作動（スイープ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は次の操作により作動あり/作動なしの設定ができます。

①エンジンスイッチをAccの位置にしてください。

②トリップ切り替え／トリップリセットノブを3回押してください。

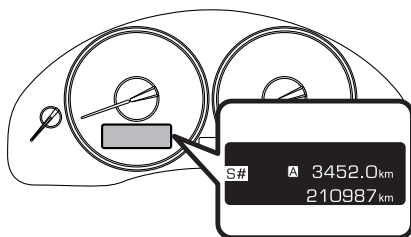
③トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。

④このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを１秒以上押すと切り替わります。

300185

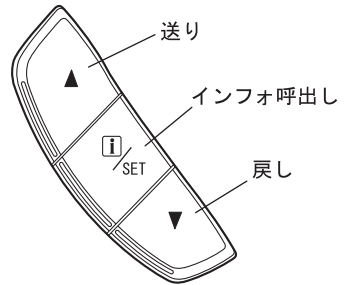
マルチインフォメーションディスプレイ

■マルチインフォメーションディスプレイ

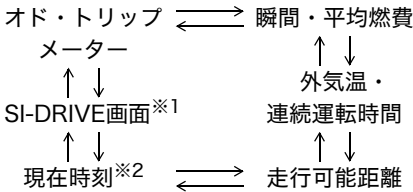
オド・トリップ表示や各種表示を行います。異常を検知すると、警告表示が割り込み表示され、一定時間後に通常表示に戻ります。この時左下に[i]マークが点灯し続けます。

☆3−34ページ参照

300799

■操作スイッチ

「▲」と「▼」は表示を送るまたは戻すときに使用します。i/SET は警告が表示された場合の警告画面を再表示するときや、各種設定画面での項目決定のときに使用します。

300800

■通常表示画面

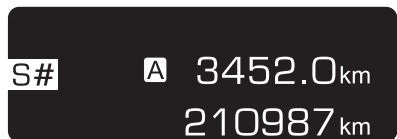
操作スイッチの「▲」と「▼」を操作することによって表示を切り替えることができます。

※1 SI-DRIVE画面はSI-DRIVE装着車のみ表示します。
※2 現在時刻はメーカーオプションのナビゲーション装着車のみ表示します。

●オド・トリップメーター

走行した総距離（オドメーター）、区間距離（トリップメーター）の表示をkmで表示します。トリップA、Bの切り替えはトリップ切り替えノブで行います。

☆3－23ページ参照

300802

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

●瞬間・平均燃費

瞬間燃費：走行している瞬間の燃費を表示します。低速走行時は、表示されません。

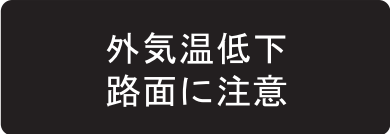
平均燃費：トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。トリップノブを押すごとに、トリップA、Bの平均燃費を表示します。トリップA、Bをリセットすると平均燃費計もリセットされます。リセット後は1 km走行するまで表示されません。

300803

アドバイス

走行状態や状況により燃費は変化するため、燃費情報は目安となります。そのため、表示が実際とは異なる場合があります。

●外気温・連続運転表示

外気温度を表示します。
連続運転時間はエンジン始動時からの時間を表示します。

300804

外気温度が3℃以下になった場合、路面が凍結している可能性があることを知らせるため、警告画面に切り替わります。他の表示をしている場合は割り込み表示し、切り替わり前の表示に戻ります。
エンジンスイッチをONにしたとき、3℃以下の外気温度の場合、警告画面は表示されません。

外気温低下
路面に注意

300805

エンジン始動から2時間経過すると、経過時間画面に切り替わります。
他の表示をしている場合は割り込み表示し、切り替わり前の表示に戻ります。
その後は１時間ごとに経過時間画面が表示されます。

運転開始から
8 時間経過

300863

●走行可能距離表示

燃料タンク内の燃料量と過去30 km間の燃費を計算してタンク内の燃料での走行可能距離を10 km単位で表示します。

※ 残走行距離計算用の燃費値は過去30 km間の燃費を基に行っているため、瞬間燃費、平均燃費の値とは必ずしも一致しません。燃料が残りわずかになりますと、表示をストップします。

☆3－26ページ参照

300806

●現在時刻表示（メーカーオプションのナビゲーション装着車）

現在時刻を表示します。

ただし、各種設定（カスタマイズ）で現在日時を設定していない場合、「－－：－－」と表示します。

☆3－29ページ参照

300807

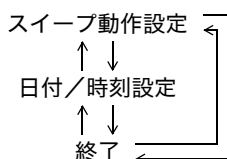
メーカーオプション以外のナビゲーション装着車の場合、現在時刻は表示されません。

●SI-DRIVE表示

走行モードの表示をします。アクセル開度に応じてグラフが変化します。

300808

■各種設定（カスタマイズ）

マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目や、メーターの初期作動をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ項目は「▲」と「▼」を操作すると以下のように切り替わります。

●指針の初期作動（スイープ機能とイルミネーション機能）の設定のしかた

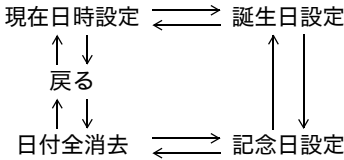
① エンジンスイッチONにしてから10秒以内に「i/SET」を2秒以上長押しします。
②「メータ設定」が表示され、設定画面に切り替わります。
③ 設定画面が表示されたら「スイープ動作設定」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作します。「スイープ動作設定」を選択し、「i/SET」ボタンを押します。

300864

④「スイープ動作設定」画面で設定したい項目を選択し「[i]/SET」ボタンを押します。

300865

●日付／時刻設定のしかた

日付設定では各項目の設定ができ、「▲」と「▼」を操作すると以下のように切り替わります。

- 「誕生日」「記念日」は「現在日時」を設定していないと入力できません。
- 「現在日時」の設定は、「誕生日」「記念日」の表示を行うためのものです。

日付設定準備

①エンジンスイッチONにしてから12秒以内に「[i]/SET」を2秒以上長押しします。
②「メータ設定」が表示され、設定画面に切り替わります。
③設定画面が表示されたら「日付 / 時刻設定」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作します。「日付/時刻設定」を選択し、「[i]/SET」を押します。

300866

▼現在日時設定

①「現在日時」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「i/SET」を押します。

300867

②設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「i/SET」を押します。

300868

③設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「i/SET」で決定していきます。

④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「i/SET」を押します。

300869

▼誕生日設定

①「誕生日」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「i/SET」を押します。

300870

②設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「i/SET」を押します。
③設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「i/SET」で決定していきます。
④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「i/SET」を押します。

300871

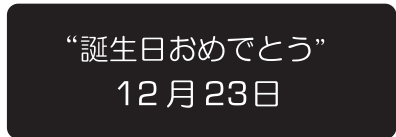
誕生日を設定すると、エンジンスイッチONしたときに誕生日が近づくとメッセージを表示します。

1週間前から前日

“もうすぐ誕生日です”
12月23日

300872

当日

“誕生日おめでとう”
12月23日

300873

▼記念日設定

①「記念日」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「i/SET」を押します。

300874

②設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「i/SET」を押します。
③設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「i/SET」で決定していきます。
④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「i/SET」を押します。

300875

記念日を登録すると、エンジンスイッチONしたときに記念日が近づくとメッセージを表示します。

1週間前から前日

“もうすぐ記念日です”
12月23日

300876

当日

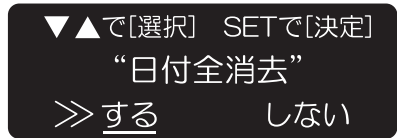
“今日は記念日です”
12月23日

300877

▼日付全消去

①「日付全消去」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「i/SET」を押します。

300878

②「する」「しない」を選択し、「i/SET 」を押します。

300879

アドバイス

「する」で決定すると、「誕生日」と「記念日」の日付を初期状態に戻すことができます。ただし、現在日時は初期状態には戻りません。

警告画面表示

異常を検知すると、警告画面が割り込み表示をします。
警告画面が表示されたときは表示灯、警告灯の該当ページを参照して必要な処置をおこなってください。

通常表示

S#
瞬間 9.0 km/L
平均A 10.0 km/L

300803

警告画面

トランスミッション
システム点検

300810

通常表示

300811

警告画面終了後、通常表示に戻ります。
再表示が可能な警告画面があるときは、i マーク が表示されます。

■画面表示一覧

車の異常や作動を検知すると表示されるものと作動を検知して表示されるものがあります。
通常画面に切り替わったときに i（インフォメーション）と表示されている場合、「i/SET」ボタンを押すと内容が再表示されます。

●繰り返し表示する項目

シートベルト、駐車ブレーキ警告は3秒間表示し消灯、20秒後に再表示を繰り返します。
複数の異常を検知した場合、表示は3秒未満で切り替わります。

項目	表示1	表示2	インフォ(i)呼び出し	処置(参照先)
駐車ブレーキ警告	駐車ブレーキ 解除して下さい		無し	☆3−50

●表示後消灯する項目

表示は表示①、表示②ともに3秒間ずつ表示します。
複数の異常を検知した場合、表示は3秒未満で切り替わります。

項目	表示1	表示2	インフォ(i)呼び出し	処置(参照先)
半ドア警告	ドアが 開いています		有り	☆3−42
VDC OFF表示	VDCシステム OFF	路面に注意して 運転して下さい	無し	☆3−46
SI-DRIVE 切り替え表示	S# S I		無し	☆3−53 ☆3−68
SI-DRIVE警告	走行モード切替え システム点検	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3−53 ☆3−68
トランス ミッション警告	トランスミッション システム点検	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3−44
AWD警告	AWD システム点検	タイヤ空気圧 点検して下さい	有り	☆3−43
AT油温警告	AT 油温上昇		有り	☆3−44
EBDシステム警告	ブレーキ システム点検	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3−41
ブレーキ液量警告	ブレーキ 液量低下	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3−41

項目	表示1	表示2	インフォ(i)呼び出し	処置(参照先)
ABS警告	(ABS) ABS点検	路面に注意して運転して下さい	有り	☆3−42
オイルプレッシャー警告	エンジン油圧点検	エンジン停止し販売店へ連絡	有り	☆3−44
エンジン警告	エンジンシステム点検	無理な運転を避け販売店へ	有り	☆3−45
水温警告	オーバーヒート		有り	☆7−30
チャージ警告	充電システム点検	直ちに停車し販売店へ連絡	有り	☆3−45
SRSエアバッグ警告	AIR BAG エアバッグシステム点検	直ちに停車し販売店へ連絡	有り	☆3−43
VDC警告	VDCシステム点検	路面に注意して運転して下さい	有り	☆3−46
燃料計警告	燃料残量が表示できません	販売店で点検を受けて下さい	有り	☆3−45
燃料残量警告	給油してください		無し	☆3−45
オートヘッドランプレベライザー警告	レベライザーシステム点検	販売店で点検を受けて下さい	有り	☆3−47
アラーム履歴表示①	盗難警報 作動	ドアが開けられました	無し	☆2−48
アラーム履歴表示②	盗難警報 作動	トランクが開けられました	無し	☆2−48
アラーム履歴表示③	盗難警報 作動	強い衝撃がありました	無し	☆2−48
アラーム履歴表示④	盗難警報 作動	弱い衝撃がありました	無し	☆2−48

アドバイス

半ドア警告表示はエンジンスイッチがAccまたはOFFのときは常時表示します。

表　示　灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。

アドバイス

方向指示器のバルブ（電球）やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なったバルブ（電球）を使うと点滅の早さが異常になります。
すみやかに点検し､異常のあるバルブ(電球)やヒューズを交換してください。
☆6－23ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが□または□位置時に点灯します。

■ハイビーム／パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きのとき点灯します。
また、パッシング時も点灯します。

■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。

アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■セキュリティ表示灯

リモコンキーの□ボタンを押し、全てのドアとリヤゲート（トランク）を施錠すると盗難警報装置が監視状態に入り、表示灯が点滅します。

⚠注 意

リモコン操作の施錠後、キーを使ってドアの解錠操作を行うと車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。
☆2－44ページ参照

●イモビライザー装備車

通常は点滅しています。
エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。

⚠注 意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。
☆2－33ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

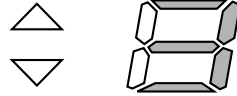
ECO

「ECO」スイッチを押してInfo-ECO（インフォ・エコ）モードを選択したときまたはSI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択したときに表示灯が点灯します。
☆3－53、3－67、3－68ページ参照

アドバイス

“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。
急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。
“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■シフトポジション表示灯（オートマチック車）

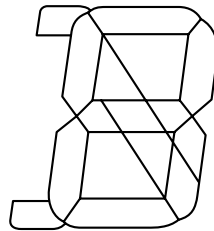
スポーツモード、マニュアルモード選択時、ギヤ位置を表示します。
また、マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であるかを示す⇕印が点灯します。
☆3－64ページ参照

300191

■セレクトインジケーター（オートマチック車）

タイプAメーター

P ○
R ○
N ○
D ○

300192

タイプBメーター

301114

セレクトレバーの位置を示します。
☆3－55ページ参照

■SPORT（スポーツ）表示灯（SI-DRIVE装備車以外）

SPORT

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。
☆3－64ページ参照

アドバイス

“SPORT”表示灯はエンジンを始動してから約2秒間点灯します。

■リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプが点灯しているときに表示灯が点灯します。

アドバイス

リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

■VDC作動表示灯（VDC装着車）

VDC作動時は点滅します。このときブザー（ピピピ音）が鳴ります。TCS機能作動時は点灯します。

☆3−82ページ参照

⚠ 注 意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジンスイッチONで点灯、約2秒後消灯します。

■クルーズコントロール表示灯

CRUISE

クルーズコントロールのメインスイッチを押すと表示されます。
表示灯が点灯すると、クルーズコントロールシステムの速度設定ができます。

⚠ 注 意

もし走行中にこの表示灯の点滅とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチONで点灯、約3秒後消灯します。
- クルーズコントロールレバーに触れながらエンジンを始動させると、この表示灯が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチを OFF にしてレバーに触れずに再度エンジンを始動してください。

■クルーズコントロール車速セット表示灯

SET

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
クルーズコントロール表示灯が点灯している状態で、任意の速度を設定したときに表示されます。

■S#禁止表示灯

エンジンが冷えているとき点灯します。点灯中はSI-DRIVEのS#に切り替えができません。暖機が進むと消灯します。

■シフトアップ表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
SI-DRIVEでI（インテリジェントモード）を選択している場合、燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップのタイミングを点滅してお知らせします。

警　告　灯

■ブレーキ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。（駐車ブレーキレバーを引いていないとき）
エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）の電子制御システムに異常があるとき
  EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3−80ページ参照

⚠ 注 意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の
警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。
運転席シートベルト未着用のまま車速約 22 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。
約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。
警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

アドバイス

このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

☆2－88ページ参照

■半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。
リヤゲートやトランクリッドが完全に閉じていないときも点灯します。

⚠ 注 意

警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。
☆3－78ページ参照

⚠ 注 意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。
- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■AWD警告灯（オートマチック車）

AWD

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

VDC装着車を除く 4速オートマチック車	スペアタイヤに交換するためAWDを解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または４本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。 ☆3−72ページ参照
５速オートマチック車、 VDC装着車	異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または４本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

注 意

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、４本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■SRSエアバッグ警告灯

AIR BAG

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装着車）、カーテンエアバッグ（装着車）、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注 意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠ 注 意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■AT油温警告灯

AT OIL
TEMP

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなると点灯します。

⚠ 注 意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクトレバーを[P]にしてエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT 油温警告灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションに異常があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注 意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。

⚠ 注 意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約10リットル以下になると点灯します。

⚠ 注 意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■VDC警告灯／VDC OFF表示灯（VDC装着車）

- ビークルダイナミクスコントロール（VDC）、TCS 機能が作動停止状態のときは点灯します。VDC OFFスイッチを押してこれらの機能を作動停止状態にしたときも点灯します。
  VDC 警告灯はエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
- VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3−82ページ参照

注 意

警告灯が点灯したままのとき

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。
  VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABS は作動します。VDC の付いていない車両と同じように扱ってください。
  滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
  - エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
  - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■キー無し警告灯（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
車内にアクセスキーがない場合に点滅します。
☆2−21ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

☆キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車は、2−13ページをご覧ください。

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
③エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

<クラッチスタートシステム>
マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
②セレクトレバーが[P]であることを確認します。（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
②エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

⚠ 警 告

車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注 意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回してください。

アドバイス

- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
  それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

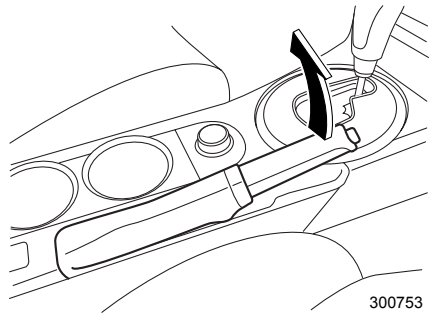
アドバイス

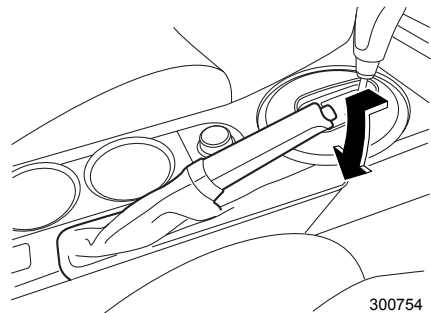
車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

300753

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。

300754

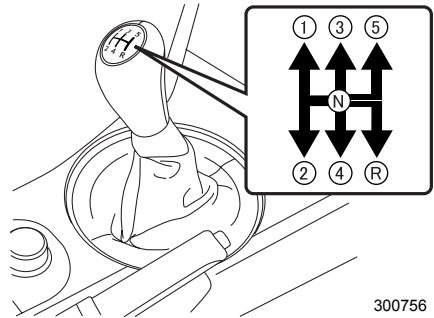
注 意

- 駐車するときは車が動き出さないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

マニュアル車の運転

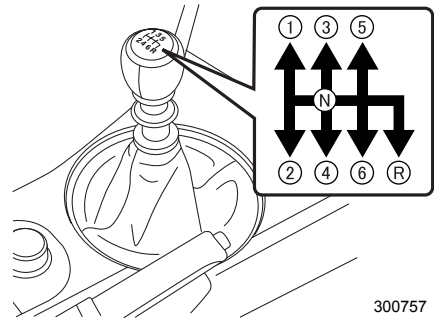
チェンジレバー

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

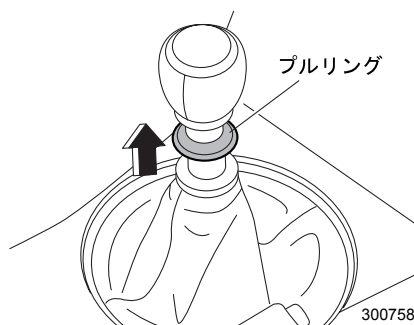
変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

⚠ 注 意

5 速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5”→“R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

“R”に入れるときはプルリングを引き上げたままレバーを操作してください。
レバーを“N”に戻すと、プルリングは元の位置に戻ります。

⚠注 意

- レバーを“N”に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。
- “R”に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

アドバイス

- 3.0Rは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- 変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）

SI-DRIVE※は、３つの特性をもった走行モードの、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）、S#（スポーツシャープモード）を選べるシステムです。

I（インテリジェントモード）：
ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

S（スポーツモード）：
「I」よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

S#（スポーツシャープモード）：
最高の走行性を引き出すモードです。山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時などに適しています。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

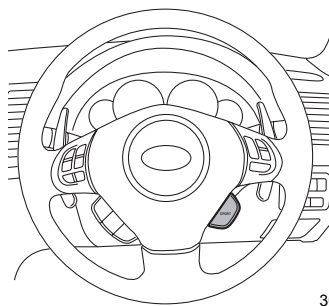
●SI-DRIVEセレクター

セレクターを左に回すとS（スポーツモード）、右に回すとS#（スポーツシャープモード）、押すとI（インテリジェントモード）になります。
操作後、スイッチは元の位置に戻ります。

アドバイス

- エンジン冷間時は、S#禁止表示灯が点灯します。この場合、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。
- S#（スポーツシャープモード）にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S（スポーツモード）になります。
- S（スポーツモード）または　I（インテリジェントモード）でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入っていてもS（スポーツモード）になります。この場合、S#（スポーツシャープモード）またはI（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。S#（スポーツシャープモード）で走行している場合は、S（スポーツモード）になります。3.0Rはエンジンオイルの温度が上がった場合もS（スポーツモード）になります。

●SI-DRIVE S#スイッチ

S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）のとき、S#（スポーツシャープモード）にすることができるスイッチです。

300766

アドバイス

S#（スポーツシャープモード）の状態でスイッチを押すと、S#（スポーツシャープモード）にする前のモードになります。

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

P (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	• 駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけてPにしてください。
R (リバース)	後退位置	• ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
N (ニュートラル)	中立位置	
D (ドライブ)	通常走行位置	• 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速を自動的に変速します。(4速オートマチック車) • 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速⇔5速を自動的に変速します。(5速オートマチック車)

☆1−12ページ参照

⚠ 警 告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注 意

- Pでエンジンをかけてください。
  Nでもエンジンはかかりますが、安全のためPでかけてください。
- P、Rに入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- P以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しのとき、D→R、R→Dと何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

アドバイス

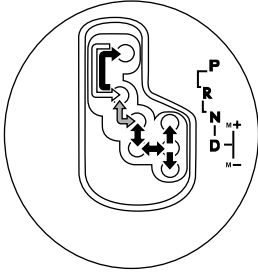
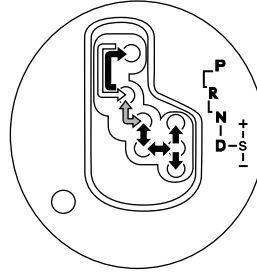
- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。（暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。）
- 通常Dで走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。
  - Nコントロール（4速オートマチック車の機能です。SI-DRIVE装備車：I 選択時、SI-DRIVE装備車以外：Info-Ecoモード選択時）
    車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
    「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。
  - 登坂制御
    登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。
  - 降坂制御（SI-DRIVE装備車：S#選択時、SI-DRIVE装備車以外：スポーツモード選択時）
    急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。
  - ブレーキング制御（SI-DRIVE 装備車：S# 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：スポーツモード選択時）
    5、4速走行中、コーナーの入口などでブレーキを強く踏むと自動的に4、3速へシフトダウンする。
  - アクセル急戻し制御（SI-DRIVE 装備車：S# 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：スポーツモード選択時）
    加速中、コーナー手前などでアクセルを急に戻してもシフトアップしない。

■セレクトレバーの操作方法

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

SI-DRIVE装備車

301115

SI-DRIVE装備車以外

301116

矢印	説明
⇩（白抜き矢印）	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
⇩（灰色矢印）	そのままゲートに沿って動かします。ただし、エンジンスイッチをOFFにした場合は、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
⬇（黒矢印）	そのままゲートに沿って動かします。

⚠ 注 意

セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーをPから他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

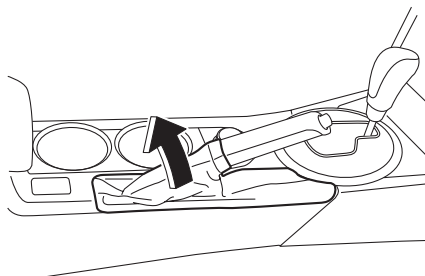
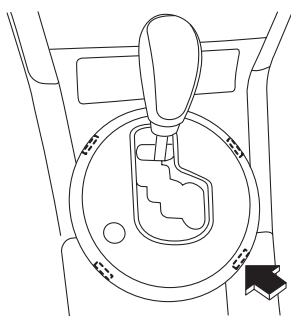
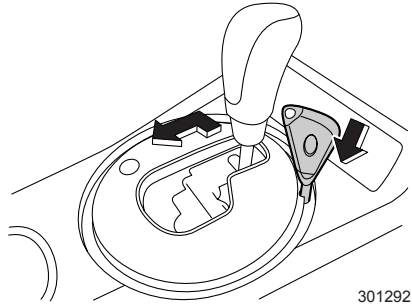
セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- Pからのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- セレクトレバーをPから他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーを抜くことができません。
  (P以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- NでエンジンをOFFにした場合、しばらくするとレバーをPに操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながらPにしてください。
  もし、セレクトレバーがNからPに操作できないときは、一旦エンジンスイッチを ON にし、ブレーキペダルを踏みながらPに操作してください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーをPから動かすことができないときは、次の手順でシフトロックの解除をします。

①駐車ブレーキレバーを引きます。

②駐車ブレーキのカバーを手で外します。

③図の矢印部分からリングを手で取り外します。

④ブレーキペダルを踏みながら、キーを挿入してシフトロック解除ボタンを押し、セレクトレバーを動かします。

シフトロックの解除操作をしても、セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。最寄りのスバル販売店に連絡してください。

運転手順

■エンジンをかける前に

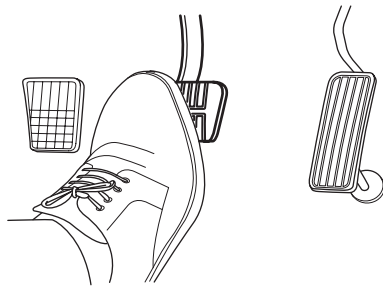
①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2−71、2−125ページ参照

②アクセルペダルの位置を右足で確認します。

③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠注 意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)

300102

■エンジン始動

①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
②セレクトレバーがPであることを確認します。

⚠注意

Nでも始動できますが、安全のためPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

アドバイス

- エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。
- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

⚠警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

②セレクトレバーをD（前進）またはR（後退）に入れます。
③セレクトレバーの位置を確認します。
④駐車ブレーキレバーを戻します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

⚠注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1－12ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し
①駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
②車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：
Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：
アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。
☆1－12ページ参照

上り坂では：
アクセルペダルを深く踏み込みます。
自動的にシフトダウンし加速します。
また、マニュアルモードに入れ勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。

下り坂では：
エンジンブレーキを併用してください。マニュアルモードでシフトダウンします。
☆3－64ページ参照

急な下り坂では：
マニュアルモードで2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

警 告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■駐車

①車を完全に止めます。

> ⚠ 注 意
> 車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

②ブレーキペダルを踏んだままの状態で、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③セレクトレバーを P に入れます。
　セレクトレバーが P のときは、車が動き出す心配がなくより安全です。
④エンジンを止めます。

☆1−24ページ参照

> ⚠ 注 意
> 車から離れるときは、必ずセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。P 以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

■停車

① D のままブレーキペダルを確実に踏みます。

> ⚠ 注 意
> エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

> アドバイス
> アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で P 、N 以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

②必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③長時間停車するときは P にします。
④停車後、再発進するときは、セレクトレバーが D にあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。
  ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

アドバイス

4速オートマチック車には、「Nコントロール」機能が装備されています（SI-DRIVE 装備車：I 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：Info-Ecoモード選択時）

車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。
アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

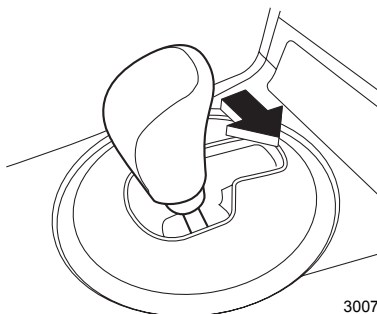
スポーツモード

SI-DRIVE装備車以外の機能です。

登坂時や加速を重視したいときに使用します。
スポーツモードにすると、変速位置がエンジンの高回転側に設定されます。
セレクトレバーがDのときレバーをマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードになり、メーター内にSPORT表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。
☆3－65ページ参照

次ページへ ⇒

⇒前ページより

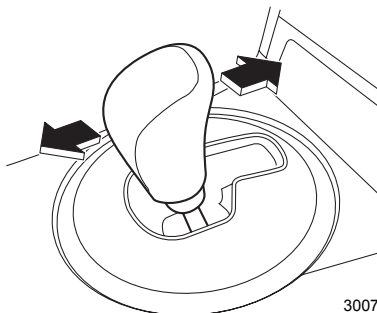
レバーを[D]または、マニュアルゲートの⊕側もしくは⊖側に移動する（マニュアルモードにする）と表示灯は消灯します。

スポーツシフト

■マニュアルモード

SI-DRIVE装備車

セレクトレバーを[D]からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

SI-DRIVE装備車以外

セレクトレバーを[D]からマニュアルゲートに動かし、⊕あるいは⊖方向に移動させるとマニュアルモードになります。

⚠ 注 意

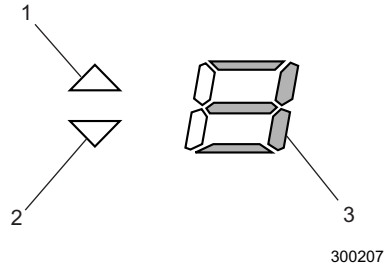
マニュアルモード操作時は以下の注意をよくお読みください。

- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より高い場合、A/T油温警告灯が点灯します。（3−44ページ参照）
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。

■シフトポジション表示灯

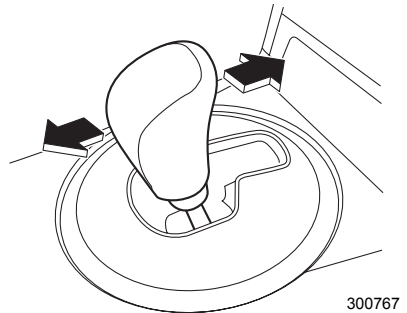
マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。
シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。
シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。

300207

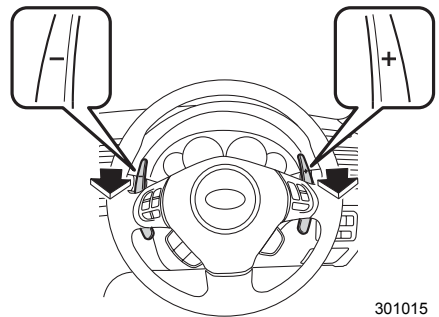
① シフトアップ可能表示灯
② シフトダウン可能表示灯
③ 変速ギヤ表示

■シフト操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。

300767

●パドルシフト

右側のレバーが⊕（アップ）になり、左側のレバーが⊖（ダウン）になります。
1 段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。

301015

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから[D]の位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、[D]のままパドルシフトで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、しばらく走行した後、通常の[D]の走行に自動的に復帰します。(操作時の走行状況により、モード切り替えや復帰時間が異なります。)このとき、シフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

⚠ 注 意

パドルシフトのレバーにアクセサリーなど物をかけないでください。アクセサリーなどをかけるとレバーが不意に動き、シフト操作をするおそれがあります。

■滑りやすい路面での発進(2速発進)

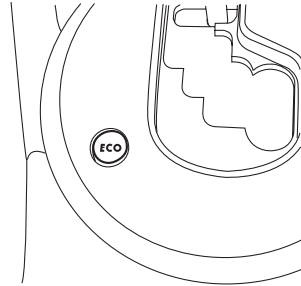
雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。
ブレーキを踏んだまま、セレクトレバーを⊕側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示灯は2速を表示します。

アドバイス

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーを[D]に戻すか、マニュアルモードとしてご使用ください。
☆3−64ページ参照

Info-ECOモードスイッチ

SI-DRIVE装備車以外の機能です。

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、Info-ECO（インフォ・エコ）モード）を選択するスイッチです。
スイッチはセレクトレバーの横にあります。

300769

●ノーマルモード

通常の走行で使用するモードです。
「ECO」スイッチがOFFで“Info-ECO”表示灯は消灯しています。

●Info-ECOモード

エンジンおよびオートマチックトランスミッションの最適な制御によって燃費を向上させるモードです。
“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的にノーマルモードに戻ります。このとき“Info-ECO”表示灯は消灯します。

“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

アドバイス

- スイッチを押すごとに「ノーマルモード」と「Info-ECO モード」の切り換えを行います。
  「Info-ECO モード」選択時は、メーター内の“Info-ECO”表示灯が点灯します。また、走行中「ノーマルモード」に戻る場合は消灯します。

☆3−38ページ参照

- Info-ECOモード選択時に以下を行う場合、“Info-ECO”表示灯が消灯し、Info-ECOモードは解除されます。
  − スポーツモードにする
  − クルーズコントロールを作動させる
  これらの作動を解除すると、Info-ECOモードが復帰します。

☆3−63、3−73ページ参照

SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）

SI-DRIVE※は、３つの特性をもった走行モードの、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）、S#（スポーツシャープモード）を選べるシステムです。

I（インテリジェントモード）：
　ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

S（スポーツモード）：
　「I」よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

S#（スポーツシャープモード）：
　最高の走行性を引き出すモードです。山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時などに適しています。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

●SI-DRIVEセレクター

セレクターを左に回すとS（スポーツモード）、右に回すとS#（スポーツシャープモード）、押すとI（インテリジェントモード）になります。
操作後、スイッチは元の位置に戻ります。

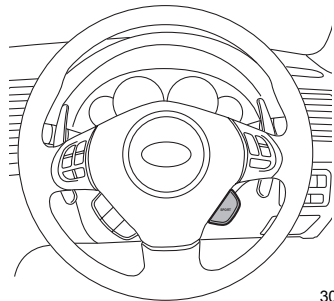
アドバイス

- エンジン冷間時は、S#禁止表示灯が点灯します。この場合、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。
- S#（スポーツシャープモード）にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S（スポーツモード）になります。
- S（スポーツモード）または I（インテリジェントモード）でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。

- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入っていてもS（スポーツモード）になります。この場合、S#（スポーツシャープモード）またはI（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。S#（スポーツシャープモード）で走行している場合は、S（スポーツモード）になります。3.0Rは、エンジンオイルの温度が上がった場合もS（スポーツモード）になります。
- I（インテリジェントモード）選択時にクルーズコントロールの走行速度をセットすると、"Info-ECO"表示灯が消灯します。
  ただし、この場合の走行モードはI（インテリジェントモード）のままです。セット速度を解除すると、"Info-ECO"表示灯がふたたび点灯します。

☆3−73ページ参照

●SI-DRIVE S#スイッチ

S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）のとき、S#（スポーツシャープモード）にすることができるスイッチです。

300766

アドバイス

S#（スポーツシャープモード）の状態でスイッチを押すと、S#（スポーツシャープモード）にする前のモードになります。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
  やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
  この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では充分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると､車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ー 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

  なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

☆7－20ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です。
ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況に合った駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

VTD-AWD

5速オートマチック車およびVDC装着の4速オートマチック車の機構です。
VTD-AWD システム（不等＆可変トルク配分電子制御 AWD）を採用しています。走行状態、路面状況に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

VDC装着車を除く4速オートマチック車の機構です。
アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

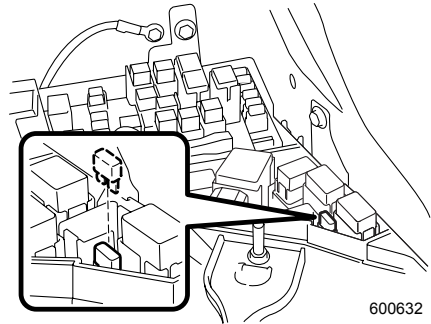
■全輪駆動の強制解除（VDC装着車を除く4速オートマチック車）

応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。

600632

① エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーにヒューズカバー裏のスペアヒューズ（どれでも可能）を差しこみます。
② 全輪駆動が解除され前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。
③ タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。
④ 抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

☆7−8ページ参照

⚠ 注 意

FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

クルーズコントロール✽

クルーズコントロール（自動定速走行装置）は、アクセルペダルを踏まなくても約 40 ～ 100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる機能です。

⚠ 警 告

次のような道路では危険ですので使用しないでください。
- 交通量が多く、車間距離が充分に取れない道路
- 急な下り坂や急カーブが多い道路
- 凍結、積雪などで滑りやすい道路

⚠ 注 意

もし走行中にクルーズコントロール表示灯“CRUISE”の点滅とエンジン警告灯“ ”の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

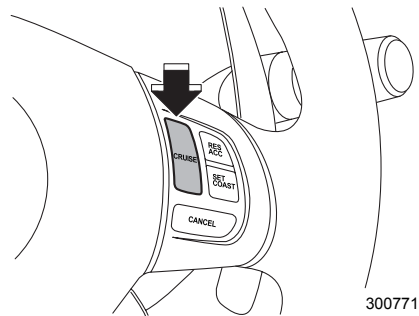
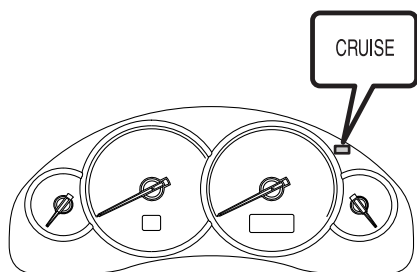
アドバイス

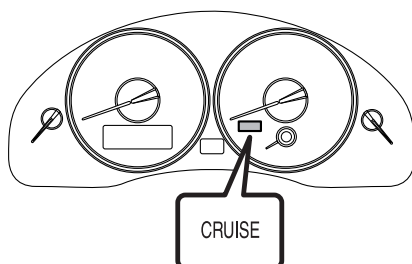
- 上り坂や下り坂では勾配、積載量により、一定車速を保てない場合があります。
- クルーズコントロールスイッチを押しながらエンジンを始動させると、クルーズコントロール表示灯“CRUISE”が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチを OFF にしてスイッチに触れずに再度エンジンを始動させてください。

■CRUISEスイッチ

①CRUISE スイッチを押すとクルーズコントロールが作動可能になります。クルーズコントロール表示灯も点灯します。

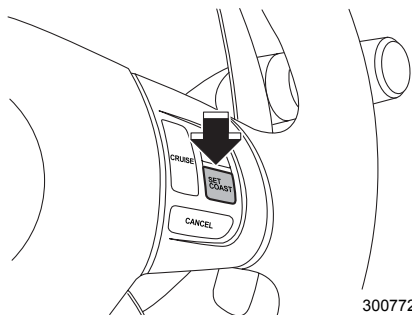
☆3－40ページ参照

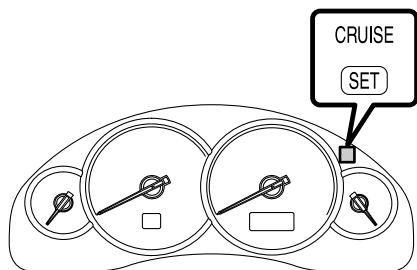
運転するとき

タイプAメーター

301059

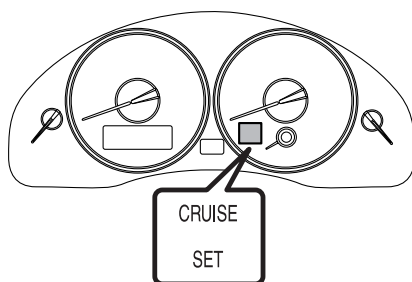
タイプBメーター

300789

②スイッチをもう一度押すと作動停止します。エンジンを止めたときも自動的に作動停止し、表示灯は消灯します。

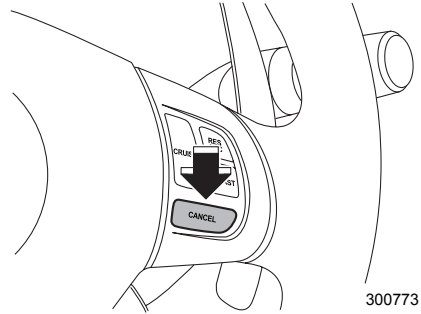
■速度をセットするとき

①CRUISE スイッチを押して作動可能にします。
②アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
③希望する速度になったとき　SET/COAST スイッチを押すと速度が設定されます。
メーター内にクルーズコントロール車速セット表示灯が設定されたことを示します。

300772

タイプAメーター

301061

タイプBメーター

300792

■一時解除

次の場合は速度セットが一時的に解除されます。メーター内のクルーズコントロール車速セット表示灯も消えます。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- CANCELスイッチを押したとき。

■一時解除の復帰

RES/ACCスイッチを押します。解除前の設定した速度まで復帰します。

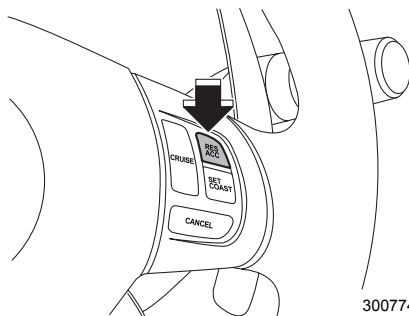
アドバイス

- 復帰できるのは速度が32 km/h以上のときのみです。
- スイッチを押し続けても最初に設定した速度以上にはなりません。設定した速度を変えたい場合は、復帰操作が終了した後にセットし直してください。
- 速度が32 km/h以下になったときは速度メモリーが消去され、復帰操作はできません。
- 一時解除後、速度が32 km/h以下になった場合は再度セットし直してください。

■セット速度を高めるとき

次の二つの方法があります。

- RES/ACC スイッチを押し続け、希望速度になったら離す。

300774

- アクセルペダルで加速し、希望速度になったらSET/COASTスイッチを押して、速度をセットし直す。

セット速度を少し上げたいときは、RES/ACCスイッチを軽く押すと1 km/h上げることができます。

■一時的に加速したいとき

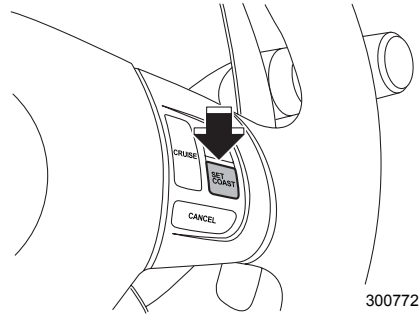
追越しなどで加速したいときはアクセルペダルを踏み込んでください。
アクセルペダルから足を離すと設定した速度まで自動的に戻り、定速走行を続けます。

アドバイス

操作スイッチでの急加速はできません。

■セット速度を下げるとき

次の二つの方法があります。

- SET/COASTスイッチを押し続け、希望速度になったら離す。

300772

- ブレーキペダルで減速し、希望速度になったらSET/COASTスイッチを押して、速度を設定し直す。

セット速度を少し下げたいときは、SET/COAST スイッチを軽く押すと 1 km/h下げることができます。

■一時的に減速したいとき

減速するときはブレーキペダルを踏んでください。設定した速度に戻すときは復帰操作をしてください。

☆3−75ページ参照

- 操作スイッチでの急減速はできません。
- 下り坂ではエンジンブレーキと併用してください。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

⚠ 注 意

- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABS を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
  - マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
  - 道路のつなぎ目などの段差
  - 凹凸路、石畳などの悪路
  - 下り坂での旋回
  - 路肩に草や砂利が多い道路
  - 砂利道
  - 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時には ABS の付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

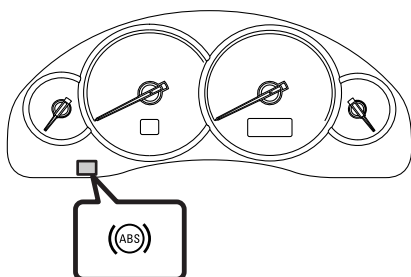
ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

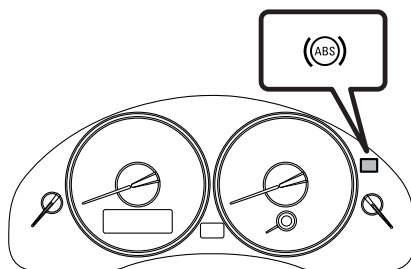
■振動や音について

- ABS が作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  – エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  – ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

タイプAメーター

301063

タイプBメーター

300787

⚠ 注 意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしては作動しません）

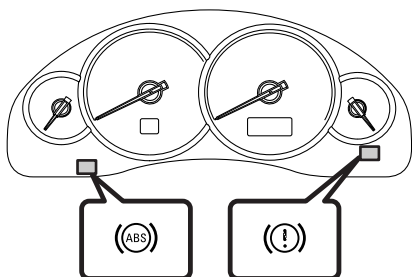
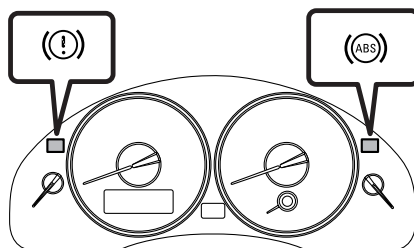
アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

タイプAメーター

タイプBメーター

注 意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3−41ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。
ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

⚠ 注 意

ブレーキ･アシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキ･アシスト機構が正常に機能しているときの現象で､異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くかかるようになります。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、コクッと音が聞こえることがあります。

VDC※

ビークルダイナミクスコントロールシステム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。
VDC システムは、横滑りや尻振りや車輪の空転を起こしそうになると ABS 機能、トラクションコントロール（TCS）機能および横滑りコントロール機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

■トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。
この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点灯します。
☆3－84ページ参照

●電子制御リミテッドスリップディファレンシャル（LSD）機能

トラクションコントロール（TCS）機能の中には、リミテッドスリップディファレンシャル（LSD）機能も含まれます。この機能は、一般的なLSDの機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ（空転）しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面上でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。
この機能が作動すると、VDC作動表示灯の点滅と同時にブザー（ピピピ音）が鳴ります。
☆3－84ページ参照

⚠ 注 意

- VDC を過信しないでください。VDC が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を充分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは､5－2ページの記載事項をお守りください。

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記項目をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- VDC 装着車であってもカーブなどの手前では、充分に速度を落としてください。
- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8−6ページ参照

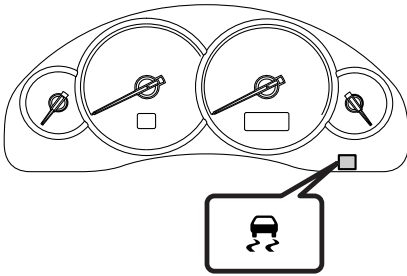
アドバイス

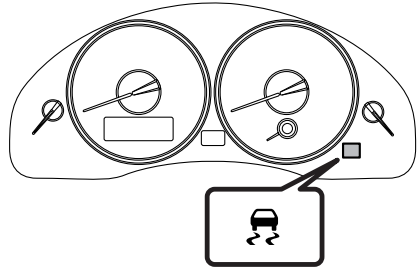
- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
  他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
  エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6−17、7−10ページ参照

■VDC作動表示灯

VDC機能作動時は点滅します。このときブザー音（ピピピ音）が鳴ります。TCS機能作動時は点灯します。

タイプAメーター

301067

タイプBメーター

300793

アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約2秒後消灯するのが正常です。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下においてTCS機能、VDC機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- ぬかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。

スイッチは、運転席ロアカバー左側（オーディオシステムの右横）にあります。

300218

- エンジン回転状態のとき、VDC OFF スイッチを押すと、VDC警告灯／VDC OFF表示灯が点灯し、VDC機能、TCS機能が作動停止状態になり、VDC機能、TCS機能が装備されていない車両と同じ走行性能になります。
  ただし、作動停止状態でも電子制御LSD機能は残ります。
- 作動可能状態に復帰させるときには、もう一度VDC OFFスイッチを押します。

⚠ 注 意

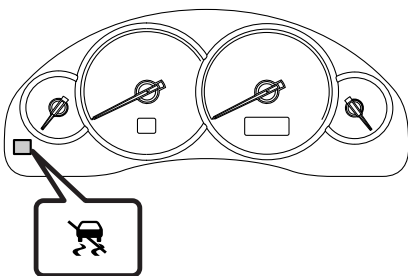
VDC機能、TCS機能を解除したままにすると駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。
そのため、必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を作動停止状態にしないでください。

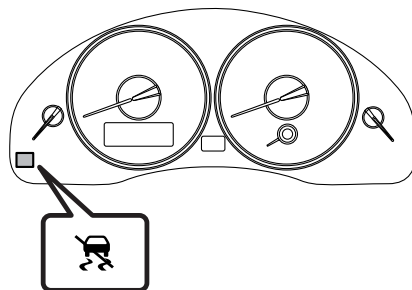
アドバイス

- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯／VDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。
  この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。

■VDC警告灯／VDC OFF表示灯

VDC警告灯／VDC OFF表示灯は、以下の場合に点灯します。
- VDCの電子制御システムに異常があるとき。
- VDC機能、TCS機能が作動停止状態のとき。
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能、TCS機能を作動停止状態にしたとき。

タイプAメーター

301069

タイプBメーター

300794

⚠ 注 意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
  - エンジンスイッチONで点灯しないとき
  - 点灯したままのとき

  ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
  上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチがONで点灯、エンジン始動後消灯するのが正常です。
  また、次の場合も正常です。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
  - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しないとき。

☆3−46ページ参照

- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

リヤビューカメラ✤

リヤビューカメラはエンジンスイッチが ON のとき、セレクトレバーを R にすると自動的に車両後方の映像をモニターに映し出す装置です。

⚠ 警告

- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- モニターに映し出される映像の範囲には限界がありますので、直接目視やミラーで後方および周囲の安全を確認し、ゆっくりとした速度で後退してください。モニターのみで確認し後退すると、車をぶつけたり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造しないでください。万一煙が出たり変なにおいがした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのままご使用になると、事故、火災、感電の原因となります。

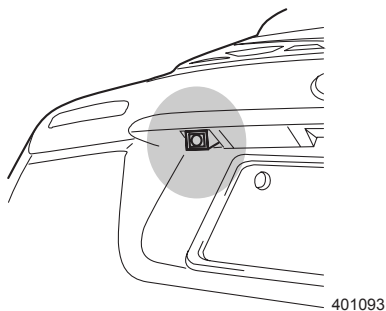
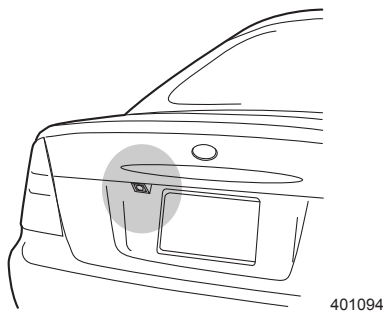
⚠ 注意

- 高圧洗車機を使用して洗車する場合には、カメラ周辺部に直接水をかけないでください。レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えないでください。故障や、火災、感電の原因となります。
- カメラに泥や雪などが付着して泥が固まったり、凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や、氷を落とすと、破損して火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭きとってください。
- カメラや配線類に火気を近づけないでください。破損や発火の原因となります。
- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、うすめた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布でから拭きをしてください。
- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水でうすめた中性洗剤を含ませワックスを落としてください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしておりますが、ボディ洗車する場合やレンズカバーを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
  レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。リヤビューカメラの映像が見づらくなることがあります。
- レンズに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 蛍光灯などの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- リヤビューカメラの映像は実際の色味とは多少異なることがあります。

■リヤビューカメラの位置

<ワゴン>

<セダン>

■リヤビューカメラの使用方法

●リヤビューカメラの映像を見るには

リヤビューカメラは、セレクトレバーを[R]にすると自動的に車両後方の映像を表示します。[R]以外にすると、切り替わる前の画面表示になります。

①車両のエンジンスイッチをONにする。

②セレクトレバーを[R]に入れる。

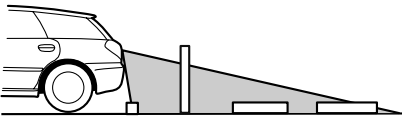
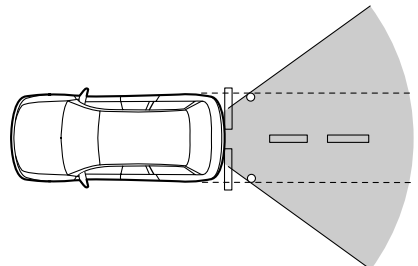
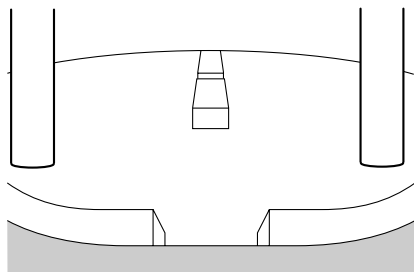
アドバイス

- リヤビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。（ただし、ナビゲーションシステムが起動中は映像は映し出されません。）
- リヤビューカメラの映像は、車両のバックミラーやサイドミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
- 次のような場合には、リヤビューカメラの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - ー 暗いところ（夜間、トンネルなど）。
  - ー カメラ付近が極端に熱いとき、または寒いとき。
  - ー カメラのレンズカバーが汚れているとき。
  - ー 直接カメラに強い光が入るとき。（映像に白い縦線など影響が出る事があります）。
  - ー レンズカバーに水滴がついたとき、または湿度が高いとき。（雨天時など）

■画面に映る範囲

●画面に映る範囲

- バンパー後端から車の後方が映ります。ただしバンパー両端付近やバンパーの下にあるものは、映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。障害物の上部に突起などがある場合、画面上では確認できません。
- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。

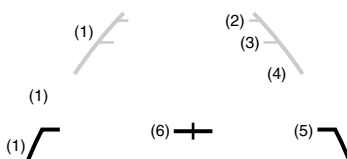
映し出される範囲

カメラからの映像

401097

> ⚠ **注 意**
>
> リヤビューカメラの映し出す範囲には限界があります。必ず直接目で確認しながら後退してください。

●距離・車幅マーカー（補助線）

距離・車幅マーカー（補助線）は、実際の距離と画面で見ている感覚を補助するための目安です。

セレクトレバーを[R]に入れるとモニターに後方の映像とともに、距離・車幅マーカーが表示されます。

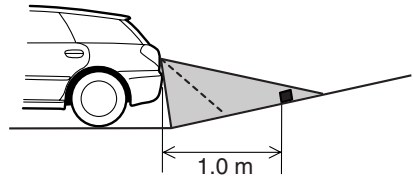
(1)車幅線（斜め縦線）
(2)バンパーから約3m（緑横線）
(3)バンパーから約2m（緑横線）
(4)バンパーから約1m（黄横線）
(5)バンパーから約0.5m（赤横線）
(6)バンパーから約 0.5m と車両中心を示す十字線（赤線）

401098

> ⚠ **注 意**
>
> - 後退時は、距離マーカーを頼らず直接目で確認してください。
> - 実際の位置と距離マーカーの指示が異なる場合があります。
> - 搭乗人数や積載状態によってズレが生じます。
> - 坂道や車両が路面に対して傾いている場合には、実際の位置とズレを生じます。

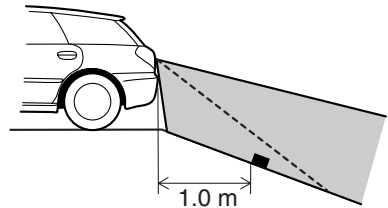
▼画面と実際の路面との誤差

距離マーカーは車両に積載がない状態での水平な路面に対しての距離を示しています。積載状況、路面状態などにより実際の距離と異なる場合があります。

後方に上り坂がある場合

実際の距離より、画面上の距離のほうが遠くにあるように見えます。

401099

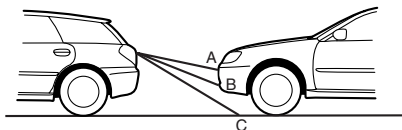
後方に下り坂がある場合

実際の距離より、画面上の距離のほうが近くにあるように見えます。

401100

積載時は、後方が上り坂と同じように実際の距離より遠くあるように見えます。

▼距離マーカーの特性

距離マーカーは、路面上の距離を映し出すため、立体的な物体が後方にある場合、正しい距離表示ができません。

A 3m表示ライン
B 2m表示ライン
C 1m表示ライン

401101

■故障かなと思ったら

●リヤビューカメラの映像が映らない。

- セレクトレバーはRになっていますか？
- ヒューズが切れていませんか？

●リヤビューカメラの映像の映りが悪い。

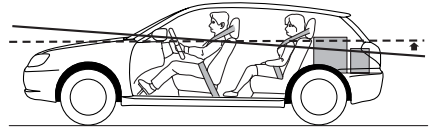
- レンズカバーが汚れていませんか？
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドランプの光が直接レンズにあたっていませんか？

サスペンション

セルフレベリングサスペンション

リヤサスペンションのダンパーにはセルフレベリング（後輪車高調整）機能が組み込まれています。
荷物や乗員を乗せたときに車両後部が下がるのを防ぎ、通常の車高を保つように調整します。

■積載時

重い荷物や乗員を乗せると車両後部が下がりますが、しばらく走行すると、自動的に車両を通常の車高に調整します。

300219

■積載を降ろしたとき

荷物や乗員を降ろすと通常よりも車高が高くなりますが、しばらく走行すると自動的に通常の車高に戻ります。

300220

⚠ 注 意

積載重量を超えて使用しないでください。セルフレベリングサスペンションの故障の原因となります。

アドバイス

積載状態で長時間放置すると、徐々に車高は低下します。（積載量に応じて低下量は変化します。

リミテッドスリップディファレンシャル

リヤリミテッドスリップディファレンシャル(LSD)

後輪の片輪がスリップ(空転)しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面上でも駆動力を確保します。

注 意

ぬかるみなどで、後輪の片方のタイヤが著しく空転しているときは、高回転で空転をさせ続けることは避けてください。LSDが損傷するおそれがあります。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

室内装備品の使いかた

エアコン

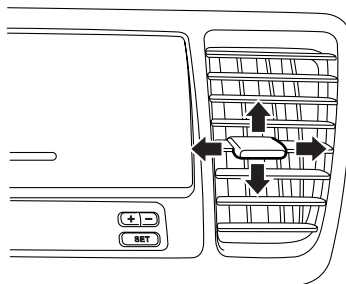
オーディオシステム

室内装備

エアコン

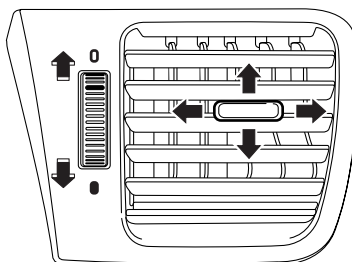
吹き出し口の調整

●中央吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。

●左右吹き出し口

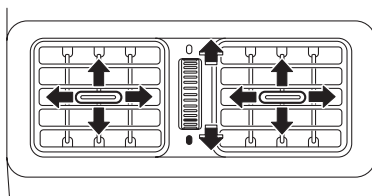
吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。
ダイヤルを上下に動かして吹き出し口を開閉します。

0：全開

●：全閉

●後席用吹き出し口

吹き出し口のノブを左右に、また、吹き出し口全体を上下に動かして風向きを調整します。
ダイヤルを上下に動かして吹き出し口を開閉します。

：全開

：全閉

400690

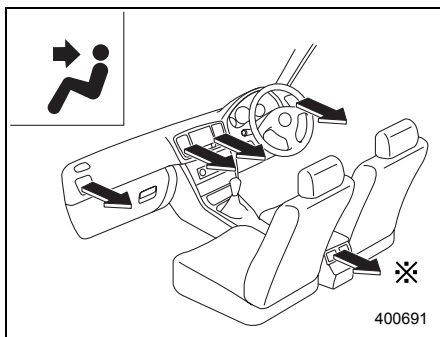
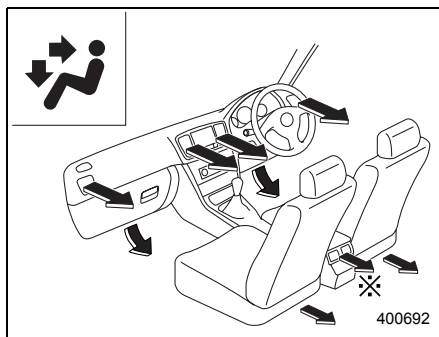
吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。
左右の吹き出し口からは、常時送風します。
送風を止めるときは、左右の吹き出し口のダイヤルを動かして吹き出し口を閉じてください。

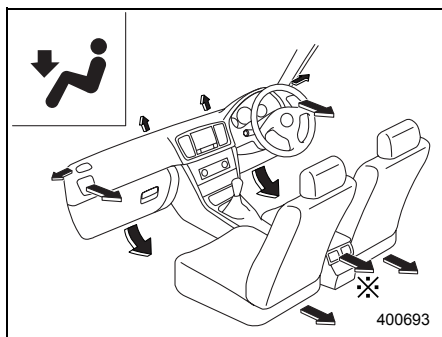
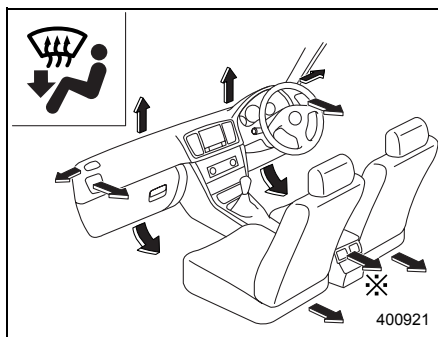
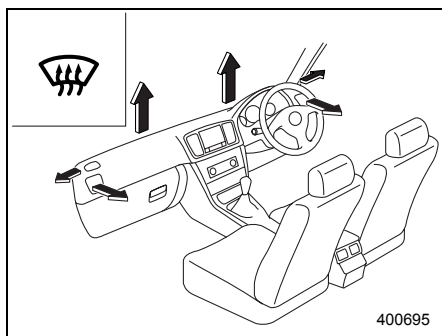
●上半身に送風したいとき

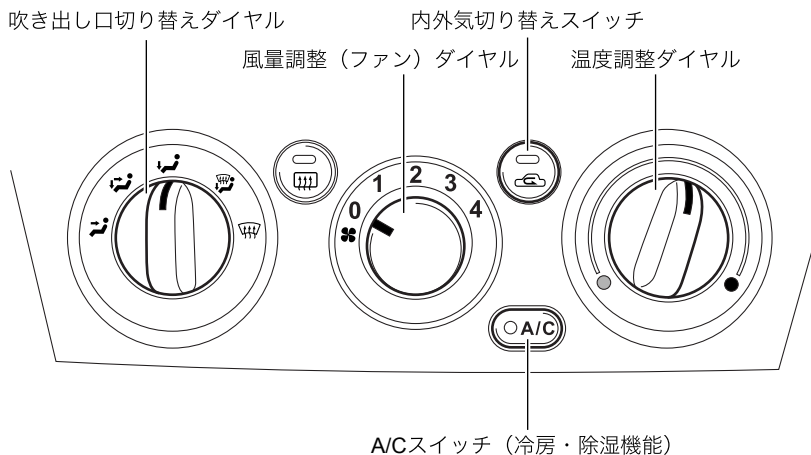
400691

●上半身と足元に送風したいとき

400692

次ページへ ⇒

⇒前ページより

●足元に送風したいとき

●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●窓ガラスの曇りを取りたいとき

※グレードにより後席用吹き出し口が装備されます。

マニュアルエアコン

400922

■エアコンの使いかた

エンジンをかけているとき、風量調整（ファン）ダイヤルを「0」以外の位置にすると作動します。冷房･除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整（ファン）ダイヤルを「0」にすると止まります。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。

次ページへ ⇒

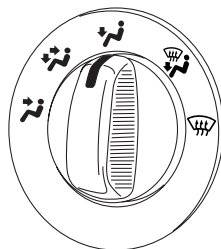
⇒前ページより

- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置に付いて、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみになり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に２、３回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の場合、冷房・除湿機能は作動しません。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）

■操作パネルの使いかた

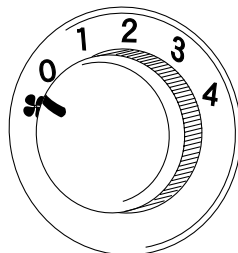
●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

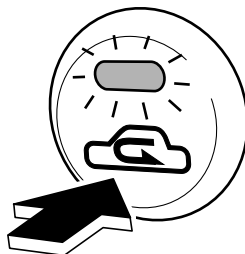
内気循環時でも、ダイヤルをあるいはにしたときは、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）が作動し、外気導入に切り替わります。

400183

●風量調整（ファン）ダイヤル

風量を４段階に調整できます。

数字が大きくなるほど強くなります。

400184

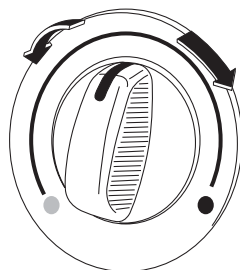
●内外気切り替えスイッチ

一時的に外気を遮断したい場合に使います。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。
早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。
表示灯が点灯しているときが内気循環です。

400185

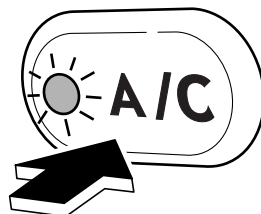
⚠注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

送風温度を調整します。
温度を上げるときは右へ、下げるときは左へ回します。

400186

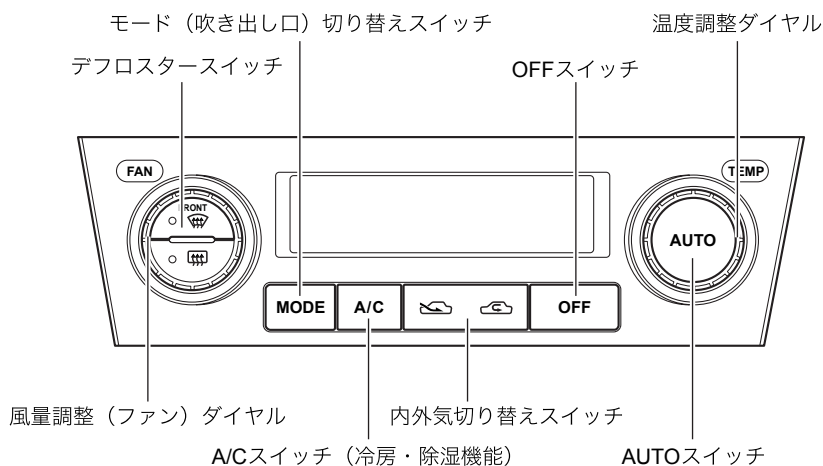
●A/Cスイッチ

風量調整（ファン）ダイヤルが「0」以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。

400187

■エアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/Cスイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房		希望位置	ON	希望位置（中間より左側）	外気導入	●早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 ●冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房		希望位置	ONまたはOFF	希望位置（中間より右側）	外気導入	●ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 ●顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房		希望位置	ONまたはOFF	希望位置（中間）	外気導入	●温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱		希望位置	ONまたはOFF	希望位置（中間）	外気導入	●温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去		希望位置	ON	中間より右側	外気導入	●夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドゥの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能を「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気		希望位置	OFF	希望位置	外気導入	—

注）吹き出し口切り替えダイヤルをあるいはにすると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになり、外気導入に切り替わります。

フルオートエアコン（シングルタイプ）

■フルオートでの使いかた

エンジンをかけているとき、AUTO スイッチを押して温度調整ダイヤルで希望温度に設定します。各機能を自動的にコントロールし、オールシーズンにおいて室内を快適に保ちます。作動状態が表示部および各スイッチの作動表示灯により表示されます。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冬季などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しモードになり、ファンは低速回転で作動します。
- オート作動中は、気温に応じて冷房・除湿機能が自動的に停止します。気温が低いときの曇り取りや除湿効果を高めたいときは、A/Cスイッチを押してください。
- 設定温度を下げていくと、冷房・除湿機能は自動的に作動し、A/C表示します。
- 次の場合、冷房・除湿機能は作動しません。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- エンジンスイッチをOFFにしてエアコンを止めた場合、再始動時は止める直前の状態に戻ります。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置について、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。設定温度25℃付近でお使いください。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。

■手動選択で使うとき（マニュアル）

オート作動中、各スイッチ（温度調整ダイヤル、OFF スイッチを除く）のいずれかを押すと、押したスイッチの機能のみ固定され、他の機能は自動コントロールされます。このとき表示部のAUTOが消えます。手動選択を解除するときはAUTOスイッチを押します。

■各スイッチの機能

●AUTOスイッチ

オート機能を使うときに押します。
設定温度に応じて、吹き出し口切り替えやファン風量、冷房・除湿機能の作動、内外気切り替えなどを全て自動制御します。

400697

●温度調整ダイヤル

室内温度を調整するとき使います。
0.5℃ごとに変化します。
温度設定は 18.0 ～ 32.0 ℃の範囲で変更できます。ただし、18.0℃または32.0℃を設定したときは最大冷房または最大暖房となります。

400698

アドバイス

- 急速冷暖房をしたいときでも、設定温度を変える必要はありません。設定温度になるまで自動的に急速冷暖房されます。
- 設定温度は記憶されています。ただし、バッテリーの接続を外したときは25.0℃にセットされます。

●デフロスタースイッチ

フロントガラス、サイドガラスの曇りや霜を取るときに使います。スイッチを押すと効果的に曇りを取るために、自動的に外気導入、除湿機能作動、デフロスター吹き出しにセットされます。

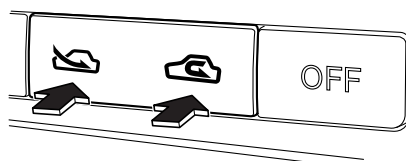
デフロスタースイッチをもう一度押すと、デフロスター作動前の状態に戻ります。

400699

●内外気切り替えスイッチ

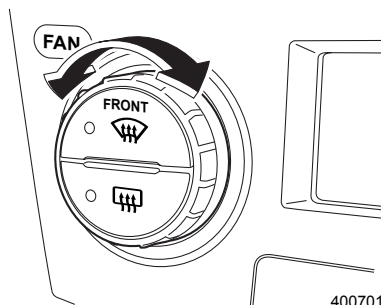
一時的に外気を遮断したい場合に使います。

を押すと内気循環になり、を押すと外気導入になります。

早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。

400980

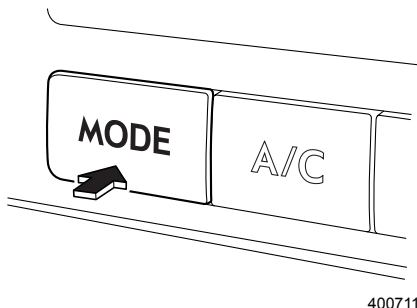
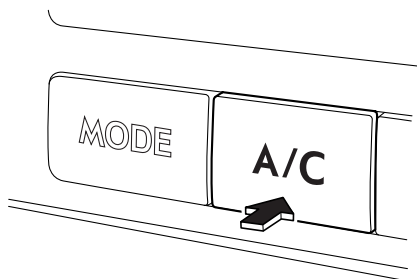
> **⚠ 注 意**
>
> 内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
>
> また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●**風量調整（ファン）ダイヤル**

風量を調整し固定するときに使います。右に回すと風量が増し、左に回すと風量が減ります。

400701

●**モード（吹き出し口）切り替えスイッチ**

吹き出し口を固定するときに使います。
スイッチを押すごとに切り替わります。
☆4－3ページ参照

400711

アドバイス

吹き出し口を（デフロスター）にするときは、デフロスタースイッチを押してください。
☆4－12ページ参照

アドバイス

- 降雪時はフロントガラスの氷結を防止するためで走行することをお奨めします。
- を選択すると自動的に外気導入、除湿機能ONになります。
- を選択時、顔が熱い場合は、温度調整ダイヤルを回し、適温になるよう調整してください。

●A/Cスイッチ

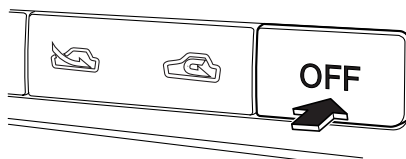
冷房・除湿機能の作動をONまたはOFFに固定するときに使います。スイッチを押すごとにON⇔OFFが交互に切り替わります。暖房時でもウインドゥの曇りを取る場合や、除湿効果を高めたいときに使います。

400712

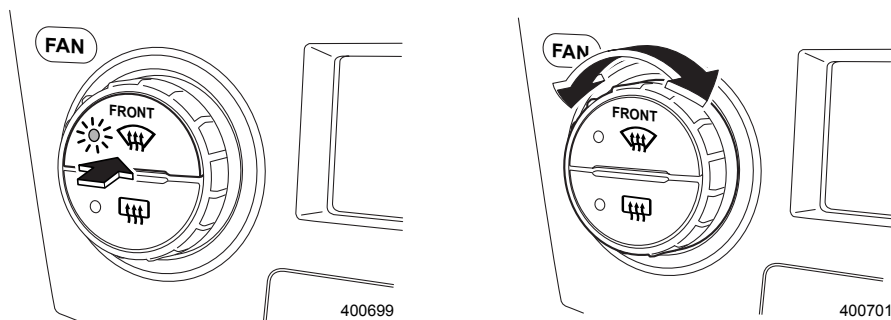
アドバイス

- 冷房・除湿機能はファンが作動していないときにスイッチを押しても作動しません。
- 気温が0 ℃以下のときは冷房・除湿機能は作動しません。

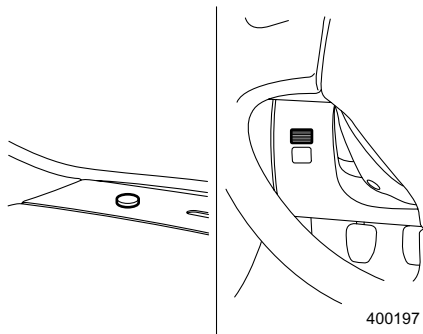
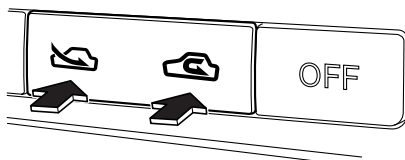
■停止するとき

エアコン使用中、OFF スイッチを押すとエアコンは止まります。
このとき内外気切り替えは自動的に外気導入になります。

400704

■OFF状態からの使いかた

- デフロスタースイッチを押す、または風量調整ダイヤルを回すとエアコンが作動します。この場合、押したスイッチと手動選択した機能が固定され、他の機能は自動制御されます。オート作動にするときはAUTOスイッチを押します。

- モード切り替えスイッチを押すとファン、冷房・除湿機能を作動させずに走行風だけの空調ができます。オート作動にするときはAUTOスイッチを押します。

アドバイス

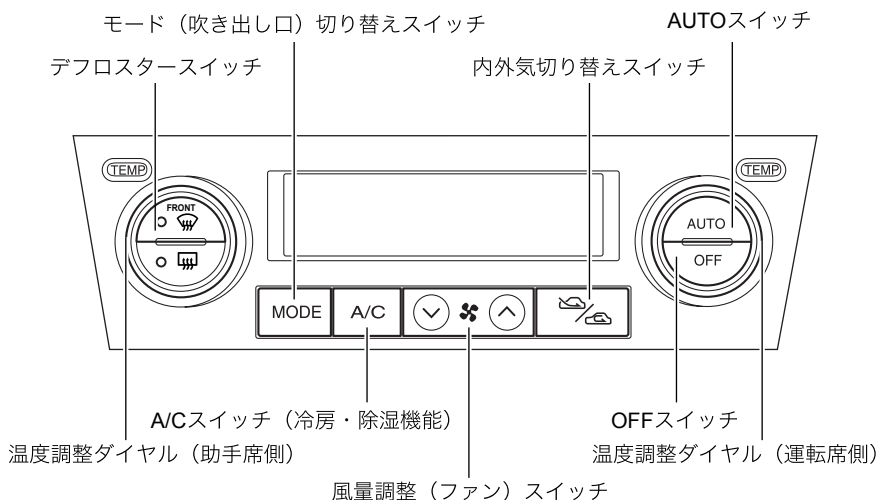
走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。

- 内外気切り替えスイッチのを押すと内気循環になります。を押すと外気導入に切り替わります。

400980

■感知センサー

オートエアコンには次のセンサーが付いています。

- 日射センサー（計器盤の左端）
- 室内温度感知センサー（運転席ロアカバー左側）
- 外気温度センサー（フロントバンパー裏側）

センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

フルオートエアコン（左右独立タイプ）

400924

フルオートエアコン（左右独立タイプ）は、吹き出し口の設定温度を運転席側と助手席側で別々に設定することができます。

■フルオートでの使いかた

エンジンをかけているとき、AUTO スイッチを押します。左右にある温度調整ダイヤルで、助手席側と運転席側それぞれの希望温度を設定します。各機能を自動的にコントロールし、オールシーズンにおいて室内を快適に保ちます。作動状態が表示部および各スイッチの作動表示灯により表示されます。

400706

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冬季などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しモードになり、ファンは低速回転で作動します。
- オート作動中は、気温に応じて冷房・除湿機能が自動的に停止します。気温が低いときの曇り取りや除湿効果を高めたいときは、A/Cスイッチを押してください。
- 設定温度を下げていくと、冷房・除湿機能は自動的に作動し、A/C表示します。
- 次の場合、冷房・除湿機能は作動しません。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- エンジンスイッチをOFFにしてエアコンを止めた場合、再始動時は止める直前の状態に戻ります。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置について、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。設定温度25℃付近でお使いください。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。

■手動選択で使うとき（マニュアル）

オート作動中、各スイッチ（温度調整ダイヤル、OFF スイッチを除く）のいずれかを押すと、押したスイッチの機能のみ固定され、他の機能は自動コントロールされます。このとき表示部のAUTOが消えます。手動選択を解除するときはAUTOスイッチを押します。

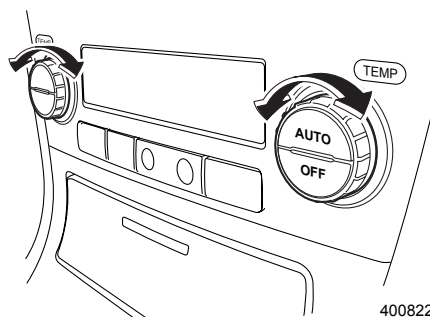
■各スイッチの機能

●AUTOスイッチ

オート機能を使うときに押します。
設定温度に応じて、吹き出し口切り替えやファン風量、冷房・除湿機能の作動、内外気切り替えなどを全て自動制御します。

400706

●温度調整ダイヤル

室内温度を調整するとき使います。
0.5℃ごとに変化します。
温度設定は 18.0 ～ 32.0 ℃の範囲で変更できます。ただし、18.0℃または32.0℃を設定したときは最大冷房または最大暖房となります。
また、温度は、運転席側と助手席側を別々に設定することができます。

400822

表示部には、運転席側、助手席側それぞれの設定温度が表示されます。

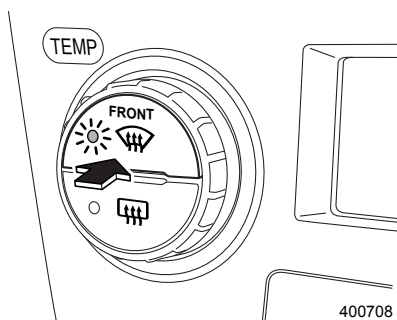
（a）運転席側設定温度
（b）助手席側設定温度

400703

アドバイス

- 急速冷暖房をしたいときでも、設定温度を変える必要はありません。設定温度になるまで自動的に急速冷暖房されます。
- 設定温度は記憶されています。ただし、バッテリーの接続を外したときは25.0℃にセットされます。

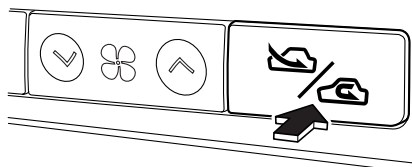
●デフロスタースイッチ

フロントガラス、サイドガラスの曇りや霜を取るときに使います。スイッチを押すと効果的に曇りを取るために、自動的に外気導入、除湿機能作動、デフロスター吹き出しにセットされます。
デフロスタースイッチをもう一度押すと、デフロスター作動前の状態に戻ります。

400708

●内外気切り替えスイッチ

一時的に外気を遮断したい場合に使います。スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。
早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。

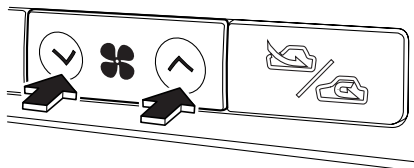
: 外気導入

: 内気循環

400709

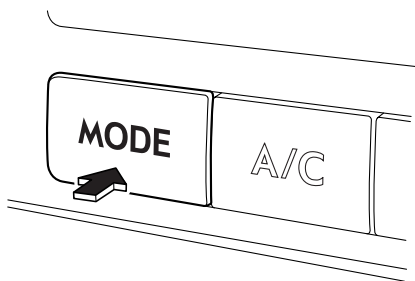
⚠ 注 意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●風量調整（ファン）スイッチ

風量を調整し固定するときに使います。∧を押すと風量が増し、∨を押すと風量が減ります。

400710

●モード（吹き出し口）切り替えスイッチ

吹き出し口を固定するときに使います。
スイッチを押すごとに切り替わります。
☆4－3ページ参照

400711

アドバイス

吹き出し口を（デフロスター）にするときは、デフロスタースイッチを押してください。
☆4－20ページ参照

アドバイス

- 降雪時はフロントガラスの氷結を防止するためで走行することをお奨めします。
- を選択すると自動的に外気導入、除湿機能ONになります。
- を選択時、顔が熱い場合は、温度調整ダイヤルを回し、適温になるよう調整してください。

●A/Cスイッチ

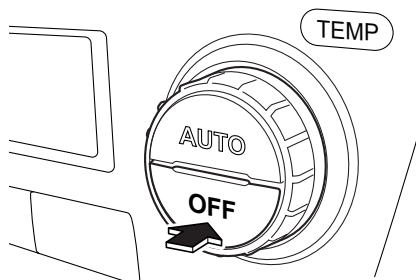
冷房・除湿機能の作動をONまたはOFFに固定するときに使います。スイッチを押すごとにON⇔OFFが交互に切り替わります。暖房時でもウインドゥの曇りを取る場合や、除湿効果を高めたいときに使います。

400712

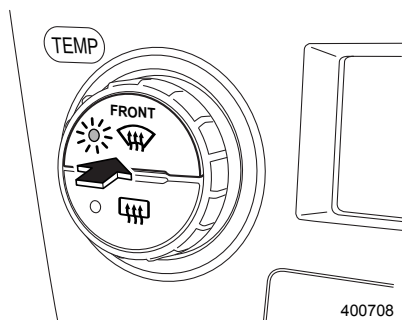
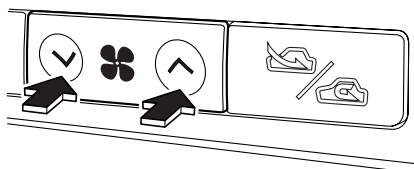
アドバイス

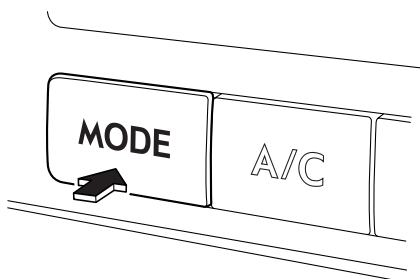
- 冷房・除湿機能はファンが作動していないときにスイッチを押しても作動しません。
- 気温が0 ℃以下のときは冷房・除湿機能は作動しません。

■停止するとき

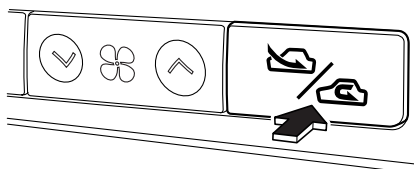
エアコン使用中、OFF スイッチを押すとエアコンは止まります。
このとき内外気切り替えは自動的に外気導入になります。

400713

■OFF状態からの使いかた

- デフロスタースイッチまたはファンスイッチを押すとエアコンが作動します。
  この場合、押したスイッチと手動選択した機能が固定され、他の機能は自動制御されます。オート作動にするときはAUTOスイッチを押します。

400708

400710

- モード切り替えスイッチを押すとファン、冷房・除湿機能を作動させずに走行風だけの空調ができます。オート作動にするときはAUTOスイッチを押します。

400711

走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。

- 内外気切り替えスイッチを押すと内気循環になります。さらにスイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。

400709

■感知センサー

オートエアコンには次のセンサーが付いています。

- 日射センサー（計器盤の左端）
- 室内温度感知センサー（運転席ロアカバー左側）
- 外気温度センサー（フロントバンパー裏側）

センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

オーディオシステム

あらかじめ知っておいていただきたいこと

⚠ 注 意

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- 運転者は車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。
- 内部に水や異物を入れないでください。故障の原因となります。
- お子さまがディスク挿入口に指を入れないようにしてください。けがの原因となるおそれがあります。

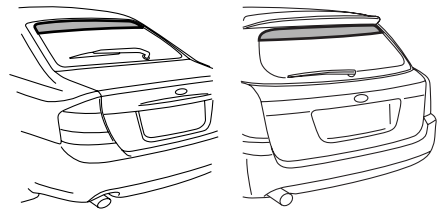
■ラジオ受信について

- 受信感度は周囲の状況、気象状況、送信局からの電波の強さ、送信局からの距離によって影響を受けます。山ろくや建物の近くでは電波がさえぎられたり、電波が反響したりして受信状態が悪くなることがあります。また、電車の架線や高圧電線の近くでは高圧電流の影響でノイズ（雑音）が入ったりするなど受信状態が悪くなることがあります。
- ラジオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

■アンテナについて

アンテナは、リヤウインドゥの内側にプリントされています。

ナビゲーションシステム付車の場合、ワゴンはリヤクォーター左右のウインドゥに、セダンはリヤウインドゥにアナログ TV 受信用アンテナ線がプリントされています。

アナログ TV 受信用アンテナアンプおよびフィーダー線を追加することにより、ダイバーシティアンテナとして、アナログTV放送の受信が可能になります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

400198

アドバイス

- リヤウインドゥ内側を清掃するときは、アンテナ線に沿って柔らかい布で拭いてください。硬い布で拭くとアンテナ線を傷つけることがあります。
- リヤウインドゥのアンテナ線部に次の物を貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
  - ー 金属を含有するウインドゥフィルム
  - ー 外付けTVアンテナ
  - ー その他の金属物

■CDについて

- 右図のマークがついている音楽 CD を使ってください。右図のマークがないものは使えません。
- 大きい傷、変形、ひびなどのあるディスクやハート型などの特殊形状をした CD は使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 寒いときや雨天のときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合CDを取り出し、しばらく待ってから再度CDを挿入してください。

400335

- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり、正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。
- ケースからディスクを取り出す場合、ケース中心部を押し、ディスクの両端を持ってください。また、ディスク面に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター吹き出し口などの近くに置かないでください。ディスクが変形して使用できなくなります。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどで傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外側に向かって拭いてください。硬い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

■MP3/WMAについて

本機はMP3/WMAファイルを再生することができますが、使用できるMP3/WMAファイルを記録したメディアやフォーマットには制限があります。MP3/WMAファイルを書き込むときには以下のことに注意してください。以下に記載されている制限文字数はいずれも１byte文字を使用した場合の文字数です。

●使用できるメディア

使用できるMP3/WMAを収録するためのメディアはCD-R、およびCD-RWです。
本機では簡易フォーマットで作成されたメディアは再生できません。

●再生できるMP3フォーマット

本機で再生できるMP3フォーマットは以下になります。

- 規格：
  MPEG-1 Layer 3
  MPEG-2 Layer 3
  MPEG 2.5 Layer 3
- サンプリング周波数：
  8, 11.025, 12, 16, 22.05, 24, 32, 44.1, 48 (kHz)
- ビットレート：8〜320 (kbps)
- 可変ビットレート対応

●再生できるWMAフォーマット

本機で再生できるWMAフォーマットは、WMA Ver 9.0 Standard規格のものです。
タイプBオーディオ

- Windows Media Audio 9 準拠
- サンプリング周波数：32, 44.1, 48 (kHz)
- ビットレート：32〜320 (kbps)

タイプCオーディオ

- Windows Media Audio 9 準拠
- サンプリング周波数：32, 44.1, 48 (kHz)
- ビットレート：48〜192 (kbps)
- 可変ビットレート対応

●使用できるディスクのフォーマット

本機で使用できるディスクは、以下のフォーマットです。フォーマット名の後ろの文字数は、ファイル名に付けられる最大文字数（区切り文字“.”と拡張子3文字を含む）です。

- ISO 9660 Level 1：12文字
- ISO 9660 Level 2：31文字
- Joliet：64文字
- Romeo：128文字

次ページへ ⇒

⇒前ページより

なお、ロングファイル名形式で書き込んだ場合は、以下の文字数まで表示が可能です。
タイプBオーディオ
16文字（全て2byte文字）～32文字（全て1byte文字）
文字数が15文字（全て2byte文字）もしくは31文字（全て1byte文字）以上の場合は、文字列の最後に「･･･」（続きがある意味）が追加されます。表示されるファイル名に区切り文字“.”と拡張子は表示されません。
タイプCオーディオ
32文字（全て2byte文字）～64文字（全て1byte文字）
使用できる文字はライティングソフトの取扱説明書および「ファイル名とフォルダ名の入力」を参照してください。
ただし、タイプBオーディオ、タイプCオーディオで表示可能な文字は、以下の文字になります。

- 半角文字（英数字、カタカナ、ASCIIコード）
- 全角カタカナ（半角カタカナに変換して表示）
- 全角ひらがな（半角カタカナに変換して表示）
- 一部全角記号（ASCIIコードの記号に変換）

上記以外の文字については「*」で表示されます。
ただし、本機で再生できるディスクには以下の制限があります。
タイプBオーディオ

- 最大ディレクトリ階層：16階層（ROOTを含む）
- 1フォルダ中の最大ファイル数：255
- 最大フォルダ数：100（ROOTを含む）
- 最大フォルダ名：200文字（表示は16～32文字まで）

タイプCオーディオ

- 最大ディレクトリ階層：8階層
- 1フォルダ中の最大ファイル数：255
- 最大フォルダ数：250
- 最大フォルダ名：64文字

前記のフォーマット以外で書き込まれたMP3/WMAファイルは、正常に再生されなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

●圧縮ソフトとライティングソフトの設定

MP3/WMA ファイルに圧縮するときは、圧縮ソフトの転送ビットレートの設定は“128 kbps”の“固定”を推奨します。
何も記録されていないメディアに一度で最大容量まで記録する場合は、“Disc at Once”の設定をしてください。

●ファイル名とフォルダ名の入力

ファイル名とフォルダ名は、半角英数文字、カナ文字またはひらがな文字で入力してください。これ以外の文字で入力されているファイル名とフォルダ名は正常に表示されない場合があります。また、ライティングソフトや使用するディスクのフォーマットによって表示できる文字が制限されます。詳しくはライティングソフトの取扱説明書をご覧ください。
また、MP3/WMAファイルと認識されて再生されるファイルは、“.MP3”または“.WMA”の拡張子が付いたものだけです。MP3/WMAファイルには、“.MP3”または“.WMA”拡張子を付けて保存してください。

禁止

MP3/WMA以外のファイルに、“.MP3”または“.WMA”の拡張子を付けると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生をしてしまい、大きな雑音が出てスピーカーなどを破損するおそれがあります。
MP3/WMA以外のファイルに、“.MP3”または“.WMA”拡張子を付けないようにしてください。

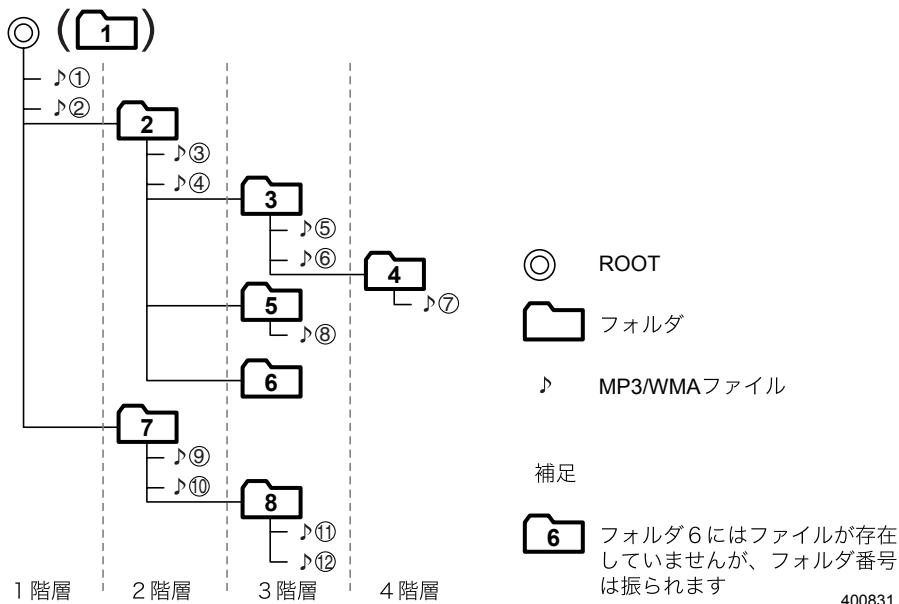
●ID3/WMA Tagについて

ID3/WMA Tagについては、未対応になります。

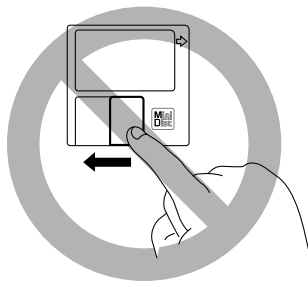
●メディアに書き込むファイルについて

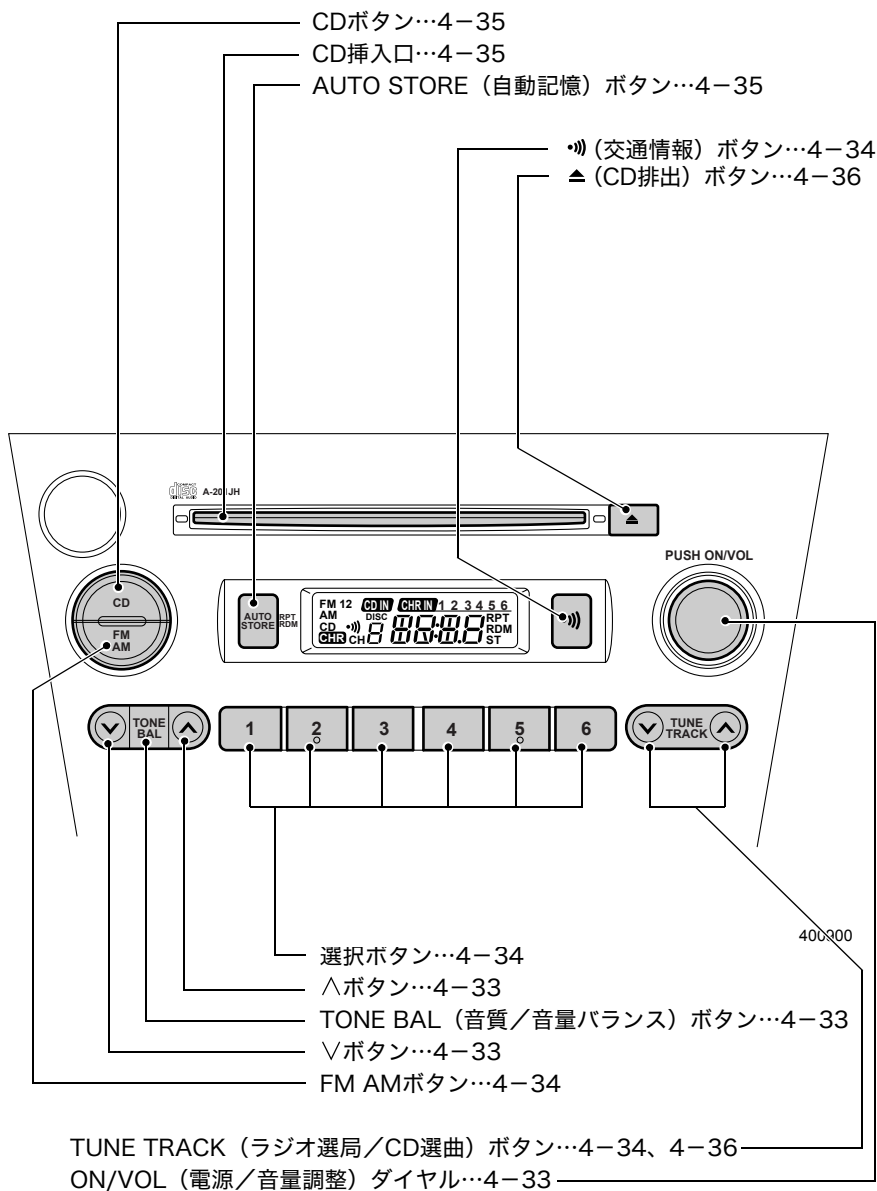
MP3/WMAが収録されているメディアを挿入すると、最初にディスク内の全てのファイルをチェックします。
このため、再生するメディアに多くのフォルダや MP3/WMA 以外のファイルを書き込むと、再生するまで長時間必要になります。
また、次の MP3/WMA ファイルの再生に移るまで時間がかかったり、ファイルサーチやフォルダサーチがスムーズに行えない場合があります。

●MP3/WMAファイルを再生する順番

再生、フォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトでファイルやフォルダが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、再生されると予想していた順番と実際に再生される順番が一致しないことがあります。
ライティングソフトにもよりますが、“01”～“99”などとファイル名の頭に再生する順番を入力してからCD-Rなどに書き込むことで、再生する順番を設定できることがあります。
以下のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでフォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトを行った場合は次のようになります。

■MDについて

- MDのシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが損傷して使用できなくなります。シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指でさわらないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。

- カートリッジ表面の汚れやゴミは乾いた布で拭き取ってから使用してください。とくに油汚れが付いた状態で使用しますと、ディスクが引き込まれなかったり、取り出せなくなることがあります。また、お手入れされるときは、シャッターを開けないようご注意ください。
- MD を長時間本体に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。

- MDを直射日光の当たる場所（ダッシュボードの上など）など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。
- ラベルのはがれかかったMDは使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本体の中ではがれて取り出せないなど故障の原因となります。
- レンズクリーナーは使用しないでください。故障の原因となります。

タイプA：
AM/FMマルチ電子チューナー・CDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。

電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。

- CDを挿入したとき
- 「CD」ボタン※、「FM AMボタン」、「•))」ボタンを押したとき

  ※「CD」ボタンはCDが入っているとき

●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。

　右に回す：音が大きくなります。

　左に回す：音が小さくなります。

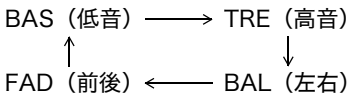
●音質と前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「TONE BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。

　ボタンを押すごとに

BAS（低音）→ TRE（高音）

↑　　　　　　　↓

FAD（前後）← BAL（左右）

　と切り替わり、表示部に表示されます。

②「TONE BAL」ボタンの横にある「∨」ボタンまたは「∧」ボタンを押してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	∨	∧
BASS（低音）（−7〜+7）	低音減衰	低音強調
TREBLE（高音）（−7〜+7）	高音減衰	高音強調
BALANCE（左右）（L9〜R9）	右側減衰	左側減衰
FADER（前後）（R9〜F9）	前側減衰	後側減衰

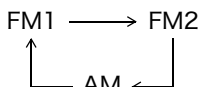
調整時、5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FM/AMを受信するとき

「FM AMボタン」を押します。

- バンドを切り替えるとき
  「FM AMボタン」を押し、バンドを選択します。
  ボタンを押すごとに

  FM1 → FM2 → AM → FM1

  と切り替わり、表示部に表示されます。

●選局するとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を押します。

- 周波数に合わせて放送を聞くとき
  「∨」を押す：ボタンを押すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります。
  「∧」を押す：ボタンを押すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります。
- 自動的に放送局を探すとき
  「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。
  「∨」を押す：周波数の低い方へ放送局を探します。
  「∧」を押す：周波数の高い方へ放送局を探します。

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタンのいずれかを押します。

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4－35ページ参照

●交通情報を聞くとき

「•))」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「FM AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を操作し、記憶したい放送局を選択します。
③選択ボタンのいずれか1つを2秒以上押します。
表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき

①「FM AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「AUTO STORE」ボタンを2秒以上押します。
受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から6まで自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

①「•))」ボタンを押して、交通情報を選択します。
②「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を押して選局します。
③「•))」ボタンを2秒以上押すと、選局した交通情報局を記憶させることができます。

■CDを聞くとき

●CDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）を表示します。

●CDが入っているとき

「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）を表示します。

アドバイス

- 8 cm CDは8 cm CDアダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3※、WMA※で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ER-○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくはCDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

※音楽データを圧縮して記録する方式

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してCDを排出します。

●CDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。CDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- 排出されたCDを15秒以上そのままにしておくと、自動的に引き込まれます。この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタンを押してください。
- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- CDが未挿入のときでも「⏏」ボタンを押すと、CD排出機構が動作し、動作音が聞こえます。

●選曲するとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を押します。

- 先の曲にするとき
  「∧」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。
- 手前の曲にするとき
  「∨」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲を頭出しします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∨」または「∧」を長めに押します。

- 早送り
  「∧」を0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
  「∨」を0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

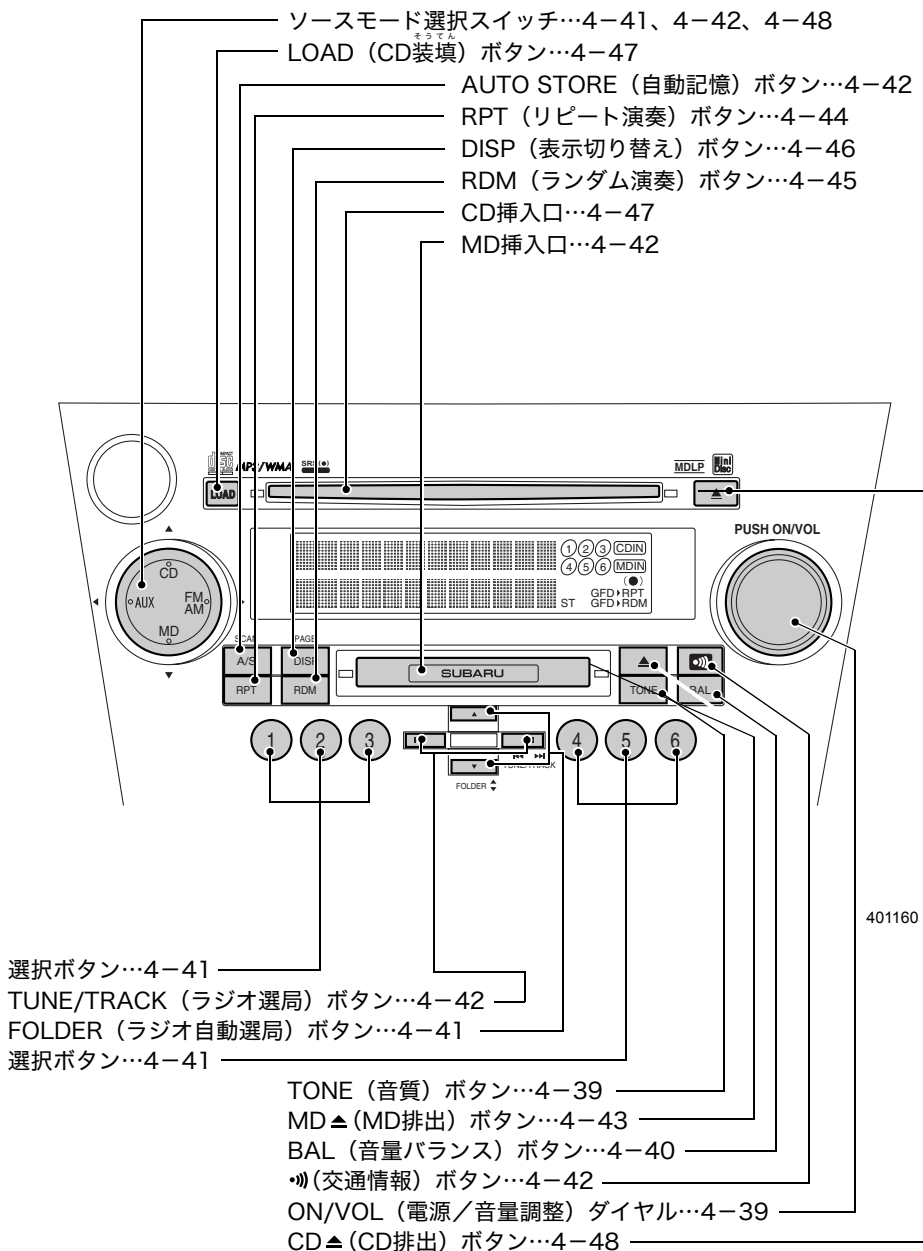
①曲の演奏中に「RPT RDM」ボタン※を押します。
　※CD再生モードでは「AUTO STORE」ボタンが「RPT RDM」ボタンとなります。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT　RDM」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。
　また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- CDを排出する
- ランダムプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 電源をOFFにする
- 他のモードにする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RPT RDM」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。
　また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- CDを排出する
- 選曲、早送り、早戻しをする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 電源をOFFにする
- 他のモードにする

タイプB：
AM/FMマルチ電子チューナー・インダッシュ6CD/MDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。

電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。

- CD、MDを挿入したとき
- 「ソースモード選択」スイッチ※または「•))」ボタンを押したとき
  ※選択スイッチを押すときは、下記の条件が必要です。
  -「CD」を選択したときはCDが入っている
  -「MD」を選択したときはMDが入っている
  -「AUX」を選択したときは外部機器が接続されている
  ※AUXは「後席オーディオコントロールスイッチ」もしくはスバル純正のAUX端子装着車のみ対応します。

●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。

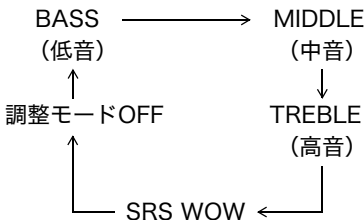
右に回す：音が大きくなります

左に回す：音が小さくなります

外部機器を再生している場合の音量調整は、外部機器を操作して行うこともできます。

●音質を調整するとき

①「TONE」ボタンを押して調整モードを選択します。

ボタンを押すごとに

と切り替わり、表示部に表示されます。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②「ON/VOL」ダイヤルを回してお好みの位置に調整します。

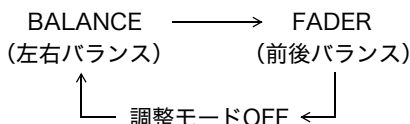
モード（調整レベル表示）	左に回したとき	右に回したとき
BASS（低音）（−10〜＋10）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（−10〜＋10）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（−10〜＋10）	高音減衰	高音強調
SRS WOW（ON/OFF）	モードOFF	モードON

アドバイス

- 調整時、「TONE」ボタンを1秒以上押す、または5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。
- SRS WOWについて
  「自然な立体音場」、「豊かな低音」、「輪郭のはっきりしたクリアなサウンド」を融合することによりクリアで迫力ある音質を得ることができる技術です。
  SRS WOW はSRS Labs, Inc.の商標です。SRS WOW技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

●前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに

BALANCE（左右バランス） → FADER（前後バランス） → 調整モードOFF → BALANCE（左右バランス）

②「ON/VOL」ダイヤルを回してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回したとき	右に回したとき
BALANCE（左右）（L9〜R9）	右側減衰	左側減衰
FADER（前後）（R9〜F9）	前側減衰	後側減衰

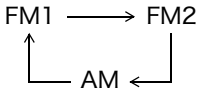
アドバイス

調整時、「BAL」ボタンを1秒以上押す、または5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FM／AMを受信するとき

「ソースモード選択」スイッチの「FM AM」を押します。

- バンドを切り替えるとき
  「FM AM」を押し、バンドを選択します。
  押すごとに

と切り替わり、表示部に表示されます。

●選局するとき

「TUNE/TRACK」ボタンの「I◀◀」または「▶▶I」を押します。

- 周波数に合わせて放送を聞くとき
  「I◀◀」を押す：ボタンを押すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります。
  「▶▶I」を押す：ボタンを押すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります。
- 自動的に放送局を探すとき
  「FOLDER」ボタンの「▼」または「▲」を押します。放送局が見つかると受信を始めます。
  「▼」を押す：周波数の低い方へ放送局を探します。
  「▲」を押す：周波数の高い方へ放送局を探します。

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタンのいずれかを押します。

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4－42ページ参照

●交通情報を聞くとき

「•)))」ボタンを押します。
どのモードからでも切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

- 交通情報局をかえるとき
「TUNE/TRACK」ボタンの「|◀◀」または「▶▶|」を押して選局します。
交通情報局は1620 kHz、1629 kHz、522 kHzを選ぶことができます。初期値は1620 kHzになっています。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「ソースモード選択」スイッチの「FM AM」を押してバンドを選択します。
②「TUNE/TRACK」ボタンの「|◀◀」または「▶▶|」を操作するか、「FOLDER」ボタンの「▼」または「▲」を操作し、記憶したい放送局を選択します。
③選択ボタンのいずれか1つを2秒以上押します。
表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき

①「ソースモード選択」スイッチの「FM AM」を押してバンドを選択します。
②「AUTO STORE」ボタンを2秒以上押します。
受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から6まで自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

■MDを聞くとき

●MDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、MDを挿入することができます。
MDのラベル面を上にし、シャッター面を右側にしてMD挿入口に入れます。MDを挿入すると演奏が始まります。

●MDが入っているとき

「ソースモード選択」スイッチの「MD」を押すと演奏が始まります。

アドバイス

MDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してMDを取り出してください。MDに傷や変形がないこと、またMDプレーヤーに対応しているMDが正しく挿入されていることを確認してください。MDが取り出せない場合、もしくはMDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ボタンを押すか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してMDを排出します。

●MDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。MDが排出され、前のモードに切り替わります。

エンジンスイッチがOFFでもMDの排出をすることができます。

●グループ登録されたMDを聞くとき

グループ登録されたMDの場合、お好みのグループを選択して聞くことができます。
①「FOLDER」ボタンの「▼」または「▲」を押します。
「▲」を押す：ボタンを押すごとに先のグループが選択されます。
「▼」を押す：ボタンを押すごとに手前のグループが選択されます。
② グループを選択した後は、通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

アドバイス

- グループ機能がOFFの場合、グループ選択はできません。
  オーディオの電源がOFFの状態で「ソースモード選択」スイッチの「MD」を2秒以上押すことによって、ON、OFFを切り替えることができます。
- グループ登録されている曲とされていない曲が１枚のMDの中に混在する場合、グループ登録されている曲が先に再生されます。
- Hi-MDは再生できません。

●MDLPを聞くとき

通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

LP2モードとLP4モードで記録されたMDを再生することができます。

●選曲するとき

「TUNE/TRACK」ボタンの「⏮」または「⏭」を押します。

- 先の曲にするとき
  「⏭」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。
- 手前の曲にするとき
  「⏮」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲を頭出しします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「TUNE/TRACK」ボタンの「⏮」または「⏭」を長めに押します。

- 早送り
  「⏭」を0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
  「⏮」を0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RPT”には切り替わりません。

② 表示部に“TRACK RPT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。

③ 解除するには「RPT」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RPT」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- MDを排出する。
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする。

●同じグループを繰り返し聞くとき（グループリピートプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RPT”には切り替わりません。

② 表示部に“GROUP RPT”を表示させます。演奏中のグループを繰り返し演奏します。

③解除するには「RPT」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RPT」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
- MDを排出する。
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする。

グループ登録されていないMDにグループリピートプレイ機能は使用できません。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

- グループランダムプレイ
グループ内の曲を自動的に選曲させます。

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RDM”には切り替わりません。

②表示部に“GROUP RDM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

③解除するには「RDM」ボタンを 1 秒以上押す、もしくは「RDM」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
－MDを排出する。
－リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする。

- ディスクランダムプレイ
ディスク内の全曲を自動的に選曲させます。

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RDM”には切り替わりません。

②表示部に“DISC RDM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③解除するには「RDM」ボタンを 1 秒以上押す、もしくは「RDM」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
－ MDを排出する。
－ リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする。

●聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

曲の最初の10秒間だけを順番に再生する機能です。

①曲の演奏中に「AUTO STORE」ボタンを押します。
押すたびに
DISC SCAN ⟷ 解除
(GROUP SCAN)※
と切り替わります。
※グループ登録されたMDの場合

②トラック番号（曲番号）が点滅し、スキャンプレイが開始されます。

アドバイス

- グループ登録されたMDを演奏しているとき、グループ内の曲の演奏が終わると、スキャンプレイ開始時の曲に戻り、スキャンプレイを終了します。
- 次の操作をするとスキャンプレイ機能が自動的に解除されます。
  - － MDを排出する
  - － リピートプレイ機能またはランダムプレイ機能にする
  - － MD以外のモードにする
  - － 電源をOFFにする
  - － エンジンスイッチをOFFにする

●表示部の表示を切り替えるとき

MD再生時、「DISP」ボタンを押すごとに表示の切り替えができます。

※グループ登録されたMDの場合

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたタイトルは表示できません。
- タイトル文字は1回に12文字まで表示できます。
- タイトル名が13文字以上の場合、タイトル表示中に「DISP」ボタンを1秒以上押すと、13文字以降のタイトルを表示します。
- MD にタイトルが記録されていない場合は表示しません。その場合“NO TITLE”と表示します。

■CDを聞くとき

本機は12 cm CDのみ再生することができます。

●CDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
次の手順にしたがいCDを挿入します。CD演奏中はディスク番号とトラック番号（曲番号）を表示します。

- CDを挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②表示部に挿入するディスク番号が点滅し、“LOAD”と表示されると、挿入準備完了です。
  ③CDを挿入します。
  ④CDの演奏を始めます。
- 複数のCDを連続挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを1秒以上押すと“ピッ”と音がします。
  ②表示部に“ALL LOAD”と表示されます。
  ③CDを1枚ずつ挿入します。
  ④最初に入れたCDから演奏を始めます。ただし途中で「LOAD」を1秒以上押して解除した場合、最初のディスクから演奏します。
- 指定したディスク番号にCDを挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②「選択」ボタンの中から挿入するディスク番号を指定します。
  ③表示部に挿入するディスク番号が点滅し、“LOAD”と表示されると、挿入準備完了です。
  ④CDを挿入します。
  ⑤CDの演奏を始めます。

アドバイス

- “LOAD”または“ALL LOAD”表示後15秒間ディスクを挿入しないと、「LOAD」ボタンを押す前の状態に戻ります。
- CDを挿入する際は、CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口に挿入してください。

●CDが入っているとき

「ソースモード選択」スイッチの「CD」を押すと、前に聞いていたCDから演奏を始めます。

アドバイス

CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。

- 演奏するCDを指定するとき
  CD演奏中に、「選択」ボタンの中から聞きたいディスク番号を押すと、指定したCDの演奏が始まります。

アドバイス

- 8 cm CDは使用しないでください。損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD プレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCD が正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくはCDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ボタンを押すか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してCDを排出します。

●CDを取り出すには

- 演奏中のCDを取り出すには
  「⏏」ボタンを押します。
  演奏を中止し、自動的にCDが排出されます。
- 演奏中以外のCDを取り出すには
  「選択」ボタンで取り出したいディスク番号を選択した後、「⏏」ボタンを押すと演奏を中止し、自動的に指定したCDが排出されます。
- 全てのCDを取り出すには
  ①「⏏」ボタンを1秒以上押します。
  ②演奏中止後、表示部に“ALL EJECT”が点灯し、1枚目のCDが排出されます。CDを抜き出すと、次のCDが自動的に排出されます。排出されたCDを全て抜き出します。

アドバイス

- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。

●MP3/WMA CDを聞くとき

本機はMP3、WMA形式で記録されたCDを再生することができます。
また、CD内のデータがフォルダ分けされている場合、お好みのフォルダを選択して聞くことができます。

①「FOLDER」ボタンの「▼」または「▲」を押します。
「▲」を押す：ボタンを押すごとに先のフォルダが選択されます。
「▼」を押す：ボタンを押すごとに手前のフォルダが選択されます。

② フォルダを選択した後は、通常のCDと同じ操作で聞くことができます。

●選曲するとき

「TUNE/TRACK」ボタンの「⏮」または「⏭」を押します。

- 先の曲にするとき
「⏭」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。
- 手前の曲にするとき
「⏮」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲を頭出しします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「TUNE/TRACK」ボタンの「⏮」または「⏭」を長めに押します。

- 早送り
「⏭」を0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
「⏮」を0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RPT”には切り替わりません。

② 表示部に“TRACK RPT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。

次ページへ ⇒

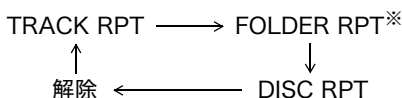
⇒前ページより

③解除するには「RPT」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RPT」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
- CDを排出する
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 他のディスクを挿入したとき

●同じフォルダを繰り返し聞くとき（フォルダリピートプレイ）

CD内のデータがフォルダ分けされている場合、お好みのフォルダを繰り返し聞くことができます。

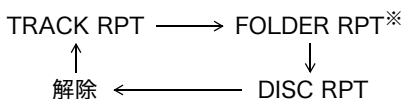
①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
押すたびに

TRACK RPT ⟶ FOLDER RPT※
↑　　　　　　　↓
解除 ⟵ DISC RPT

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RPT”には切り替わりません。

②表示部に“FOLDER RPT”を表示させます。演奏中のフォルダを繰り返し演奏します。

③解除するには「RPT」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RPT」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
- CDを排出する
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 他のディスクを挿入したとき

●同じCDを繰り返し聞くとき（ディスクリピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RPT”には切り替わりません。

②表示部に“DISC RPT”を表示させます。演奏中のCDを繰り返し演奏します。

③解除するには「RPT」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RPT」ボタンを押して“解除”に切り替えます。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。
- CDを排出する
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 他のディスクを挿入したとき

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

- フォルダランダムプレイ

フォルダ内の曲を自動的に選曲させます。

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。

押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。

※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RDM”には切り替わりません。

②表示部に“FOLDER RDM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

③解除するには「RDM」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RDM」ボタンを押して“解除”に切り替えます。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

－CDを排出する

－リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

－他のディスクを挿入したとき

- ディスクランダムプレイ

ディスク内の全曲を自動的に選曲させます。

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。

押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。

※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RDM”には切り替わりません。

②表示部に“DISC RDM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

③解除するには「RDM」ボタンを1秒以上押す、もしくは「RDM」ボタンを押して“解除”に切り替えます。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

－CDを排出する

－リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

－他のディスクを挿入したとき

●聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

曲の最初の10秒間だけを順番に再生する機能です。

①曲の演奏中に「AUTO STORE」ボタンを押します。
押すたびに
DISC SCAN ←→ 解除
（FOLDER SCAN）※
と切り替わります。
※フォルダ分けされたCDの場合

②トラック番号（曲番号）が点滅し、スキャンプレイが開始されます。

アドバイス

- フォルダ分けされたCDを演奏しているとき、フォルダ内の曲の演奏が終わると、フォルダスキャン開始時の曲に戻り、スキャンプレイを終了します。
- 次の操作をするとスキャンプレイ機能が自動的に解除されます。
  - ー CDを排出する
  - ー リピートプレイ機能またはランダムプレイ機能にする
  - ー 演奏するCDを指定したとき（ディスクチェンジ）
  - ー CD以外のモードにする
  - ー 電源をOFFにする
  - ー エンジンスイッチをOFFにする

●表示部の表示を切り替えるとき

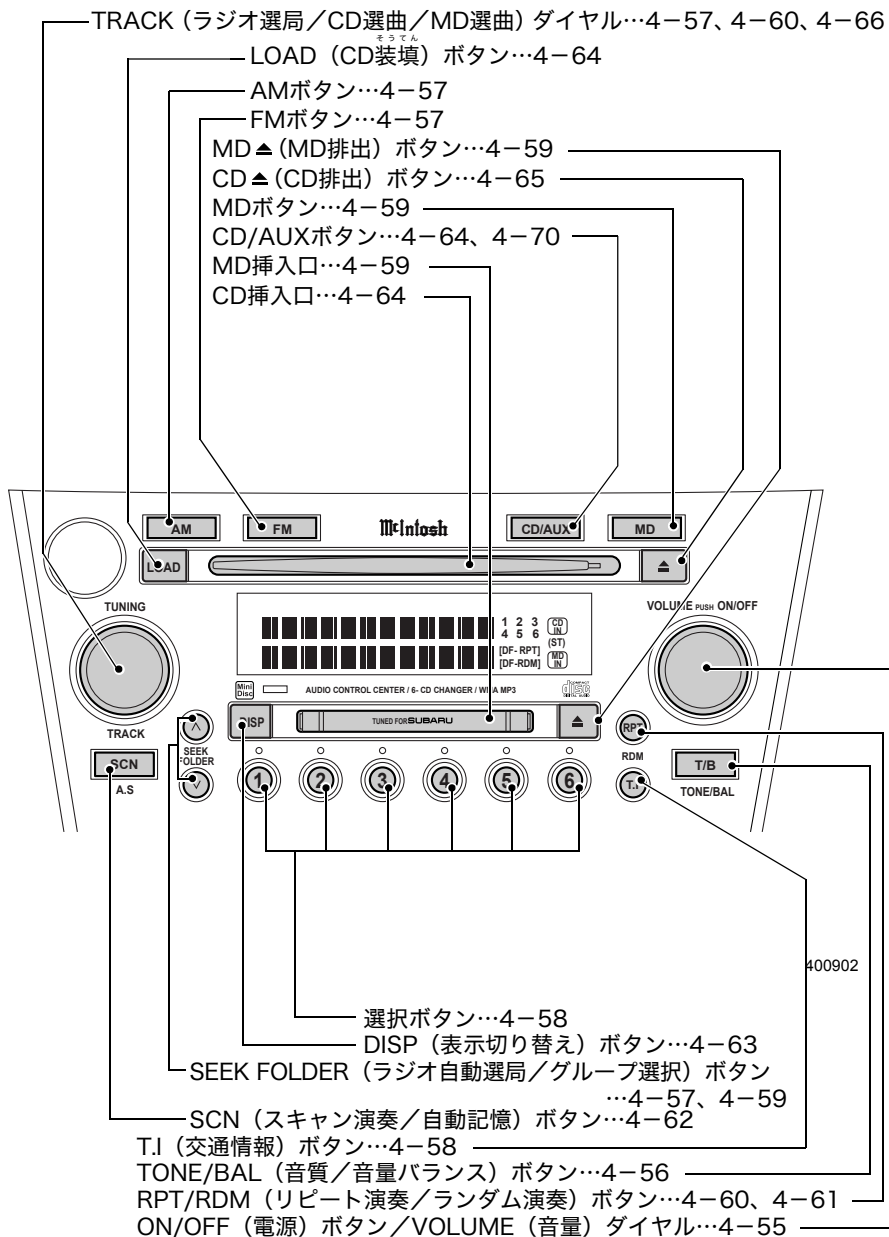
CD再生時、「DISP」ボタンを押すごとに表示の切り替えができます。

＜MP3/WMA CD＞

＜CD-TEXT＞

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたネームまたはタイトルは表示できません。
- ネームまたはタイトルは1回に12文字まで表示できます。
- ネームまたはタイトルが13文字以上の場合、ネームまたはタイトル表示中に「DISP」ボタンを1秒以上押すと、13文字以降の文字を表示します。
- ネームまたはタイトルが16文字以上の場合、17文字目以降の文字は“---”と表示されます。
- CD にネームまたはタイトルが記録されていない場合は表示しません。その場合、“NO NAME”または“NO TITLE”と表示します。
- フォルダ分けされていない MP3/WMA CD の場合、フォルダネームは“ROOT”と表示されます。

タイプC：
マッキントッシュAM/FMマルチ電子チューナー・インダッシュ6CD/MDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチが Acc または ON のとき、「ON/OFF」ボタンを押すごとに電源が ON・OFFします。

電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。

- CD、MDを挿入したとき
- 「T.I」ボタン、「AM」ボタン、「FM」ボタン、「CD/AUX」ボタン※1、「MD」ボタン※2を押したとき

※1「CD/AUX」ボタンはCDが入っているまたは外部機器が接続されているとき

AUX は「後席オーディオコントロールスイッチ」もしくはスバル純正のAUX端子装着車のみ対応します。

※2「MD」ボタンはMDが入っているとき

●音量を調整するとき

「VOLUME」ダイヤルを回して調整します。

右に回す：音が大きくなります。

左に回す：音が小さくなります。

アドバイス

- 外部機器を再生している場合の音量調整は、外部機器を操作して行うこともできます。
- マッキントッシュ装着車には、別体パワーアンプが助手席シート下に装着されます。
  - パワーアンプには POWER GUARD 回路※1と熱保護回路※2を内蔵しているため、大音量で再生すると自動的に音量が下がる場合があります。
  - パワーアンプは発熱を強制的に抑えるため、ファンを内蔵しています。車室内が静かな状態では、ファンの音が聞こえる場合があります。

※1 POWER GUARD 回路：歪みを検知すると自動的に音量を下げ、常にピュアなサウンドを維持します。

※2熱保護回路：長時間使用時に発生する熱からアンプ回路を守ります。

●音質と前後・左右の音量バランス

- 音質を調整するとき

①「TONE/BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。
　ボタンを押すごとに

と切り替わり、表示部に表示されます。

②「VOLUME」ダイヤルを回してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BASS（低音）（−6〜+6）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（−6〜+6）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（−6〜+6）	高音減衰	高音強調

- バランスを調整するとき

①「TONE/BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。
　ボタンを押すごとに

と切り替わり、表示部に表示されます。

②「VOLUME」ダイヤルを回してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
FADER（前後）（R9〜F9）	前側減衰	後側減衰
BALANCE（左右）（L9〜R9）	右側減衰	左側減衰

調整時、5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。

●音質設定

セダンとワゴンの車両形状の違いや、内装の種類などの車室空間の違いに対して、最適な音質設定に切り替えることができます。また、お好みの音質設定に切り替えることができます。

- 設定方法

①「ON/OFF」ボタンを押して電源をOFFにします。

②「TONE/BAL」ボタンを押しながら、「選択」ボタンの２つの番号を同時に押すと設定が切り替わり表示部に表示されます。

設定内容と「選択」ボタンの番号は、以下になります。

「選択」ボタン	設定内容
「1」と「3」	ワゴン　標準内装
「2」と「3」	ワゴン　革内装
「1」と「4」	セダン　標準内装
「2」と「4」	セダン　革内装

■ラジオを聞くとき

●FMを受信するとき

「FM」ボタンを押します。

押すごとに

FM1 ⟷ FM2

と切り替わり、表示部に表示されます。

●AMを受信するとき

「AM」ボタンを押します。

●選局するとき

- 周波数に合わせて放送を聞くとき

「TRACK」ダイヤルを回すと周波数が1ステップ変化します。

右に回す：ダイヤルを回すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります。

左に回す：ダイヤルを回すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります。

- 自動的に放送局を探すとき

「SEEK FOLDER」ボタンの「∨」または「∧」を0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。

「∧」を押す：周波数の高い方へ放送局を探します。

「∨」を押す：周波数の低い方へ放送局を探します。

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタンのいずれかを押します。

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。

●交通情報を聞くとき

「T.I」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「AM」ボタンまたは「FM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「TRACK」ダイヤルを操作し、記憶したい放送局を選択します。
③選択ボタンのいずれか1つを1.5秒以上押します。
表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき

①「AM」ボタンまたは「FM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「SCN」ボタンを0.5秒以上押します。受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から6まで自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

①「T.I」ボタンを押して、交通情報を選択します。
②「TRACK」ダイヤルを回して選局します。

■MDを聞くとき

●MDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、MDを挿入することができます。
MDのラベル面を上にし、シャッター面を右側にしてMD挿入口に入れます。MDを挿入すると演奏が始まります。

●MDが入っているとき

「MD」ボタンを押すと演奏が始まります。

アドバイス

MDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してMDを取り出してください。MDに傷や変形がないこと、またMDプレーヤーに対応しているMDが正しく挿入されていることを確認してください。MDが取り出せない場合、もしくはMDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●演奏を停止するとき

「ON/OFF」ボタンを押すか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してMDを排出します。

●MDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。MDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

エンジンスイッチがOFFでもMDの排出をすることができます。

●グループ登録されたMDを聞くとき

グループ登録されたMDの場合、お好みのグループを選択して聞くことができます。
①「SEEK FOLDER」ボタンの「∨」または「∧」を押します。
「∧」を押す：ボタンを押すごとに先のグループが選択されます。
「∨」を押す：ボタンを押すごとに手前のグループが選択されます。
②グループを選択した後は、通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

アドバイス

- グループ機能がOFFの場合、グループ選択はできません。「MD」ボタンを0.5秒以上押すと、ONにすることができます。OFFにする場合は、再度「MD」ボタンを0.5秒以上押します。
- グループ登録されている曲とされていない曲が１枚のMDの中に混在する場合、グループ登録されている曲が先に再生されます。
- Hi-MDは再生できません。

●MDLPを聞くとき

通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

LP2モードとLP4モードで記録されたMDを再生することができます。

●選曲するとき

- 先の曲にするとき
  「TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。
- 手前の曲にするとき
  「TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲を頭出しします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

- 早送り
  「∧」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
  「∨」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
押すたびに

TRACK REPEAT ⟶ GROUP REPEAT※
↑ ← 解除 ←

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP REPEAT”には切り替わりません。

② 表示部に“TRACK REPEAT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。

アドバイス

次の操作をするとリピートプレイ機能が自動的に解除されます。
- 電源をOFFにする
- MD以外のモードにする
- MDを排出する
- エンジンスイッチをOFFにする
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

●同じグループを繰り返し聞くとき（グループリピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
押すたびに
TRACK REPEAT ⟶ GROUP REPEAT※
↑ ―― 解除 ←
と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP REPEAT”には切り替わりません。
②表示部に“GROUP REPEAT”を表示させます。演奏中のグループを繰り返し演奏します。

アドバイス

- グループ登録されていない MD にグループリピートプレイ機能は使用できません。
- 次の操作をするとグループリピートプレイ機能が自動的に解除されます。
  - 電源をOFFにする
  - MD以外のモードにする
  - MDを排出する
  - エンジンスイッチをOFFにする
  - ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

- グループランダムプレイ
グループ内の曲を自動的に選曲させます。
①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを0.5秒以上押します。
押すたびに
GROUP RANDOM※ ⟶ DISC RANDOM
↑ ―― 解除 ←
と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RANDOM”には切り替わりません。
②表示部に“GROUP RANDOM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

アドバイス

- グループ登録されていない MD にグループランダムプレイ機能は使用できません。
- 次の操作をするとグループランダムプレイ機能が自動的に解除されます。
  - 電源をOFFにする
  - MD以外のモードにする
  - MDを排出する
  - エンジンスイッチをOFFにする
  - リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

- ディスクランダムプレイ
  ディスク内の全曲を自動的に選曲させます。
  ①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを0.5秒以上押します。
  押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されていないMDの場合、“GROUP RANDOM”には切り替わりません。
②表示部に“DISC RANDOM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

アドバイス

- 次の操作をするとリピートプレイ機能が自動的に解除されます。
  - 電源をOFFにする
  - MD以外のモードにする
  - MDを排出する
  - エンジンスイッチをOFFにする
  - リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする

●聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

曲の最初の10秒間だけを順番に再生する機能です。
① 曲の演奏中に「SCN」ボタンを押します。
押すたびに

DISC SCAN ←→ 解除
(GROUP SCAN)※

と切り替わり、表示部に表示されます。
※グループ登録されたMDの場合
② 表示部に“DISC SCAN”を表示させます。スキャンプレイが開始されます。

アドバイス

- グループ登録されたMDを演奏しているとき、表示部は“GROUP SCAN”と表示されます。フォルダ内の曲の演奏が終わると、同じグループの先頭の曲に戻り、スキャンプレイを続けます。
- 次の操作をするとスキャンプレイ機能が自動的に解除されます。
  - MDを排出する
  - リピートプレイ機能またはランダムプレイ機能にする
  - MD以外のモードにする
  - 電源をOFFにする
  - エンジンスイッチをOFFにする

●表示部の表示を切り替えるとき

MD再生時、「DISP」ボタンを押すごとに表示の切り替えができます。

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたタイトルは表示できません。
- タイトル文字は1回に12文字まで表示できます。
- タイトル名が13文字以上の場合、タイトル表示中に「DISP」ボタンを1秒以上押すと、13文字以降のタイトルを表示します。
- MD にタイトルが記録されていない場合は表示しません。その場合“NO TITLE”と表示します。

■CDを聞くとき

本機は12cmCDのみ再生することができます。

●CDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
次の手順にしたがいCDを挿入します。CD演奏中はディスク番号とトラック番号（曲番号）を表示します。

- CDを挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②表示部に挿入するディスク番号が点滅し、“LOAD”と表示されると、挿入準備完了です。
  ③CDを挿入します。
  ④CDの演奏を始めます。
- 複数のCDを連続挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを2秒以上押すと“ピッ”と音がします。
  ②表示部に“ALL LOAD”と表示されると、挿入準備完了です。
  ③CDを1枚ずつ挿入します。
  ④最初に入れたCDから演奏を始めます。
- 指定したディスク番号にCDを挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②「選択」ボタンの中から挿入するディスク番号を指定します。
  ③表示部に挿入するディスク番号が点滅し、“LOAD”と表示されると、挿入準備完了です。
  ④CDを挿入します。
  ⑤CDの演奏を始めます。

アドバイス

- “LOAD”または“ALL LOAD”表示後15秒間ディスクを挿入しないと、「LOAD」ボタンを押す前の状態に戻ります。
- CDを挿入する際は、CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口に挿入してください。

●CDが入っているとき

「CD/AUX」ボタンを押すと、前に聞いていたCDから演奏を始めます。

アドバイス

CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。

●演奏するCDを指定するとき

CD演奏中に、「選択」ボタンの中から聞きたいディスク番号を押すと、指定したCDの演奏が始まります。

アドバイス

- 8 cm CDは使用しないでください。損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD プレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくはCDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●演奏を停止するとき

「ON/OFF」ボタンを押すか、他のモードに切り替えます。
また「⏏」ボタンを押してCDを排出します。

●CDを取り出すには

- 演奏中のCDを取り出すには
  「⏏」ボタンを押します。
  演奏を中止し、自動的にCDが排出されます。
- 演奏中以外のCDを取り出すには
  「選択」ボタンで取り出したいディスク番号を選択した後、「⏏」ボタンを押すと演奏を中止し、自動的に指定したCDが排出されます。
- 全てのCDを取り出すには
  ①「⏏」ボタンを1.5秒以上押します。
  ②演奏中止後、表示部に“ALL EJECT”が点滅し、自動的に全てのCDが排出されます。

アドバイス

- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。

●MP3/WMA CDを聞くとき

本機はMP3、WMA形式で記録されたCDを再生することができます。
また、CD内のデータがフォルダ分けされている場合、お好みのフォルダを選択して聞くことができます。

①「SEEK FOLDER」ボタンの「∨」または「∧」を押します。
「∧」を押す：ボタンを押すごとに先のフォルダが選択されます。
「∨」を押す：ボタンを押すごとに手前のフォルダが選択されます。

②フォルダを選択した後は、通常のCDと同じ操作で聞くことができます。

●選曲するとき

- 先の曲にするとき
「TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。
- 手前の曲にするとき
「TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲を頭出しします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

- 早送り
「∧」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
「∨」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER REPEAT”には切り替わりません。

②表示部に“TRACK REPEAT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。

アドバイス

次の操作をするとリピートプレイが自動的に解除されます。

- 電源をOFFにする
- CD以外のモードにする
- CDを排出する
- エンジンスイッチをOFFにする
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

●同じフォルダを繰り返し聞くとき（フォルダリピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER REPEAT”には切り替わりません。

②表示部に“FOLDER REPAET”を表示させます。演奏中のフォルダを繰り返し演奏します。

アドバイス

- フォルダ分けされていないCDにフォルダリピートプレイ機能は使用できません。
- 次の操作をするとフォルダリピートプレイが自動的に解除されます。
  - 電源をOFFにする
  - CD以外のモードにする
  - CDを排出する
  - エンジンスイッチをOFFにする
  - ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
  - 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

●同じCDを繰り返し聞くとき（ディスクリピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER REPEAT”には切り替わりません。

②表示部に“DISC REPEAT”を表示させます。演奏中のCDを繰り返し演奏します。

アドバイス

次の操作をするとディスクリピートプレイが自動的に解除されます。
- 電源をOFFにする
- CD以外のモードにする
- CDを排出する
- エンジンスイッチをOFFにする
- ランダムプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

- フォルダランダムプレイ

フォルダ内の曲を自動的に選曲させます。

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを0.5秒以上押します。

0.5秒以上押すたびに

と切り替わり、表示部に表示されます。

※フォルダ分けされていないCDの場合、“FOLDER RANDOM”には切り替わりません。

②表示部に“FOLDER RANDOM”を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

アドバイス

- フォルダ分けされていないCDにフォルダランダムプレイ機能は使用できません。
- 次の操作をするとフォルダランダムプレイ機能が自動的に解除されます。
  - 電源をOFFにする
  - CD以外のモードにする
  - CDを排出する
  - エンジンスイッチをOFFにする
  - リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
  - 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

- ディスクランダムプレイ
  ディスク内の全曲を自動的に選曲させます。
  ①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを0.5秒以上押します。
  0.5秒以上押すたびに

  と切り替わり、表示部に表示されます。
  ※フォルダ分けされていないCDの場合、"FOLDER RANDOM"には切り替わりません。
  ②表示部に"DISC RANDOM"を表示させます。曲を自動的に選び演奏します。

アドバイス

次の操作をするとリピートプレイ機能が自動的に解除されます。
- 電源をOFFにする
- CD以外のモードにする
- CDを排出する
- エンジンスイッチをOFFにする
- リピートプレイ機能またはスキャンプレイ機能にする
- 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

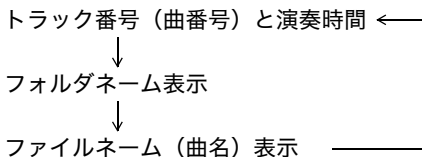
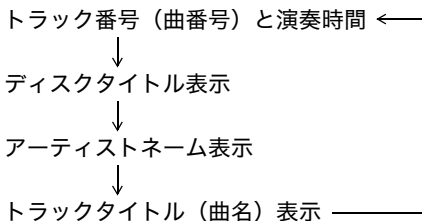
●聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

曲の最初の10秒間だけを順番に再生する機能です。
① 曲の演奏中に「SCN」ボタンを押します。
押すたびに
DISC SCAN ←→ 解除
（FOLDER SCAN）※
と切り替わり、表示部に表示されます。
※フォルダ分けされたCDの場合
② 表示部に"DISC SCAN"を表示させます。スキャンプレイが開始されます。

アドバイス

- フォルダ分けされたCDを演奏しているとき、表示部は"FOLDER SCAN"と表示されます。フォルダ内の曲の演奏が終わると、同じフォルダの先頭の曲に戻り、スキャンプレイを続けます。
- 次の操作をするとスキャンプレイ機能が自動的に解除されます。
  – 電源をOFFにする
  – CD以外のモードにする
  – CDを排出する
  – エンジンスイッチをOFFにする
  – リピートプレイ機能またはランダムプレイ機能にする
  – 演奏するCDを指定する（ディスクチェンジ）

●表示部の表示を切り替えるとき

CD再生時、「DISP」ボタンを押すごとに表示の切り替えができます。

＜MP3/WMA CD＞

トラック番号（曲番号）と演奏時間
↓
フォルダネーム表示
↓
ファイルネーム（曲名）表示

＜CD-TEXT＞

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたネームまたはタイトルは表示できません。
- ネームまたはタイトルは1回に12文字まで表示できます。
- ネームまたはタイトルが13文字以上の場合、ネームまたはタイトル表示中に「DISP」ボタンを1秒以上押すと、13文字以降の文字を表示します。
- CD にネームまたはタイトルが記録されていない場合は表示しません。その場合、“NO NAME”または“NO TITLE”と表示します。
- フォルダ分けされていない MP3/WMA CD の場合、フォルダネームは“ROOT”と表示されます。

■外部機器を再生するとき

●AUX端子について

外部機器を接続するための入力端子です。

市販のポータブルオーディオなどをAUX端子に接続することができます。

☆4−75ページ参照

●再生するとき

市販のAUX接続コード（抵抗なし）を使用して、外部機器をAUX端子に接続します。

エンジンスイッチがAccまたはONのとき「CD/AUX」ボタンを押します。

表示部に“AUX”が点灯し、外部機器を操作して再生することができます。

⚠ 注 意

- 外部機器の音量が大きく設定されていると、外部機器の接続時などに予想以上に大音量で再生される場合があります。外部機器の接続時などはあらかじめ外部機器の音量を適度に設定してください。
- 接続した外部機器によっては、ノイズが発生したり音が割れる場合があります。以下の操作を行ってください。
  ノイズが発生する場合：
  外部機器の音量を大きくしてください。
  音が割れる場合：
  外部機器の音量を小さくしてください。

アドバイス

- ステレオミニプラグを接続しないと、AUXボタンを押してもAUXモードになりません。
- AUX端子に接続するときは、φ3.5ステレオミニプラグを使用してください。
- 外部機器の操作方法については、お手持ちの外部機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

オーディオリモートコントロールスイッチ

このスイッチはステアリングホイールの左側のスポークにあります。車を運転中にステアリングホイールから手を離さなくても、オーディオの操作ができます。

⚠注 意

オーディオリモートコントロールスイッチと後席用オーディオコントロールスイッチを同時に操作しないでください。誤作動する場合があります。

■MODE（モード）スイッチ

オーディオのモードを切り替えます。スイッチを押すごとに下記の順に切り替わります。

オーディオの表示部には選択したモードが表示されます。

アドバイス

FMあるいはAMを選択したとき、最後に受信したバンドの周波数を表示します。

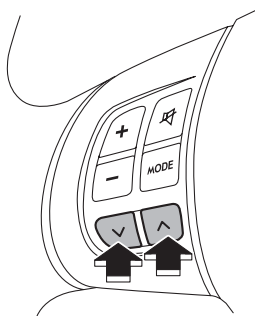
※メーカーオプションのナビゲーション装着車で別売の外部入力端子が接続されている場合は、“AUX1”および“AUX2”と表示されます。
AUX1：ナビゲーションのAUX端子に接続されている場合に表示されます。
AUX2：車両のAUX端子に接続されている場合に表示されます。

■「∧」／「∨」スイッチ

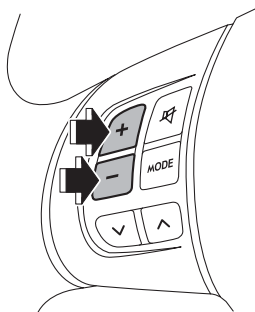
●ラジオモード選択時

「∧」あるいは「∨」スイッチを押すと自動的に受信可能な放送局を探します。探し出すと自動的に止まります。
オーディオの表示部には、受信した放送局が表示されます。

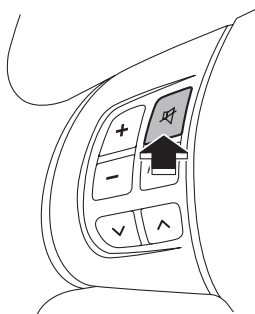
●MDあるいはCD選択時

「∧」スイッチを押すと次の曲に飛び、「∨」スイッチを押すと現在の曲の先頭に飛び、再度スイッチを押すと前の曲に飛びます。
オーディオの表示部には、曲番号が表示されます。

400726

■ボリュームコントロールスイッチ

「＋」スイッチを押すと音量が増大し、「−」スイッチを押すと音量が減少します。
スイッチを押し続けると音量は増減し続けます。
オーディオの表示部には、音量を示す数字が表示されます。

400727

■MUTE（ミュート）スイッチ

このスイッチを押すと音が消音します。
オーディオの表示部には、「MUTE」が表示されます。

400728

後席用オーディオコントロールスイッチ

このスイッチはセンターコンソールの背面にあります。後席同乗者も、オーディオの操作ができます。

400729

⚠ 注 意

後席用オーディオコントロールスイッチとオーディオリモートコントロールスイッチを同時に操作しないでください。誤作動する場合があります。

■MODE（モード）スイッチ

オーディオのモードを切り替えます。スイッチを押すごとに下記の順に切り替わります。

オーディオの表示部には選択したモードが表示されます。

400730

アドバイス

FMあるいはAMを選択したとき、最後に受信したバンドの周波数を表示します。

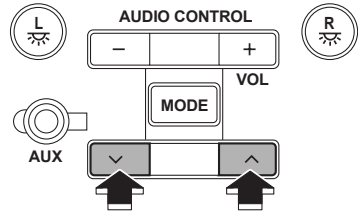
※メーカーオプションのナビゲーション装着車で別売の外部入力端子が接続されている場合は、“AUX1”および“AUX2”と表示されます。
AUX1：ナビゲーションのAUX端子に接続されている場合に表示されます。
AUX2：車両のAUX端子に接続されている場合に表示されます。

■「∧」／「∨」スイッチ

●ラジオモード選択時

「∧」あるいは「∨」スイッチを押すと自動的に受信可能な放送局を探します。探し出すと自動的に止まります。
オーディオの表示部には、受信した放送局が表示されます。

●MDあるいはCD選択時

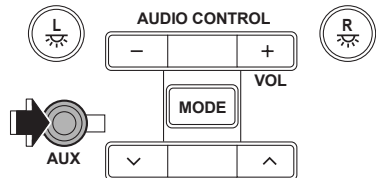
「∧」スイッチを押すと次の曲に飛び、「∨」スイッチを押すと現在の曲の先頭に飛び、再度スイッチを押すと前の曲に飛びます。
オーディオの表示部には、曲番号が表示されます。

400731

■ボリュームコントロールスイッチ

「+」スイッチを押すと音量が増大し、「ー」スイッチを押すと音量が減少します。
スイッチを押し続けると音量は増減し続けます。
オーディオの表示部には、音量を示す数字が表示されます。

400732

■AUX端子

外部機器を接続するための入力端子です。
ポータブルオーディオプレイヤーなどを接続し、車のオーディオで再生することができます。
☆4−55、4−70ページ参照

400733

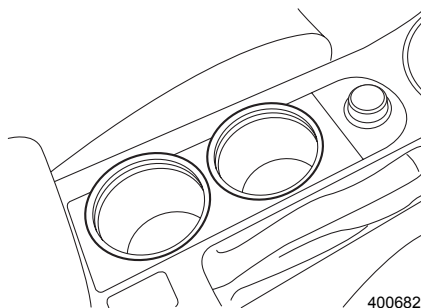
⚠ 注 意

- 外部機器の音量が大きく設定されていると、外部機器の接続時などに予想以上に大音量で再生される場合があります。外部機器の接続時などはあらかじめ外部機器の音量を適度に設定してください。
- 接続した外部機器によっては、ノイズが発生したり音が割れる場合があります。以下の操作を行ってください。
  ノイズが発生する場合：
  外部機器の音量を大きくしてください。
  音が割れる場合：
  外部機器の音量を小さくしてください。

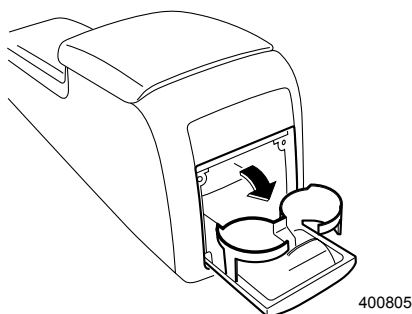
室内装備

カップホルダー

■前席用

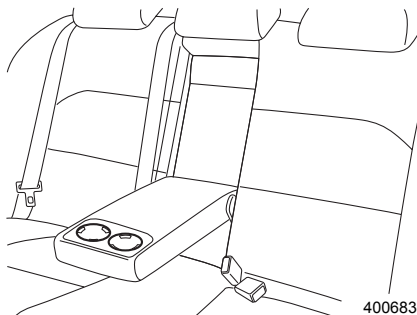
センターコンソールにあります。

■後席用

●センターコンソール

センターコンソール背面のフタを開けて使用します。
カップ、コーヒー缶などを置くことができます。

アドバイス

後席乗降時にはフタを閉めた状態にしてください。足で乗ったり、ぶつけたりすると損傷の原因となります。

●アームレスト

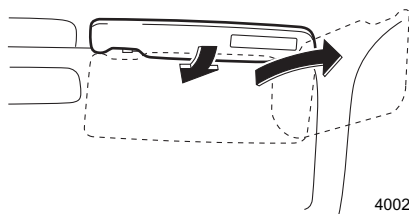
アームレストを引き出して使用します。

⚠ 警 告

- シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。
  ①シートベルトを装着する。
  ②アームレストを下ろす。
  先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。
- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますのでご注意ください。

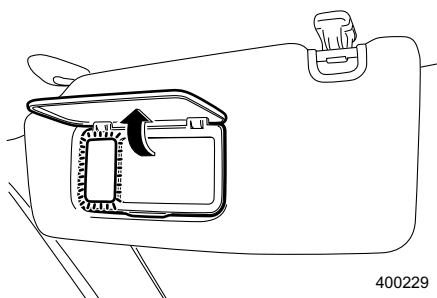
⚠ 注 意

- 飲み物を置いているときは、リヤシートの背当てやアームレストスルーを倒さないでください。
- 上に乗ったり、重いものを乗せないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

サンバイザー

太陽光がまぶしいときにサンバイザーを降ろします。
横に回すときはフックから外して使用します。
運転席側にはチケットホルダーが付いています。

400228

■バニティミラー

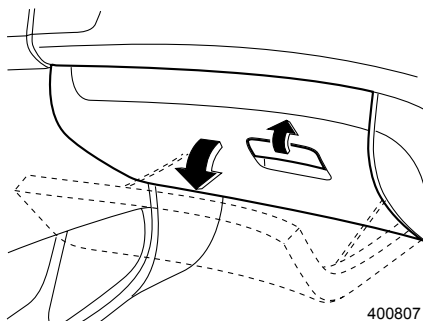
運転席、助手席サンバイザー裏側に鏡がついています。フタを開けると照明が点灯します(エンジンスイッチがAccかONのとき)。必要のないときは、必ずフタを閉めてください。

400229

⚠ 注 意

走行中は必ずフタを閉めてください。

小物入れ

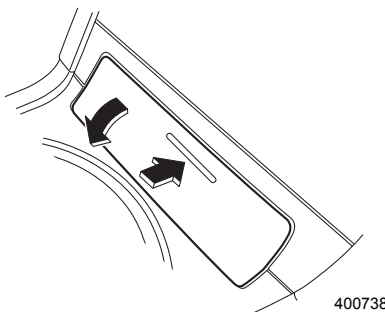
■グローブボックス

小物や書類を入れるのに使います。取っ手を引いて開けます。また、ライティングスイッチが:DO:または≣Dのとき開けると、照明灯がつきます。

●小物入れ

グローブボックス内に小物を入れる棚がついています。

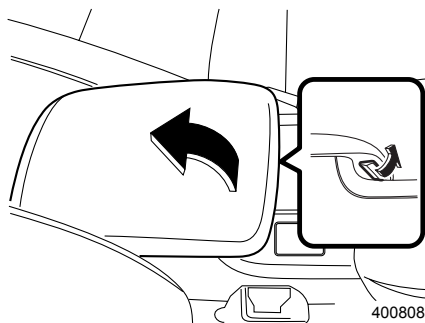
> **⚠ 注 意**
>
> 走行中はグローブボックスを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

■インストルメントパネル

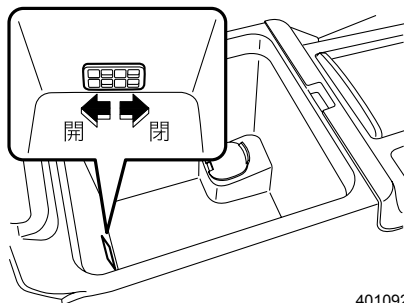
フタの上部を押すと開きます。

> **⚠ 注 意**
>
> この小物入れを灰皿として使用しないでください。火災の原因になります。

■コンソールボックス

ロックボタンを引いてフタを開けます。

400808

●保温冷機能付きボックス

コンソールボックスにエアコンの風を利用した保温冷機能が備わっています。吹き出し口のモードが“ ”以外のとき、保温冷機能を使用することができます。保温冷機能を使用するときは、ボックス内中央下にあるシャッターをスライドさせて開けます。保温冷機能を使用しないときは、シャッターをスライドさせて閉めます。

401092

⚠ 注 意

- 保温冷機能付きボックスは、エアコンの温度設定によってはボックス内が高温になる場合があります。また、夏場などエンジンを止めた室内は高温になります。ボックス内に破裂するものや溶けるものを入れないでください。
- ボックス内に開封後の飲み物を入れないでください。飲み物がこぼれると周辺機器の故障の原因となります。

アドバイス

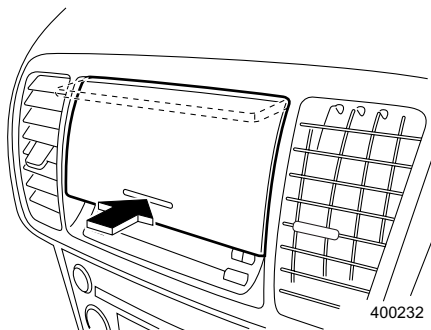
- ボックス内の温度は、助手席側吹き出し口と同様になります。
- 後席用吹き出し口を閉じると、保温冷機能の性能が上がります。

☆4−3ページ参照

- ボックス内に温度変化の影響を受ける食べ物（アイスやチョコレートなど）を入れないでください。

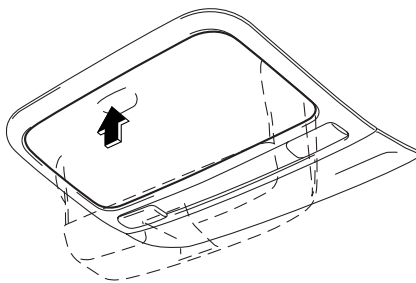
■アッパーセンターポケット

フタの下部を押すと開きます。

⚠ 注 意

走行中は必ず閉めておいてください。
万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをするおそれがあります。
炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

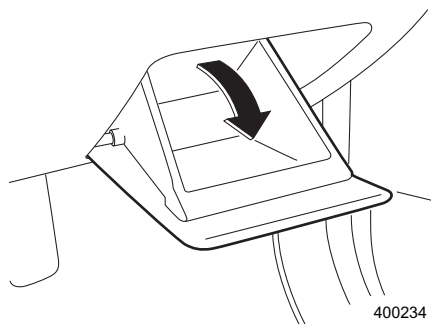
■オーバーヘッドコンソール

フタの後部を押すと開きます。

⚠ 注 意

走行中は必ず閉めておいてください。万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをすることがあります。また、運転視界のじゃまになる場合があります。
また、炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

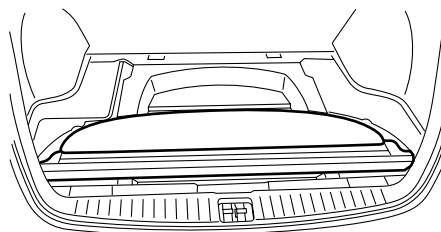
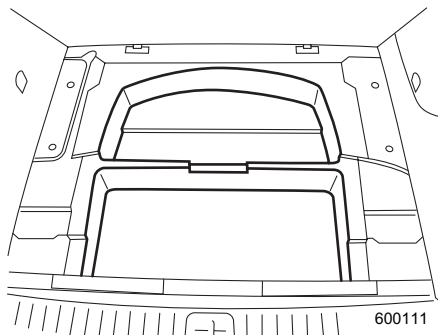
■コイントレイ

取っ手を引いて開けます。

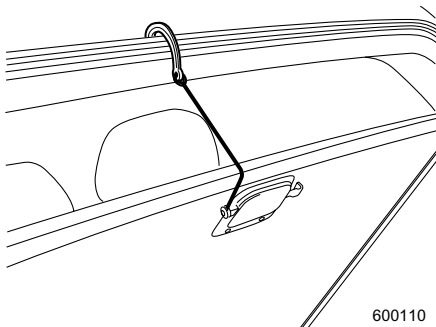
400234

サブトランク（ワゴン）

ラゲッジルームの床下に小さい荷物を収納することができます。三角停止表示板も収納できます。
トノカバーやリヤゲートボードを取り外したときはサブトランク内に収納できます。
☆4−85ページ参照

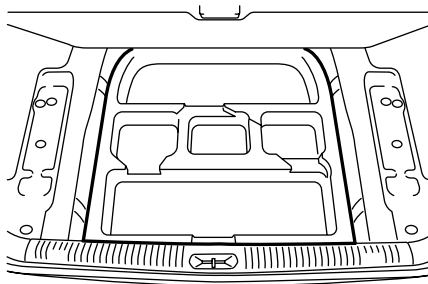
600111

400235

●サブトランクの使いかた

リッド（フタ）の取っ手を持って開けます。
リッド（フタ）の裏側にあるヒモ付のフックを、リヤゲート開口部上側に引っかけておくと、リッド（フタ）を開けたままにしておくことができます。

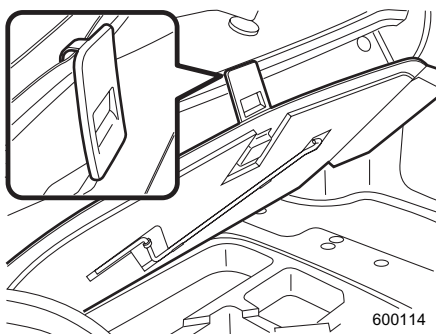
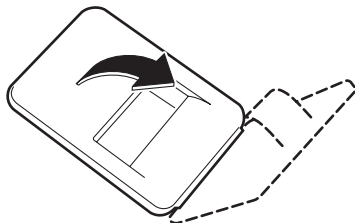
600110

サブトランク（セダン）

トランク床下に小さい荷物を収納することができます。三角停止表示板も収納できます。

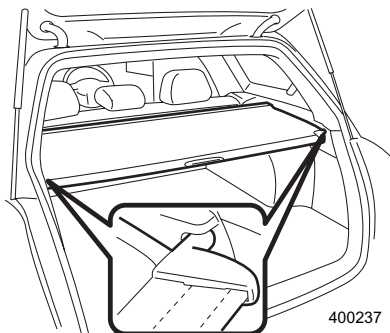
400815

●サブトランクの使いかた

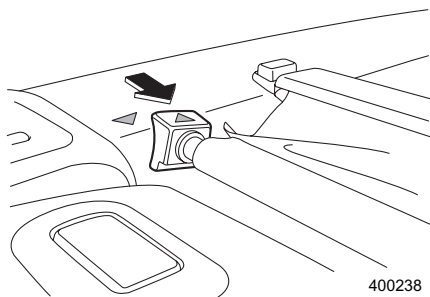
リッド（フタ）の取っ手を持って開けます。
取っ手をトランク開口部上側に引っかけておくと、リッド（フタ）を開けたままにしておくことができます。

400236

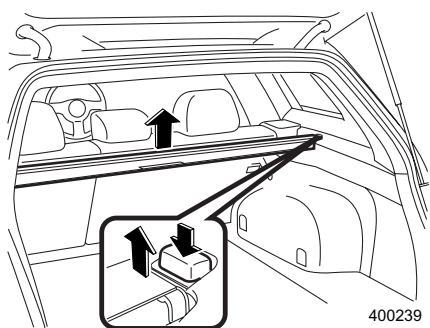
600114

トノカバー（ワゴン）

●使用するときには

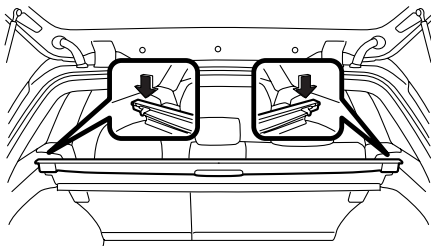
トノカバー中央部を持ち、ゆっくりとフックの手前まで引き、下げるようにして両側のフックに引っかけます。
戻すときは中央部を持ち、一度手前に引いたまま持ち上げるようにしてフックから外し、ゆっくりと巻き戻します。

400237

前側のトノカバー付車はリヤシート後部の両端に固定してください。

400238

●取り外すには

巻き戻した状態で運転席側のボタンを押し取り外します。取り外したトノカバーはサブトランクに収納することができます。

400239

●取り付けるには

助手席側の取付部からはめ込み、取り付けます。

400336

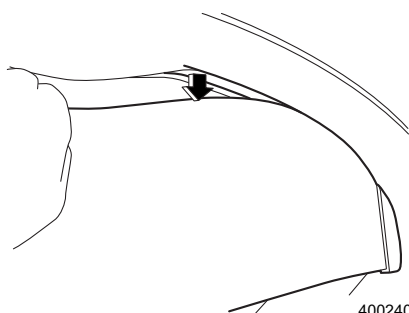
アドバイス

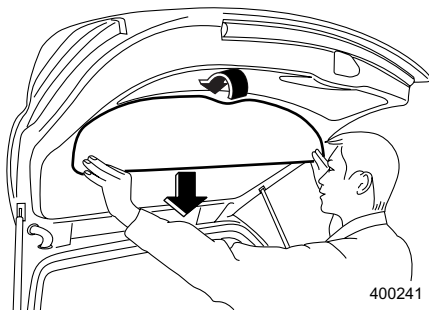
トノカバーの上に物を乗せないでください。
物が落下したり、トノカバーが損傷するおそれがあります。
リヤシートを後ろへリクライニングしたときに、前側のトノカバーに当たり、位置がずれることがあります。

●リヤゲートボードの取り外し

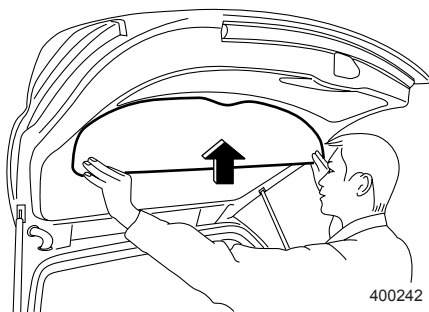
リヤゲートに装着してあるリヤゲートボードは取り外すことができます。取り外したリヤゲートボードはサブトランクに収納することができます。

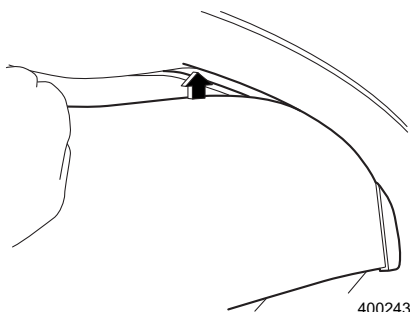
外しかた：

① リヤゲート中央部のはめ込み部分を外します。

400240

② リヤゲートボードを前方へ回転させながら下に抜き、取り外します。

400241

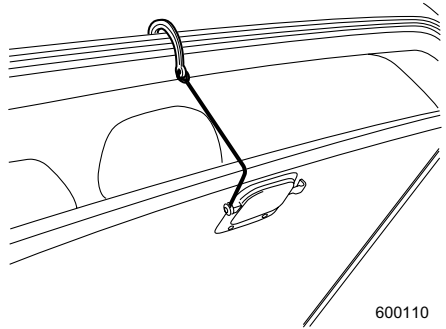
●**リヤゲートボードの取り付け**

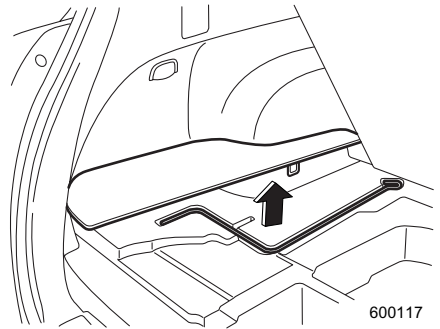
① リヤゲートボード両端を取付部にはめ込みます。

400242

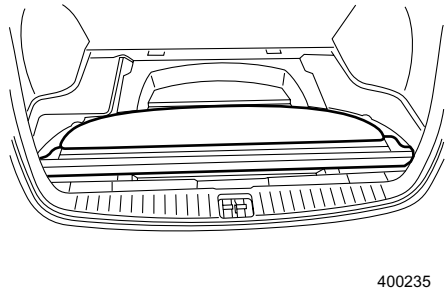
② リヤゲートボードの上部をリヤゲートの溝にはめ込みます。

400243

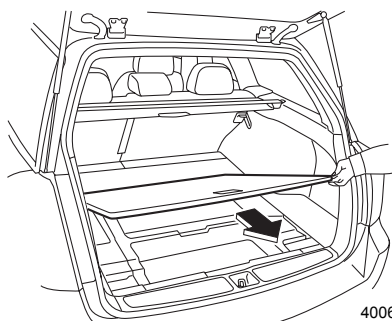
●トノカバー、リヤゲートボードを収納するには

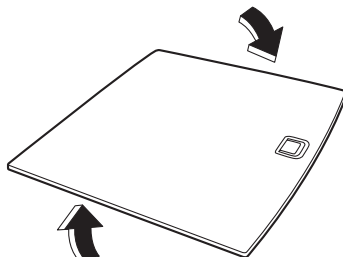
①サブトランクのリッド（フタ）の取っ手を持って開けます。
リッド（フタ）の裏側にあるヒモ付きのフックを、リヤゲート開口部上側に引っかけてリッド（フタ）を固定します。

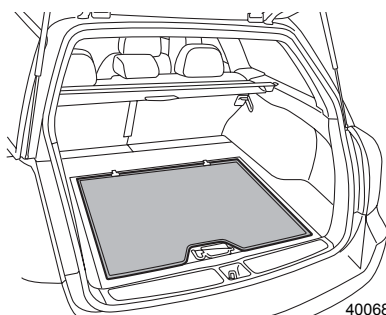
600110

②左右のリッド（フタ）を取り外します。

600117

③トノカバー、リヤゲートボードを収納します。

400235

リヤマット

リヤマットの裏面には汚れを落としやすい加工がしており、汚れた物を乗せることができます。
マットをカーゴルームから出しやすくするため、荷物を取り除いてください。
周囲に人や障害物がないことを確認し、マットを持ち上げカーゴルームから出します。

400684

マットを落とさないように注意しながら向きを裏返します。

400685

マットをカーゴルームに入れます。このとき、マットを元の位置に戻してください。

400686

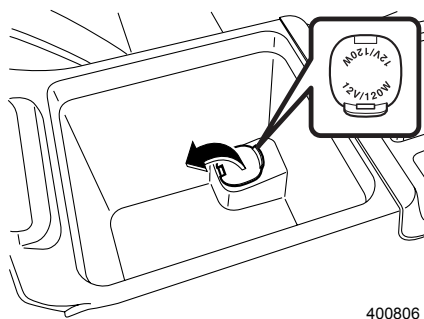
⚠ 注 意

マットの裏面の、取っ手またはフックの上に重いものを乗せないでください。
また、荷物の出し入れのとき、フックや取っ手などで荷物に傷をつけないよう注意してください。

マットの範囲外に汚れた物を乗せないでください。

電源ソケット

エンジンスイッチがAccまたはONのとき12 V直流電流が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。
電源ソケットの位置

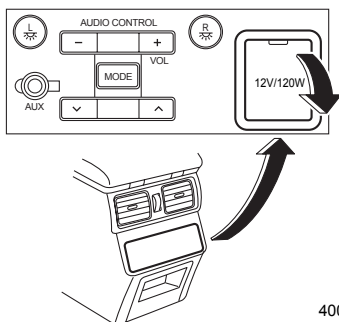
- インストルメントパネル小物入れ内
- センターコンソール内
- リヤコンソール（後席用オーディオコントロールスイッチ装着車）
- カーゴルーム左側（カーゴファン装着車）

インストルメントパネル小物入れ内

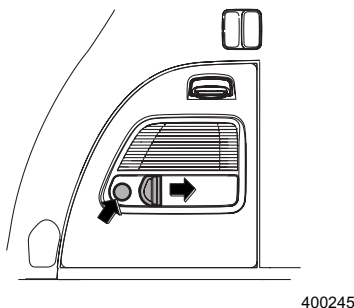
400734

センターコンソール内

400806

リヤコンソール（後席用オーディオコントロールスイッチ装着車）

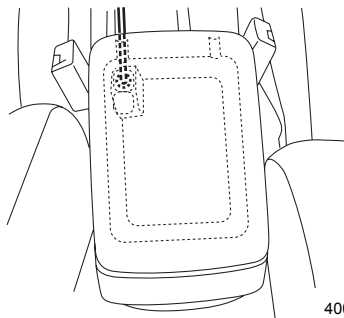
400687

カーゴルーム左側（カーゴルームファン装着車）

400245

⚠ 注 意

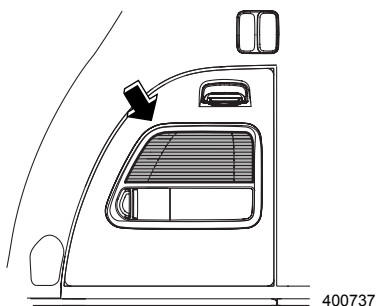
電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。
また、自動車用電気製品は必ず12 V-120 W以下のものをご使用ください。
また、ご使用の際、下記項目をお守りください。

- カーゴルームに電源ソケットを装着している車は、センターコンソール内とカーゴルーム左側のソケットを同時に使用する場合、自動車用電気製品の合計が120 W以下になるようにしてください。
- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 電源ソケットにシガレットライターを差し込まないでください。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。また、走行中の使用でも不要になったら切るように心がけてください。

アドバイス

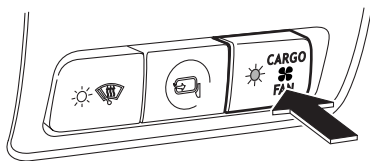
電源コードを引き廻す際は、コンソール前側の凹部から引き出してください。

カーゴファン（ワゴン）

カーゴルームに釣り具、ペットなどを積み込んだ場合のにおいなどを排出し換気を促進します。カーゴルーム左側についています。

400737

■使いかた

①エアコンを作動させ、マニュアル操作で外気導入にします。風の強さはお好みの強さにしてください。

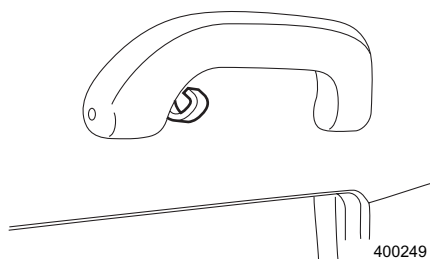
②カーゴファンスイッチを押して作動させます。作動中はスイッチのインジケーターが点灯します。

400248

③さらに、トノカバーを併用しますと一層効果が上がります。

⚠ 注 意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと排気管に腐食や損傷による穴や亀裂があると、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
また、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

コートフック

運転席側のリヤシートのアシストグリップにはコートフックがあります。

⚠ 警告

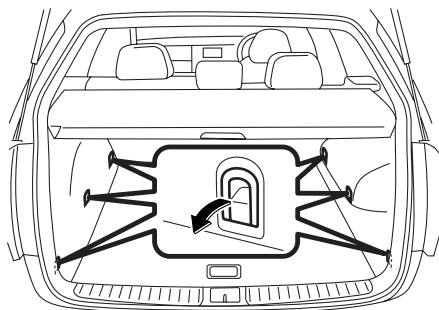
SRSカーテンエアバッグ装着車は、コートフックにハンガーや鋭利なものをかけないでください。SRSカーテンエアバッグが作動したときにこれらの物が飛び、重大な傷害につながるおそれがあります。
服をかけるときはハンガーを使わず、服をそのままコートフックにかけてください。

⚠ 注意

重いものや大きなものをフックにかけないでください。フックが折れたり、走行中に外れたりすることがあります。

許容荷重	5 kg

カーゴフック（ワゴン）

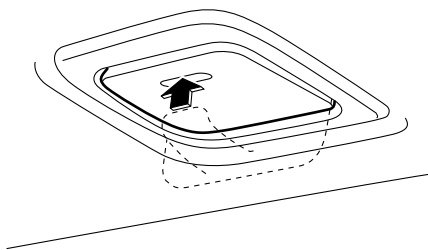
カーゴルームに6か所取り付けてあります。
カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

400250

⚠ 注 意

カーゴフックを使うとき
このフックはカーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	20 kg

ハンガーフック（ワゴン）

ハンガーなどをかけるときに使用します。
カーゴルーム左右の天井付近に付いています。
フック表面を押すと使用できます。
使用しないときは格納してください。

400251

⚠ 注 意

ハンガーフックは服など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

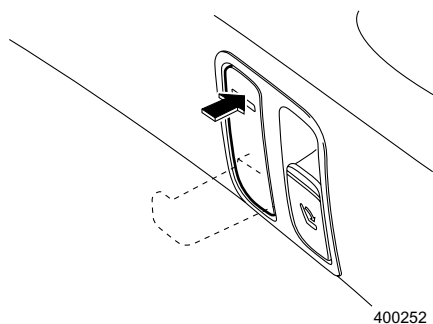
許容引張り荷重	5 kg

買い物フック

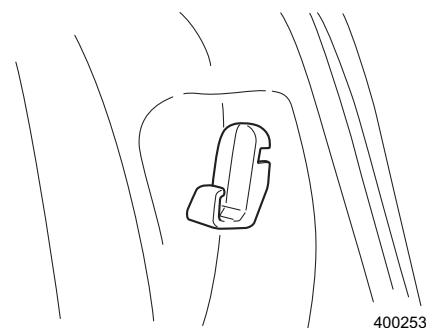
買い物袋などが転がらないようにするときに使用します。
使用しないときは格納しておいてください。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻きつけて使ってください。

ワゴン：

カーゴルーム左右の内張りに付いています。

400252

セダン：

トランクルーム左右の内張りに付いています。

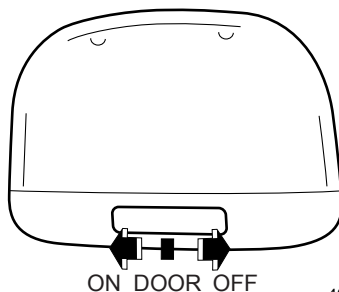
400253

⚠ 注 意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	5 kg

室内の照明

■ルームランプ

車内の天井中央（後席上部）にあります。
スイッチの位置により切り替えができます。
ON　　：常に点灯します。
DOOR：ドアを開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。
OFF　：常に消灯します。

●オフディレイ機能

スイッチをDOOR位置にしているときに、下記操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。（オフディレイ機能）

- エンジンスイッチをONからOFFにしたとき（キーレスアクセス装着車）
- エンジンスイッチをAccから1またはLOCKへ操作したとき
- ドアを開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（電波式リモコンドアロック、および暗証コード式キーレスエントリー）で解錠したとき
- 車両に近づいたとき（キーレスアクセス装着車）

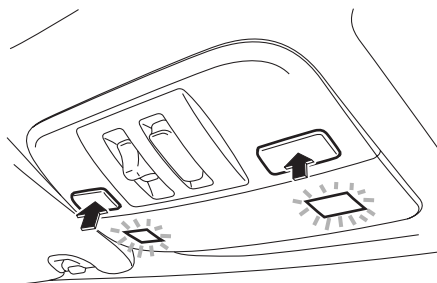
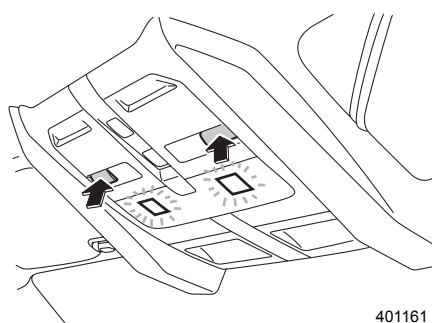
また、下記操作を行うと消灯します。

- エンジンスイッチをAccまたはONにしたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンキー）で施錠したとき

この機能は、スバル販売店にて消灯する時間を設定できます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。また、メーカーオプションのナビゲーション装着車は画面上で同様の設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

■前席用スポットマップランプ

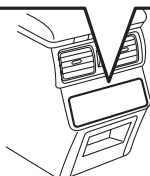
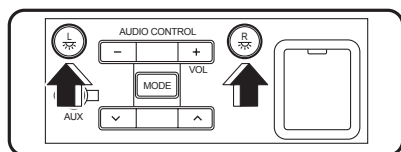
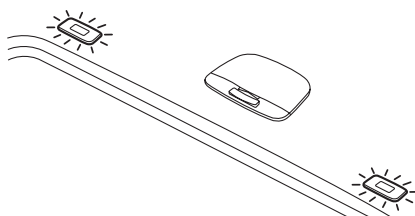
右側のスイッチを押すと右側のランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
左側も同じように使います。
夜間、車を止めて地図を見るときなどに便利です。

<タイプA>

<タイプB>

アドバイス

- 車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

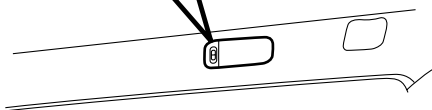
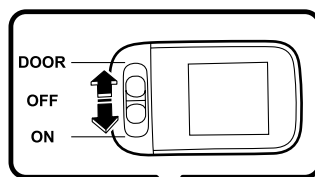
■後席用スポットマップランプ

エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。
右側のスイッチを押すと右側のランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
左側も同じように使います。
夜間、車を止めて地図を見るときなどに便利です。

400688

400689

アドバイス

- 車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

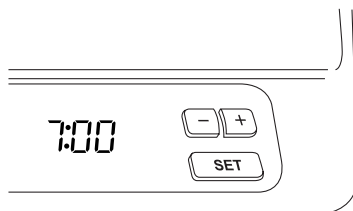
■カーゴルームランプ（ワゴン）

ON　　　　：常に点灯します。
OFF（中立）：常に消灯します。
DOOR　　　：リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。

400971

アドバイス

- 車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

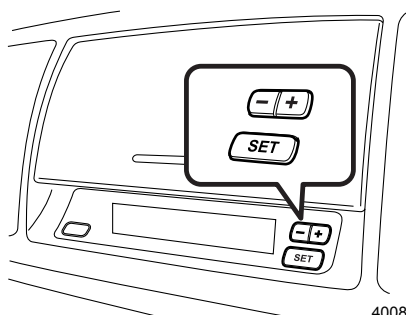
時計✤

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、時刻が表示されます。

400816

●時刻表示の合わせかた

「＋」ボタンまたは「ー」ボタンを押すと、１分きざみで時刻が切り替わります。また、ボタンを押し続けると連続的に切り替わります。

●時報合わせ

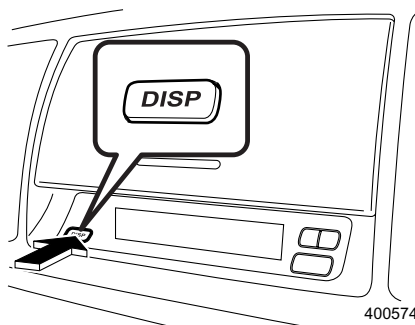
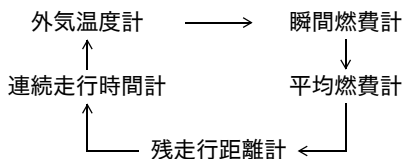
時報と同時に「SET」ボタンを押します。
（例）1：01〜1：29の場合……1：00
　　　1：30〜1：59の場合……2：00

400813

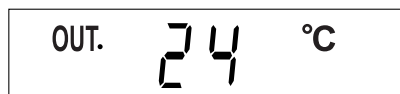
アドバイス

バッテリーの接続を外すと時刻が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に修正してください。

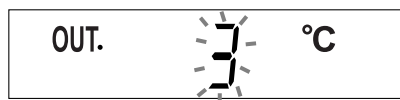
インフォメーションメーター

エンジンスイッチがONのとき「DISP」ボタンを押すごとに以下の表示に切り替わります。

400574

■外気温度計

外気温度を表示します。
表示範囲は－30℃～50℃です。

400260

●路面凍結警告表示

外気温度が3℃以下になった場合、路面が凍結している可能性があることを知らせるため、温度表示が点滅します。
他の表示をしている場合は外気温度計表示に切り替わり、5秒間点滅した後元の表示に戻ります。
外気温が 3 ℃以下の状態でエンジンスイッチをONにした場合、温度表示は点滅しません。

400261

アドバイス

- 外気温度計は外気センサー取付部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状態を確認してください。

■瞬間燃費計

走行している瞬間の燃費を表示します。
低速走行時は表示されません。

10.5 km/L

400262

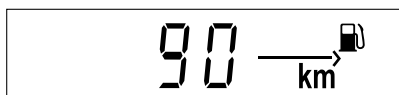
■平均燃費計

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。
トリップノブを押すごとに、トリップ A、B の平均燃費を表示します。
トリップ A、B をリセットすると平均燃費計もリセットされます。
リセット後は 1 km 走行するまで表示されません。

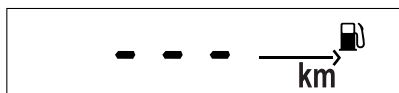
400263

走行状態や状況により燃費は変化するため、燃費情報は目安となります。そのため、表示が実際とは異なる場合があります。

■残走行距離計

燃料タンク内の燃料量と過去30 km間の燃費を計算してタンク内の燃料での走行可能距離を10 km単位で表示します。
燃料残量警告灯が点灯すると、他の表示をしていても残走行距離計に切り替わり、残走行距離数が5秒間点滅します。

400972

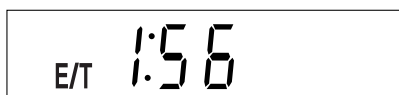
残走行距離計算用の燃費値は過去30 km間の燃費を基に行っているため、瞬間燃費、平均燃費の値とは必ずしも一致しません。

燃料が残りわずかになりますと、表示をストップします。

300836

残走行距離はあくまでも目安です。走行状態や状況により燃費が変化するため、表示が実際とは異なる場合があります。
燃料の補給は早めに行ってください。

■連続走行時間計

エンジン始動時からの時間を表示します。

E/T 1:56

400266

1時間ごとに連続走行時間計が点滅します。
他の表示をしている場合は連続走行時間計に
切り替わり5秒間点滅し元の表示に戻ります。

400267

アドバイス

- エンジンスイッチがLOCKにならない限り時間はリセットされません。エンジンスイッチOFFまたはAccからONにした場合、今までの走行時間から時間を計ります。
- エンジンスイッチが LOCK 位置またはエンジン始動するとリセットされます。
  LOCKに戻さずAccからONにすると先程までの走行時間を表示します。

5 寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

■タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイールが傷つく場合があります。

注 意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。

- タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

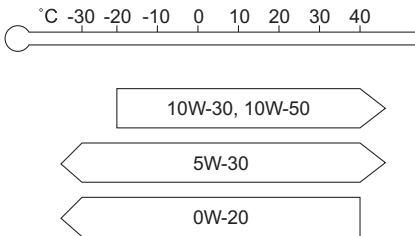
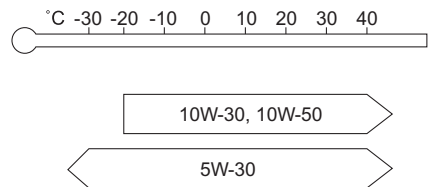
●タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

タイヤサイズ	スバル純正タイヤチェーン			市販JISチェーン
	スチールチェーン	スプリングチェーン	サイルチェーン	
205/55R16	装着不可	B3177AE000（TS-D881）	装着不可	装着不可
215/45R17	装着不可	B3177AC000（TS-D302）	装着不可	装着不可
215/45R18	装着不可	B3177AG010	装着不可	装着不可
215/55R17	装着不可	B3177AG000	装着不可	装着不可

■エンジンオイル

下図を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。

●2.0i　　●3.0R、2.0GT、2.5XT、2.5i

アドバイス

- 2.0iにはスバル純正エンジンオイル0W-20（SM級）の使用をお奨めします。
- 3.0R、2.0GT、2.5XT、2.5i にはスバル純正エンジンオイル5W-30（SM級）の使用をお奨めします。

☆8－3ページ参照

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50％の希釈割合（濃度）にしてお使いください。希釈に使用する水は、軟水または水道水をご使用ください。

工場出荷時には50％濃度にしております。

■ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウインドゥに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。
メンテナンスノートをご覧ください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤をお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

注 意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。付着している雪や氷を取り除いてください。

⚠ 注 意

雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。
各タイヤの内側にはABSの車速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■屋根の雪の除去

走行する前に屋根に積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

アドバイス

金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるときには

ドアが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。

アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。
ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。
無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのゴムが切れることがあります。
ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。

- フロントガラスは、エアコンの吹き出し口を(デフロスター)にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
- リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3－14、3－15、4－12ページ参照

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5－4ページ参照

走行するとき、駐車するとき、洗車するとき

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。

- オートマチック車：
  セレクトレバーをマニュアルモードの2速にします。
  また、グレードによりマニュアルモード選択時にはステアリング上のスイッチで2速にすることもできます。

☆3－64ページ参照

- マニュアル車：
  チェンジレバーを“2”にします。

☆3－51ページ参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を止め、足廻りを確認し、取り除いてください。

☆5－6ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。
HIDヘッドランプ装着車は、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

■積雪などにより、ワイパーが途中で止まったとき

車を安全な場所に停めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取除いてください。

駐車するときは

■ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。
次の要領で駐車してください。

- マニュアル車はチェンジレバーを以下の位置に入れます。
  下り坂；“R”
  登り坂；“1”
- オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。
- 輪止めをします。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも充分に洗ってください。
放置すると錆の原因となります。

■洗車のしかた

☆6－12ページ参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。
また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

☆6－12ページ参照

6　日常点検・車の手入れ

日常点検

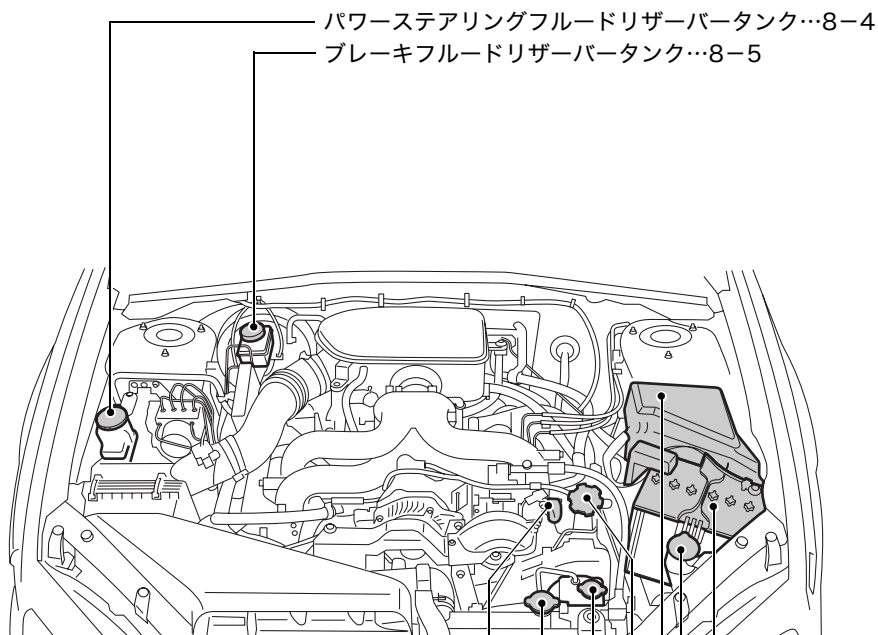
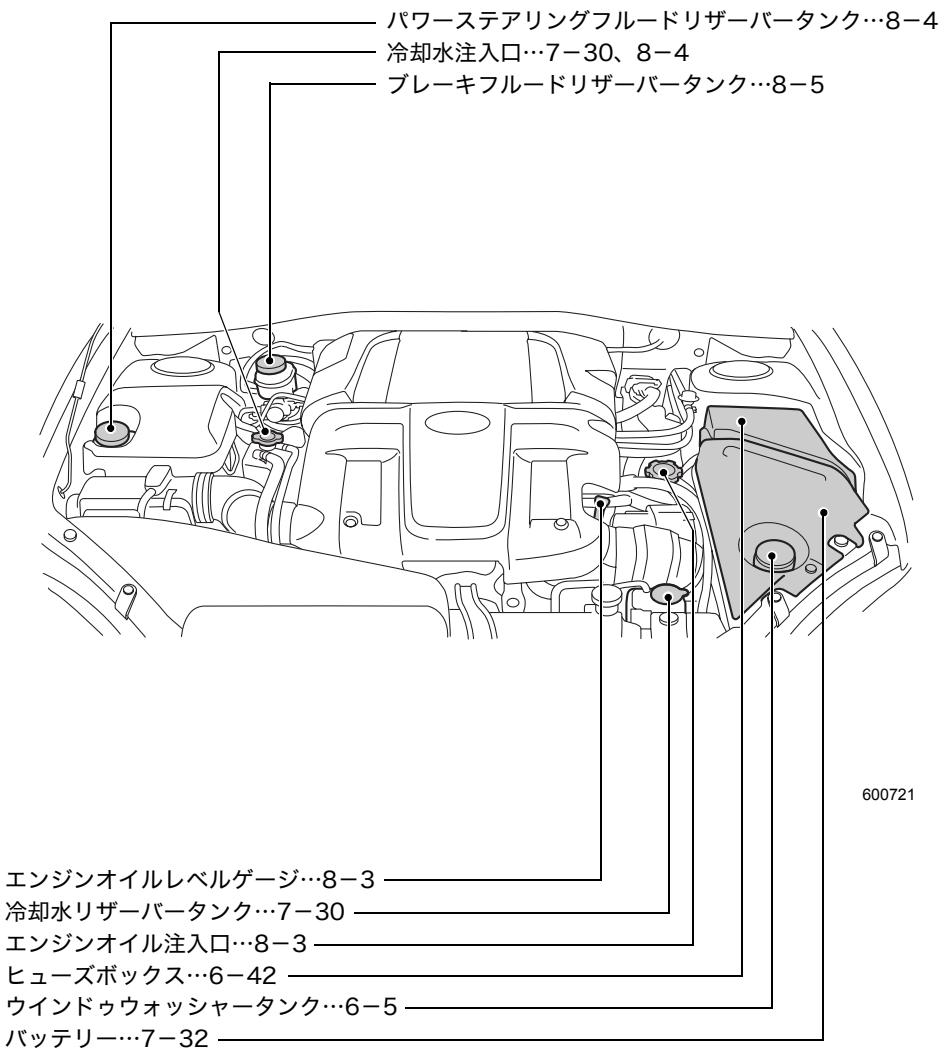
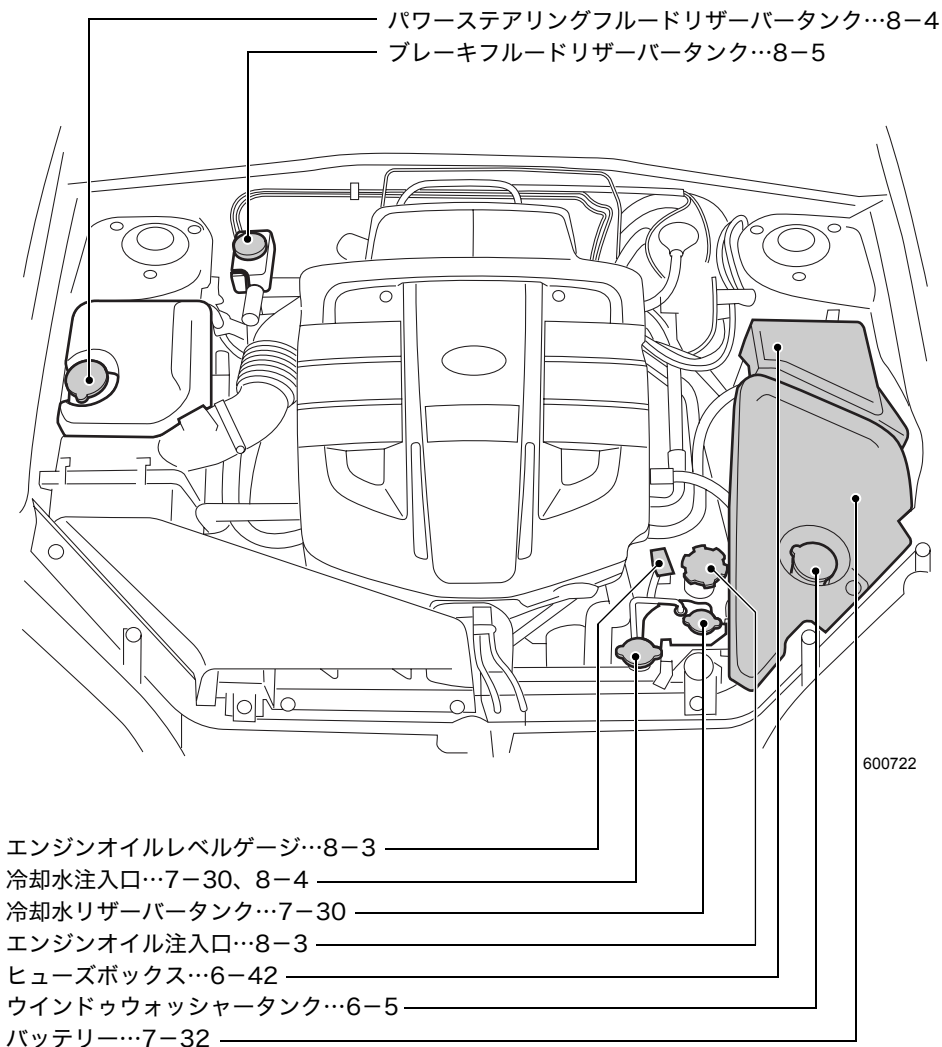
車の手入れ

日常点検

<ターボ車&3.0ℓ車以外>

<ターボ車>

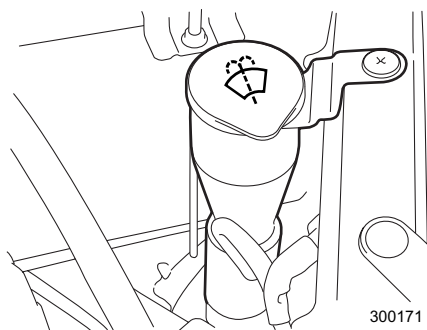
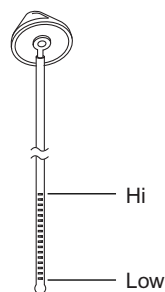
パワーステアリングフルードリザーバータンク…8−4
冷却水注入口…7−30、8−4
ブレーキフルードリザーバータンク…8−5
600721
エンジンオイルレベルゲージ…8−3
冷却水リザーバータンク…7−30
エンジンオイル注入口…8−3
ヒューズボックス…6−42
ウインドゥウォッシャータンク…6−5
バッテリー…7−32

＜3.0ℓ車＞

パワーステアリングフルードリザーバータンク…8−4
ブレーキフルードリザーバータンク…8−5
600722
エンジンオイルレベルゲージ…8−3
冷却水注入口…7−30、8−4
冷却水リザーバータンク…7−30
エンジンオイル注入口…8−3
ヒューズボックス…6−42
ウインドゥウォッシャータンク…6−5
バッテリー…7−32

バッテリー液量の点検

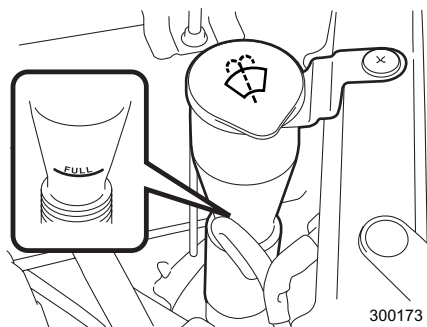
■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

ウォッシャー液量の点検

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開け、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。フロントとリヤの共用になっています。（リヤワイパーなし車はフロントのみ）

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

レベルゲージ下部の穴（レベル）に液量の膜が付着していることを確認してください。
付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。
補給するときは、注入口の FULL 位置以上ウォッシャー液を入れないでください。
(FULL位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。タンクの脇から確認するか、注水口を覗き込んで確認してください。)

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4－5、4－9ページ参照

- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5－4ページ参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないよう注意してください。
  ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

タイヤおよびホイール

■タイヤの点検

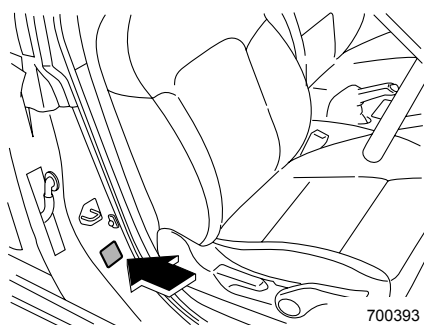
タイヤに大きな傷がないか、くぎがささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。
タイヤが異常に摩耗したりしていないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

⚠注 意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。このような損傷は後にならないとわかりません。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

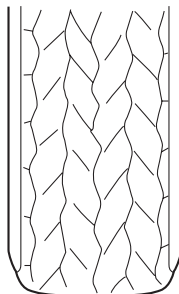
タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に1回は燃料補給などの際に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

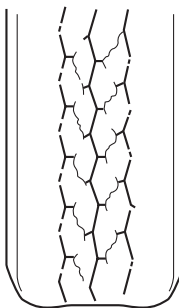
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。
タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

タイヤはわずかな距離を走っただけでも暖まり空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けますので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。
タイヤが暖まっているとタイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなるので誤って空気圧を下げないでください。

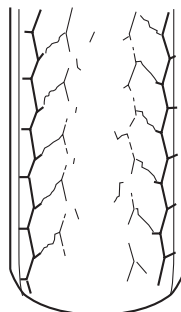
⚠ 注 意

- 扁平タイヤ（45タイヤなど）の空気圧は、見ためではわかりづらいため、必ず空気圧ゲージで点検してください。
- タイヤが暖まっているときは約30 kPa（0.3 kgf/cm²）空気圧が高くなります。
- タイヤが冷えているときというのは、車を3時間以上駐車しておくか、走行距離が1 km以下の走行を意味します。

タイヤ空気圧が適正でないと操縦性能や乗り心地を悪化させるとともにタイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…
  タイヤの接地面が均一に摩耗。
  路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。
  車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。

700019

- 空気圧が不足している場合…
  タイヤの接地面の端部が摩耗。
  車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。

700020

- 空気圧が過大な場合…
  タイヤ接地面の中央部が摩耗。
  車の乗り心地が悪くなります。
  タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。

700021

⚠ 警 告

とくに空気圧が低い状態のまま高速走行するとタイヤは極端に変形しタイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）を生じさせ、タイヤの破裂を引き起こす原因になることもあります。その結果、車両のコントロールを失い事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたらスバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

■ホイールアライメント

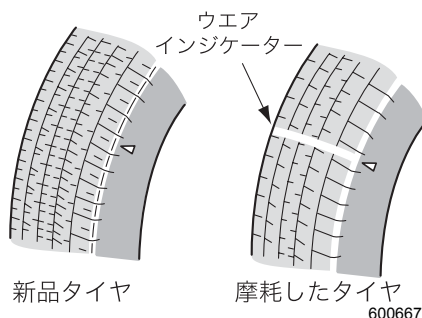
車両の走行安定性の確保およびタイヤの異常摩耗防止のため、あらかじめサスペンションおよびホイールに設定されている角度です。
縁石にぶつかったりするとホイールアライメントが狂うことがあります。

⚠ 注 意

ホイールアライメントが狂っていると、タイヤの片側だけが摩耗したり走行安定性が低下します。タイヤの異常摩耗に気がついたらスバル販売店にご相談ください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗状況を表示するもの）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが 1.6 mm 以下になると現れます。
タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

⚠ 警 告

ウエアインジケーターが現れたら､タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。
ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象※を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。
※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

⚠ 注 意

安全のためにタイヤの接地面を定期的に点検しウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

下記のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車してください。
また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道を走行した後は、錆の原因となりますので車体の下廻り、足廻りを念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。

■保管のしかた

車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所。
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます。
- いたずらされにくい場所。

アドバイス

- ラフロードなどを走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロードなどの走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線などに傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外に車を止めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長い間車を使用しない場合には、駐車ブレーキを引かずに「1」あるいは「R」（マニュアル車）／P（オートマチック車）に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。
  また、ワイパーを立てておいてください。ブレード（ゴム）のくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
  - スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
  - ときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
  - 風で飛ばされないようにしっかりかけてください。
  - 雨の後はボディカバーを外し、車とボディカバーを乾かしてください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

⚠ 注 意

- エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。先行車および後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。

アドバイス

- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルには水をかけないでください。
- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。
  汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。
- ドアガラスまわりに勢いの強い水をかけると、ドアガラスの内側に水滴が付着することがあります。

●自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納してください。
- リヤスポイラー付車を洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーに引っかかり、リヤスポイラーを損傷することがあります。
- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示にしたがってください。
- マイカ塗装車はすり傷が目立ちやすいので、スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、損傷や車内に水が入ることがあります。
- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルに洗車ノズルを近づけないでください。インタークーラーのフィンが曲がることがあります。

■ワックスのかけかた

洗車の後、ボディの温度が体温以下のときワックスがけをします。

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■バンパー塗装面のお手入れ

バンパーの塗装面を末永くきれいな状態でお乗りいただくために、以下の様な日常のメンテナンス方法をお奨めします。

① 中性洗剤を用いてバンパーに付着した汚れをよく洗い落としてください。
② 塗装表面に汚れが付着した状態で長期間放置すると、汚れが表面に固着して落ちにくくなりますので、こまめな洗車を行ってください。(少なくとも月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。)
③ 洗車をしてもバンパーの汚れが落ちきらない場合は、微粒子コンパウンド、またはコンパウンド入りワックス(推奨品;サンジェット2000)を用いてのお手入れを行ってください。
④ 最後にワックス仕上げを行ってください。

アドバイス

【酸性雨に注意】
バンパーに限らず、雨(酸性雨)が降ったときは、できる限り塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が酸で侵される事があります。その他、鳥糞・虫・花粉・樹液などの付着は、放置されると塗膜を侵す原因となりますので早めに洗い落としてください。

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤はスバル純正品を使用してください。

アドバイス

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り大変危険です。このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。
- リヤガラス（電熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線を損傷することがあります。

内装の手入れ

①カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
②水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
③直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

⚠ 警 告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度にうすめた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。
残った洗剤分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

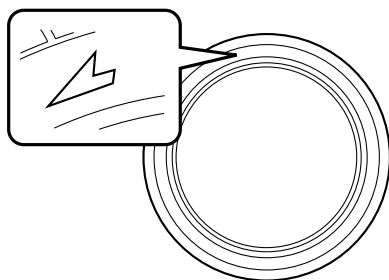
- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

■その他の手入れ

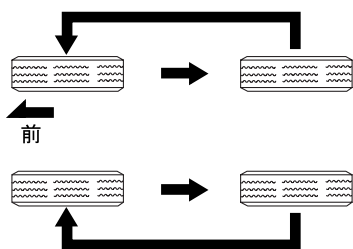
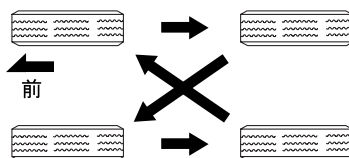
- エアコン操作部、メーター、オーディオ操作部、インストルメントパネル、コンソールボックス、スイッチなどのプラスチック部品を清掃するときは、ぬれた柔らかい布を使用してください。
  きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。
- 〈ナビゲーション装着車〉
  モニターの表示部が汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを一旦布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接モニターにかけると、モニターの構成部品に損傷を与えるおそれがあります。また、硬い布で拭いたり、シンナーやアルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷がついたり文字が消えることがあります。

タイヤ・ホイールの交換

■回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤごとで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

回転方向指定タイヤの場合　　**回転方向指定タイヤ以外の場合**

アドバイス

タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
前輪と後輪ではタイヤの空気圧が異なります。タイヤの位置交換後は、必ず空気圧を調整してください。また、ホイールナットの締め付けを確認してください。
約 1,000 km 走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。

■取り付け向き指定タイヤ

取り付け向きが指定されているタイヤには、INSIDE（内側）マーク、OUTSIDE（外側）マークが表示されています。
タイヤをホイールに取り付けるときには、OUTSIDEマークが車両外側から見えるように取り付けてください。

■タイヤの交換

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。
お車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせせた、車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。
タイヤを交換するときは、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
    なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。
- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

●VDC装着車のタイヤ交換

VDC の正確な作動のために、４輪とも摩耗度合いの等しいタイヤを装着してください。必ず4輪同時にタイヤを交換してください。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8−6ページ参照

⚠ 警 告

仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

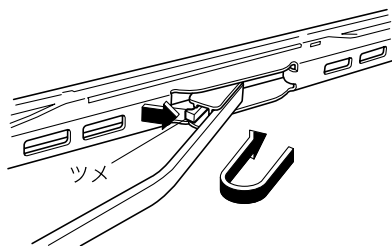
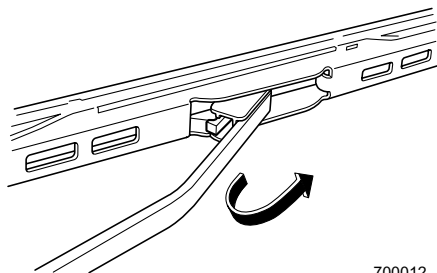
アドバイス

- ホイールは、リムサイズやオフセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

ワイパーブレードの交換

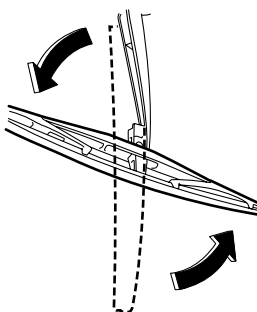
■ワイパー本体の交換

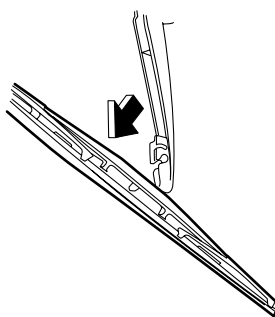
●フロント

① ワイパーアームについているツメを押しながらブレードを矢印の方向に引いて外してください。

② ワイパーアームに新品のワイパーブレードを取り付けてください。
このとき、ブレードのフックが確実に固定されていることを確認してください。

700012

③ 手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

●リヤ

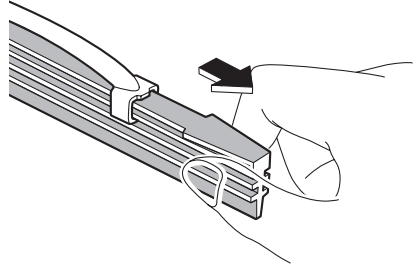
① ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを反時計回りに回してください。

700063

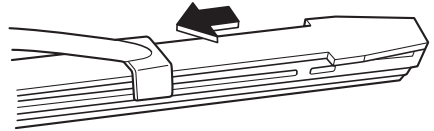
② ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外してください。

700064

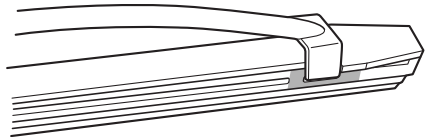
③ ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

■ブレードラバーの交換方法

●フロント

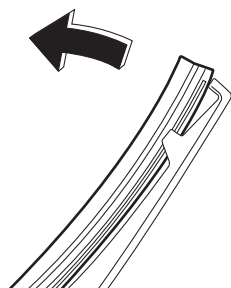
①古いブレードラバーを引き抜きます。図のように凸部分をつまんで引き抜いてください。

700014

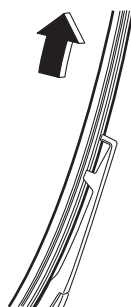
②新しいブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝を間違えないように挿入してください。

700015

③ブレードラバー先端のストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。
適切に挿入されていないとガラス面に傷をつけるおそれがあります。

700016

④確実に装着されているか、確認してからワイパーを作動させてください。
適切に装着されていないと、ガラス表面に傷をつけるおそれがあります。

●リヤ

① ブレードラバー端部をワイパーブレードから外してください。

700017

② ワイパーブレードのツメ部からブレードラバーを引き抜いてください。

700018

③ ワイパーブレードに新品のワイパーブレードラバーを挿入してください。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認してからワイパーを作動させてください。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

アドバイス

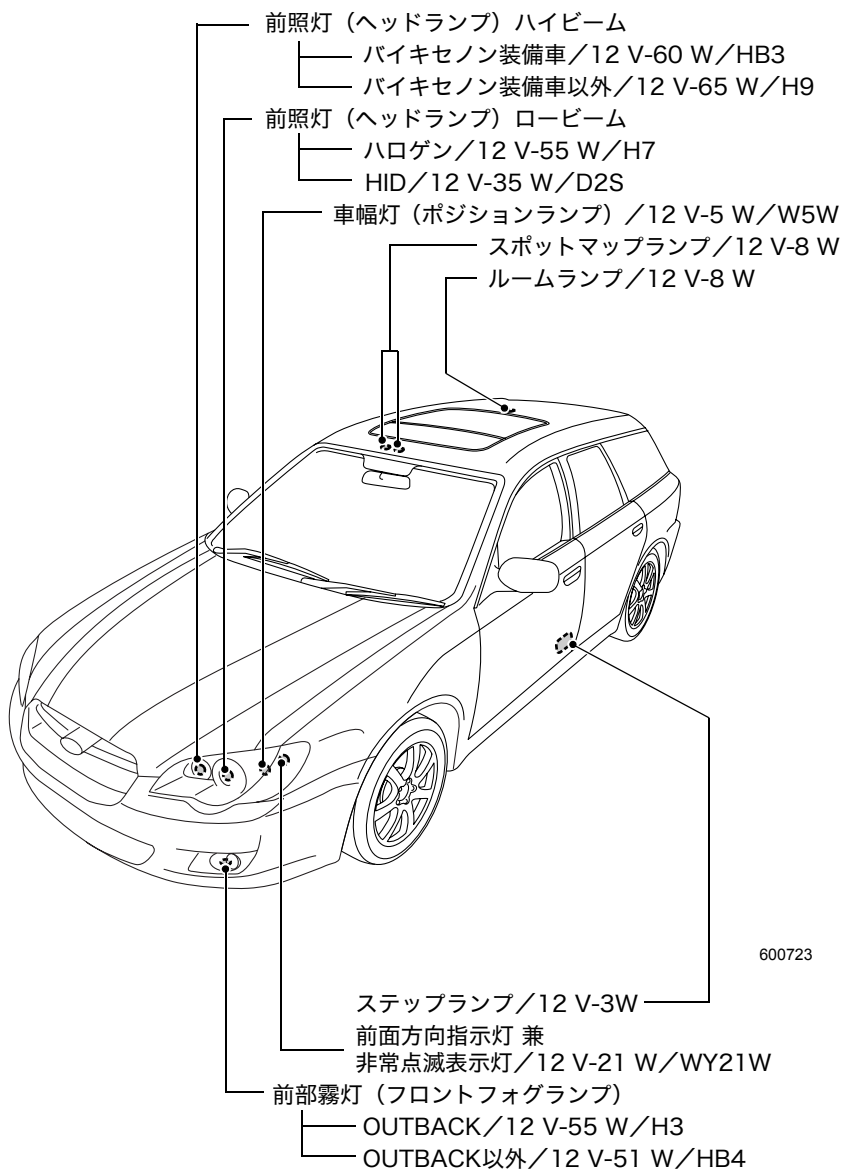
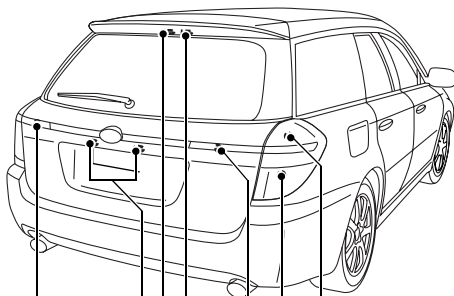
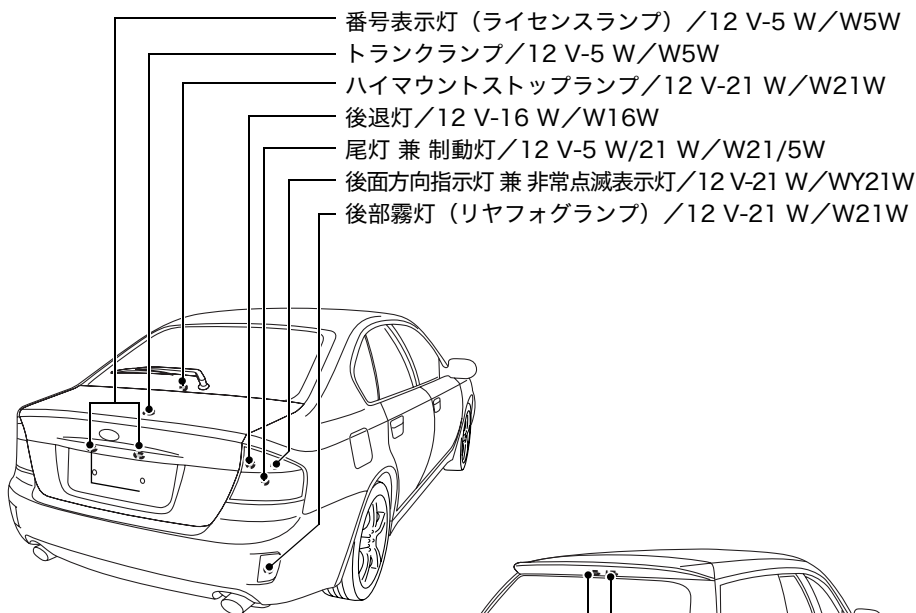
- ワイパーブレード本体およびブレードラバーはスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- 運転席側と助手席側ではブレードの長さが異なります。
  運転席側：600 mm
  助手席側：450 mm

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ワゴンとセダンではリヤワイパーの長さが異なります。
  ワゴン：350 mm
  セダン：400 mm
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながら、ゆっくりとウインドゥガラス面へ戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパーアームの変形や、フロントガラスに傷がつくことがあります。

バルブ（電球）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。

※ワゴンのハイマウントストップランプ、リヤフォグランプはLEDタイプとなっております。交換はスバル販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- HIDヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。HIDヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

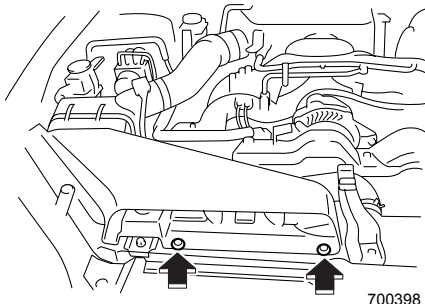
- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには充分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

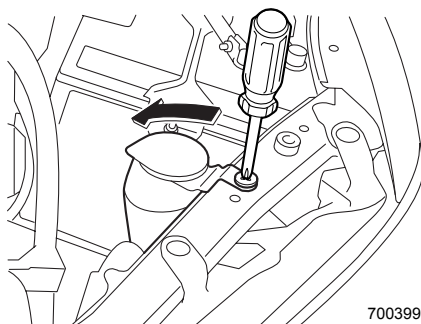
アドバイス

- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように気をつけてください。
- ドアミラー内蔵型方向指示灯兼非常点滅表示灯の交換はスバル販売店にご相談ください。

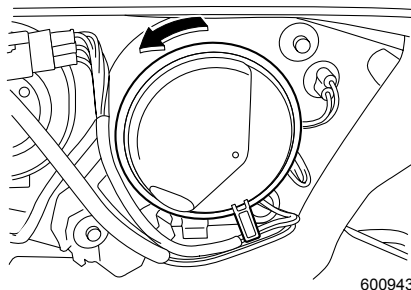
■ヘッドランプ（HID以外）

運転席側の電球を交換するときは、エアインテークダクトを外してから、作業してください。

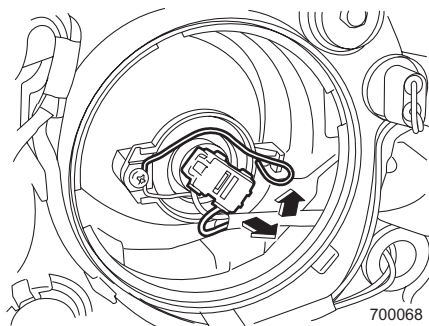
700398

助手席側の電球を交換するときは、バッテリーカバー（装着車）を外します。次にウォッシャータンクのクリップを外し、注入口を倒して作業してください。

700399

●ロービーム

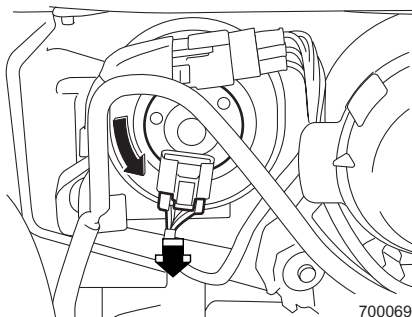
①バックカバーを反時計回りに回し取り外します。

600943

②コネクターの端子を抜きます。

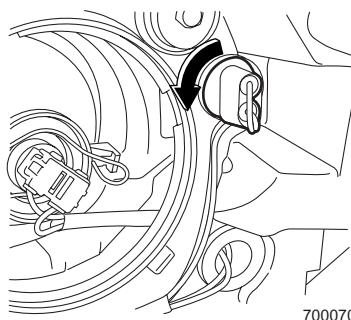
③ 電球を押さえている止め金を外し、電球を引き抜きます。

700068

●ハイビーム

① コネクターを抜きます。
② 電球のソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。
③ ソケットから電球を引き抜きます。

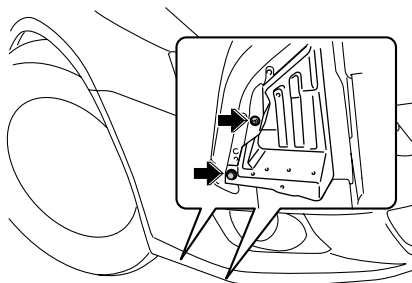
700069

■車幅灯

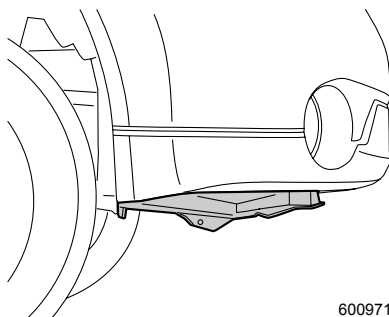
① ソケットを反時計方向に回し取り外します。

700070

② ソケットから電球を引き抜きます。

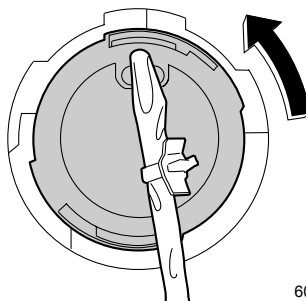
■フロントフォグランプ

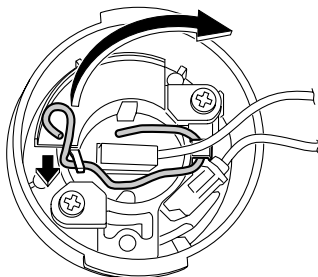
●準備

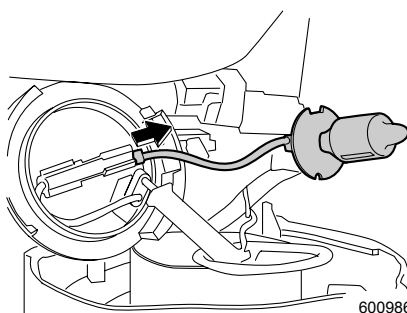
①アンダーカバーのクリップ（2本）を外します。

600980

②アンダーカバーをめくります。

600971

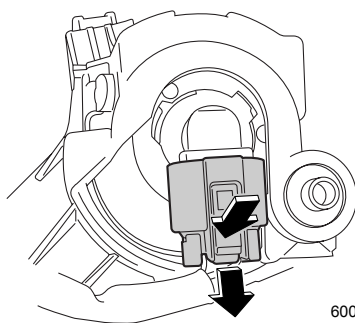
●OUTBACKモデル

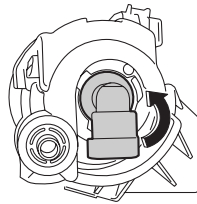
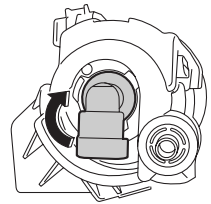
①バックカバーを反時計回りに回して外します。

600982

② 電球を押さえている止め金を外し、電球を引き抜きます。

600972

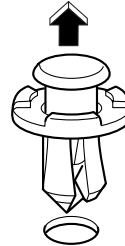
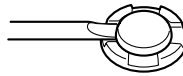
③ コネクターを抜き、電球を取り外します。

600986

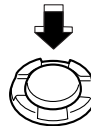
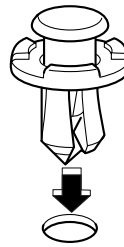
●OUTBACKモデル以外

① コネクターを外します。

600738

② 運転席側の電球を交換する場合は時計回りに、助手席側の電球を交換する場合は反時計回りにソケットを回し、ソケットを引き抜きます。

600739

アドバイス

- クリップは以下の手順で取り外します。
  ① マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
  ② クリップ中央部が飛びでてきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

600835

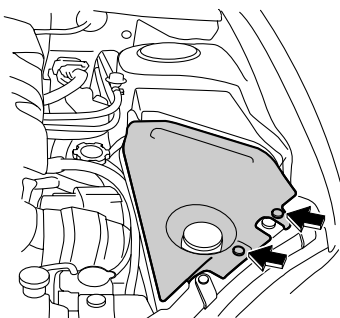
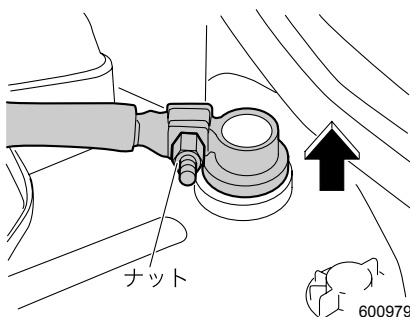
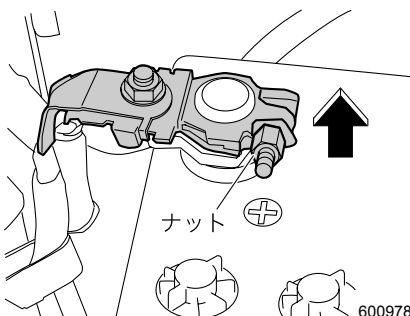
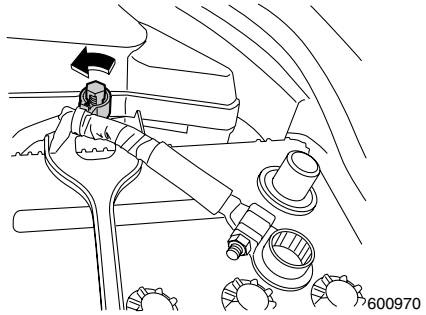
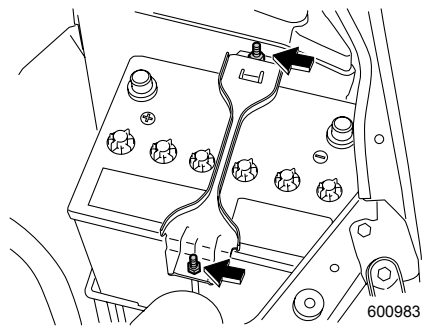
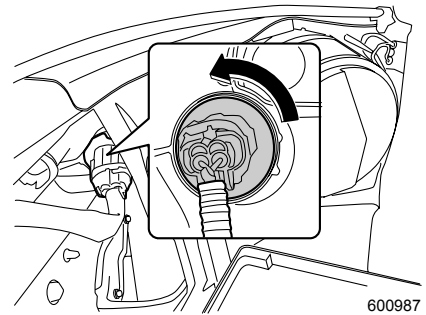
- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

600836

- 電球交換作業後は、アンダーカバーを元の状態に戻してください。

■前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

5速オートマチック車の助手席側の前面方向指示灯兼非常点滅灯は、バッテリーを取り外してから電球を交換します。5速オートマチック車の助手席側以外は、フェンダーの内張りをめくり、めくったところから手を入れて、電球を交換します。

●5速オートマチック車助手席側

①バッテリーカバーのクリップ（2 本）を外し、バッテリーカバーを取り外します。

②バッテリーマイナス端子のナットを反時計回りにゆるめ、バッテリーマイナス端子を外します。

③バッテリープラス端子のナットを反時計回りにゆるめ、バッテリープラス端子を外します。

④バッテリーケーブル取付部のネジを反時計回りにゆるめ、バッテリーロッドからバッテリーケーブルを外します。

⑤バッテリーホルダーのナット（2 個）を外し、バッテリーホルダーを外します。

⑥バッテリーを取り外します。
⑦ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

⑧ソケットから電球を引き抜きます。

⚠ 注 意

- バッテリーを取り外すときは、バッテリーを落とさないよう注意してください。
- バッテリーを外した後、走行不調やエンジン不調を感じた場合はスバル販売店にご相談ください。

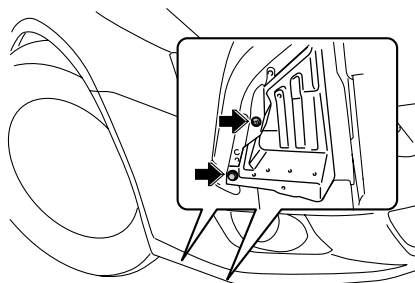
アドバイス

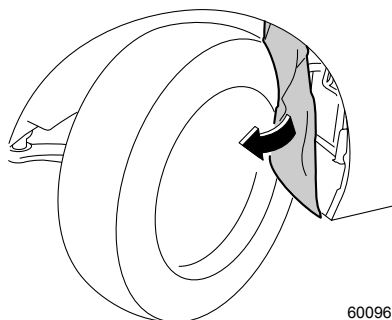
バッテリーを取り外すと、時計やラジオなどに記憶された内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。

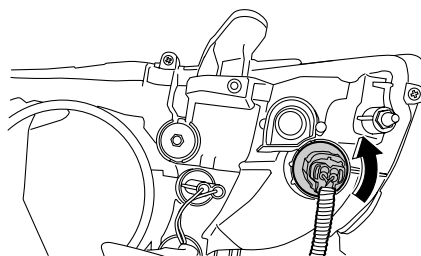
●5速オートマチック車助手席側以外

①エンジンをかけ、交換する電球の側と反対側にハンドルをいっぱいに回します。

②エンジンを停止します。

③アンダーカバーのクリップ（2本）を外します。

600980

④フェンダー内張りをめくります。

600968

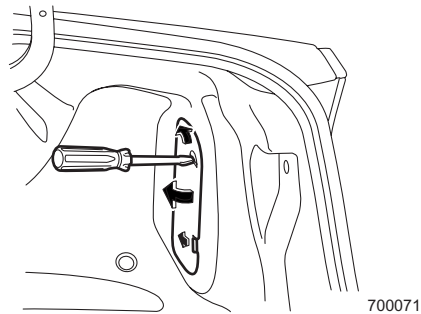
⑤ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

600969

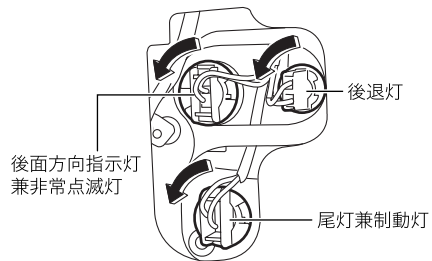
⑥ソケットから電球を引き抜きます。

■リヤコンビネーションランプ

●セダン

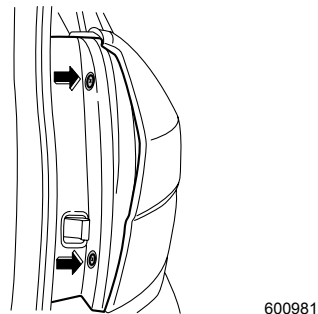
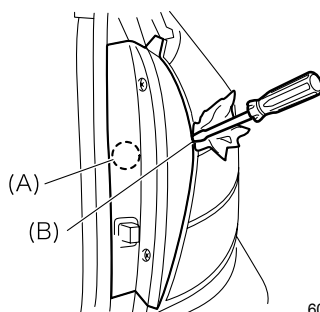
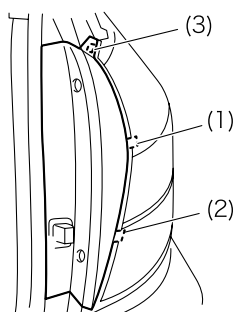
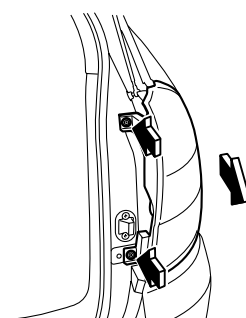
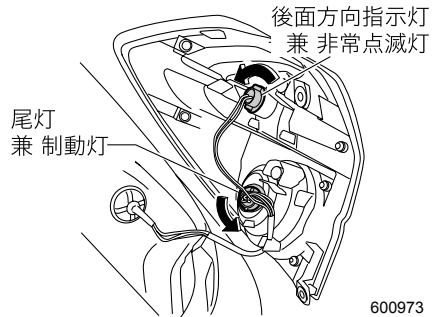
①トランクリッドを開けます。
②カバーのノブを90゜回し、カバーを取り外します。

700071

③ソケットを反時計回りに回しソケットごと引き抜きます。

600992

④ソケットから後退灯、尾灯兼制動灯、後面方向指示灯兼非常点滅灯の電球を引き抜きます。

●ワゴン

①リヤゲートを開けます。
②クリップ（2本）を外します。

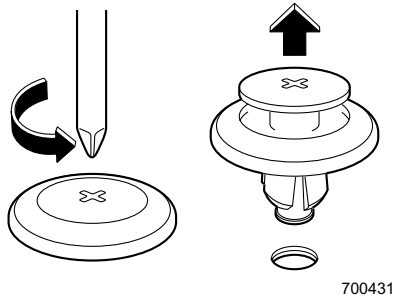
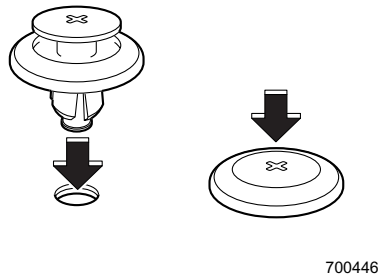
600981

③ (A) 部を押しながら、(B) 部のすき間に指またはマイナスドライバーを差し込みます。

④ (1)、(2)、(3) の順にツメを外し、リヤコンビネーションカバーを取り外します。

⑤ ネジ（2本）を外し、リヤコンビネーションランプを外します。

⑥ ソケットを反時計回りに回し、ソケットごと引き抜きます。

⑦ ソケットから電球を引き抜きます。

アドバイス

- クリップは以下の手順で取り外します。
  ① プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
  ② クリップ中央部が飛びでてきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

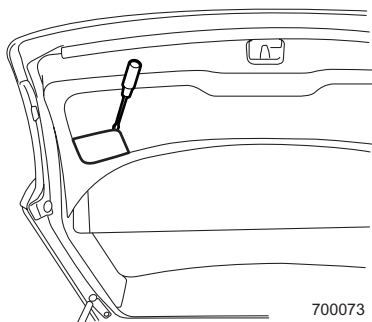
700431

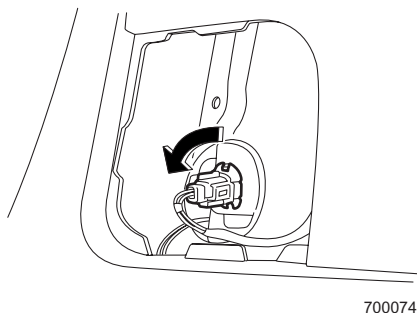
- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

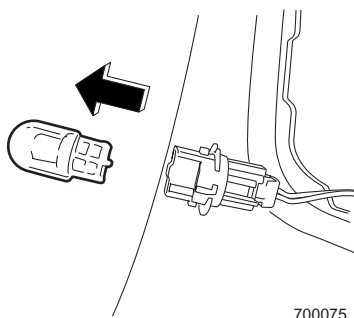
700446

■後退灯

●ワゴン

①リヤゲートを開けます。

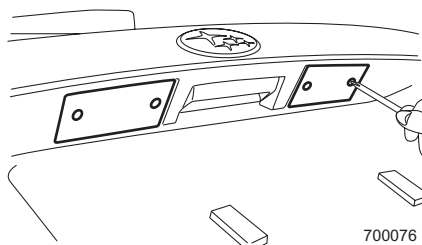
②リヤゲート裏のトリムにマイナスドライバーを差し込み、カバーを取り外します。

700073

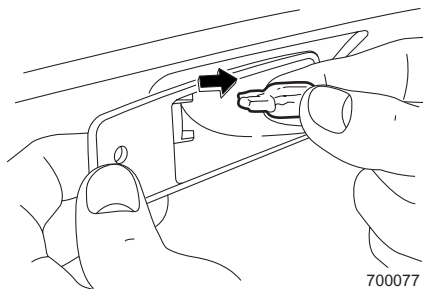
③ソケットを反時計回りに回し引き抜きます。

700074

④ソケットから電球を引き抜きます。

700075

■ライセンスランプ（番号表示灯）

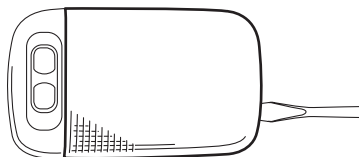
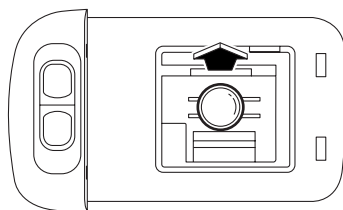
●ワゴン

①ネジ（2本）をゆるめ、レンズカバー、レンズを外します。

700076

②ソケットから電球を引き抜きます。

700077

■カーゴルームランプ

●ワゴン

①本体の縁にマイナスドライバーを差し込み、ランプ本体を取り外します。
②本体取り外し後、レンズを取り外します。

700078

③電球を引き抜きます。

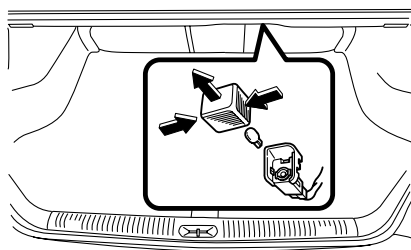
700079

アドバイス

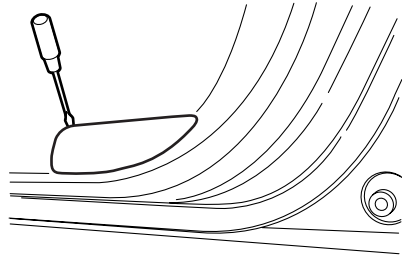
レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

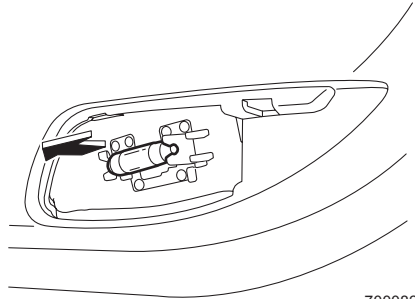
■トランクルームランプ

●セダン

①トランクリッドを開けます。
②レンズの側面を押しながら、レンズを手前に引き抜きます。
③ソケットから電球を引き抜きます。

700080

■ステップランプ

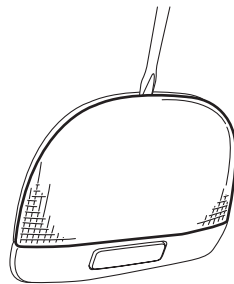
①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

700081

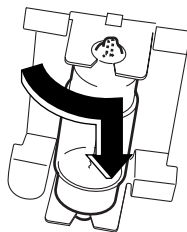
②電球を引き抜きます。

700082

アドバイス

レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■ルームランプ

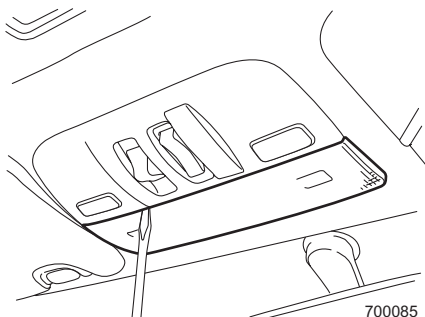
①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

700337

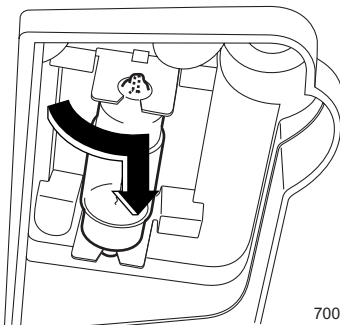
②電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。

700084

アドバイス

レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■前席用スポットランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

700085

②電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。

700086

アドバイス

レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■その他のランプ

電球交換の作業が難しいため、スバル販売店へ依頼してください。

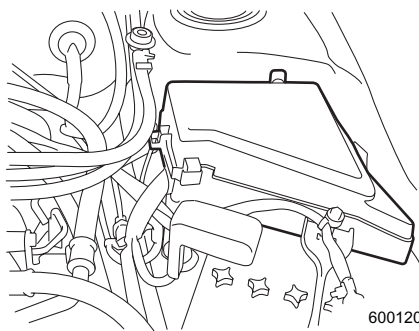
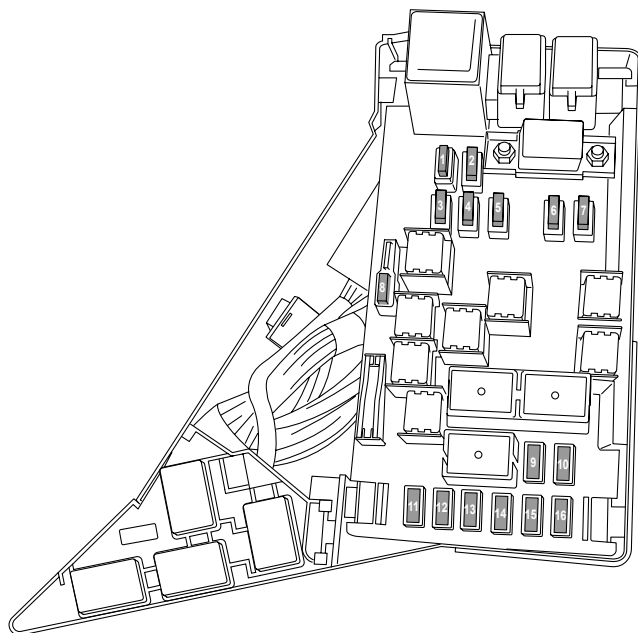
ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れやバルブ（電球）切れが考えられます。
この場合、以下の手順で確認してください。
①エンジンスイッチをLOCKにします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
- 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認し、点検します。

③切れているときは、ヒューズを交換します。

■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

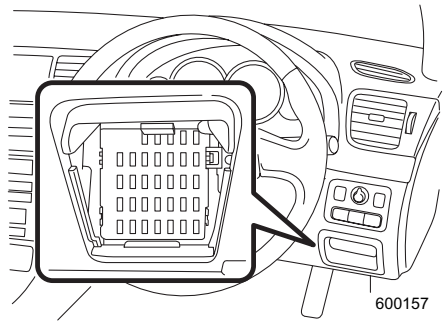
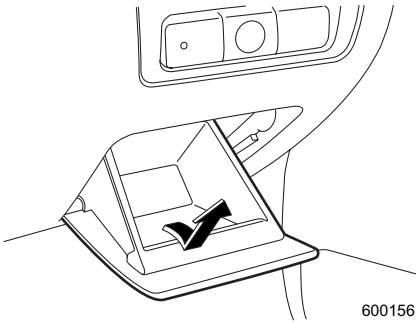
ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

エンジンルームヒューズボックス

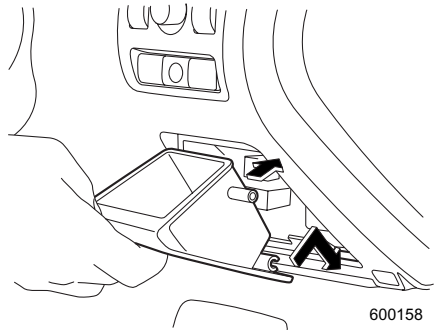
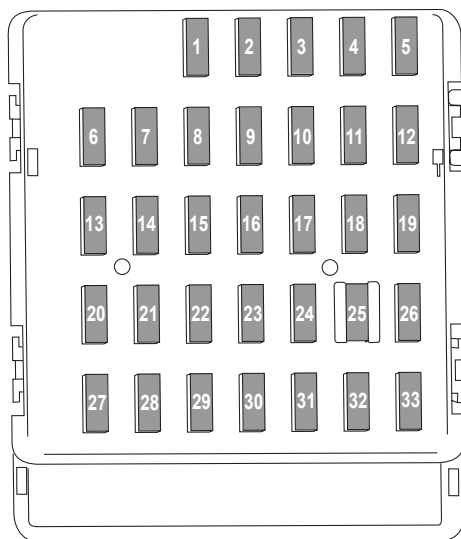
No.	ラベル表示	容量（A）
1	ABS SOL ABS （ABS VDCユニット）	30
2	MAIN FAN（ラジエターメインファン 6気筒車）	25
3	SUB FAN（ラジエターサブファン 4気筒車）	25
4	MAIN FAN（ラジエターメインファン）	25
5	AUDIO AMP（マッキントッシュアンプ用）	20
6	H/L RH（ヘッドライト右側）	15
7	H/L LH（ヘッドライト左側）	15
8	BACK UP バックアップ	20
9	HORN ホーン	15
10	R.DEF（リヤウインドゥデフォッガー）	25
11	FUEL PUMP（フューエルポンプ）	15
12	AT+B（ATコントロールユニット）	15
13	EGI+B（エンジンコントロールユニット）	7.5
14	HAZARD（ターンハザード）	15
15	LIGHTING（パーキングランプ）	20
16	ALT-S（オルタネーター）	7.5

●室内

コインﾄレイを開け、コイントレイを引き取り外します。

600156

600157

取り付けはツメ部とピン部を合わせ取り付けてください。

600158

600727

室内ヒューズ&リレーボックス

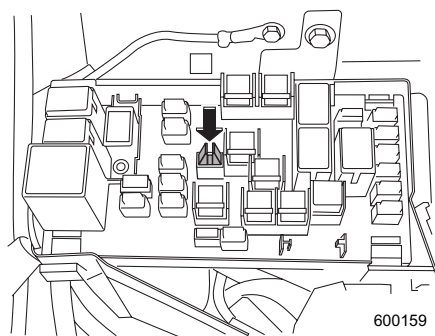
No.	ラベル表示	容量（A）
1	R.FOG C.FAN TRAIL（リヤフォグランプリレー、カーゴファンリレー）	20
2	UNIT IG3（EyeSight、SIレーダークルーズコントロール）	7.5
3	DOORLOCK（集中ドアロックスイッチ、キーレスエントリー）	15
4	IG2（サンルーフ）	15
5	METER IG（コンビメーター）	15
6	MIR（リモコンミラー）	7.5
7	UNIT +B1（統合ユニット）	15
8	STOP（ストップランプ）	20
9	WIPER DEICE（フロントワイパーデアイサーリレー）	20
10	D-OP +B（OP用パワーサプライ）	7.5
11	TURN IG（ターンシグナルユニット）	7.5
12	UNIT IG1（コントロールユニット）	15
13	12 V PLUG（カーゴソケット）	20
14	TAIL CLEARANCE（リヤコンビライト HIDリレー）	15
15	UNIT +B2（SIレーダークルーズコントロール）	10

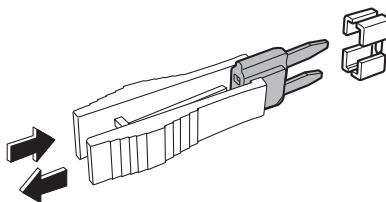
No.	ラベル表示	容量（A）
16	ILM（時計）	10
17	SEAT HTR（シートヒーター）	15
18	LAMP IG（バックアップライト）	10
19	H/L RH RLY（ヘッドライトリレー右側）	7.5
20	CIGAR（シガレットライター、電源ソケット）	10
21	START（スターターリレー）	7.5
22	A/C IG（エアコン）	15
23	R. WIPER WASHR（リヤワイパー &ウォッシャー）	15
24	AUDIO NAVI（オーディオ）	15
25	SRS AIR BAG（SRSエアバッグシステムメイン）	15
26	IG1（パワーウインドゥリレー）	7.5
27	BLOWER（ブロアーファンリレー）	15
28	BLOWER（ブロアーファンリレー）	15
29	F. FOG（フロントフォグランプリレー）	15
30	F. WIPER WASHR（フロントワイパー &ウォッシャー）	30
31	ACC（オートエアコンユニット）	7.5
32	H/L LH RLY（ヘッドライトリレー左側）	7.5
33	UNIT IG2（ABS VDCユニット）	7.5

■ヒューズの点検・交換

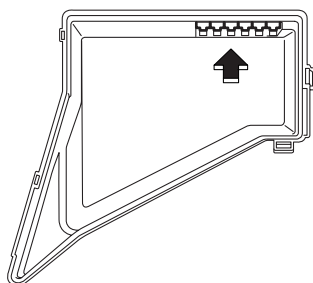
●ヒューズの外しかた

カバーの裏面にヒューズラベルが貼付されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。

ヒューズプラーをエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。

600159

ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

600160

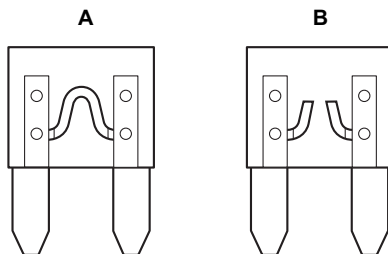
●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア（7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個）と交換してください。

600523

ヒューズボックスカバーの裏

次ページへ ⇒

⇒前ページより

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

600041

切れていない状態　　切れている状態

⚠ 注 意

ヒューズを交換するとき

- 必ずエンジンスイッチをLOCKにしてください。ONやAccのままですと、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。
  指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

- ライト類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

☆6－23ページ参照

- また、電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

エアフィルターの交換✂

オートエアコンにはエアフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため定期的に交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

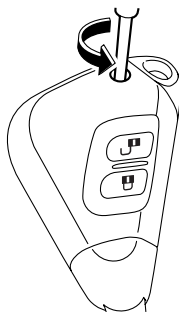
●交換時期

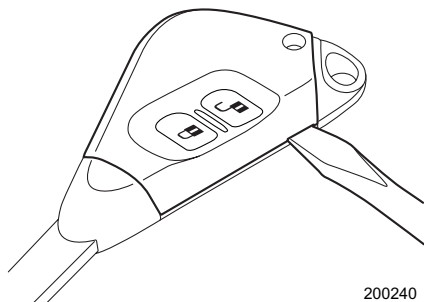
12,000 km走行ごと、または１年ごと

リモコンキーの電池交換✂

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

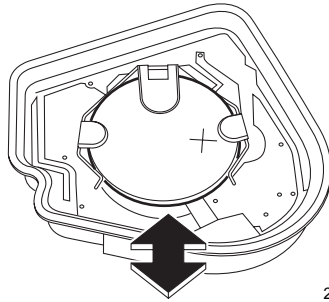
使用電池……ボタン電池CR1620

① ネジ（1本）を外します。

200239

② 溝部に ⊖ ドライバーを差し込み、カバーを外します。

200240

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

200241

⚠ 注 意

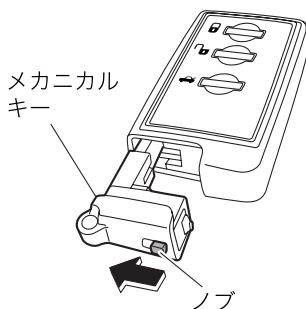
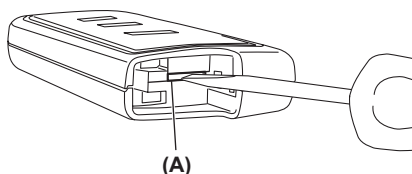
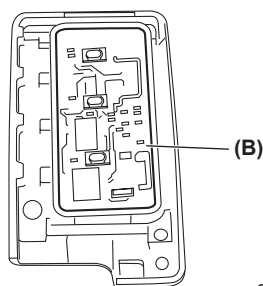
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

アドバイス

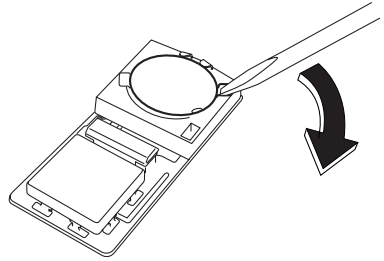
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、次のことに注意してください。
  - 端子部分などを曲げない
  - 水、油などでぬらさない
  - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

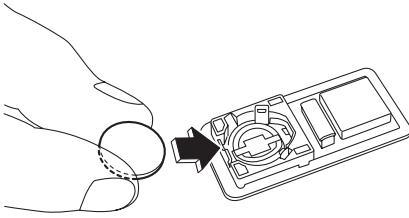
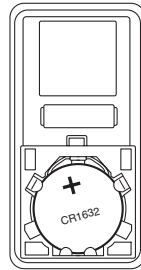
アクセスキーの電池交換

キーアクセス & プッシュスタートシステムの作動や電波式リモコンドアロックの作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。
使用電池・・・・・・・・・ ボタン電池CR1632

① メカニカルキーを取り出します。

② 溝部（A部）にビニールテープや布で覆ったマイナスドライバーを差し込み、カバーを外します。

③ カバー内の基盤（B部）を取り外し、電池面を上にします。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

④電池と基盤（B部）の間に絶縁テープなどを巻いたドライバーを差し込んで図のように取り出します。

S00187

⑤新しい電池のプラス極を上にして図のように挿入し、カバーを確実に取り付けてください。

S00188

S00189

注 意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、次のことに注意してください。
  - 端子部分などを曲げない
  - 水、油などでぬらさない
  - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換は販売店に依頼することをお奨めします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はアクセスキーの機能が正常であることを確認してください。

7 万一のとき

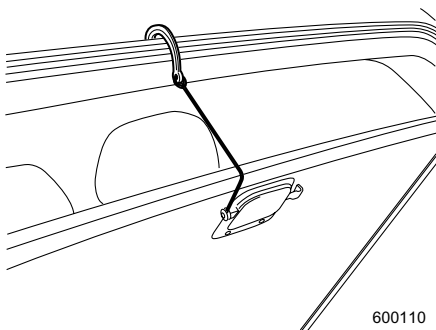
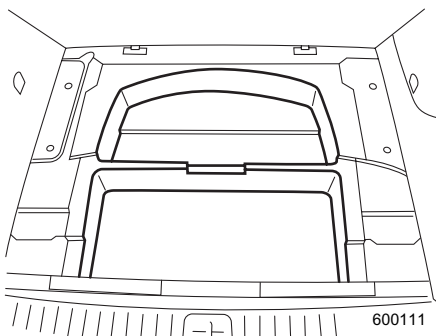
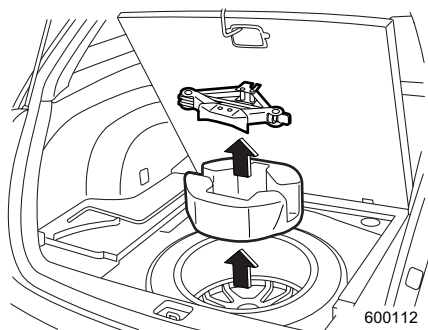
ジャッキ、工具、スペアタイヤ

ジャッキ、ジャッキハンドル

■ジャッキ

●ワゴン

カーゴルームの床下に収められています。

①カーゴルーム床のリッド（フタ）を開けます。

600110

②サブトランクを取り出します。

600111

③ジャッキを取り出します。

600112

●セダン

トランクルームの床下に収められています。

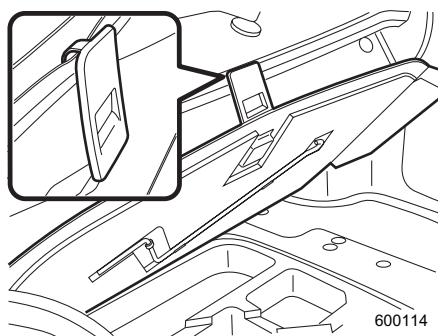
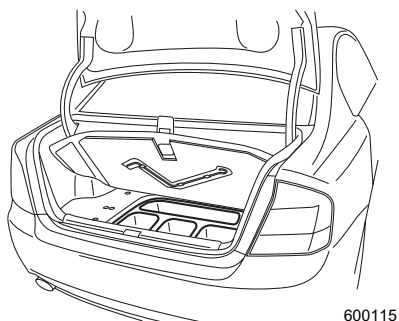
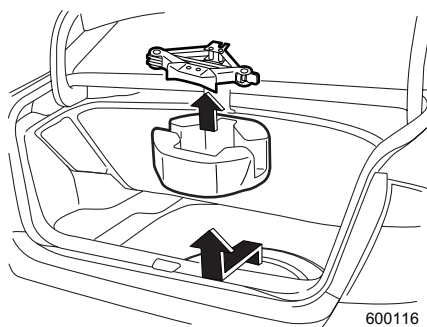
①トランクルーム床のマットを開けます。

600114

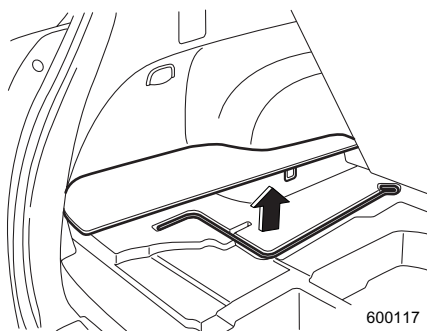
②サブトランクを取り出します。

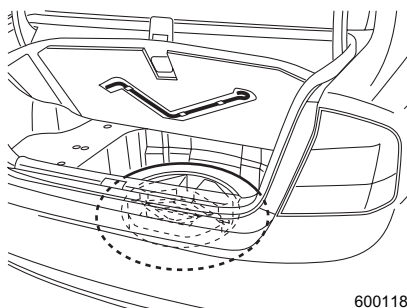
600115

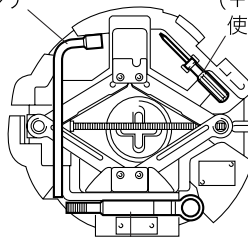
③ジャッキを取り出します。

600116

■ジャッキハンドル

●ワゴン

カーゴルーム左側の床下に収められています。床を取り外してからジャッキハンドルを取り出してください。

●セダン

トランクルームの床裏に収められています。

工具

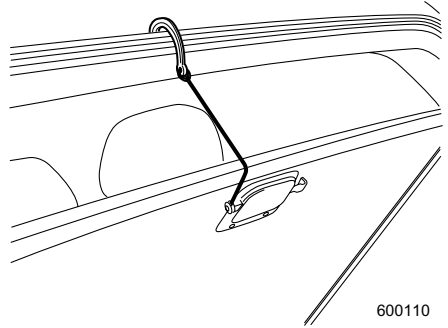
工具はジャッキホルダーに格納されています。使用後は元の場所に戻してください。
☆7−2、7−3ページ参照

その他、ご自分で必要と思われる工具もそろえておくと点検や手入れのとき役立ちます。

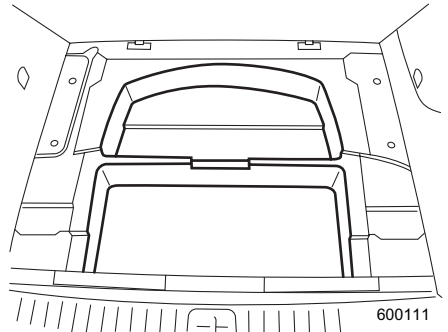
応急用スペアタイヤ

■スペアタイヤ

●ワゴン

カーゴルームの床下に収められています。

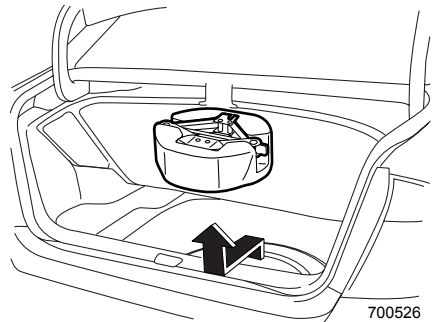
① カーゴルーム床のリッドを開けます。

600110

② サブトランクを取り出します。

600111

③ ジャッキホルダーを取り出します。

700525

次ページへ ⇒

⇒前ページより

④スペアタイヤを固定しているネジをゆるめ、スペアタイヤを取り出します。

600113

●セダン

トランクルームの床下に収められています。

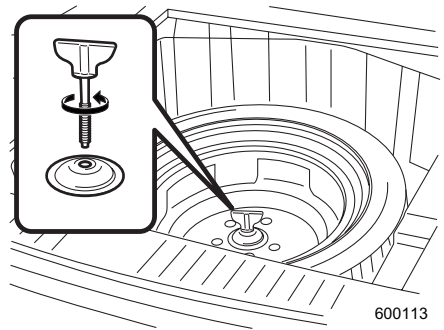
①トランクルーム床のマットを開けます。

600114

②サブトランクを取り出します。

600115

③ジャッキホルダーを取り出します。

④スペアタイヤを固定しているネジをゆるめ、スペアタイヤを取り出します。

⚠ 注 意

- 応急用スペアタイヤは標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm^2）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
  この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。

次ページへ ⇒

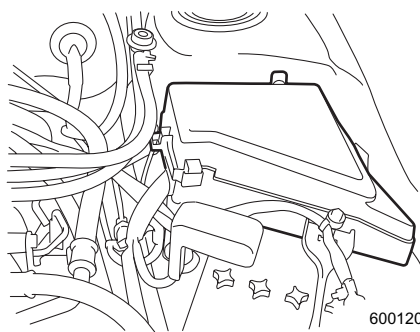
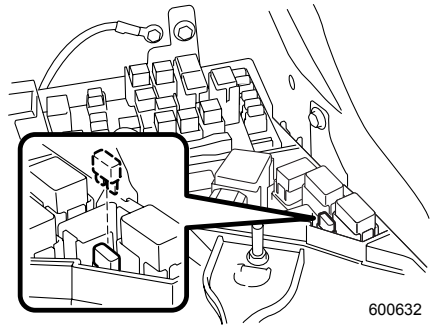
⇒前ページより

- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- スリップサインが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

■オートマチック車における取り扱い

VDC装着車を除く４速オートマチック車は、応急用スペアタイヤ装着の際、全輪駆動を強制解除してください。

●強制解除の方法

①エンジンを止めます。
②ボンネットを開けます。
③エンジンルーム内のヒューズボックスを開けます。

④ ヒューズボックス内の FWD ヒューズホルダーにスペアヒューズを差し込みます。
スペアヒューズはヒューズボックスの裏フタに付いています。どのスペアヒューズを使ってもかまいません。

⑤ ヒューズボックスを閉じ、ボンネットを閉じます。
⑥ エンジン始動後、メーター内の AWD 警告灯が点灯していることを確認してください。
AWD警告灯が点灯しているときは全輪駆動が解除され、前輪駆動（二輪駆動）になります。

パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤに戻したときは、必ず差し込んだヒューズを抜き全輪駆動に戻してください。
抜いたヒューズはヒューズホルダーに戻します。

⚠ 注 意

FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

アドバイス

上記の処置はマニュアル車や5速オートマチック車、VDC装着車には必要ありません。ヒューズを差し込んでも全輪駆動の強制解除はできません。

パンクしたタイヤの交換

⚠ 警 告

- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。
  ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキレバーを引き、オートマチック車はセレクトレバーを[P]に、マニュアル車はシフトレバーを“R”または“1”にしてください。
- 輪止めなどをして車を固定してください。
- 同乗者は必ず車から降ろしてください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の締付トルクで締め直してください。

☆7－13ページ参照

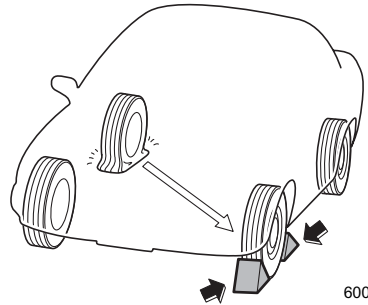
- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

■交換前にすること

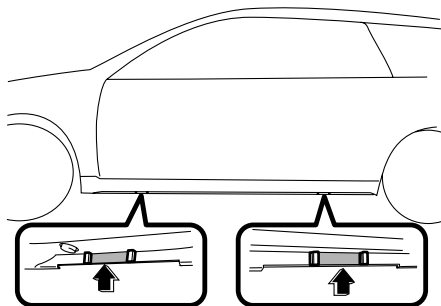
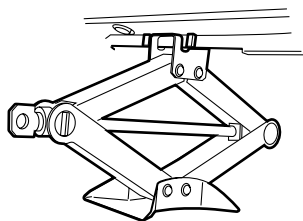
①交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

安全な場所を選んでください
地面が平坦で硬く、車が安定する場所を選んで止めてください。

②駐車ブレーキレバーを引きます。
③マニュアル車はシフトレバーを“R”または“1”に、オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。
④非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
⑤車が動き出さないように交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。
(図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。)

⑥ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。
☆7−2ページ参照
⑦応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

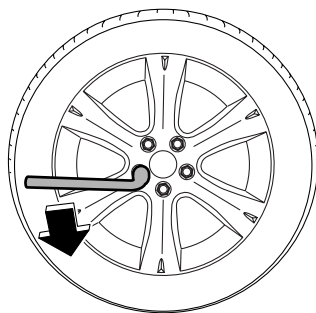
輪止めおよび停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

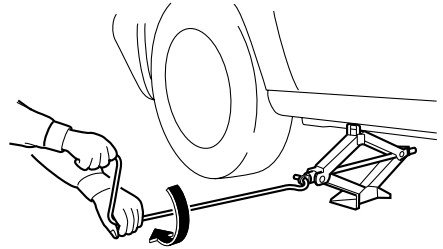
■ジャッキアップするとき

①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。

600123

600124

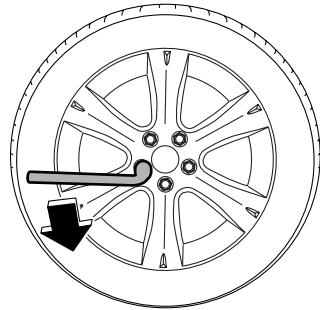
⚠注意

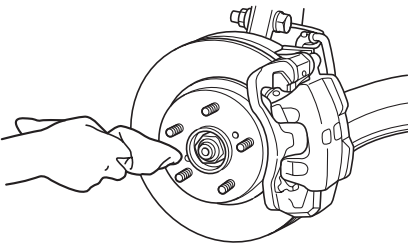
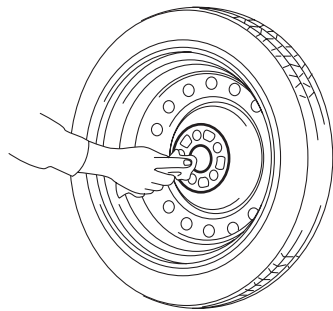
ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

②ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。

600577

③ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

600198

■タイヤ交換

①ホイールナットを外します。

600577

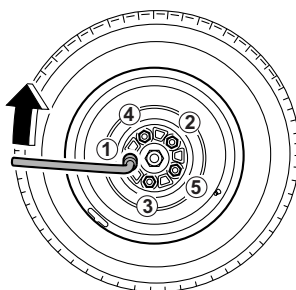
②タイヤを着け替えます。
このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。

600061

600162

次ページへ ⇒

⇒前ページより

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

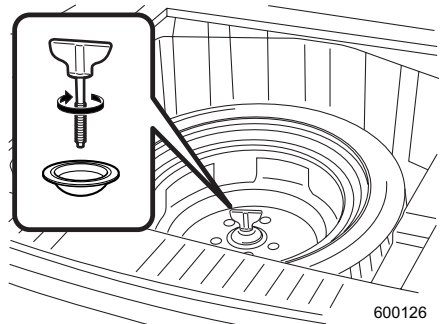
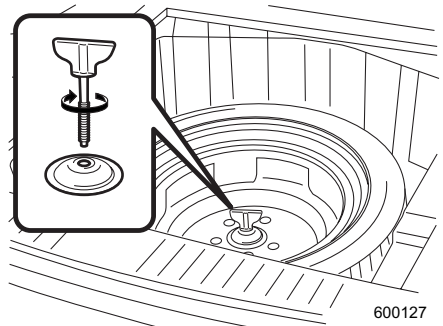
③ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
④ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
⑤ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。

600192

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参考）
400〜500 N（40〜50 kg）	80〜100 N·m（8〜10 kg·m）

注 意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。

■パンクしたタイヤの格納

- センターキャップ付ホイール装着車は、センターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。スペーサーは図の向きにして取り付けます。

- パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを図の向きにして取り付けます。

■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

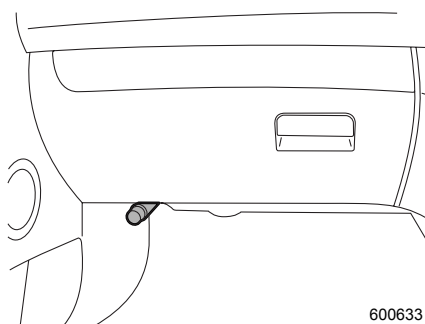
☆7－2ページ参照

- VDC装着車を除く４速オートマチック車は応急用スペアタイヤに交換したとき、全輪駆動（四輪駆動）を強制解除してください。
  パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に戻したときは、全輪駆動に戻してください。

☆7－8ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

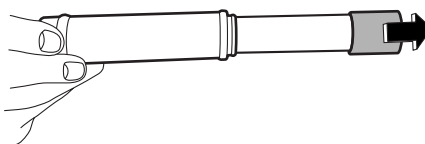
発炎筒について

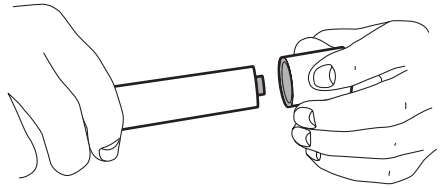
グローブボックス左下に備えつけてあります。
使用方法は発炎筒の外筒に書いてありますので、あらかじめ確認しておいてください。

600633

■発炎筒の使いかた

①ケースをひねり、ケースを取り外します。

600029

②ケースを本体の後部に取り付け、白いキャップを取り外します。

600030

③本体の先端に、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

600031

⚠ 警 告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

☆3－16ページ参照

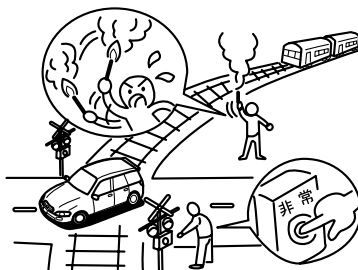
アドバイス

発炎筒はすぐに使えるようにしておいてください

発炎筒には有効期限が明示されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

故障したとき

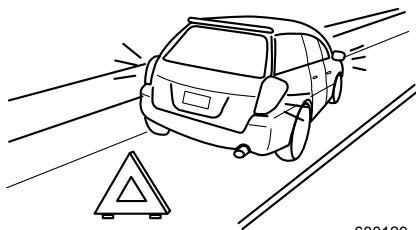
踏切で動けなくなったとき

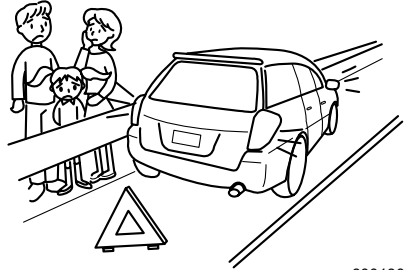
脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。

600189

アドバイス

マニュアル車、オートマチック車ともエンジンスイッチをSTARTで保持して（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。
- オートマチック車はPおよびN以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

① 車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

600129

② 全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

600130

③ 安全を確保後、救援をたのみます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

① あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
☆2−13、3−48ページ参照
② エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。
そのとき、チェンジレバー、セレクトレバーは N にします。

故障時の対応方法と連絡先

① 車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
② 最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
③ スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、別冊の「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引してもらうとき

■けん引方法の違い

車の仕様によりけん引方法が違います。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合
  マニュアル車、オートマチック車ともに可能です。トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引
  マニュアル車は可能ですが、オートマチック車は、次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
  ー 速度30km/h以下で走行してください。
  ー 走行距離は30kmを超えないでください。

⚠ 注 意

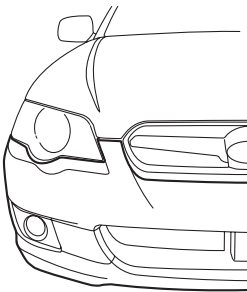
前輪のみの持ち上げけん引および後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

600190

600191

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。
けん引フックの取り付けかたはバンパーにより異なります。バンパーを参照し取り付け手順にしたがってけん引フックを取り付けます。

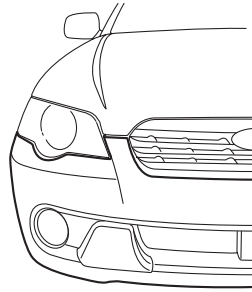
タイプAバンパー

600578

タイプBバンパー

600579

タイプCバンパー

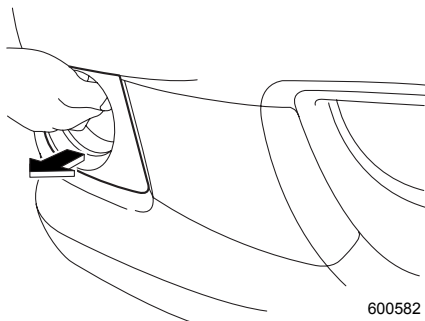
600580

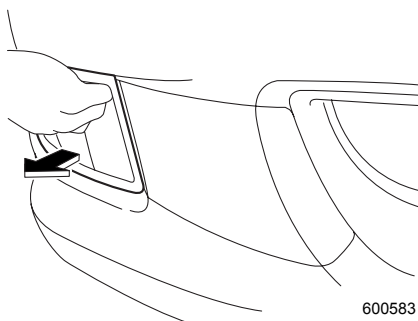
タイプDバンパー

600581

●けん引フックの取り付けかた

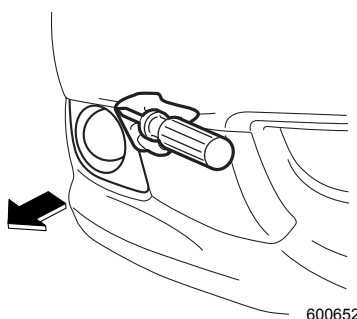
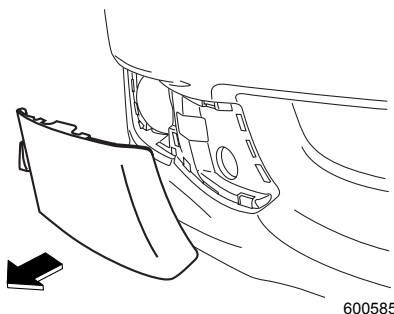
タイプAバンパー：

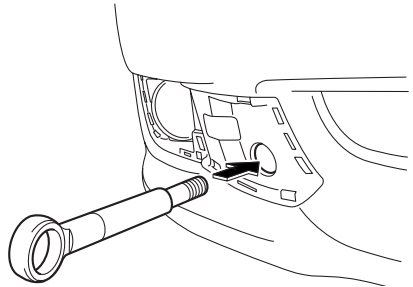
①カバーとフォグランプのすき間に指を入れ、カバーを手前に引いて取り外します。

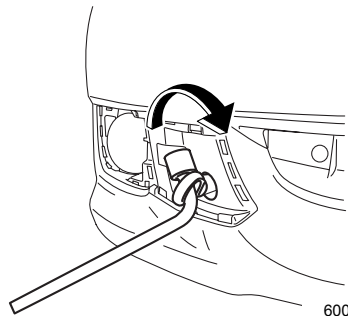
フロントフォグランプ装着車

600582

フロントフォグランプ未装着車

600583

もしカバーの取り外しが困難ならば、バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

600652

②マイナスドライバーを使ってサイドカバーを手前に引き、取り外してください。

600585

③ けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

600586

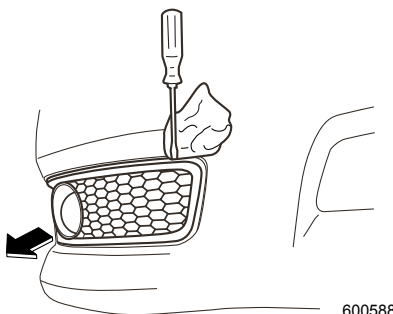
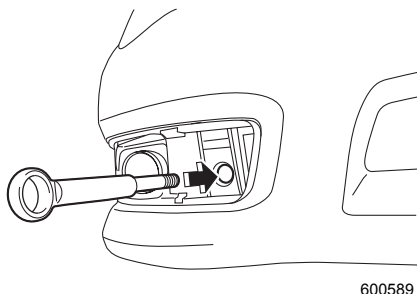
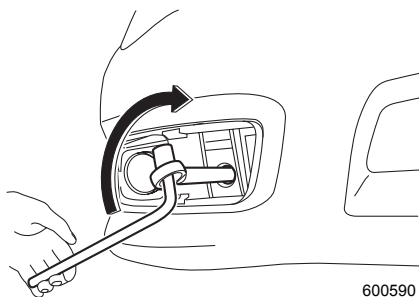
④ ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

600587

タイプBバンパー：

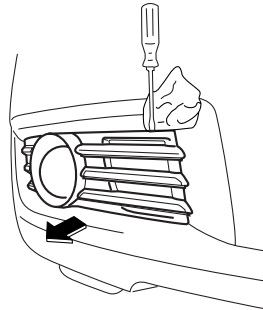
①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

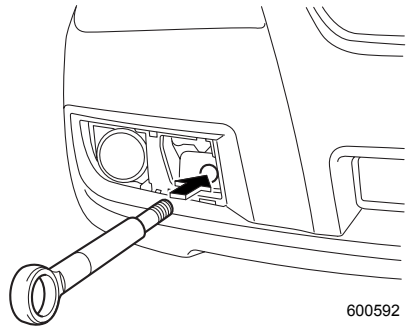
600588

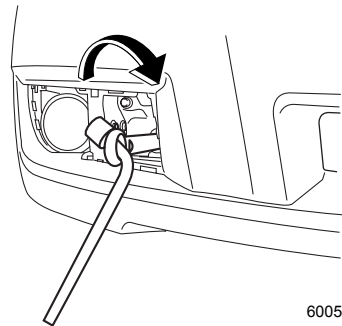
②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

600589

③ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

600590

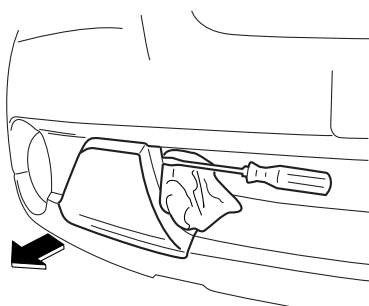
タイプCバンパー：

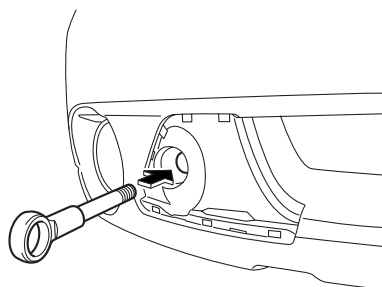
①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

600674

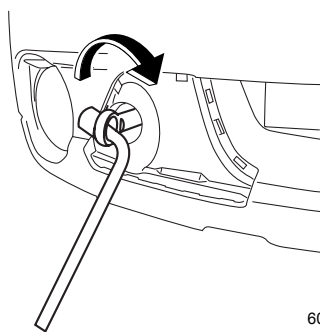
②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

600592

③ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

600593

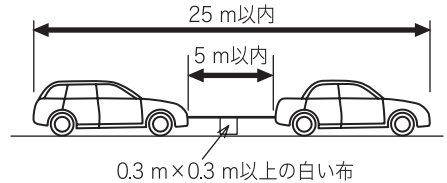
タイプDバンパー：

①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切りかきに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

600594

②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

600595

③ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

600596

●けん引方法

①ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。

600023

②マニュアル車、オートマチック車ともに「ニュートラル」にします。
③エンジンスイッチをONにします。
④駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警告

- エンジンスイッチをLOCKにしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

注 意

- マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」にしてください。
- エンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
  - ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキレバーを確実に戻してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引してもらうときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引してもらうと、バンパーを損傷するおそれがあります。

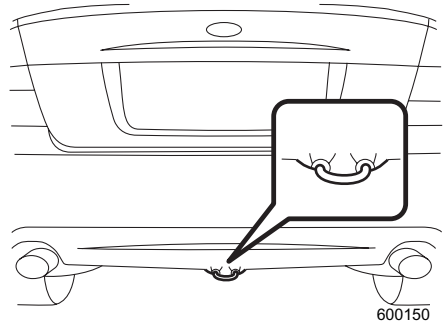
他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

●けん引フックの位置

リヤバンパー下の中央部にあります。

オーバーヒートしたとき

このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がオーバーヒートゾーンに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

☆3－21ページ参照

■対処のしかた

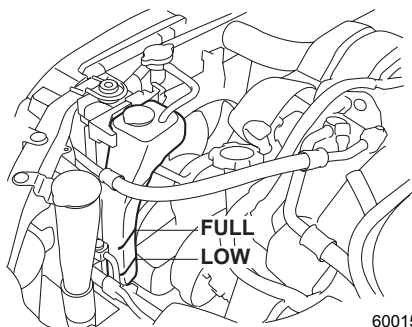
①後続車に注意し、安全な場所に車を止めます。

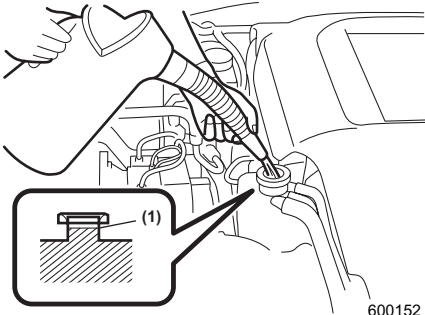
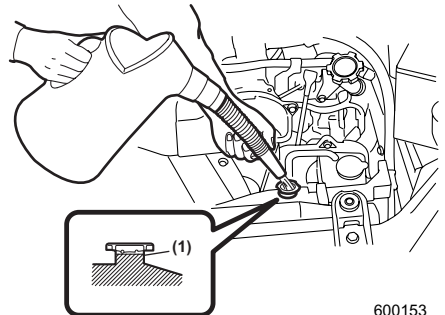
エアコンを使用している場合はエアコンを止めてください。

②エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確かめてください。
ファンが回っていないときは、エンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、後続車に注意し、車を安全な場所に止め、すぐにエンジンを止めてください。
スバル販売店に連絡してください。

③水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。
④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
⑤リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補充します。
－ リザーバータンクは FULL 位置まで補給してください。

－ターボ車はエンジン上部の補助タンクキャップの口元まで、ターボ車以外はラジエターキャップの口元まで（イラストの（1）の位置まで）補給します。

ターボ車

ターボ車以外

⚠ 警告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエターや補助タンクが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水をご使用ください。
- ターボ車はラジエター側のキャップを外さないでください。
  冷却水または水を入れるときは、エンジン上部の補助タンクから入れてください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき。
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

⚠ 警 告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、以下を必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
  - プラス端子とマイナス端子を間違えないでください。
  - プラス端子とマイナス端子を接触させないでください。
  - 自車のバッテリーのマイナス端子にケーブルを接続しないでください。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふに付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

注 意

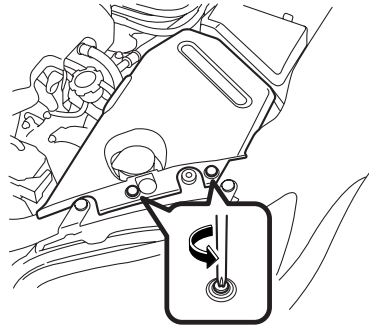
ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。

<ブースターケーブルの接続手順>

自車のバッテリーの上にカバーが装着されている場合、カバーを取り外します。

外しかた

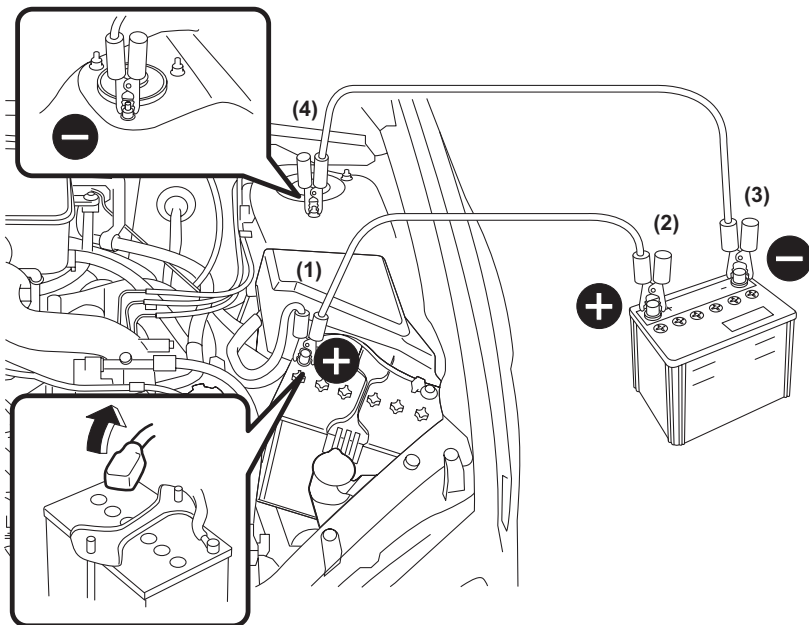
- カバー前側にあるクリップ2つを外し、後ろ側のロックを外します。（バッテリーカバー装着車）

次ページへ ⇒

⇒前ページより

① カバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
② 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
③ 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
④ 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体(バッテリーから離れたボルトなど)につなげます。(4)
⑤ 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
⑥ 自車のエンジンをかけます。
⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆8−2ページ参照

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

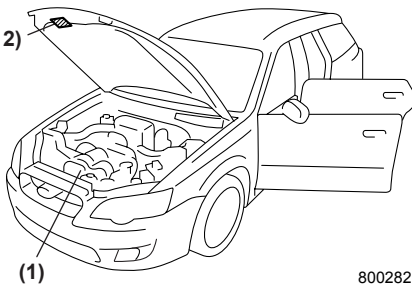
⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

8 サービスデータ

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td colspan="3">オルタネーター パワーステアリング
ベルトのたわみ量（点検時）
（3.0Rを除く）</td><td colspan="2">ベルト中央部を約100 N
（約10 kgf）の力で押したとき</td><td colspan="2">9〜11 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">エアコンベルトのたわみ量
（3.0Rを除く）</td><td colspan="2">ベルト中央部を約100 N
（約10 kgf）の力で押したとき</td><td colspan="2">9〜10 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="5">スパーク
プラグ</td><td colspan="2">指定スパークプラグ
車種</td><td>品番</td><td>メーカー</td><td colspan="2">電極すき間</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.0i、2.5i</td><td>※PFR5B-11</td><td>NGK</td><td colspan="2">1.0〜1.1 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.5XT</td><td>※SILFR6A</td><td>NGK</td><td colspan="2">0.7〜0.8 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記以外</td><td>※ILFR6B</td><td>NGK</td><td colspan="2">0.7〜0.8 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">交換時期</td><td colspan="4">100,000 km</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ブレーキ
ペダル</td><td colspan="2" rowspan="2">遊び</td><td colspan="2">SI-レーダークルーズ
コントロール装備車</td><td>指で押したとき</td><td>0.6〜2 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記以外</td><td>指で引いたとき</td><td>0.5〜2 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間</td><td colspan="2">約300 N（約30 kgf）の力で踏み込んだとき</td><td colspan="2">85 mm以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クラッチ
ペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="2">指で押したとき</td><td colspan="2">4〜13 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">つながる直前の
床板とのすき間</td><td colspan="2">———</td><td colspan="2">80 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">駐車ブレーキの引きしろ</td><td colspan="2">約200 N（約20 kgf）の力でゆっくり引いたとき</td><td colspan="2">5〜6 ノッチ</td></tr>
<tr><td colspan="3">タイヤ空気圧</td><td colspan="4">8−6ページ参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="4">3.0ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料タンク容量</td><td colspan="4">約64ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">使用燃料</td><td colspan="2">2.0i、2.5i</td><td colspan="4">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記以外</td><td colspan="4">無鉛プレミアムガソリン</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エアクリーナー
エレメント</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正エアクリーナエレメント</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">50,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">バッテリー型式</td><td>3.0R</td><td colspan="4">75D23L（12V-52AH）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上記以外</td><td>MT車</td><td colspan="3">55D23L（12V-48AH）</td></tr>
<tr><td>AT車</td><td colspan="3">65D23L（12V-52AH）</td></tr>
</table>

〈注〉※印 イリジウムおよび白金スパークプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグクリーナーなどによる清掃やプラグギャップ（電極すき間）調整は行わないでください。

<table>
<tr><td rowspan="11">エンジンオイル※</td><td rowspan="5">使用オイル</td><td colspan="3">SUBARU MOTOR OIL SM 5W-30</td><td>5W-30
(SM級)</td></tr>
<tr><td colspan="3">SUBARU MOTOR OIL SM 0W-20
(2.0iのみ使用可)</td><td>0W-20
(SM級)</td></tr>
<tr><td colspan="3">SUBARU Castrol SLX Professional
SM 5W-40</td><td>5W-40
(SM級)</td></tr>
<tr><td colspan="3">SUBARU elf レ・プレイアード
SM 10W-50</td><td>10W-50
(SM級)</td></tr>
<tr><td colspan="3">SUBARU FREEDOM</td><td>10W-30</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td></td><td>オイルのみ
交換</td><td colspan="2">オイルとフィルター
同時交換</td></tr>
<tr><td>2.0i、2.5i、
2.0GT（AT車）、
2.5XT</td><td>約4.0ℓ</td><td colspan="2">約4.2ℓ</td></tr>
<tr><td>2.0GT（MT車）</td><td>約4.0ℓ</td><td colspan="2">約4.3ℓ</td></tr>
<tr><td>3.0R</td><td>約5.5ℓ</td><td colspan="2">約5.7ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>3.0R</td><td colspan="3">10,000 kmごと、または12か月ごと
(どちらか早いほうで実施)
快適にご使用いただくために初回は
新車6か月点検、または5,000 kmで
の交換をお奨めします。</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td colspan="3">10,000 kmごと、または12か月ごと
(どちらか早いほうで実施)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンの
オイルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正オイルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">10,000 kmごと
エンジンオイルと一緒に交換することをお奨めします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フューエルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正フューエルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">100,000 kmごと</td></tr>
</table>

〈注〉※印　エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点などでの急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高いなど）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1000 km 走行あたり0.5ℓ～1ℓ消費する場合があります。早めの点検・補充をお奨めします。

<table>
<tr><td rowspan="3">マニュアルトランスミッションオイル
（5速マニュアル車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS
75W-90（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約3.5ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="3">マニュアルトランスミッションオイル
（6速マニュアル車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS
75W-90（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約4.1ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">オートマチックトランスミッションフルード
（4速オートマチック車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルATF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>2.5i</td><td>約9.3ℓ</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>約8.4ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オートマチックトランスミッションフルード
（5速オートマチック車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルATF（5AT）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約9.8ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">フロント
デファレンシャルオイル
（オートマチック車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS
75W-90（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>2.0i、2.5i</td><td>約1.2ℓ</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>約1.4ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="5">リヤデファレンシャルオイル</td><td>量の判定基準</td><td colspan="2">フィラープラグ穴下端より
0～−5 mm間にあること</td></tr>
<tr><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS
75W-90（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>6速マニュアル車</td><td>約1.0ℓ</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>約0.8ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="9">冷却水</td><td>使用冷却水</td><td colspan="2">スバルスーパークーラント</td></tr>
<tr><td rowspan="6">規定量</td><td>2.0i MT車</td><td>約6.5ℓ</td></tr>
<tr><td>2.0i AT車、2.5i</td><td>約6.4ℓ</td></tr>
<tr><td>2.0GT MT車</td><td>約7.4ℓ</td></tr>
<tr><td>2.0GT AT車</td><td>約7.7ℓ</td></tr>
<tr><td>2.5XT</td><td>約7.3ℓ</td></tr>
<tr><td>3.0R</td><td>約7.2ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>1回目</td><td>220,000 kmまたは11年目
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td>2回目以降</td><td>120,000 kmごと、または6年ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パワーステアリングのフルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="2">スバルPSフルード</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約0.7ℓ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">ブレーキフルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="2">スバルブレーキフルードまたはDOT3
(銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと)</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">初回3年、以降2年ごと</td></tr>
<tr><td>ドラムブレーキのシューのライニング摩耗限度</td><td>後輪ディスクブレーキの駐車ブレーキ</td><td colspan="2">標準厚さ：3.2 mm、使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ディスクブレーキのパッドの摩耗限度</td><td>前輪</td><td colspan="2">標準厚さ：11.0 mm、使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td>後輪</td><td colspan="2">標準厚さ：9.0 mm、使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="6">点火時期
[アイドリング時：
エアコンOFF]</td><td></td><td>マニュアル車</td><td>オートマチック車</td></tr>
<tr><td>2.0i</td><td>BTDC13°/610 rpm</td><td>BTDC13°/650 rpm</td></tr>
<tr><td>2.0GT</td><td>BTDC14°/700 rpm</td><td>BTDC14°/650 rpm</td></tr>
<tr><td>2.5i</td><td>———</td><td>BTDC15°/700 rpm</td></tr>
<tr><td>2.5XT</td><td>———</td><td>BTDC17°/750 rpm</td></tr>
<tr><td>3.0R</td><td>———</td><td>BTDC15°/650 rpm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">弁すき間（冷態時）</td><td rowspan="2">2.0i、2.5i</td><td>吸気</td><td>0.20 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td>0.25 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上記以外</td><td>吸気</td><td>0.20 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td>0.35 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジンの
タイミングベルト
(3.0Rを除く)</td><td>使用ベルト</td><td colspan="2">専用タイミングベルト</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">(1) エンジンタイミングベルト（ベルトカバー内）
(2) 交換表示ラベル</td></tr>
</table>

<タイヤ・ホイール>

- 標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤおよび応急用スペアタイヤ（車種・グレードによって異なります）

■ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	オフセット量
205/55 R16	16×6.5JJ	100	55
215/55 R17	17×7JJ	100	48
215/45 R17	17×7JJ	100	55
215/45 R18	18×7JJ	100	55
T135/70 D16	16×4T	100	50
T135/80 D16	16×4T	100	50
T135/70 D17	17×4T	100	40
T135/90 D16	16×4T	100	50
T145/70 D17	17×4T	100	40

■タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm^2）	
	前輪	後輪
205/55 R16	220（2.2）	220（2.2）
215/55 R17	210（2.1）	200（2.0）
215/45 R17	230（2.3）	ワゴン：210（2.1） セダン：220（2.2）
215/45 R18	230（2.3）	ワゴン：210（2.1） セダン：220（2.2）
T135/70 D16	420（4.2）	
T135/80 D16		
T135/70 D17		
T135/90 D16		
T145/70 D17		

■タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの溝の深さ	1.6 mm以下

さくいん

お

か

き

く

け

こ

さ

し

と

な

に

ね

は

ほ

ま

み

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

LEGACY BPH-002001～099999,BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999,BP9-059001～099999,BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999,BL9-004001～099999

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

LEGACY BPH-002001～099999, BPE-037001～099999,
BP5-171001～999999, BP9-059001～099999, BLE-021001～099999,
BL5-084001～099999, BL9-004001～099999